

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 多肥宮尻遺跡

2018.3

香川県教育委員会



# 序 文

本書には、県道太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した香川県高松市多肥上町に所在する多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）の報告を取録しています。

多肥宮尻遺跡では、香東川が形成した扇状地を刻む旧河道があり、縄文時代晩期から中世にかけての複数の流路が見つかっています。流路からは多量の土器片をはじめ木器を出土しており、当該期の歴史を考えるうえで貴重な資料を得ることができました。

とりわけ、旧河道は地表面を掘り込んで河道が形成されたのち、その掘り込み部分の中で河道の流下・堆積が繰り返されており、のちの時代の人間生活に影響を与えたものと考えられます。また、古代の祭祀具である人形の出土は、周辺の遺跡において事例が明らかにされつつある古代の祭祀に関する資料として注目されるなど、多くの資料が得られています。

本報告書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご協力とご指導をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

香川県埋蔵文化財センター

所長 増田 宏



# 例 言

- 1 本報告書は、県道太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した、香川県高松市多肥上町に所在する多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）の報告を収録している。
- 2 発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（当時）が調査担当者として実施した。
- 3 発掘調査期間及び担当は次の通りである。

期間 平成9年4月1日～平成9年9月30日  
担当 主任技師 佐々木正之 技師 松本和彦

期間 平成10年10月1日～平成11年3月31日  
担当 文化財専門員 植松邦浩 技師 豊島修

期間 平成11年4月1日～9月30日  
担当 文化財専門員 川井國博 技師 小野秀幸
- 4 調査にあたって、次の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略、名称は調査時）。

香川県土木部道路建設課、高松市都市計画課、地元自治会、地元水利組合
- 5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆・編集は木下晴一、山元素子が担当した。
- 6 報告書で用いる座標系は、世界測地系国土地院第IV系で、標高は東京湾平均海面を基準とした。
- 7 遺構は次の略号により表示した。

SB 掘立柱建物 SP 柱穴 SK 土坑 SD 溝状遺構 SX 性格不明遺構  
SR 旧河道
- 8 石器実測図中、輪郭線の周りの実線は潰れを表す。
- 9 遺構断面図中の注記の色調及び土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2010版』を参照した。土器観察表中の胎土中の砂粒の「粗」は径4mm以上、「中」は0.5mm以上、「細」は0.5mm未満を基準とした。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。
- 10 縄文時代晩期の土器の年代観については、平井泰男「中部瀬戸内地方における縄文時代後期末葉から晩期の土器編年試案」(土器持寄会論文集刊行会『突帯文と遠賀川』2000年)、弥生土器については、真鍋昌宏「讃岐地域」(菅原康夫・梅木謙一編『弥生土器の様式と編年-四国編-』2000年)を参考とした。また中世土器の器形分類、時期区分は佐藤竜馬「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 空港跡地遺跡IV 2000年3月 香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 香川県土地開発公社 第5章 まとめ 第1節 高松平野と周辺地域における中世土器の編年」によった。



# 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過 (木下).....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過.....	2
第3節 調査体制・整理体制.....	2
第2章 遺跡の立地と環境 (木下).....	5
第1節 地理的環境.....	5
第2節 歴史的環境.....	7
第3章 調査の成果.....	9
第1節 検出した遺構・遺物 (旧河道以外) (山元).....	9
第2節 旧河道の調査 (木下、木製品は山元).....	47
第3節 遺構外の遺物 (木下).....	116
第4章 自然科学分析 (山元).....	119
第1節 多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果 (1).....	119
第2節 多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果 (2).....	129
第3節 多肥宮尻遺跡出土木材の樹種同定結果.....	135
第5章 まとめ.....	139
第1節 遺構の変遷 (山元).....	139
第2節 多肥宮尻遺跡の旧河道 (木下).....	140

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図(1).....	1	第51図	SR02 中層(グリッドA)出土遺物実測図(2)...	56
第2図	遺跡位置図(2).....	5	第52図	SR02 中層 出土遺物実測図.....	57
第3図	周辺の遺跡.....	6	第53図	SR02 上層(グリッドG)出土遺物実測図.....	58
第4図	基本層序柱状図.....	9	第54図	SR02 上層(グリッドF)出土遺物実測図(1)...	59
第5図	調査区割図.....	10	第55図	SR02 上層(グリッドF)出土遺物実測図(2)...	60
第6図	遺構配置図(1).....	11	第56図	SR02 上層(グリッドE)出土遺物実測図(1)...	61
第7図	遺構配置図(2).....	12	第57図	SR02 上層(グリッドE)出土遺物実測図(2)...	62
第8図	遺構配置図(3).....	13	第58図	SR02 上層(グリッドE)出土遺物実測図(3)...	63
第9図	遺構配置図(4).....	14	第59図	SR02 上層(グリッドM)出土遺物実測図.....	63
第10図	SK3202 平・断面図、出土遺物実測図.....	15	第60図	SR02 上層(グリッドD)出土遺物実測図(1)...	64
第11図	SD2301・SD2302 出土遺物実測図.....	15	第61図	SR02 上層(グリッドD)出土遺物実測図(2)...	65
第12図	SD2301・SD2302 平・断面図.....	16	第62図	SR02 上層(グリッドD)出土遺物実測図(3)...	66
第13図	SD1205 平・断面図、出土遺物実測図(1)...	18	第63図	SR02 上層(グリッドD・C)出土遺物実測図.....	67
第14図	SD1205 出土遺物実測図(2).....	19	第64図	SR02 上層(グリッドC)出土遺物実測図(1)...	68
第15図	SD1205 出土遺物実測図(3).....	20	第65図	SR02 上層(グリッドC)出土遺物実測図(2)...	69
第16図	SB2301 平・断面図.....	20	第66図	SR02 上層(グリッドC)出土遺物実測図(3)...	70
第17図	SP1352・SP1374・SP1382・SP3301・SP3367・ SP3372 平・断面図、出土遺物実測図.....	21	第67図	SR02 上層(グリッドC)出土遺物実測図(4)...	71
第18図	SK1201・SD1201～SD1203 平・断面図.....	23	第68図	SR02 上層(グリッドK)出土遺物実測図.....	72
第19図	SK1203・SK1304～SK1308・SK3303 平・断面図、出土遺物実測図.....	24	第69図	SR02 上層(グリッドJ・B)出土遺物実測図(1)73	
第20図	SK3304・SK3305 平・断面図.....	25	第70図	SR02 上層(グリッドJ・B)出土遺物実測図(2)74	
第21図	SX1301・SX1302・SD1101・SD1103 平・断面図、出土遺物実測図.....	27	第71図	SR02 上層(グリッドA・I・T) 出土遺物実測図(1).....	75
第22図	SD1104・SD1105 平・断面図.....	28	第72図	SR02 上層(グリッドA・I・T) 出土遺物実測図(2).....	76
第23図	SD1201～SD1203 出土遺物実測図.....	29	第73図	SR02 上層 出土遺物実測図(1).....	77
第24図	SD1301 平・断面図.....	30	第74図	SR02 上層 出土遺物実測図(2).....	78
第25図	SD3301～SD3304 平・断面図、出土遺物実測図.....	31	第75図	SR02 出土層位・グリッド不明 出土遺物実測図(1).....	79
第26図	SD3305 平・断面図、出土遺物実測図.....	32	第76図	SR02 出土層位・グリッド不明 出土遺物実測図(2).....	80
第27図	SK1303・SK3101・SD3101 平・断面図、出土遺物実測図.....	33	第77図	SR03 断面図.....	80
第28図	SX3302・SX3201 平・断面図.....	34	第78図	SR03 出土遺物実測図(1).....	81
第29図	SX3202 平・断面図.....	35	第79図	SR03 出土遺物実測図(2).....	82
第30図	SX3203・SX3204 平・断面図、出土遺物実測図.....	36	第80図	SR06～SR08 変遷図.....	83
第31図	SD1303・SD1501 平・断面図.....	37	第81図	SR06～SR08 の分類図.....	84
第32図	SD1502 平・断面図.....	38	第82図	SR06・SR07 断面図(1).....	84
第33図	SD2303 平・断面図.....	40	第83図	SR06・SR07 断面図(2).....	85
第34図	SD2304・SD3202 平・断面図.....	41	第84図	SR06 下層 出土遺物実測図(1).....	86
第35図	SP2301～SP2303 平・断面図.....	42	第85図	SR06 下層 出土遺物実測図(2).....	87
第36図	SK1102・SK1204 平・断面図.....	43	第86図	SR06 下層 出土遺物実測図(3).....	88
第37図	SX1201・SK3301・SK3201 平・断面図.....	44	第87図	SR06 下層 出土遺物実測図(4).....	89
第38図	SD1106・SD1204・SD1206・SD3303 平・断面図.....	45	第88図	SR06 下層 出土遺物実測図(5).....	90
第39図	旧河道 平面図.....	46	第89図	SR06 下層 出土遺物実測図(6).....	91
第40図	SR01 断面図.....	47	第90図	SR06 下層 出土遺物実測図(7).....	92
第41図	SR01 最下層 出土遺物実測図(1).....	48	第91図	SR06 下層 出土遺物実測図(8).....	93
第42図	SR01 最下層 出土遺物実測図(2).....	49	第92図	SR06 下層 出土遺物実測図(9).....	94
第43図	SR02 グリッド配置図.....	50	第93図	SR06 下層 出土遺物実測図(10).....	95
第44図	SR02 断面図.....	51	第94図	SR06 下層 出土遺物実測図(11).....	96
第45図	SR02・SR03 断面図.....	52	第95図	SR06 中層 出土遺物実測図(1).....	97
第46図	SR02 中層(グリッドF)出土遺物実測図.....	53	第96図	SR06 中層 出土遺物実測図(2).....	98
第47図	SR02 中層(グリッドE)出土遺物実測図.....	53	第97図	SR06 中層 出土遺物実測図(3).....	99
第48図	SR02 中層(グリッドC)出土遺物実測図.....	54	第98図	SR06 中層 出土遺物実測図(4).....	100
第49図	SR02 中層(グリッドI・V)出土遺物実測図.....	54	第99図	SR06 中層 出土遺物実測図(5).....	101
第50図	SR02 中層(グリッドA)出土遺物実測図(1)...	55	第100図	SR06 中層 出土遺物実測図(6).....	102
			第101図	SR07 出土遺物実測図(1).....	104
			第102図	SR07 出土遺物実測図(2).....	105
			第103図	SR07 出土遺物実測図(3).....	106



第104図	SR07	出土遺物実測図(4)	107
第105図	SR07	出土遺物実測図(5)	108
第106図	SR07	出土遺物実測図(6)	108
第107図	SR07	出土遺物実測図(7)	109
第108図	SR07	出土遺物実測図(8)	110
第109図	SR07	出土遺物実測図(9)	111
第110図	SR08	出土遺物実測図(1)	112
第111図	SR08	出土遺物実測図(2)	113
第112図	SR08	出土遺物実測図(3)	113
第113図	SR06かSR07	層位不明 出土遺物実測図	114

第114図	SR06かSR08	層位不明 出土遺物実測図	115
第115図		遺構外 出土遺物実測図(1)	116
第116図		遺構外 出土遺物実測図(2)	116
第117図		出土位置不明の遺物実測図	117
第118図		遺構外 出土遺物実測図(3)	117
第119図		地域概念図	140
第120図		10cm等高線図	141～142
第121図		白黒空中写真の濃度強調図	144
第122図		多肥宮瓦道跡の旧河道	146

## 表目次

第1表	調査体制	2
第2表	整理体制	3
第3表	多肥宮瓦道跡出土木製品同定表	122
第4表	多肥宮瓦道跡の樹種同定結果	130
第5表	多肥宮瓦道跡出土木製品の樹種同定結果	135
第6表	多肥宮瓦道跡出土木製品の樹種同定結果一覧	137
第7表	土器観察表(1)	151
第8表	土器観察表(2)	152
第9表	土器観察表(3)	153
第10表	土器観察表(4)	154
第11表	土器観察表(5)	155
第12表	土器観察表(6)	156
第13表	土器観察表(7)	157
第14表	土器観察表(8)	158
第15表	土器観察表(9)	159
第16表	土器観察表(10)	160
第17表	土器観察表(11)	161
第18表	土器観察表(12)	162
第19表	土器観察表(13)	163
第20表	土器観察表(14)	164
第21表	土器観察表(15)	165
第22表	土器観察表(16)	166

第23表	土器観察表(17)	167
第24表	土器観察表(18)	168
第25表	土器観察表(19)	169
第26表	土器観察表(20)	170
第27表	土器観察表(21)	171
第28表	土器観察表(22)	172
第29表	土器観察表(23)	173
第30表	土器観察表(24)	174
第31表	土器観察表(25)	175
第32表	土器観察表(26)	176
第33表	土器観察表(27)	177
第34表	土器観察表(28)	178
第35表	土器観察表(29)	179
第36表	土器観察表(30)	180
第37表	土器観察表(31)	181
第38表	土器観察表(32)	182
第39表	土器観察表(33)	183
第40表	土器観察表(34)	184
第41表	石器観察表(1)	185
第42表	石器観察表(2)	186
第43表	石器観察表(3)	187
第44表	木器観察表	188

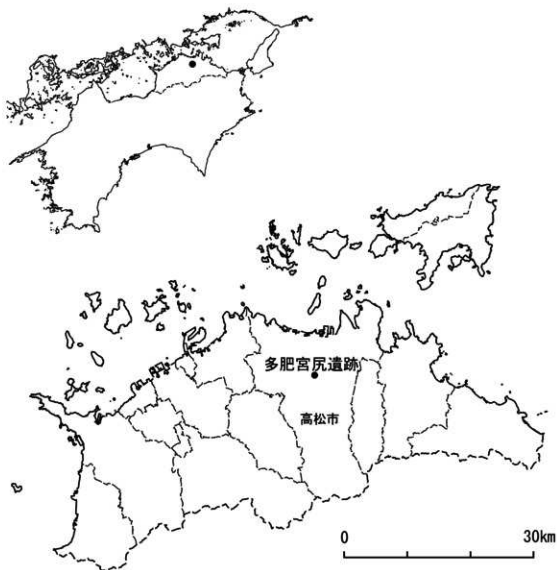


## 第1章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

県道太田上町志度線は、高松市街地南部の東西方向の通行を円滑化するために計画され、高松空港跡地（インテリジェントパーク）の整備事業に伴って、部分的な整備が行われた。その後、空港跡地から西への延伸が進められたが、路線に面する高松土木事務所、高松南警察署の整備も同時に行われたこともあり、開通が急がれる工事となった。

香川県教育委員会は、平成8年に用地買収が完了した地筆について試掘調査を行い、遺構・遺物の存在を確認したため、小字の宮尻の範囲を「多肥宮尻遺跡」として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。そして、この結果に基づき、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（当時）との間で、「埋蔵文化財調査委託契約」を締結し、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査を担当することとなった。



第1図 遺跡位置図(1)

## 第2節 調査の経過

調査対象地は、県道太田上町志度線の路線上の南北幅25m、東西長400m強の範囲である。調査着手前は溜池、田、畑、宅地、雑種地として登記されていた。調査対象面積は丈量図から10,845㎡を測る。事業実施を怠らぬ関係で、調査対象地内に未買収地を含む中で虫食い状に調査を進めていくこととなり、平成9年4月から平成11年9月までの延べ18カ月間に及ぶ調査となった。各年度の調査地は第2図、調査体制は第1表のとおりである。

## 第3節 調査体制・整理体制

### 平成9年度

香川県教育委員会事務局 文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	菅原 良弘	所長	大森 忠彦
課長補佐	北原 和利	次長	小野 善範
総務		総務	
係長	山崎 隆	参事	別枝 義昭
主査	星加 宏明 (～5/31)	副主幹兼係長	田中 秀文
主査	松村 崇史 (6/1～)	主査	林 照代
主事	打越 和美	主査	西川 大
埋蔵文化財		主事	細川 信哉
副主幹	渡部 明夫	調査	
文化財専門員	木下 晴一	参事	近藤 和史
技師	塩崎 誠司	主任文化財専門員	大山 真充
		主任技師	佐々木正之
		技師	松本 和彦
		調査技術員	滝井 理加

### 平成10年度

香川県教育委員会事務局 文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	小原 克己	所長	菅原 良弘
課長補佐	北原 和利	次長	小野 善範
総務		総務	
副主幹兼係長	西村 隆史	参事	別枝 義昭
係長	山崎 隆 (～5/31)	副主幹兼係長	田中 秀文
係長	中村 禎平 (6/1～)	主査	長尾 寿江子
主査	三宅 陽子 (6/1～)	主査	新 一郎
主査	松村 崇史	主査	林 照代
主事	打越 和美 (～5/31)	主事	細川 信哉
埋蔵文化財		調査	
副主幹	渡部 明夫	主任文化財専門員	大山 真充
係長	西村 尋文	文化財専門員	植松 邦浩
主任技師	塩崎 誠司	技師	豊島 修
		調査技術員	香川 直孝

## 平成11年度

香川県教育委員会事務局 文化行政課		財団法人香川県埋蔵文化財調査センター	
総括		総括	
課長	小原 克己	所長	菅原 良弘
課長補佐	小国 史郎	次長	川原 裕章
総務		総務	
係長	中村 植伸	副主幹兼係長	田中 秀文
主査	三宅 陽子	副主幹兼係長	六車 正憲
主査	松村 崇史	係長	新 一郎
埋蔵文化財		主査	長尾 寿江子
副主幹	廣瀬 常雄	主査	山本 和代
係長	西村 尋文	主任主事	細川 信哉
文化財専門員	森 格也	調査	
主任技師	塩崎 誠司	参事	長尾 重盛
		主任文化財専門員	大山 真充
		文化財専門員	川井 國博
		技師	小野 秀幸
		調査技術員	秋山 亮

第1表 調査体制

整理調査は、平成28年度に10カ月の期間で行った。4月～7月の4カ月間は山元が整理を担当した。山元は、当遺跡から出土している木製品の保存処理を年度内に完了させるため、木製品の整理を先行するとともに、旧河道以外の遺構の整理を実施した。12月から3月は木下が担当し、旧河道から出土した土器および石器を中心に整理を実施し、同時に2、3月に信里が主に遺物収納に係る整理を担当した。

報告書は、各々の分担分について木下、山元が原稿を執筆し、編集した。平成28年度の整理体制は第2表のとおりである。

## 平成28年度

香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
総括		総括	
課長	小柳 和代	所長	増田 宏
副課長	片桐 孝浩	次長	森 格也
総務・生涯学習推進グループ		総務課	
課長補佐	愛染伊知朗	課長(兼)	森 格也
副主幹	松下由美子	副主幹	斎藤 政好
主事	和木 麻佳	主任	寺岡 仁美
文化財グループ		主任	高木 秀哉
課長補佐(兼)	片桐 孝浩	主任	丸尾麻知子
主任文化財専門員	山下 平重	主任	岩崎 昌平
主任文化財専門員	乗松 真也	主任	西谷 敬司
		資料普及課	
		課長	古野 徳久
		主任文化財専門員	木下 晴一
		主任文化財専門員	信里 芳紀
		文化財専門員	山元 素子

第2表 整理体制



## 第2章 遺跡の立地と環境

## 第1節 地理的環境

高松平野は、香東川が形成した扇状地と新川、春日川が形成した三角州性の平野からなる。平野上には広範に条里型地割がひろがるが、新川や春日川の下流域には条里型地割は見られず、平野の形成時期が新しいことを示している。一方、香東川扇状地は長さ10km、幅9km、平均勾配8‰の規模で、扇面を開折する旧河道の埋土中に喜界アカホヤ火山灰が見られるほか、扇端付近の扇状地を覆う堆積層中に始良丹沢火山灰が堆積する等、形成年代が更新世に遡る資料が得られはじめている。

多肥宮尻遺跡は、香東川扇状地の扇央付近に位置し、この付近での勾配は6‰ほどで、西南から東北方向に傾斜している。地表には現在も微凹地として明瞭に確認できる旧河道が見られるが、遺跡は、旧



(国土地理院1/25,000地形図「高松南部」を使用)

第2図 遺跡位置図(2)





河道が見かけのうえで分岐する地点に位置している。

## 第2節 歴史的環境

多肥宮尻遺跡周辺は、土地区画整理事業、県道改築、高等学校新設、県施設新築等の事業が集中した結果、県内では遺跡の発掘調査が集中する地域である。縄文時代晩期の遺物を包含する旧河道が見られたのち、弥生時代前期には灌漑水路と考えられる溝状遺構が見られ、弥生時代中期中葉になると堅穴建物や掘立柱建物からなる集落が展開する。その後、空白期間を挟んで弥生時代後期以降に小規模な集落が点在、古墳時代中期から後期に至り、旧河道等からまとまった量の遺物が出土ようになる。古代においては、周辺にひろがる条里型地割と方向を一致させる掘立柱建物や溝状遺構が見られるほか、多肥松林遺跡（高松土木）では墨書のある須恵器・黒色土器19点が出土している。

これらの遺跡の動向は、旧河道や溝状遺構の面的な復原や微高地の把握等、地形と関連付けての検討が深められているほか、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての長期にわたり基幹的な灌漑水路が、同一ルートで維持・管理されていることが明らかにされるなどの成果を生んでいる。

このほか、当遺跡から西方に所在する遺跡から、大地震の際に生じたと考えられる噴砂が多数見つまっている。低地で通有に見られる噴砂と異なり、礫を噴き上げる事例は希少であり、研究の深化が望まれる。また、考古学的な検証は得られていないが、多肥宮尻遺跡の東端は、条里型地割のズレから古代の山田郡と香川郡の境界と考えられている。

## 参考文献

- 1 大嶋和則編 1996 「香川県立高松松井高校周辺遊学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡」高松市教育委員会
- 2 大嶋和則編 2004 「宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 松林遺跡（第2次調査）」高松市教育委員会
- 3 山下平重編 1999 「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 多肥松林遺跡」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 4 松本和彦編 2016 「高松土木事務所新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松林遺跡」香川県教育委員会
- 5 蔵本晋司編 2017 「県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松林遺跡」香川県教育委員会
- 6 宮崎哲治 2005 「高松南警察署移転整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥松林遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報平成15年度』香川県埋蔵文化財センター
- 7 大嶋和則編 2006 「多肥松林遺跡（電器店）」『電器店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
- 8 山本英之・中西克也編 1997 「都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡」高松市教育委員会
- 9 大嶋和則編 2003 「香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（済生会）」高松市教育委員会
- 10 大嶋和則編 2005 「日暮・松林遺跡（農道）」『高松市内遺跡発掘調査概報-平成15年度国庫補助事業-』高松市教育委員会
- 11 小川賢編 2005 「フィットネスクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡（フィットネスクラブ）」高松市教育委員会
- 12 大嶋和則編 2005 「日暮・松林遺跡（共同住宅）」『高松市内遺跡発掘調査概報-平成15年度国庫補助事業-』高松市教育委員会
- 13 大嶋和則編 2005 「日暮・松林遺跡（済生会特養ホーム）」高松市教育委員会
- 14 小川賢 2007 「日暮・松林遺跡（事務所建設）」『高松市内遺跡発掘調査概報-平成18年度-』高松市教育委員会
- 15 渡邊誠編 2007 「日暮・松林遺跡」『共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
- 16 小川賢ほか編 2004 「宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 多肥宮尻遺跡」高松市教育委員会
- 17 大嶋和則編 2006 「衣料品販売店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 多肥宮尻遺跡（衣料品販売店舗）」高松市教育委員会
- 18 山本英之編 1999 「讃岐国弘福寺領の調査」『第2次弘福寺領讃岐国山田郡田園調査報告書』高松市教育委員会
- 19 川畑徳 2001 「太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5冊 凹原遺跡」高松市教育委員会
- 20 木下晴一 2002 「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5冊 空港跡地遺跡V」香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター



## 第3章 調査の成果

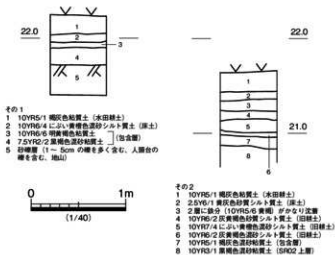
### 第1節 検出した遺構・遺物（旧河道以外）

#### 1. はじめに

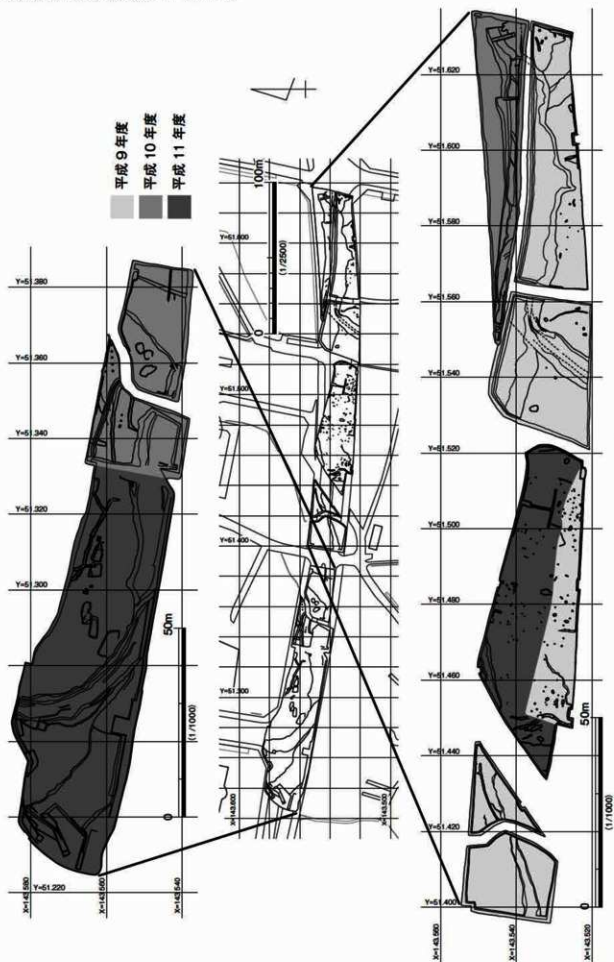
多肥宮瓦遺跡からは、弥生時代前期末から近世に至る掘立柱建物、柱穴、土坑、溝状遺構のほか、複数の旧河道が検出されている。出土遺物（土器、石器）は28リットル入りコンテナ125箱で、このうち旧河道からの出土遺物が122箱と大半を占める。このため、掘立柱建物等の遺構・遺物と旧河道とに節を分けて報告することとする。なお、掘立柱建物等の遺構は、調査時に年度ごとに遺構番号を付しているため、新たに遺構番号を付すこととし、4桁の数字で表している。千の位は1～3の番号を付しているが、これは平成9年度調査を1、10年度調査を2、11年度調査を3としている。百の位は、各々の年度の調査区を示す。調査区の番号は第5～9図に示す通りである。一方、旧河道は一条の調査が複数の年度にまたがるものがあるため、SR01から番号を新たに振りなおしている。

#### 2. 基本層序

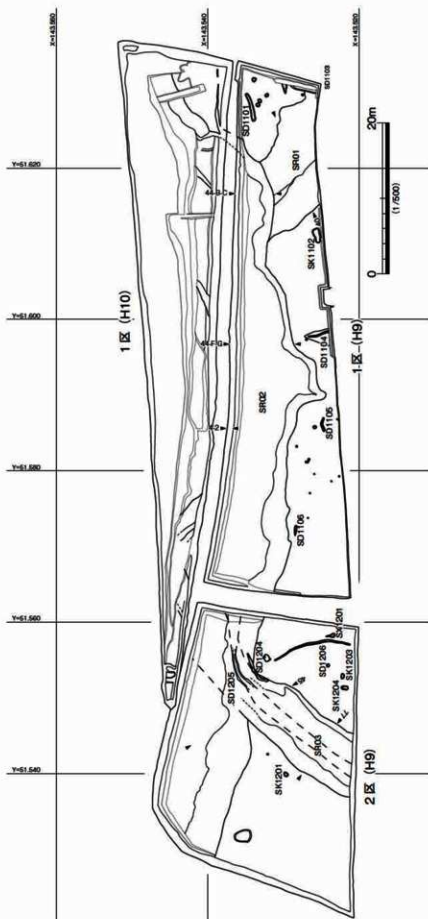
基本層序（作成位置は第6・7図参照。4.1.4.2と示す。）は、耕作土下に包含層をはさみ灰色砂礫層（第4図左・5層 部分的には明黄褐色粘質土層）の地山が認められる。砂礫層は拳大から人頭大の礫を含み、1～5cmの礫を主体とするものである。旧河道が伏在する範囲では、耕作土の下に中世前半以降の連続した水田層が堆積し、褐灰色粘質土層（第4図右・7層）を経て旧河道埋土もしくは地山層に至る。



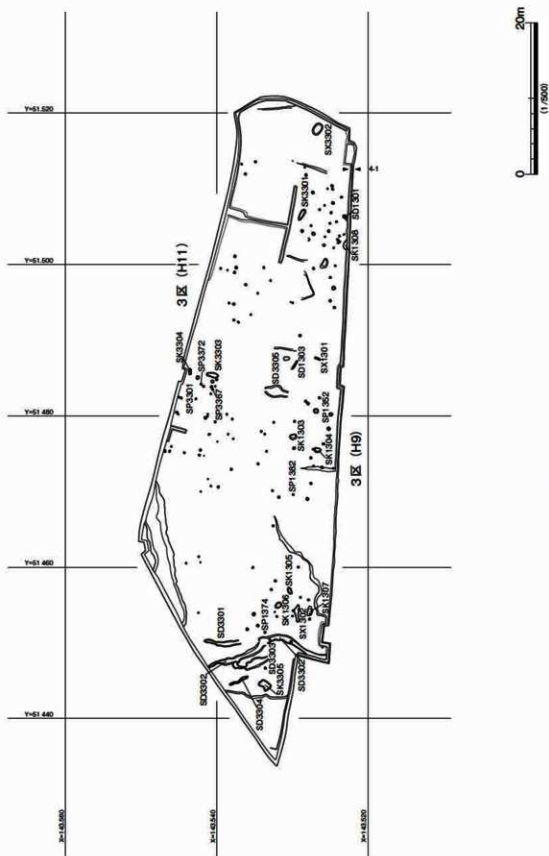
第4図 基本層序柱状図



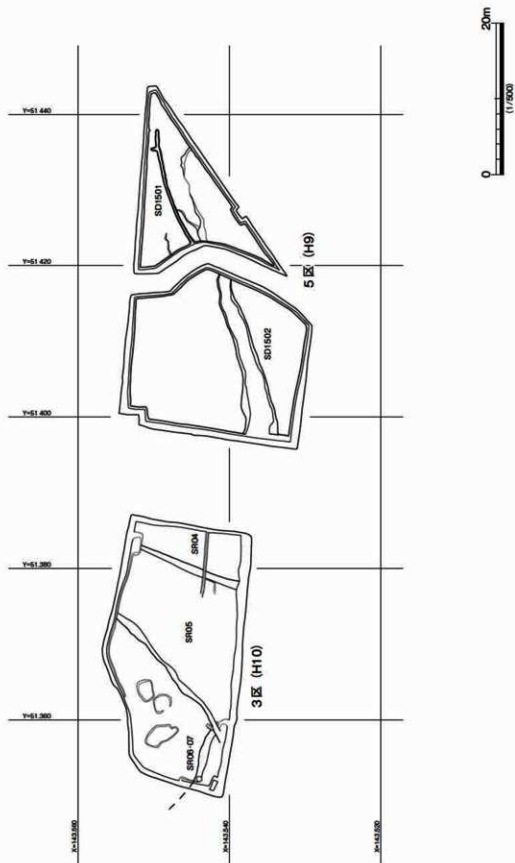
第5図 調査区劃図



第6図 遺構配置図(1)



第7図 遺構配置図(2)



第8図 遺構配置図(3)





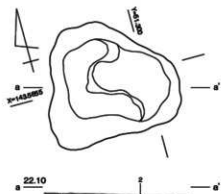
## 3. 弥生時代前期末～中期初頭の遺構・遺物

## 土坑

## SK3202 (第10図)

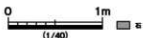
2区(H11)SR06・SR07の北側で検出した土坑である。不整形円形で東側が一段高い。長軸1.25m、短軸0.84m、深さ22cm、埋土は上層が灰褐色泥凝粘性極細砂、下層は黄灰褐色粘性極細砂である。埋土中からは弥生土器片が出土した。

1は弥生土器壺底部である。出土遺物により、弥生時代前期前半と考えられる。



1 灰褐色泥凝粘性極細砂 (深まりが深い)

2 黄灰褐色粘性極細砂 (深まりが浅い)



第10図 SK3202

平・断面図、出土遺物実測図

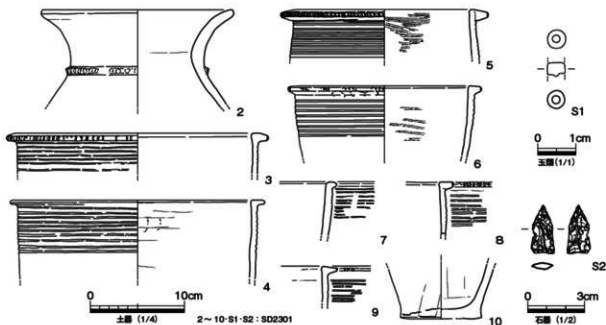
## 溝状遺構

## SD2301 (第11・12図)

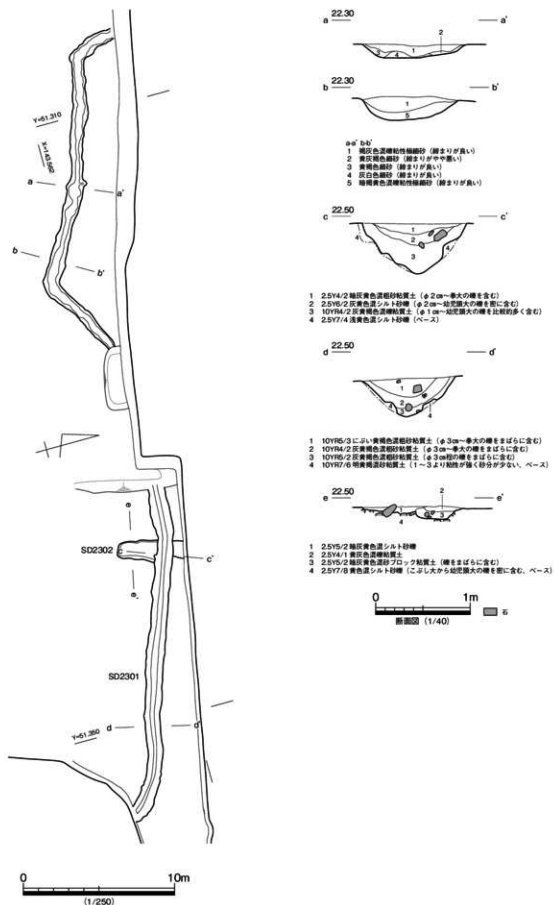
3区(H10)のSR06・SR07の北側で、おおむね北西から南東方向へ蛇行する溝である。SR06・SR07にはほぼ平行して検出した。幅1.1m、深さ52cmである。溝底のレベルは西から東へ緩やかに傾斜している。埋土中からは弥生土器小片が出土した。

2は弥生土器壺。頸部に刻目突帯を巡らせる。3～9は甕。いずれもL字口縁を持ち、8～10条程度のヘラ描き沈線を巡らせる。3・5・6・8・9は口縁端部に刻み目を付ける。10は甕底部。S1は碧玉製管玉。S2はサヌカイト製打製石鏃である。

遺構の時期は出土遺物により、弥生時代前期末と考えられる。



第11図 SD2301・SD2302 出土遺物実測図



第12図 SD2301・SD2302 平・断面図

## SD2302 (第11・12図)

SD2301に直交して検出した溝である。北側は調査区外へ延びる。遺構の前後関係により、SD2301より古い。検出長約4.3m、幅1.0m、深さ12cmである。埋土中からは弥生土器片がわずかに出土した。遺構の前後関係からSD2301より古く、弥生時代前期末以前である。

## 4. 古墳時代の遺構・遺物

## 溝状遺構

## SD1205 (第13～15図)

2区(H9)のSR02、SR03上面で検出した溝である。溝と流路の埋土が類似しているため判別が難しく、断面観察により確認することができた。SR03の上面を南側調査区外から北向きに流れ、調査区中程でSR02に沿って東へ屈曲する。検出長約28m、幅約1.75m、深さ68cm、埋土は上層が黒褐色粘質土、下層が黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは6世紀初頭および7世紀前半の2時期の遺物が出土した。自然河川埋没後に湿地状となったため、滞水を防ぐために掘削された水路と考えられる。

11～30、S3はSD1205上層から出土した遺物である。11・12は弥生土器。11は広口壺口縁部。口縁端部に沈線を2条巡らせる。12は鉢底部。弥生時代後期。SR02またはSR03からの混入と考えられる。13～18は土師器。13は高杯杯部、14は高杯脚部である。15は二重口縁壺。17・18は甕。口径16cm程度である。19～30は須恵器。19～24は杯蓋。いずれも頂部は回転ヘラ削りを施す。口縁端部をほぼ平らにするもの(19・22)、内側に面を持つもの(20、23)、凹面状になるもの(21・24)がある。25・26は蓋杯。25は口縁端部は丸く収め、体部下半はヘラ削りする。26は小片。口縁部の立ち上がり退化し、杯部は浅い。27は高杯脚部。方形の透かし孔が2ヶ所残り、脚部の残存状況から透かし孔は3ヶ所にあったと考えられる。28は壺体部。29・30は甕。30は頸部に波状文が残る。S3はササカイト製打製スクレイパー。

26は7世紀前半のTK209型式で、他はおおむね6世紀初頭のTK47型式である。

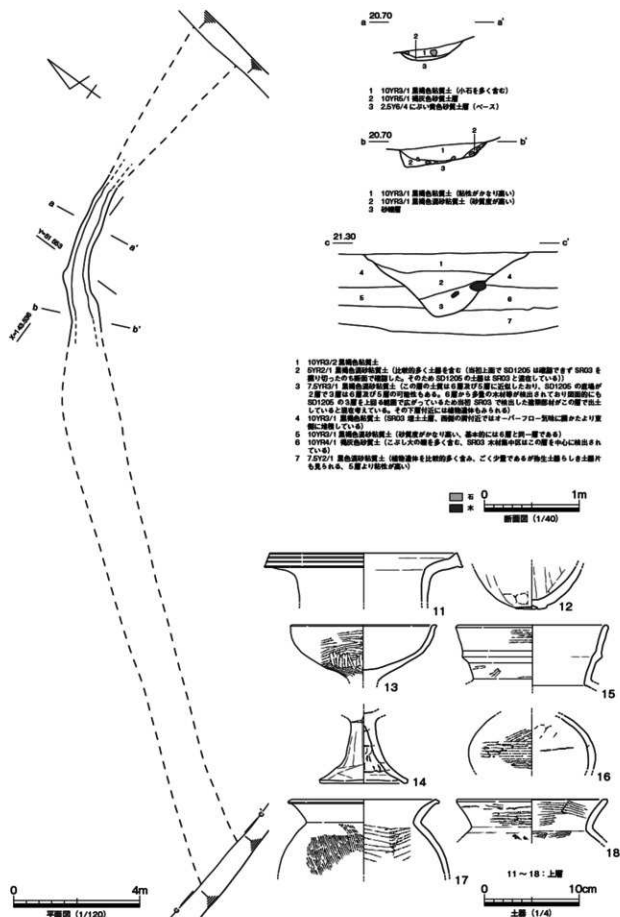
31～54は出土層位不明の遺物である。31は弥生土器広口壺口縁部。32～36は土師器。32・33は高杯杯部。内面は中心から放射状に、外面は上半部は横方向、下半部は分割と考えられるヘラミガキで仕上げる。34～36は甕。37～45は須恵器。37～43は杯蓋。頂部には回転ヘラ削りを施す。口縁部と頂部の屈曲部は、凹線状となるもの(38・41・42)や段を持つもの(37・39)などがある。口縁端部は内側に面を持つものが多い(37・38・41・42)。40は口縁端部を丸く収め、口縁部と頂部の境に明確な屈曲部を持たない。43は頂部に回転ヘラ削り後「×」のヘラ描きを施す。44～47は蓋杯。概ね口縁端部は丸く仕上げ、底部は回転ヘラ削りを施す。46は口縁端部の返りの退化が進む。48・49は高杯脚部。48には3角形と考えられる透かし孔が、49には長方形と考えられる透かし孔が1ヶ所に残る。50～54は甕。いずれも口縁端部を外側へ肥厚させる。53は口縁端部外側に2条の沈線を、52・53は頸部外面にカキ目を施す。

40・46は7世紀前半のTK209型式で、他は概ね6世紀初頭のTK47型式と考えられる。

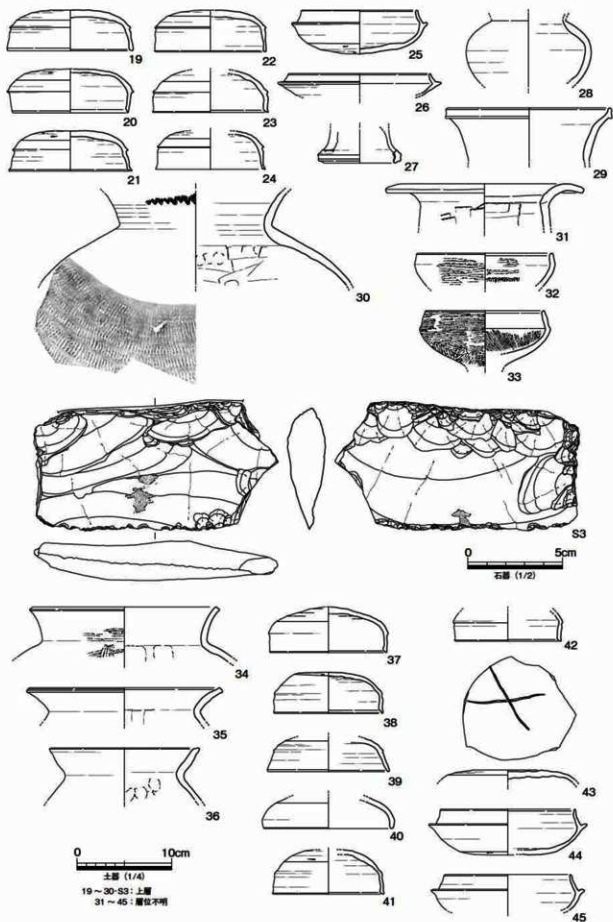
遺物には、自然河川からの混入と考えられる弥生土器を除けば、6世紀初頭が主体で、7世紀前半の遺物が少量混在する。

## 5. 11世紀後半～13世紀前半の遺構・遺物

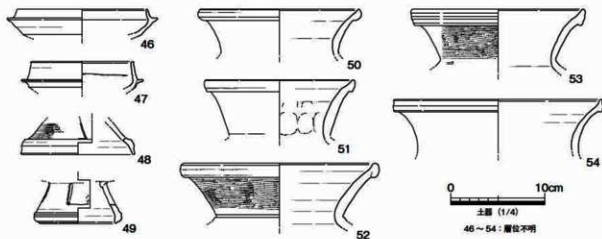
おもにSR03とSR04に挟まれた3区(H9及びH11)・5区(H9)にかけての微高地部分で当該期のピツ



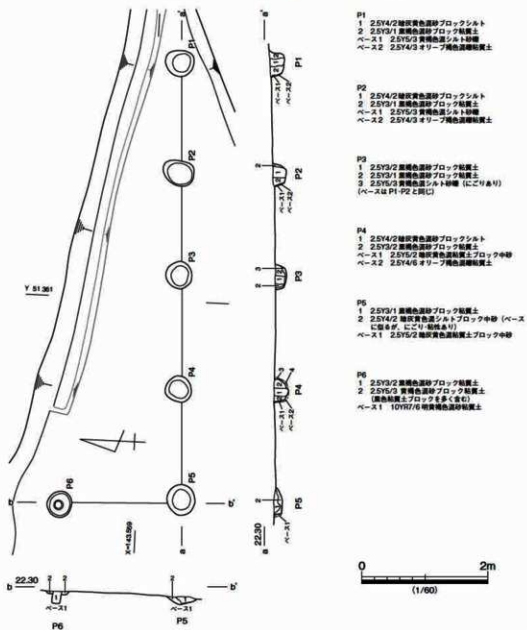
第13図 SD1205 平・断面図、出土遺物実測図(1)



第14図 SD1205 出土遺物実測図(2)



第15図 SD1205 出土遺物実測図(3)



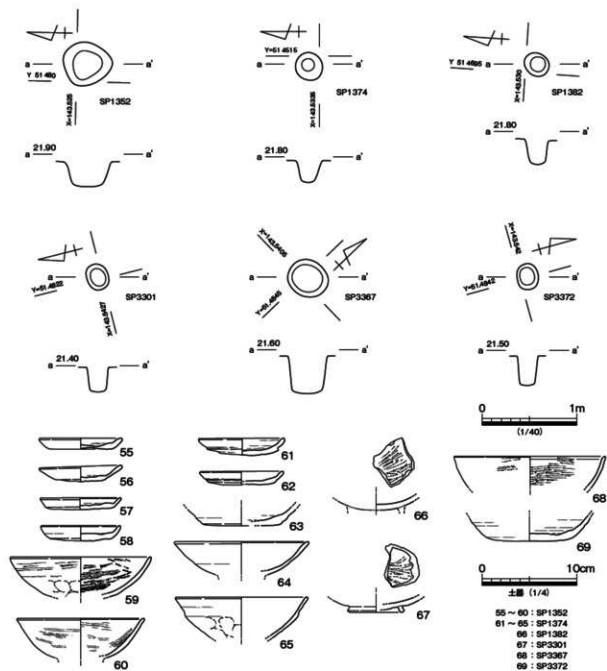
第16図 SB2301 平・断面図

ト、土坑、溝などを検出した。この時期の集落があったと考えられるが、遺構密度は疎らで、掘立柱建物はSR06の北側で1棟復元できたのみで、それ以外では復元できたものはない。

## 掘立柱建物

## SB2301 (第16図)

3区(H10)のSR06西部北側で検出した掘立柱建物である。北・東は調査区外へ延びる。桁行4間(7m)以上、梁間1間(1.9m)以上、桁行の柱間は1.7~1.8m程度で、建物の主軸方位はN88°Wである。柱穴は直径36cm程度、深さ18cm程度の円形である。柱穴埋土からは摩滅した土器小片が出土した



第17図 SP1352・SP1374・SP1382・SP3301・SP3367・SP3372  
平・断面図、出土遺物実測図

が、時期が明らかになるものはない。

同時期の遺構は周辺にはないが、後述するSR03とSR04に挟まれた微高地部分で検出した11世紀後半～13世紀前半のピットと遺構埋土が類似することから、同じ時期と考えられる。

#### 柱穴

##### SP1352（第17図）

3区(H9)の微高地南部付近で検出したピットである。直径52cm程度の円形で、深さ28cm、埋土は黒褐色(2.5Y3/1)砂混粘質土でわずかに鉄分を含む。埋土中からは土師質土器片、黒色土器片が出土した。

55～58は土師質土器皿。口径8～9cm程度。底部はいずれも回転ヘラ切りによる。皿BⅢ-2類。59・60は黒色土器A類碗。碗AⅡまたはⅢ類。

遺構の時期は出土遺物により概ね中世Ⅰ-3期に相当することから、11世紀後半～12世紀前半と考えられる。

##### SP1374（第17図）

微高地西部、SD1304の東側で検出した。直径28cm、深さ24cm、埋土は褐灰色(10YR5/1)砂混粘質土で、マンガン、鉄分の沈着がある。埋土中からは土師質土器片、瓦器片が出土した。

61～64は土師質土器。61・62は皿。ともに口径約9cm。底部は回転ヘラ切りによる。皿BⅢ-2類。63は杯底部。小片。杯DⅡ-3または4類。64は碗。65は和泉型瓦器碗。小片で摩滅が著しい。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ-1期に相当することから、12世紀第3～第4四半期後半と考えられる。

##### SP1382（第17図）

微高地中央南寄り検出したピットである。円形で直径28cm、深さ25cm、埋土は褐灰色(10YR5/1)砂混粘質土で、マンガン、鉄分の沈着がある。埋土中からは土師質土器片が出土した。

66は土師質土器碗。高台部は剥離して残らない。内面にはヘラミガキを施す。

遺物からは詳しい時期は決め難いが、埋土の類似性からSP1374と同様12世紀第3～第4四半期後半と考えられる。

##### SP3301（第17図）

3区(H11)の微高地中央付近で検出したピットである。円形で直径24cm、深さ28cmである。埋土中からは瓦器碗小片、須恵器碗小片などが出土した。

67は須恵器碗。内面にヘラミガキを施す。碗AⅡ-1類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ-1期に相当し、12世紀第3～第4四半期と考えられる。

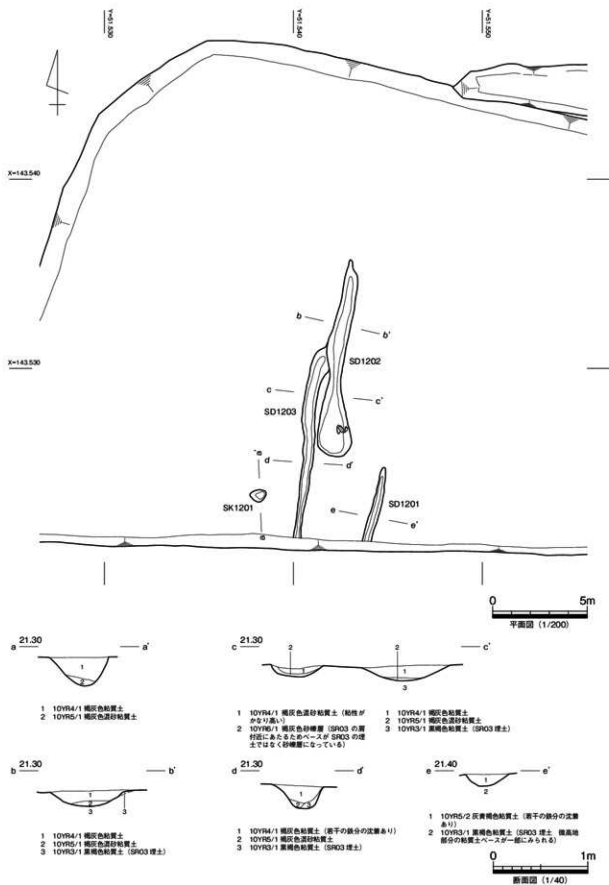
##### SP3367（第17図）

微高地中央付近北寄り検出したピットである。円形で直径40cm、深さ40cmである。埋土中からは黒色土器碗A類小片が出土した。

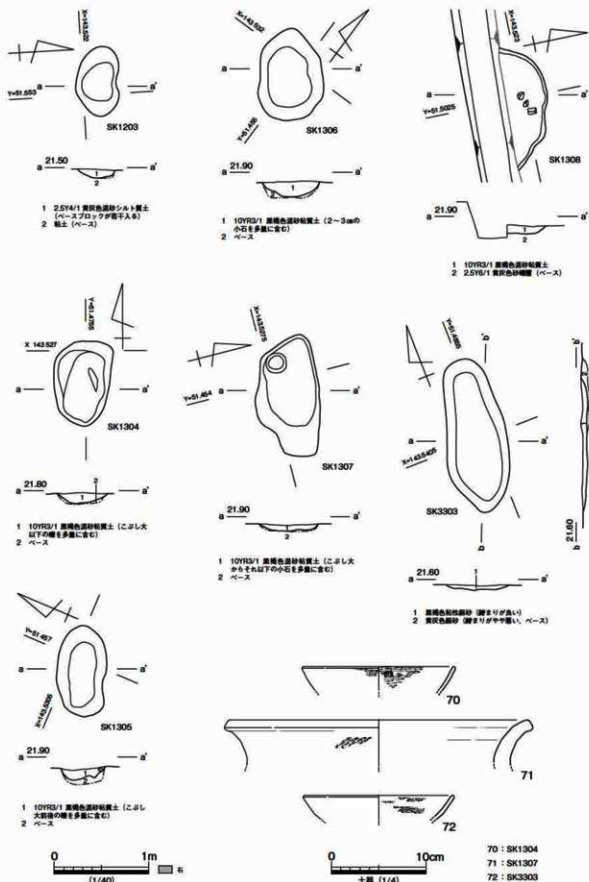
68は黒色土器A類碗。小片。内外面ともに横方向のヘラミガキを施す。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ-3期に相当し、12世紀第1～第2四半期と考えられる。





第 18 図 SK1201・SD1201～SD1203 平・断面図



第19図 SK1203・SK1304～SK1308・SK3303  
平・断面図、出土遺物実測図

## SP3372 (第17図)

微高地中央付近北寄りで検出したピットである。円形で直径24cm、深さ30cmである。埋土中からは須恵器甕片、黒色土器A類碗小片、土師質土器片が出土した。

69は土師質土器杯。底部しか残らないが、杯DⅡ-3類と考えられる。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ-1期に相当し、12世紀第3～第4四半期と考えられる。

## 土坑

## SK1203 (第19図)

SR02南側、SR03の東側で検出した土坑である。長軸72cm、短軸38cm、深さ8cm、埋土は黄灰色砂混シルトでベースブロックを若干含む。埋土中からは土師質土器杯などの土器片やサヌカイト片が出土した。

遺構の時期は、出土遺物により周辺と同じ12世紀前後と考えられる。

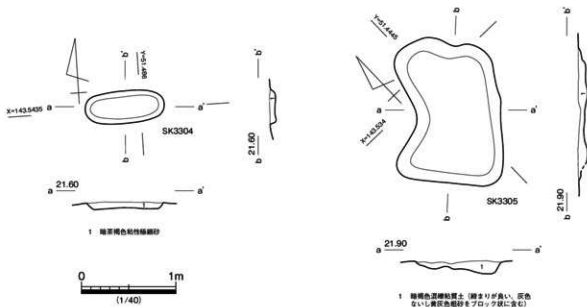
## SK1201 (第18図)

2区(H9)のSD1201～SD1203に近接して、SR03の上面で検出した。不整形円で、概ね直径64cm、深さ30cm、埋土は褐灰色粘質土である。埋土中からは須恵器甕片などの土器小片が出土しただけであった。

遺構の時期は、後述するSD1202・1203と埋土が共通することから11世紀後半～12世紀前半と考えられる。

## SK1304 (第19図)

3区(H9)の微高地中央南寄りで検出した土坑である。楕円形で長軸88cm、短軸52cm、深さ10cm、埋土は黒褐色混砂粘質土でこぶし大以下の礫を多量に含む。埋土中からは黒色土器A類碗が出土した。



第20図 SK3304・SK3305 平・断面図

70は黒色土器A類碗。内外面とも横方向のヘラミガキを施す。内面は縦方向のヘラミガキの後横方向のヘラミガキを施す。黒色土器A類碗Ⅱ-4類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ-3期に相当し、12世紀第1～第2四半期頃と考えられる。

#### SK1305（第19図）

微高地西部で検出した土坑である。楕円形で長軸96cm、短軸46cm、深さ12cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

SK1304と同質埋土であることから、遺構の時期は12世紀前半頃と考えられる。

#### SK1306（第19図）

微高地西部で検出した土坑である。楕円形で長軸98cm、短軸60cm、深さ16cm、埋土は黒褐色混砂粘質土で2～3cmの小石を多量に含む。埋土中からは出土遺物はなかった。

SK1304と同一埋土であることから、遺構の時期は同じく12世紀前半頃と考えられる。

#### SK1307（第19図）

微高地南西部で検出した土坑である。不整形で長軸128cm、短軸60cm、深さ5cmで埋土は黒褐色混砂粘質土でこぶし大以下の小石を多量に含む。埋土中からは土師質土器片、須恵器甕片が出土した。

71は須恵器甕。甕C-3類。口縁端部は面を持ち、頸部外面には叩き痕が残る。

遺構の時期は、出土遺物やSK1304と同質の埋土であることから中世Ⅰ-3期に相当し、12世紀第1～2四半期と考えられる。

#### SK1308（第19図）

微高地東南部で検出した土坑である。南半部は調査区外へ延びる。楕円形で長軸128cm、短軸40cm以上、深さ8cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

SK1304と同質の埋土であることから、遺構の時期は12世紀前半頃と考えられる。

#### SK3303（第19図）

3区(H11)微高地中央部北寄りで検出した土坑である。長楕円形で長軸160cm、短軸64cm、深さ4cmで埋土は黒褐色粘性細砂である。埋土中からは黒色土器A類碗、土師質土器杯などが出土した。

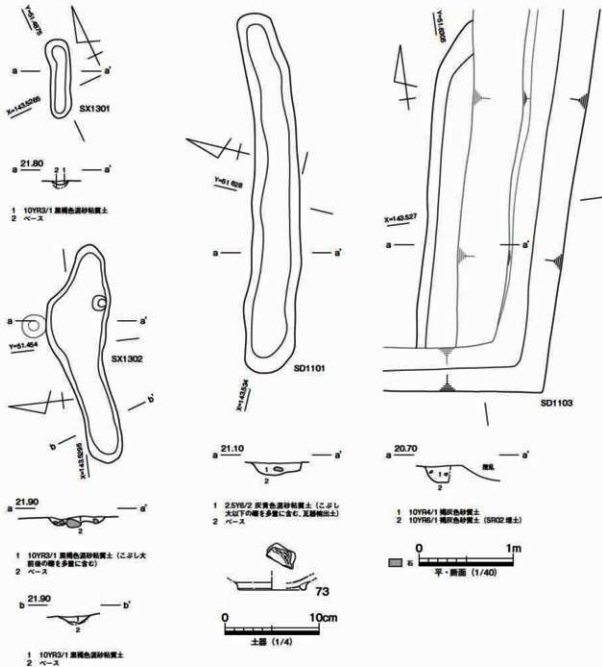
72は黒色土器A類碗。内面に横方向のヘラミガキが認められるが、外面調整は摩滅のため不明である。AⅡ-4類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅰ-3期に相当し、12世紀第1～2四半期頃と考えられる。

#### SK3304（第20図）

微高地中央部北端付近で検出した土坑である。長楕円形で長軸84cm、短軸36cm、深さ8cm、埋土は暗茶褐色粘性極細砂である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は、SD3302と埋土が同質であることから、13世紀第3四半期と考えられる。



第21図 SX1301・SX1302・SD1101・SD1103 平・断面図、出土遺物実測図

## SK3305 (第20図)

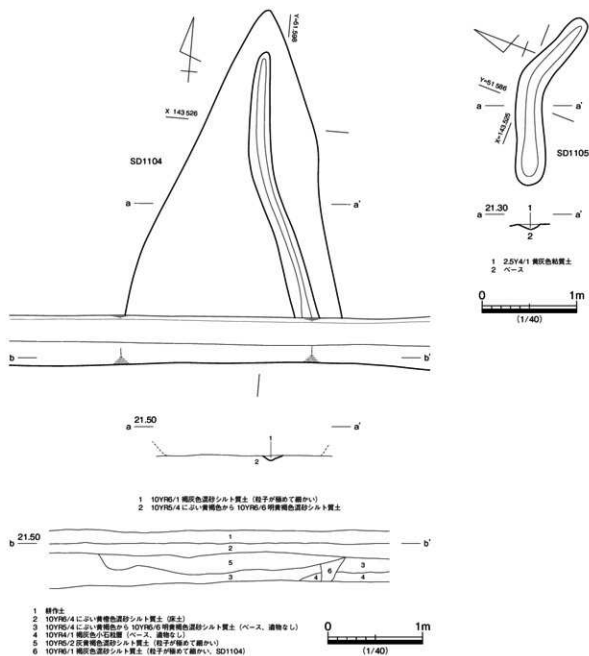
微高地の西端付近で検出した土坑である。ややびつな隅丸方形で、長軸140cm、短軸92cm、深さ12cmで埋土は暗褐色混礫粘質土である。底は凹凸がある。埋土中からは黒色土器A類碗などが出土した。

遺構の時期は出土遺物により12世紀前半頃と考えられる。

## 性格不明遺構

## SX1301 (第21図)

3区(H9)の微高地中央部付近で検出した遺構である。長楕円形で長軸82cm、幅12cm、深さ5cm、埋



第22図 SD1104・SD1105 平・断面図

土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中から出土遺物はなかった。

遺構の時期は、SK1304の埋土と同質であることから、12世紀第1～第2四半期と考えられる。

### SX1302 (第21図)

微高地の西端で検出した遺構である。長楕円形で長軸 232cm、幅 60cm、深さ 6cm、埋土は黒褐色混砂粘質土である。埋土中から出土遺物はなかった。

遺構の時期は、SK1304などの埋土と同質であることから、12世紀第1～第2四半期と考えられる。

## 溝状遺構

## SD1101 (第21図)

1区(H9)の調査区東端近く、SR02にはほぼ平行して検出した。検出長3.8m、幅54cm、深さ12cm、埋土は灰黄色泥砂粘質土でこぶし大以下の礫を多量に含む。埋土中からは瓦器碗小片、土師質土器碗が出土した。

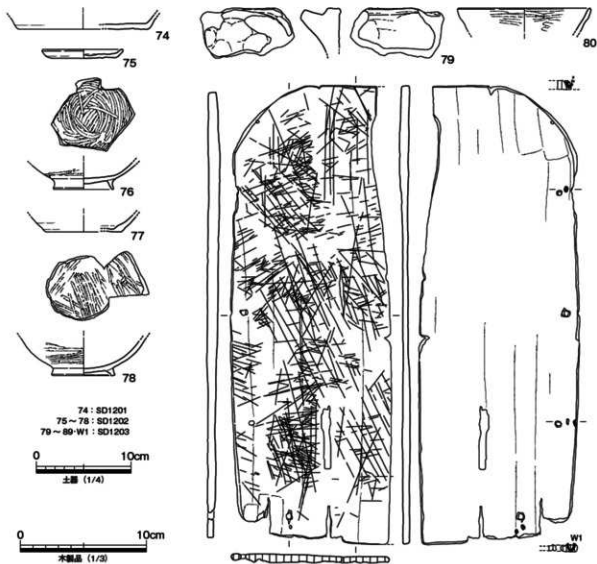
73は土師質土器碗。小片。内面にヘラミガキが施される。外面調整は摩滅のため不明。

遺構の時期は出土遺物により12世紀後半と考えられる。

## SD1103 (第21図)

調査区東端で検出した溝である。東・南は調査区外へ延びる。検出長3.4m、幅25cm以上、深さ16cm、埋土は褐灰色砂質土である。

出土遺物はなかったが、埋土がSD1202-03と同質であることから、11世紀後半～12世紀前半の遺構と考えられる。

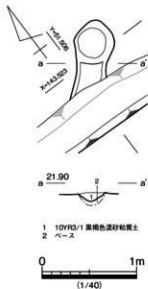


第23図 SD1201～SD1203 出土遺物実測図

#### SD1104（第22図）

調査区東南部、SR02の南側で検出した溝である。SR02とはほぼ直交する。南は調査区外へ延びる。検出長2.8m、幅20cm、深さ20cm、埋土は褐灰色泥砂シルト質土である。遺構の上面に近世の遺構と共通する土層が堆積する。埋土中からは黒色土器A類碗、土師器碗の小片が出土した。

遺構の時期は土層堆積状況及び出土遺物により12世紀前半頃と考えられる。



#### SD1105（第22図）

SR02の南側、SD1104の西側で検出した溝である。SR02にはほぼ平行する。検出長は約2m、幅22cm、深さ7cm、埋土は黄灰色粘質土である。埋土中からは黒色土器A類碗小片、弥生土器片がわずかに出土した。

第24図 SD1301 平・断面図土した。

遺構の時期は出土遺物から12世紀前半頃と考えられる。

#### SD1202（第18・23図）

SR03上面で検出した。SD1201・SD1203・SK1201に近接する。検出長約10m、幅80cm、深さ16cm、埋土は褐灰色粘質土である。

埋土中からは土師器小皿・碗、須恵器杯、黒色土器A類碗などが出土した。

75・76は土師質土器。75は皿。BⅢ-2類。76は碗。内外面ともにヘラ磨きを施す。AⅡ-3類。77は須恵器杯。9世紀後半。78は黒色土器A類碗。外面には平行のヘラミガキ、見込みに1方向、体部内面には4分割のヘラミガキが認められる。AⅡ-3または4類。77は遺構の時期を示していないと考えられる。

遺構の時期は、77以外の出土遺物から中世Ⅰ-2～3期に相当し、11世紀第4四半期～12世紀第2四半期と考えられる。

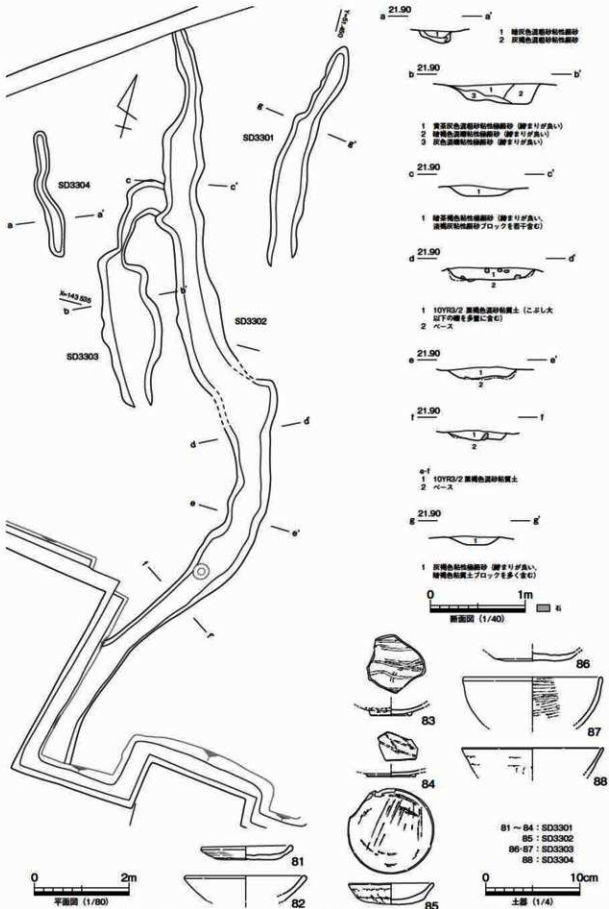
#### SD1203（第18・23図）

SD1201・SD1202・SK1201に近接して、SR03上面で検出した。検出長約10m、幅52cm、深さ16cm、埋土は褐灰色粘質土である。遺構の切り合い関係からはSD1202により消失するが、埋土は類似し、あまり時期差はないと考えられる。

79は土師質土器甕。移動式の甕で、上部の受け口と上側の鈎の一部が残る。80は黒色土器A類碗。体部は直線的に立ち上がり内外面にはヘラミガキを施す。W1は曲物底板。1側縁部に3箇所、下部縁辺部に1か所穿孔孔が残る。片面に多数の使用痕が残り、転用品と考えられる。多量の木製品が出土したSR03からの混入の可能性が高い。

遺構の時期は出土遺物や、位置が近接し埋土も同質のSD1202と同じ11世紀後半～12世紀前半と考えられる。





第25図 SD3301 ~ SD3304 平・断面図、出土遺物実測図

### SD1301（第24図）

3区(H9)の微高地東部で検出した。南は調査区外へ延びる。検出長68cm、幅28cm、深さ10cm、埋土は黒褐色泥砂粘質土である。

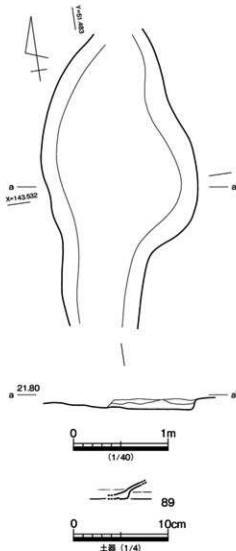
埋土中からは出土遺物はなかったが、遺構の埋土がSK1304などと同質であることから、12世紀前半と考えられる。

### SD3301（第25図）

3区(H11)の微高地北西部で検出した溝である。検出長4.8m、幅52cm、深さ8cm、埋土は灰褐色粘性極細砂で暗褐色粘質土ブロックを多く含む。埋土中からは瓦器碗、黒色土器A類碗その他土器片が出土した。

81・82は土師質土器。81は皿。底部は回転ヘラ切りによる。BⅢ-1類。82は杯。DⅡ-4類。83・84は和泉型瓦器碗。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ-2期に相当し、13世紀第3四半期と考えられる。



第26図 SD3305  
平・断面図、出土遺物実測図

### SD3302（第25図）

微高地西端部付近で検出した溝である。SD3301の約1.6m西側で検出した。やや蛇行しながら北方向へ向く。幅約90cm、深さ6cm、埋土は黒褐色泥砂粘質土である。埋土中からは瓦器碗・瓦器皿ほか土器小片が出土した。

85は和泉型瓦器小皿。外面に顕著に指押さえ痕を残す。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ-2期に相当し、13世紀第3四半期と考えられる。

### SD3303（第25図）

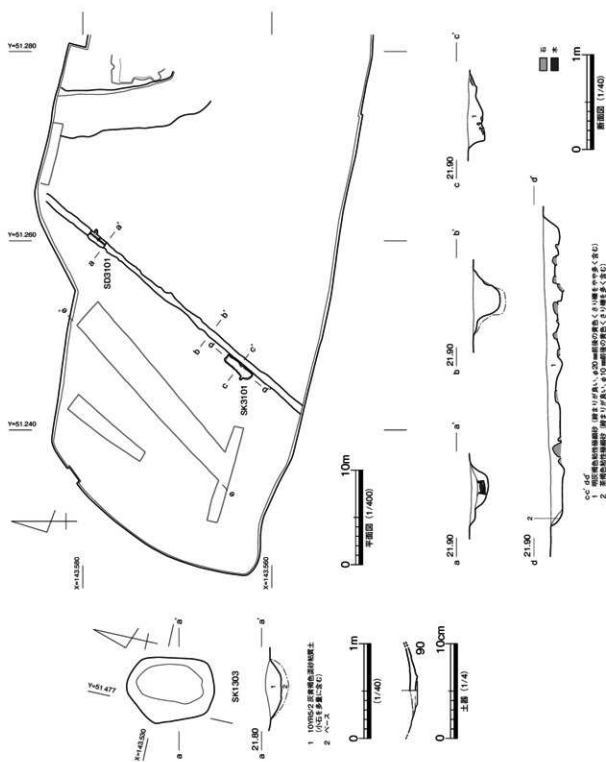
微高地西端付近で検出した溝である。SD3302に近接して検出した。検出長約2.2m、幅96cm、深さ20cmである。北側でSD3302により消失し、東・北側へは連続しない。埋土中からは黒色土器碗A類、土師質土器杯などが出土した。

86は土師質土器杯。DⅡ-3または4類。87は黒色土器A類碗。内面は横方向のヘラミガキを施す。外面は摩滅のため不明。AⅡ-5または6類。

遺構の時期は出土遺物により中世Ⅱ-2期に相当し、13世紀第3四半期と考えられる。

### SD3304（第25図）

微高地西端付近で検出した溝である。SD3302の約2.4m西側で検出した。検出長13.2m、幅32cm、深さ12cmである。埋土中からは土師質土器杯が出土した。



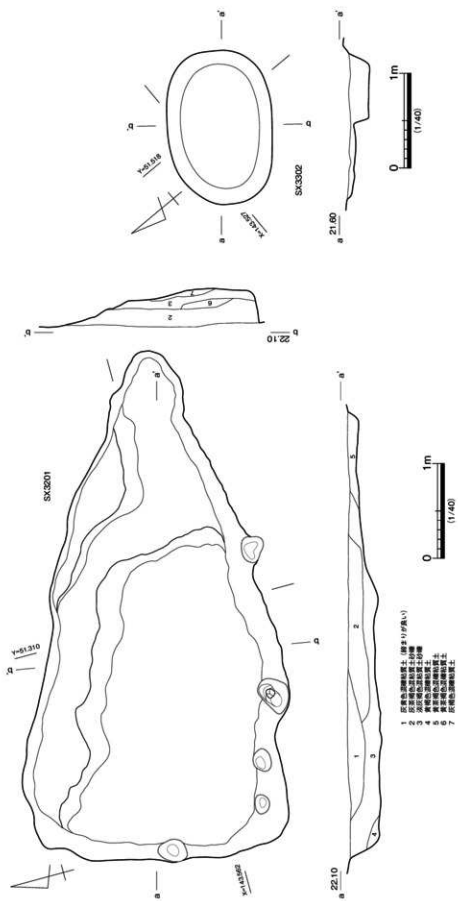
第27図 SK1303・SK3101・SD3101 平・断面図、出土遺物実測図

88は土師質土器杯。D II - 2類。

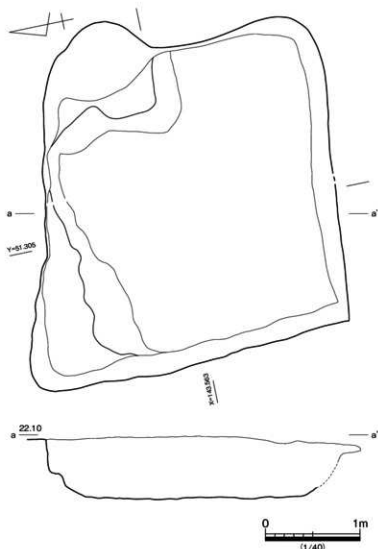
遺構の時期は出土遺物により中世I期に相当し、13世紀第1～2四半期と考えられる。

#### SD3305 (第26図)

微高地中央付近で検出した溝である。検出長約3.2m、幅1.52m、深さ10cmである。埋土中からは



第28図 SX3302・SX3201 平・断面図



第29図 SX3202 平・断面図

3区(H9)の微高地中央やや南寄り  
で検出した土坑である。楕円形で長  
軸94cm、短軸64cm、深さ16cm、埋  
土は灰黄褐色混砂粘質土で小石を多  
量に含む。埋土中からは陶器皿が出  
土した。

遺構の時期は出土遺物により12世  
紀代と考えられる。

#### 性格不明遺構

##### SX3302 (第28図)

3区(H11)の調査区中央付近、微高地東端付近で検出した遺構である。東側が1段低い。楕円形で長軸1.52m、短軸1.00m、深さは浅い部分が6cm、深い部分が24cmである。埋土中からは平瓦片、焙烙片などが出土した。

遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

##### SX3201 (第28図)

2区(H11)のSR07の北側、SX3202の東側で検出した遺構である。不整形で長軸5.36m、最大幅2.08

黒色土器A類碗、土師質土器杯片が  
出土した。

89は土師質土器杯小片。

遺構の時期は出土遺物により12世  
紀代と考えられる。

#### 6. 近世以降の遺構・遺物

##### 土坑

##### SK1303 (第27図)

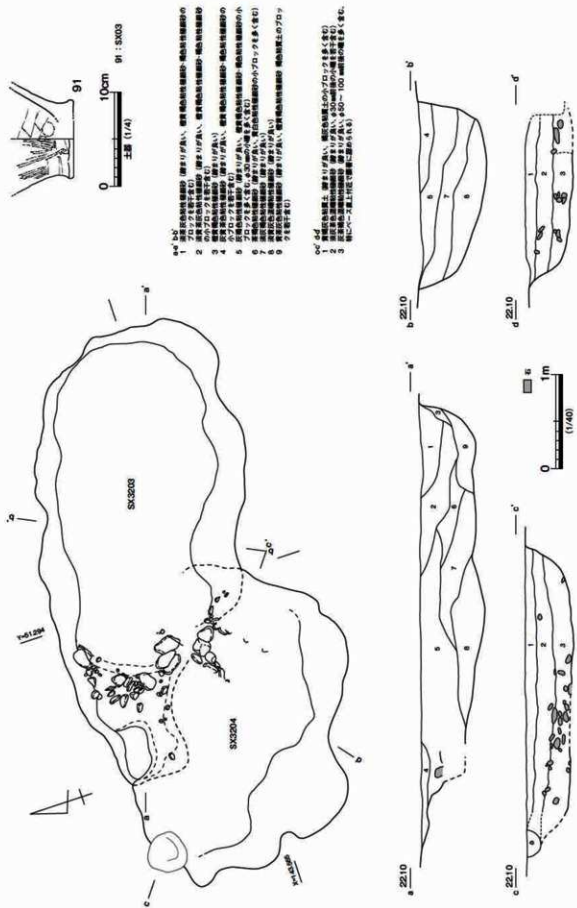
3区(H9)の微高地中央やや南寄り  
で検出した土坑である。楕円形で長  
軸94cm、短軸64cm、深さ16cm、埋  
土は灰黄褐色混砂粘質土で小石を多  
量に含む。埋土中からは陶器皿が出  
土した。

90は陶器皿。内面から体部外面に  
灰軸を掛ける。

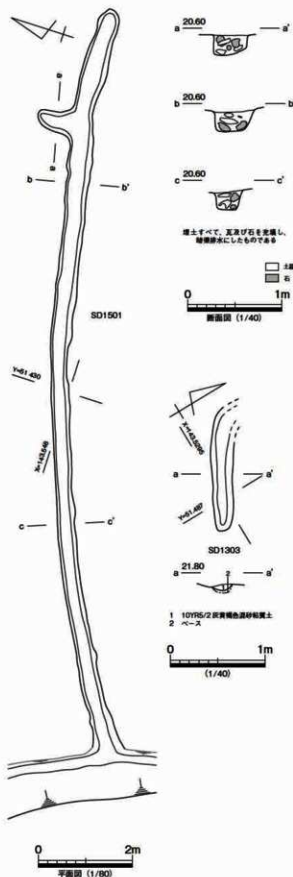
遺構の時期は出土遺物により近世  
以降である。

##### SK3101 (第27図)

1区(H11)の調査区西端付近で検



第30図 SX3203・SX3204 平・断面図、出土遺物実測図



第31図 SD1303・SD1501 平・断面図

m、深さは36cmである。南東から北西にかけて幅40cm程度帯状に高い部分がある。埋土中からは摩滅した弥生土器や近世陶磁器片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

#### SX3202 (第29図)

SR07の北側、SX3201の西側で検出した遺構である。概ね1辺3.08～3.32mの方形で深さは66cmである。北東隅、南西部は一段高い。埋土中からは摩滅した弥生土器片、須恵器片、近世陶磁器片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により近世以降である。

#### SX3203・SX3204 (第30図)

SR07の北側、SK3202の西側で検出した土坑である。連結した形状であるが、遺構の前後関係は明らかではない。SX3203は不整形で長軸4.8m、短軸2.2m、深さ60cm、SX3204は不整形で長軸3.3m、短軸1.8m、深さ52cmである。SX3203・SX3204ともに弥生土器小片が出土した。遺物は弥生土器小片のみであったが、遺構の規模や埋土に礫が多く含まれるなど近世の遺構であるSX3201と共通し、遺構の時期は近世以降に下る可能性が高いと考えられる。

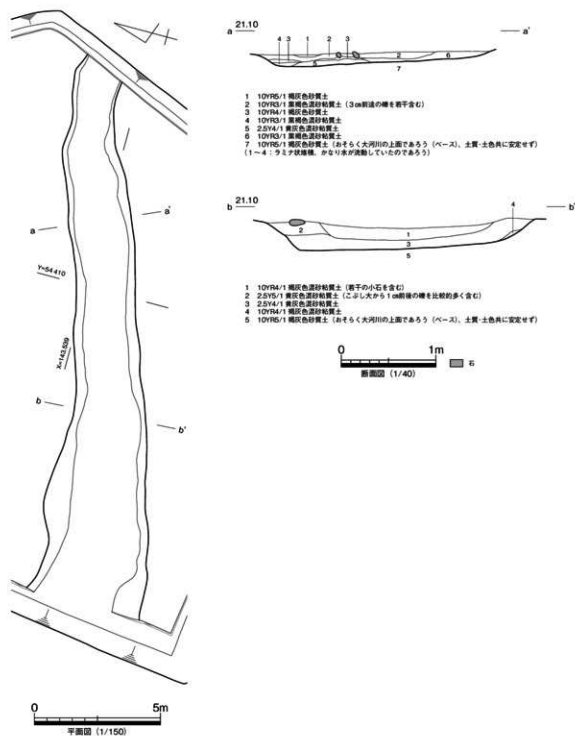
91は弥生土器甕底部。弥生時代前期。

#### 溝状遺構

##### SD3101 (第27図)

1区(H11)の西端付近で検出した溝である。周辺の地割に沿う南北方向を指し、北・南側とも調査区外へ延びる。幅64cm、深さ16cmの暗渠であると考えられる溝内部には底板と側板2枚、蓋板から成る木製の樋が埋設されていた。

出土遺物はなかったが、暗渠の構造により近世以降と考えられる。



第32図 SD1502 平・断面図

SD1201 (第18・23図)

2区(H9)のSR03上面で検出した。SD1202・SD1203・SK1201に近接する。検出長約4m、幅46cm、深さ12cm、埋土は灰黄褐色粘質土で鉄分が若干沈着する。

埋土中からは土師質土器片、須恵器皿・甕片などが出土した。



74は須恵器皿。9世紀後半。

図示した遺物は9世紀後半であるが、埋土が近世の遺構であるSK1303、SD1303と同質であることから、近世以降の遺構としたい。

#### SD1303 (第31図)

3区(H9)の中央付近で検出した溝状遺構である。検出長12.8m、幅20cm、深さ7cm、埋土は灰黄褐色混砂粘質土である。

埋土から出土遺物はなかったが、埋土がSK1303と同じことから近世以降と考えられる。

#### SD1501 (第31図)

5区(H9)の微高地の東側で検出した溝である。おおむねSD1502と同じ方向を向き、地形に沿った方向と考えられる。検出長15.6m、幅40cm、深さ20cmで、瓦や石を充填して埋められた様子が窺える。

出土遺物から暗渠であったと考えられ、近世以降と考えられる。

#### SD1502 (第32図)

微高地の東側で検出した溝である。おおむね周辺のSR02やSR06と同じ方位を示し、幅2.8m、深さ22cmで、ラミナ状堆積が見られ、水の流れがあったことがわかる。埋土中からは土師質土器足釜脚部、瓦器椀片、陶器片等が出土した。

遺構の時期は近世陶器が出土していることから近世以降と考えられる。

#### SD2303 (第33図)

3区(H10)のSR06の北側で検出した溝である。SR06とはほぼ同じ方向を指すが隣接する調査区では検出されていない。幅1.36m、深さ40cmで灰黄色粗混砂粘質土である。溝の北側の一部に石組が残る。埋土中からは弥生土器片、須恵器片、磁器片等が出土した。

遺構の時期は出土遺物により、近世以降と考えられる。

#### SD2304 (第34図)

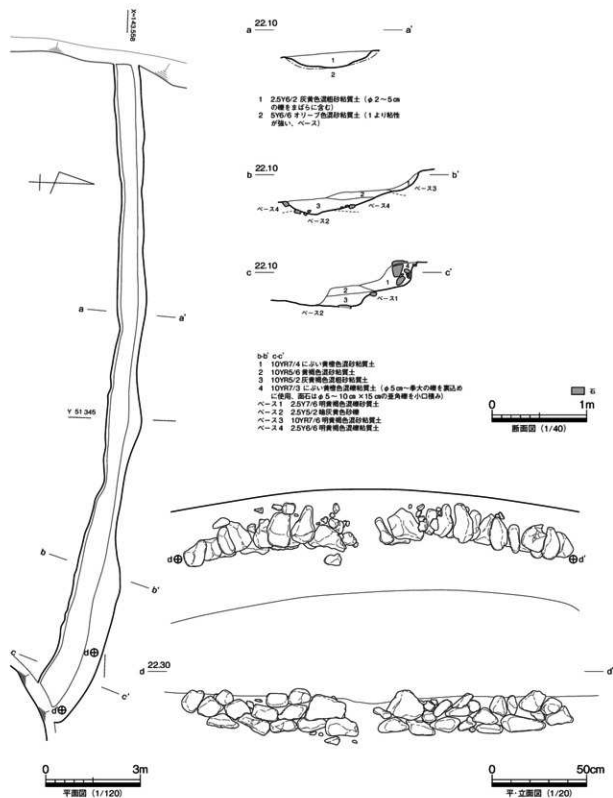
2区(H11)のSD2203の南側で検出した溝である。検出した西端近くで南西へ屈曲する。東側は調査区外へ延びる。検出長4.7m、幅0.92m、深さ18cm、埋土はオリブ褐色混礫粗砂粘質土である。埋土中からは弥生土器・須恵器・磁器小片が出土した。SR06と重複し、遺構検出時には前後関係は明らかではなかったが、出土遺物によりSR06より新しいと考えられる。

遺構の時期は出土遺物により、近世以降と考えられる。

#### SD3202 (第34図)

SR06・SR07の北側で検出した溝である。SD3201と重複する付近で北西方向へ屈曲し、調査区外へ延びる。幅0.60～0.84m、深さ14cmである。埋土中からは近世磁器片が出土した。

遺構の時期は出土遺物により、近世以降と考えられる。



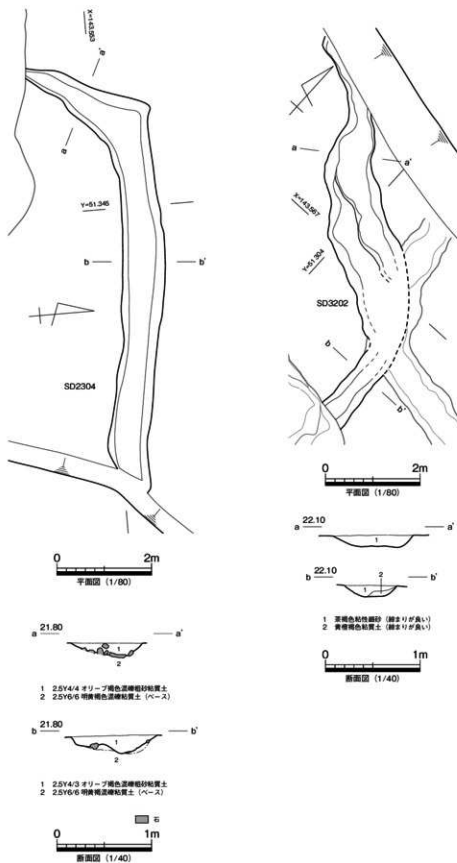
第33図 SD2303 平・断面図

## 7. 時期不明の遺構

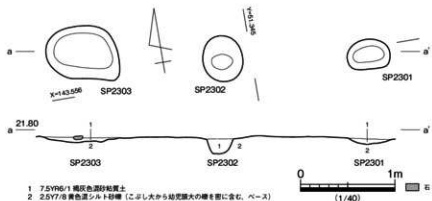
### 柱穴

SP2301 ~ SP2303 (第35図)

3  
区



第34図 SD2304・SD3202 平・断面図



第35図 SP2301～SP2303 平・断面図

(H10) のSR06の北側、SD2203とSD2204の間で検出したピット列である。3穴検出した。ピット間隔は0.9～1.2mである。ピットは円形または楕円形で、長径48～76cm程度、短径32～52cmである。深さはSP2302は16cm、他は5cm程度で非常に浅い。埋土はいずれも褐灰色混砂粘質土である。SP2303から摩滅した土器小片が出土したのみである。

遺構の時期は不明である。

#### 土坑

##### SK1102 (第36図)

1区(H9)の東端付近で検出した土坑である。不整形で長軸1.96m、短軸0.96m、深さ14cmで埋土はおおむね黄褐色粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

##### SK1204 (第36図)

2区(H9)のSR02の南側、SR03の東側で検出した土坑である。長楕円形で長軸0.94m、短軸0.52m、深さ15cmである。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

##### SK3301 (第37図)

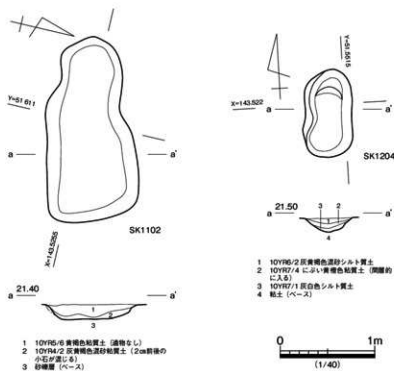
3区(H11)の中央付近の微高地で検出した土坑である。長楕円形で長軸1.60m、短軸0.52m、深さ18cmである。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

##### SK3201 (第37図)

2区(H11)のSR06北側で検出した土坑である。隅丸長方形に近い不整形である。長軸1.16m、短軸0.84m、深さは18cmである。埋土中からは土器の小片が出土しただけである。

遺構の時期は不明である。



第36図 SK1102・SK1204 平・断面図

**性格不明遺構****SX1201 (第37図)**

2区(H9)のSR02の南側、SR03の東側で検出した遺構である。不整形で長軸1.24m、最大幅0.52m、深さ12cm、埋土は灰黄褐色混砂シルト質土でベースブロックを若干含む。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。

**溝状遺構****SD1106 (第38図)**

1区(H9)のSR02の南側で検出した溝である。SR02にほぼ平行して検出した。検出長1.4m、幅24cm、深さ5cm、埋土は褐灰色混砂粘質土である。

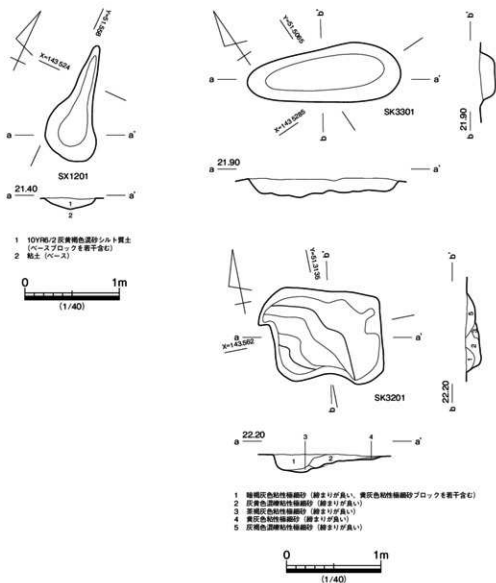
埋土中からは土器小片が出土したのみである。

遺構の時期は不明である。

**SD1204 (第38図)**

2区(H9)のSR02とSR03の合流部の南辺に沿うように屈曲して検出した溝である。SR01、SR03の埋没後に掘削される。検出長約5m、幅40cm、深さ16cm、埋土はおおむね黄灰色混砂粘質土である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。



第 37 図 SX1201・SK3301・SK3201 平・断面図

**SD1206 (第 38 図)**

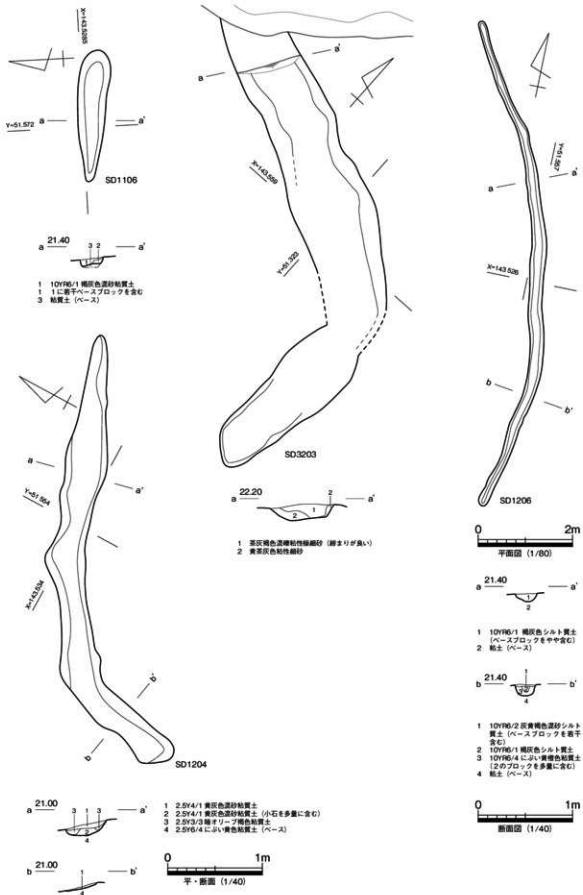
SR02 南側, SR03 東側で検出した溝である。検出長は 4.9m、幅 40cm、深さ 12cm で埋土は褐灰色シルト質土である。埋土中からは遺物は出土しなかった。

遺構の時期は不明である。

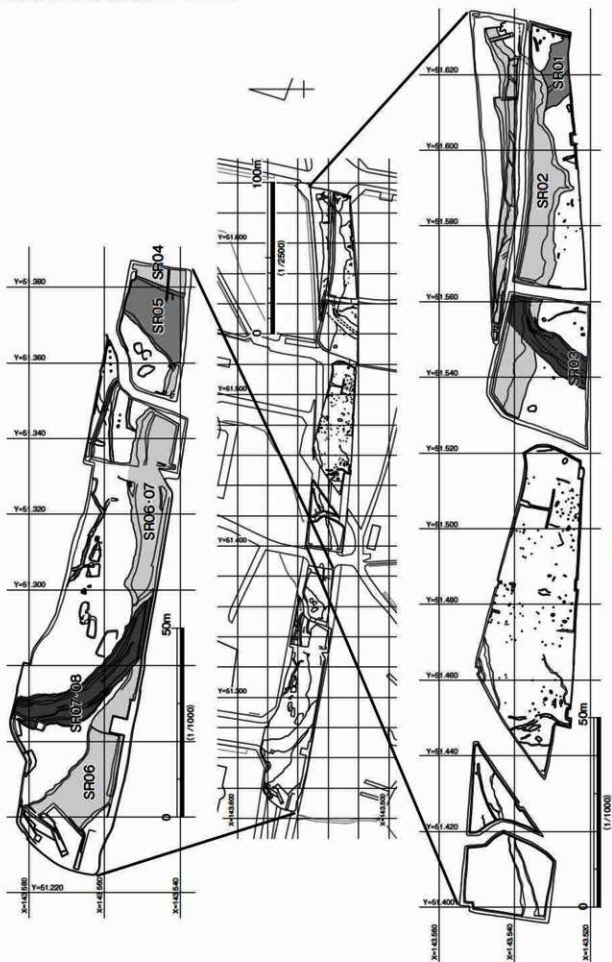
**SD3203 (第 38 図)**

2 区 (H11) の SR06 北側で検出した溝である。北西から約 3m の地点で屈曲する。幅 64cm、深さ 12cm である。埋土中からは出土遺物はなかった。

遺構の時期は不明である。



第38図 SD1106・SD1204・SD1206・SD3203 平・断面図



第39図 旧河津 平面図



## 第2節 旧河道の調査

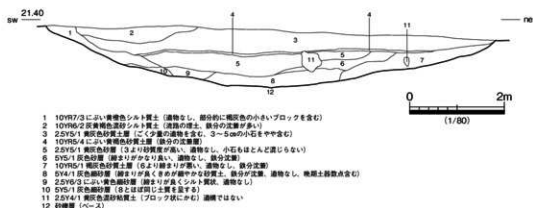
本遺跡からは複数の旧河道を検出している。これらは、第5章のまとめで触れるとおり、香東川が形成した扇状地面を開削して流れる旧河道の範囲の中で、流下・堆積が繰り返されたものである。したがって、以下にSR01～08として報告するものは、ある河道のある段階の堆積層に遺構番号を付すものも含まれている。なお、調査が3カ年にわたり、同一の河道に対して異なる遺構番号が付されるものがあるため、新たに遺構番号を付した。なお、断面図の取得位置については遺構配置図(第6～9図に図番号で示す)を参照されたい。

## 旧河道

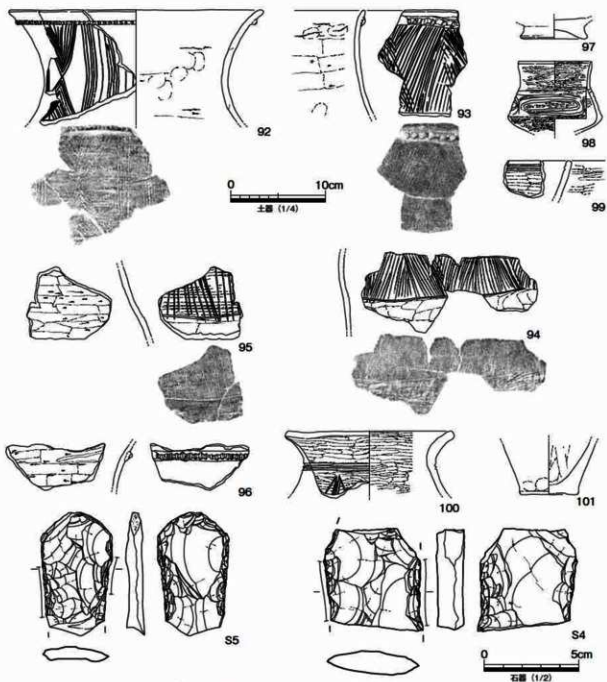
## SR01 (第40～42図)

I区(H9)東端付近で検出した南東から北西方向に流れる旧河道である。平成9年度調査のSR02を改称した。川幅約9.5m、深さ1.25mの規模で、断面形は浅い碗状を呈する。北側はSR02に壊されており、検出長は約11mである。埋土は3層に大別され、下層は非常にきめ細かい灰色細砂層、中層は黄灰色砂層、上層にやや粗い砂粒による黄灰色砂質土層が堆積する。

出土遺物は微量で、大半が河底付近の灰色細砂層から出土している。第41、42図は、SR01から出土した遺物実測図である。92は縄文時代晩期の深鉢の口縁部である。大きく外湾し、口縁部から1cmほど下がった位置に刻み目を付した突帯を巡らせ、その下部にヘラ描き沈線による文様を描いている。文様は縦方向の沈線と、大きく「X」字を描き、その上下部分の内側を「X」と平行する沈線で埋めている。口縁部部に刻み目は見られない。93も深鉢である。93は斜め方向の平行する沈線を交互に配している。94は接合することはできないが、93と同一個体と思われるもので、口縁部から胴部付近の破片である。境界部に1条のヘラ描き沈線を巡らし、以下に貝殻条痕が見られる。93、94から深鉢は口縁部部下に1条の突帯を巡らすタイプであることがわかる。95も深鉢の口縁部と胴部の境界付近の破片、96は刻み目突帯部分で、深鉢口縁部付近の破片である。97は深鉢の底部と思われる。98は小型の浅鉢の胴部上半を長くのばして壺形とした土器である(扁平鉢形土器と呼称する研究者もいる)。精製のもので屈曲点付近に小孔がある。胴部外面に陽刻表現の三叉文を描く。99は浅鉢の口縁部の破片である。内外面ともにヘラミガキ、端部内面に2条のヘラ描き沈線が巡る。100は弥生時代前期の壺の口縁部である。頸部に2条のヘラ描き沈線が巡り、その下に縦方向の沈線と山形の沈線からなる文様の一



第40図 SR01 断面図



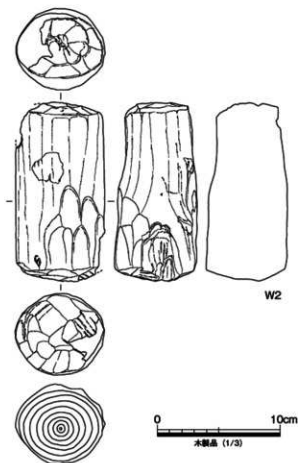
第41図 SR01最下層 出土遺物実測図(1)

部が認められる。内外面ともに丁寧にヘラミガキが見られる。101は弥生前期土器の甕底部の小片である。

S4、S5はサヌカイト製の打製石斧である。いずれも基部付近の破片である。

W2は木鐺か。円柱状で両端とも工具で丸味を持たせる。

100、101の弥生土器は、その他の土器片と同日に出土したもので、縄文土器との共伴は明らかでありSR01は縄文時代晩期末から弥生時代前期前葉の年代が考えられる。また、SR01は現地表面には痕跡が見られず、冒頭に記した扇状地上を開折する旧河道に合流する河道である。検出長がわずかであるため断定的なことはいえないが、本流に合流する一溪流という位置付けが妥当と考える。なお、SR01



第42図 SR01 最下層 出土遺物実測図(2)

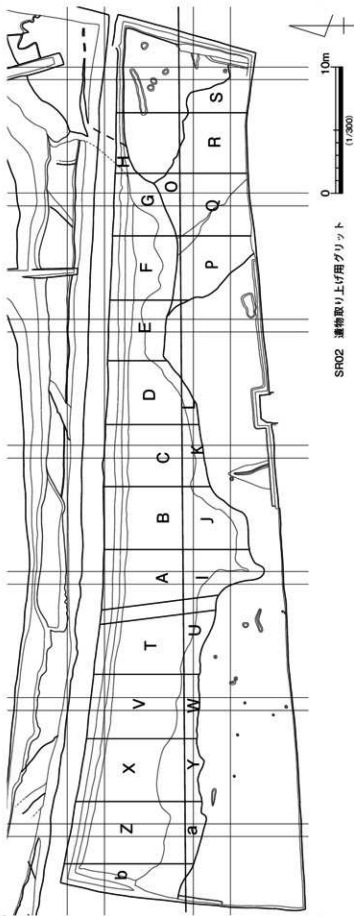
出土の土器については、概要報告で実測図が掲載され、すでに多くの検討が加えられており、ここで縄文土器として報告したものを含めて弥生時代前期前半に併行するという評価がくだされている(注)。しかしながら、多肥宮瓦遺跡における当該期の遺物は旧河道中から出土したもので、縄文土器と弥生土器が共存すると把握してよいかどうか確証がもてない。このため、以下においても突帯文系の土器を縄文土器として報告する。

(注) たとえば、信里芳紀・森下英治 1999「讃岐地方における弥生土器の基準資料Ⅱ(序章) -香川県内出土の突帯文土器を中心に-」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター「研究紀要Ⅶ」など。

#### SR02 (第43～76図)

SR02は、1区(H9)、1区(H10)、2区(H9)にまたがる旧河道であり、平成9年度調査のSR01および平成10年度調査のSR9701をまとめたものである。西から東方向に流れる旧河道で、北岸はため池によって壊されており、検出幅は最大で14m、深さ1.6mほどの規模、断面形は浅い碗状を呈する。埋土は一様ではないが、褐灰色砂質土の下層、黒褐色粘質土の中層、黒色混砂粘質土の上層の3層に大別される。出土した遺物の大半は上層、中層のもので、土器と石器で28リットル入りコンテナ67箱にはいる。遺物は、東西方向を基準に10m単位のグリッドに分けて取り上げているので、グリッドごとにレイアウトして報告する。なお、調査担当者によると、SR02全体において掘削方法に精粗があるため、グリッド毎の土器出土量等の情報は意味をなさないという教示を得ている。

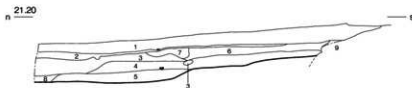
第46図102～106、S6、S7は、グリッドFの中層出土の遺物実測図である。102は縄文時代晩期の深鉢の口縁部の破片である。口縁端部からわずかに下がった位置に刻み目突帯を付し、以下にヘラ描き沈線による文様を描く。103は弥生時代前期の壺である。頸部が削り出し突帯に7条のヘラ描き沈線を巡らせている。104は如意状口縁の弥生時代前期の甕である。口縁端部に刻み目、以下に3条のヘラ



SR02 運物取り上げ用グリッド

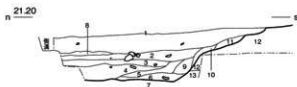
第43図 SR02 グリッド配置図

SR02 グリッドB-C 断面図



- 1 10YR4/1 褐色色混砂粘質土 (粘性が高い、土層を多量に含む。4～5cmの小石を多く含む。遺物取り上げの褐色粘質土に対応)
- 2 10YR3/1 褐色色粘質土 (1より粘性が高い、土層を多量に含む。遺物取り上げの褐色粘質土 + 砂質土に対応)
- 3 10YR3/1 褐色色粘質土 (1より粘性が高い、土層を多量に含む)
- 4 10YR5/1 褐色色砂質土 (一部ラミナ状に粘質土を包含。遺物取り上げの砂質土に対応)
- 5 10YR5/1 褐色色砂質土 (やや粘性が高い)
- 6 2.5Y3/1 黄褐色粘質土層 (ほとんどは灰質であるがやや粘性が高い)
- 7 10YR4/1 褐色色混砂粘質土層
- 8 10YR3/2 黄褐色粘質土層 (植物遺体のようなものを多量に含む)
- 9 10YR6/6 明黄褐色粘質土層 (ヘース、河川の礫)

SR02 グリッドF-G 断面図



- 1 10YR4/1 褐色色混砂粘質土 (粘性が高い、土層を多量に含む。4～5cmの小石を多く含む。遺物取り上げの褐色粘質土に対応)
- 2 10YR3/1 褐色色粘質土 (1より粘性が高い、土層を多量に含む。遺物取り上げの褐色粘質土 + 砂質土に対応)
- 3 5Y3/1 オリーブ黄褐色粘質土 (2より粘性が高くて高い。遺物取り上げの褐色粘質土 + 砂質土に対応)
- 4 10YR5/1 褐色色砂質土 (一部ラミナ状に粘質土を包含。上部より水浸品出土。遺物取り上げは粘砂質土に対応)
- 5 10YR3/1 褐色色粘質土 (泥を包含。遺物混入砂質土に対応)
- 6 10YR5/1 褐色色砂質土 (やや粘性が高い)
- 7 砂質土に2～10cm前後の礫が多量に混じる
- 8 2.5Y4/1 黄褐色粘質土 (1より粘性が高い)
- 9 2.5Y3/1 黄褐色混砂粘質土 (1～2cm前後の小石を含む)
- 10 2.5Y6/2 灰黄色砂質土 (12とほぼ同じであるが2のブロックを若干含む)
- 11 2.5Y5/1 黄褐色粘質土 (10より粘性が高い)
- 12 2.5Y6/2 灰黄色砂質土 (鉄分の沈着がみられる。SR01の埋土)
- 13 10YR5/1 褐色色砂質土 (12より礫が多い)

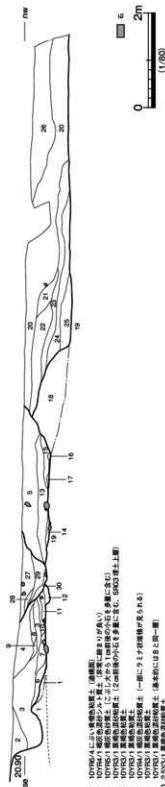
第44図 SR02 断面図

描き沈線を巡らす。105も弥生時代前期の鉢もしくは高杯の口縁、106は蓋形土器である。S6はスクレイパー、S7は刃部と基部を折損した打製石斧である。

第47図107～110、S8は、グリッドEの中層出土の遺物実測図である。107、108は弥生時代後期の壺、109、110は同じく後期の高杯である。S8は形状から打製石斧の基部の破片と考える。グリッドEの中層出土遺物はグリッドFとは異なり、弥生時代後期前半の遺物が主体となる。SR02中層は、弥生時代前期に埋没した河道を開折しながら弥生時代後期の河道が流れ、埋没したと判断され、弥生時代前期と後期の遺物が混在する様相を呈している。

第48図111～113、S9、S10は、グリッドCの中層出土の遺物実測図である。111は口縁端部に刻み目、端部よりわずかに下に刻み目突帯を付すもので、弥生時代前期の縄文系甕と考えた。縄文土器とするか弥生土器とするか悩ましいものがあるが、胎土や焼き上がりの様相のほか、ヘラ描き沈線がシャープなものを縄文土器と判断している。112も口縁端部下に貼り付け突帯、以下に縦方向のヘラ描き沈線の文様を付す縄文系の甕、113は如意状口縁で端部に刻み目、以下に2条のヘラ描き沈線を巡らす甕である。S10は形状から未成品と考える。

第49図114～118、S11、S12は、グリッドI及びVの中層出土の遺物実測図である。114は弥生時代前期の壺の肩部の破片である。貼り付け突帯の両側に竹管文を巡らせている。115も壺の肩部、多条のヘラ描き沈線を巡らす。116は壺の胴部の破片、2条のヘラ描き沈線の下に円形浮文を巡らせる。



第45図 SR02・SR03 断面図

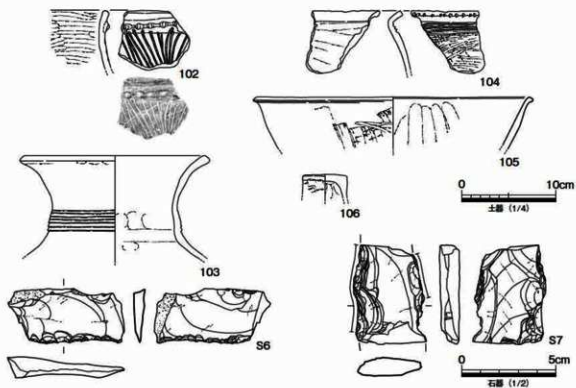
- 1 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 2 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 3 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 4 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 5 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 6 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 7 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 8 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 9 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 10 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 11 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 12 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 13 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 14 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 15 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 16 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 17 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 18 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 19 8702/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 20 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 21 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 22 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 23 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 24 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 25 8702/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 26 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 27 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 28 25703/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 29 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)
- 30 107904/1 黄褐色粘土層 (溝底)

S11は先端を尖らせた刃部を作りだすが、細部調整を途中で放棄した未成品である。S12は打裂石斧の基部片である。

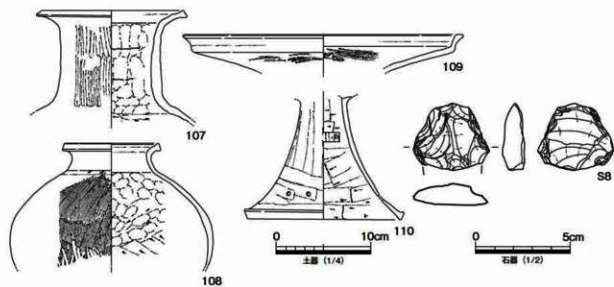
第50図W3、W4はグリッドAの中層出土の遺物実測図である。W3は広楕。舟形隆起より右側と左側縁部の一部が欠損する。楕身左側上部に方形の小孔が残る。W4は広楕未成品。舟形隆起の部分に柄を通す穴があげられていない。第51図のW5は、ミカン割材の形状であるが、幅が狭く、ミカン割材製作時に生じた端材と考えられる。

第52図は、平成10年度調査分の出土遺物実測図である。SR02の平成10年度調査は、平成9年度調査分よりも河道の中心付近が対象である。ため池の池浚えによって大半が壊されており、わずかに平成9年度調査における中層以下の一部を検出したにとどまる。出土遺物は28リットル入りコンテナ2箱で、平成9年度調査対象地より出土遺物量が極めて少ないことを、当該期の集落が河川南側に展開したためと調査者は想定している。

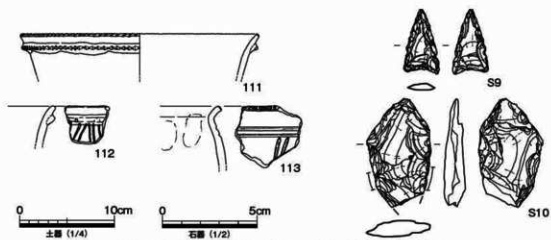
119～123は縄文土器と判断した。119は刻み目交帯の下に、鋭角に交わる2辺を上下に交互に配し、その内部に2、3条の沈線を描いている。123は壺とした。124は弥生時代前期の壺。短く外反する口縁をもち、肩部に1条のヘラ描き沈線を巡らす。前期の前半に位置づけられる。125は如意状で端部に刻み目、以下に2条のヘラ描き沈線を巡らす甕、127、128は甕、129は粘土塊をそのまま脚



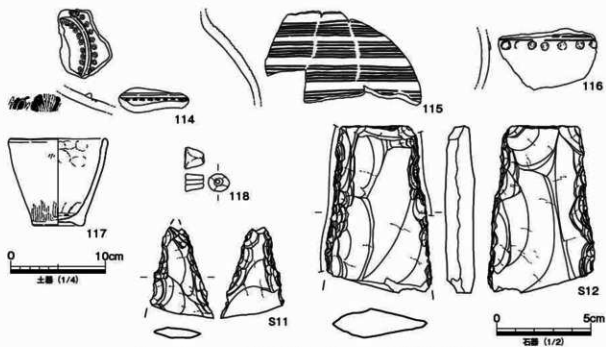
第46図 SR02 中層(グリッドF) 出土遺物実測図



第47図 SR02 中層(グリッドE) 出土遺物実測図

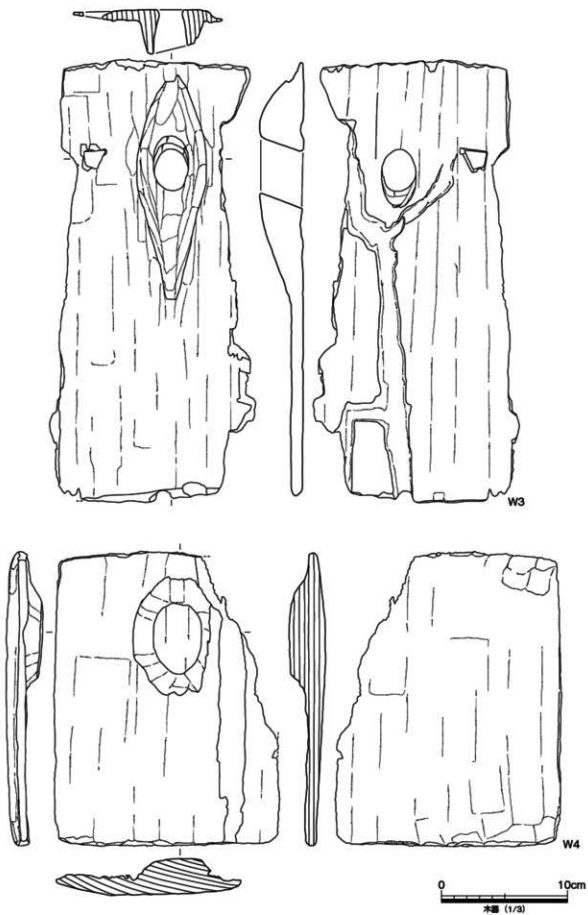


第48図 SR02 中層 (グリッドC) 出土遺物実測図



第49図 SR02 中層 (グリッドI・V) 出土遺物実測図





第50図 SR02 中層 (グリッド A) 出土遺物実測図(1)

部とした高杯である。S13は両側縁に抉りを入れ、背部を潰した打製石甌丁である。

以上が、SR02の中層から出土した遺物である。先述したとおり少量の縄文時代晩期の土器、弥生時代前期前半および中葉の土器、弥生時代後期前半の土器が混在する。なお、この上層の黒褐色粘質土層中から出土する土器も同様の様相を示す。

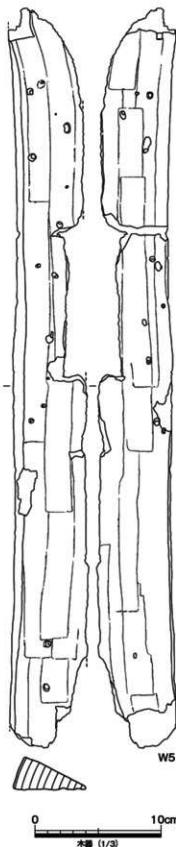
SR02上層の黒褐色粘質土層出土の遺物もグリッド毎に報告する。

第53図はグリッドGの上層出土の遺物実測図である。131～137は弥生時代前期のもので、131は頸部に4条のヘラ描き沈線を巡らす壺、132～134は逆L字状口縁の甕（135も口縁部が剥落しており、逆L字状口縁と考えられる）である。132は12条のヘラ描き沈線の下に刺突文を巡らし、133は8条のヘラ描き沈線を巡らす。136は鉢、137は小型の蓋である。139は弥生時代後期後半に下る甕である。内面は胴部中位以下をヘラ削りしている。S14は打製石甌丁、一側縁に抉りが見られ、片側は折損する。

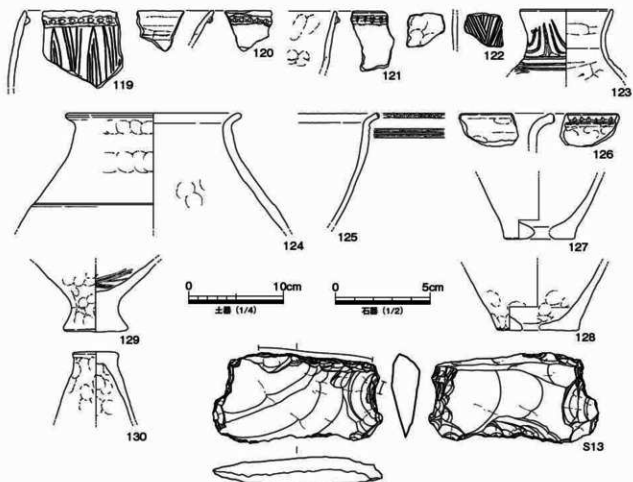
第54、55図はグリッドFの上層出土の遺物実測図である。第54図は弥生時代前期、第55図は弥生時代後期の遺物である。140～145は壺である。140、141は口縁部内面に貼り付け突帯による文様がある。141～144は肩部、胴部に多条のヘラ描き沈線が見られる。146～149は甕、いずれも口縁端部に刻み目を持ち、如意状の断面形の146、147は4条と14条のヘラ描き沈線、逆L字状の断面形の148、149は8条と11条のヘラ描き沈線、148は沈線下に刺突文が施される。150は高杯の杯部と脚部の境界部である。突帯が回り、以下にヘラ描き沈線による文様帯がある。

第55図153～156は甕、157～166は高杯である。いずれも香東川下流域の胎土によって製作されている。153、155、156の外面上半がハケ、下半がヘラミガキ、153は胴部最大径のやや上位に板状工具による圧痕が巡る。157～161は高杯の杯部である。口縁部は上方に立ち上がったあとに緩く外反する形態で、157～159は口縁端部上面に平坦面が残る。内外面のいずれもヘラミガキされている。このほかに鉢、製塩土器等が出土している。

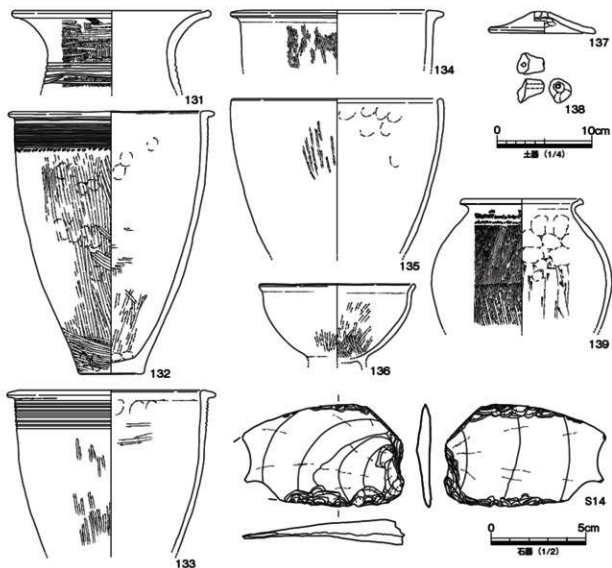
第56～58図はグリッドEの上層出土の遺物実測図である。172は縄文晩期の深鉢の小片である。173の壺は、口縁端部に刻み目を施し、口縁部内面にも刻み目突帯を巡らせている。174～177は壺、175、176は胴部最大径付近と頸部との境界の中間



第51図 SR02 中層 (グリッドA) 出土遺物実測図(2)



第52図 SR02 中層 出土物実測図

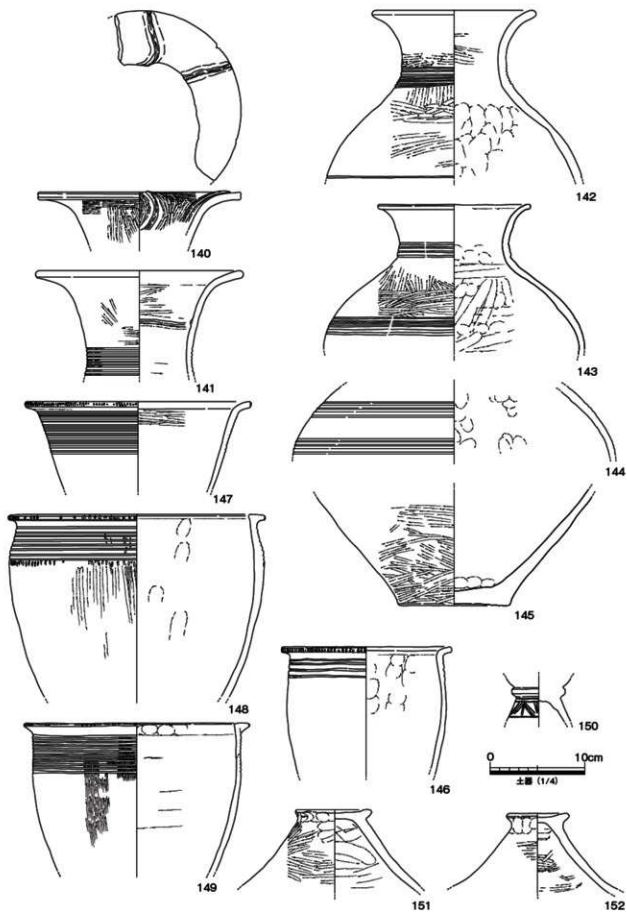


第53図 SR02 上層（グリッドG）出土遺物実測図

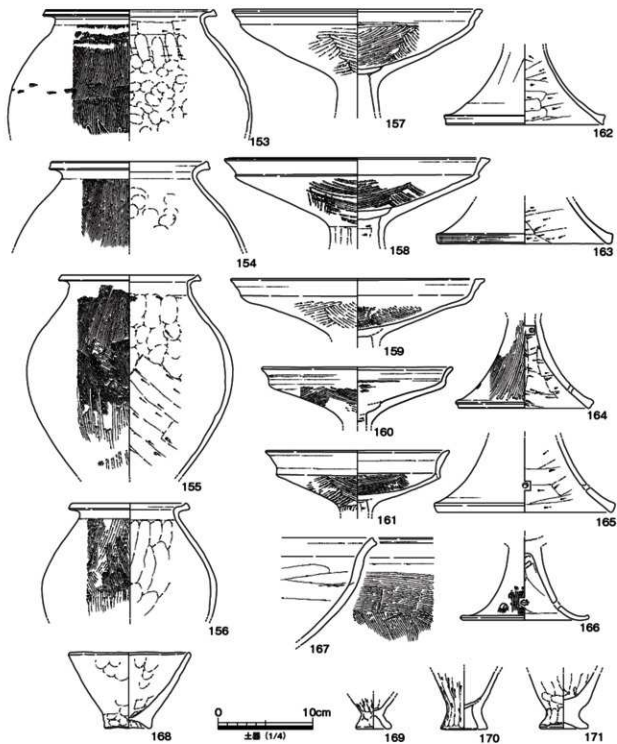
に数条のヘラ描き沈線を施す。175はさらに頸部に刻み目突帯とヘラ描き沈線を巡らす。177は胴部最大径付近に3条の貼り付け突帯を巡らせている。178～180は壺胴部の破片である。ヘラ描き沈線間に刺突文を巡らすもの（178）、ヘラ描き沈線と刻み目突帯を巡らせるもの（179、180）がある。181～187は甕である。181は如意状口縁で1条のヘラ描き沈線が巡る。186、187は下方に突出する逆L字状口縁で、端部に刻み目が施される。190、191は高杯、192は鉢としたが壺である可能性もある。

第57図は第55図掲載の土器と類似する様相を呈する。206の須恵器杯蓋は混入と考えられる。SR02上層には一定量の古墳時代以降の遺物が出土しているが、黒褐色粘質土層上に存在した遺構を的確に把握することは困難で、一定量の後代の遺物が混入することはやむをえないことと考える。

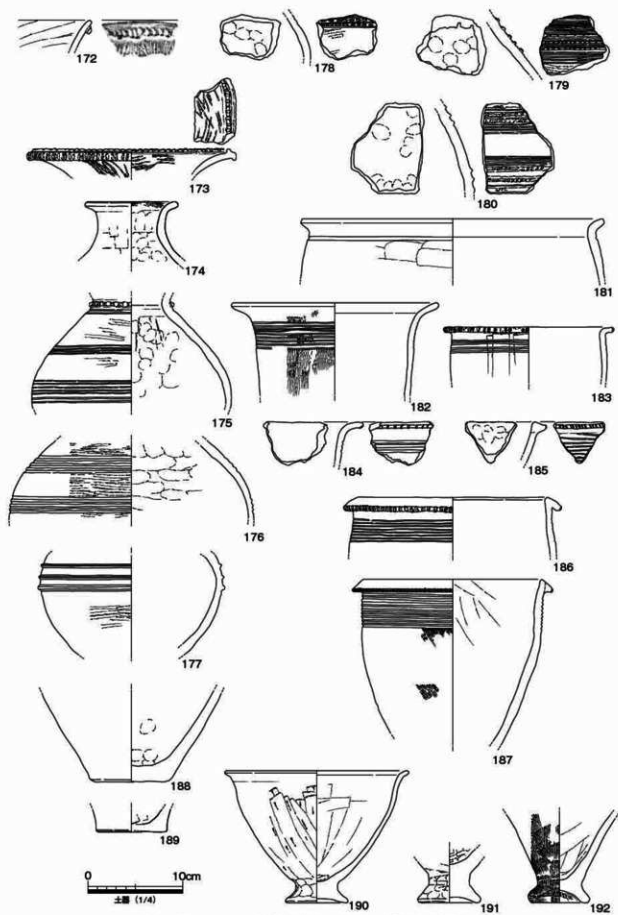
第58図S16はグリッドE上層出土の大型蛤刃石斧である。先端部を折損する。重さ1230gを測る大型品である。



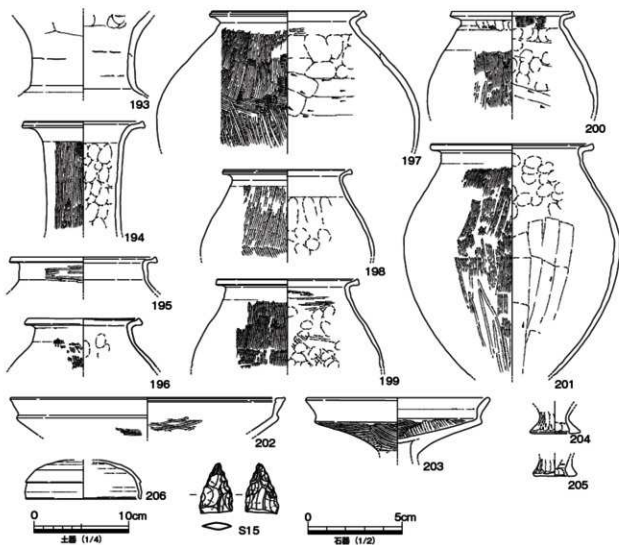
第54図 SR02 上層(グリッドF) 出土遺物実測図(1)



第55図 SR02 上層 (グリッドF) 出土遺物実測図(2)



第56図 SR02 上層(グリッドE) 出土遺物実測図(1)



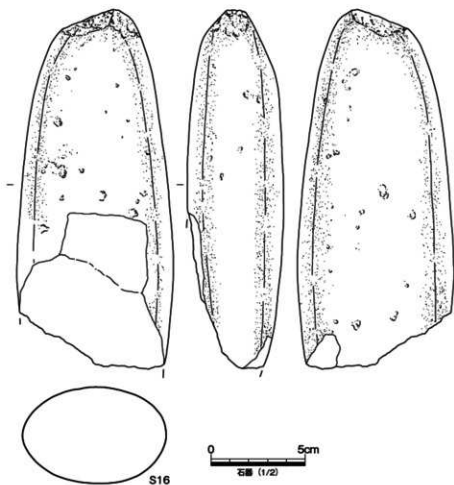
第57図 SRO2 上層 (グリッドE) 出土遺物実測図(2)

第59図はグリッドM上層出土の遺物実測図である。207は刻み目突帯を付す壺の破片、208は口縁部やや下に貼り付け突帯を付し、3条のヘラ描き沈線を巡らす甕、209は如意状口縁で3条のヘラ描き沈線を巡らす甕、210は逆L字状で口縁端部に刻み目を施す甕である。

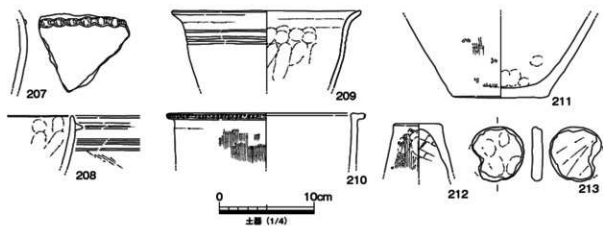
第60～62図及び第63図W8はグリッドD上層出土の遺物実測図である。214、215は縄文土器深鉢、216～222は弥生時代前期の壺である。220は外面に複数の円形浮文を付している。223～232は甕である。230は口縁端部に刻み目を施し、上面に竹管文を並べている。また、小孔が見られる。233の壺の底部には、底部外面に4条のヘラ描き沈線が巡っている。240、241は壺形土器、242～244は紡錘車である。

245～262は弥生時代後期に属すると考えられる。245の壺は口縁端部に2条の擬凹線文をもち、頸部外面はハケの後にヘラミガキによる平行する文様を施す。246は香東川下流域の胎土による長頸壺である。胴部下半はハケの後にヘラミガキされ、上半はハケ、頸部部の境界に1条の沈線を巡らし、その上にハケ原体による庄裏文を巡らせる。253～256は高杯、257は大型の鉢、258は脚台を持つ鉢である。263の高杯は杯部内面の紋目から土師器と考えられる。264の須恵器杯身と合わせて混入と考えられ





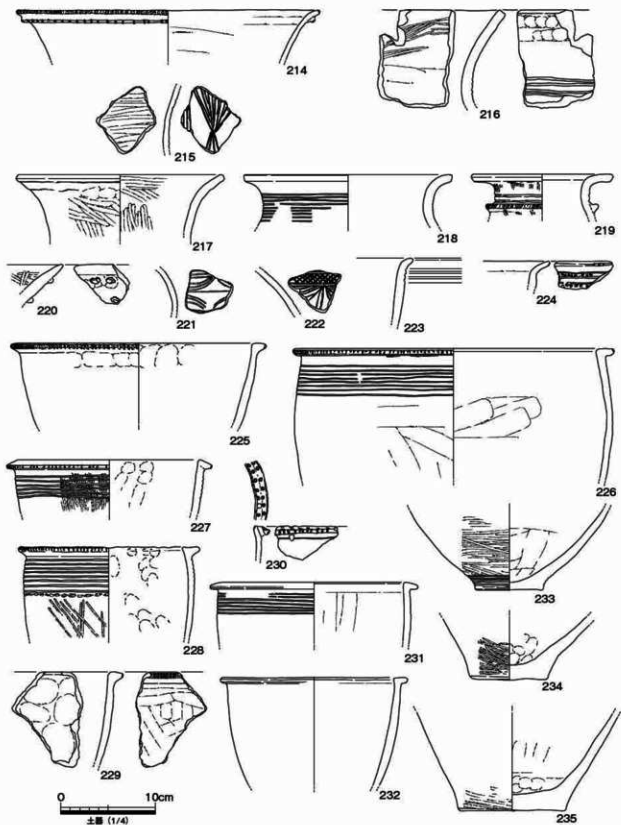
第58図 SR02 上層 (グリッドE) 出土遺物実測図(3)



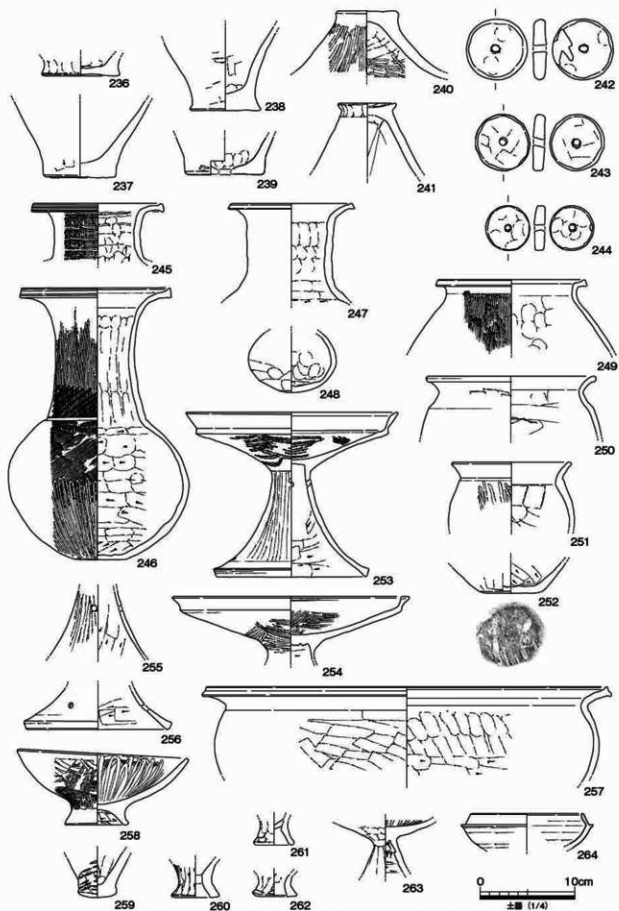
第59図 SR02 上層 (グリッドM) 出土遺物実測図

る。このほかサヌカイト製の打製石鏃 (S17)、打製石砲丁 (S18)、磨製石砲丁が出土している。

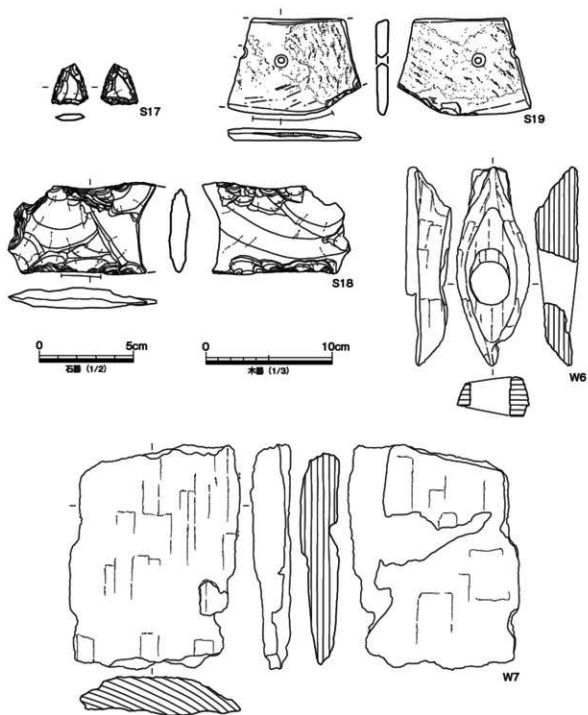
W6は鍬の舟形隆起の部分。W7は厚みのある板状の木製品。鍬の未成品の一部と考えられる。W8は曲柄広鍬。身幅は直線的で、下側の刃の部分は欠損する。



第60図 SR02 上層 (グリッドD) 出土遺物実測図(1)

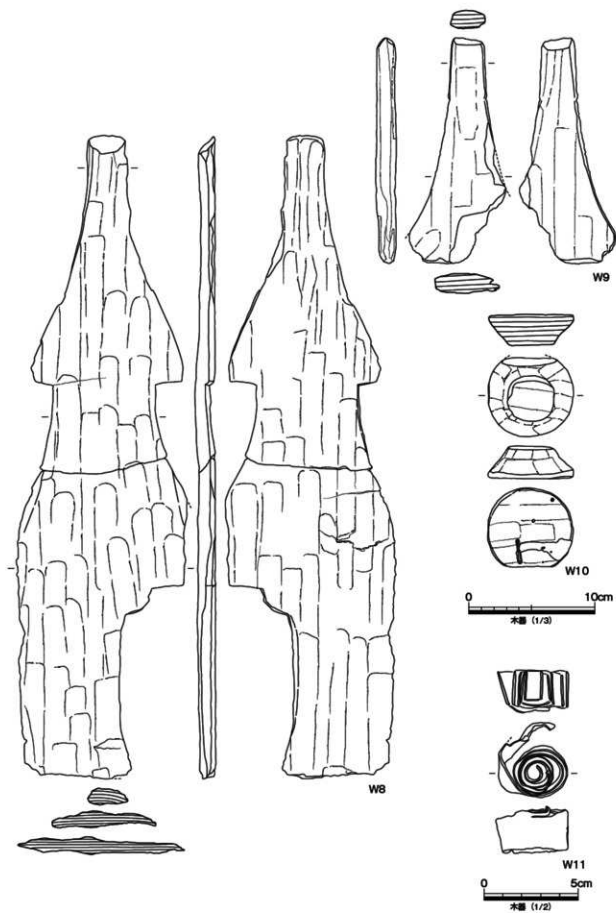


第61図 SRO2 上層(グリッドD) 出土遺物実測図(2)

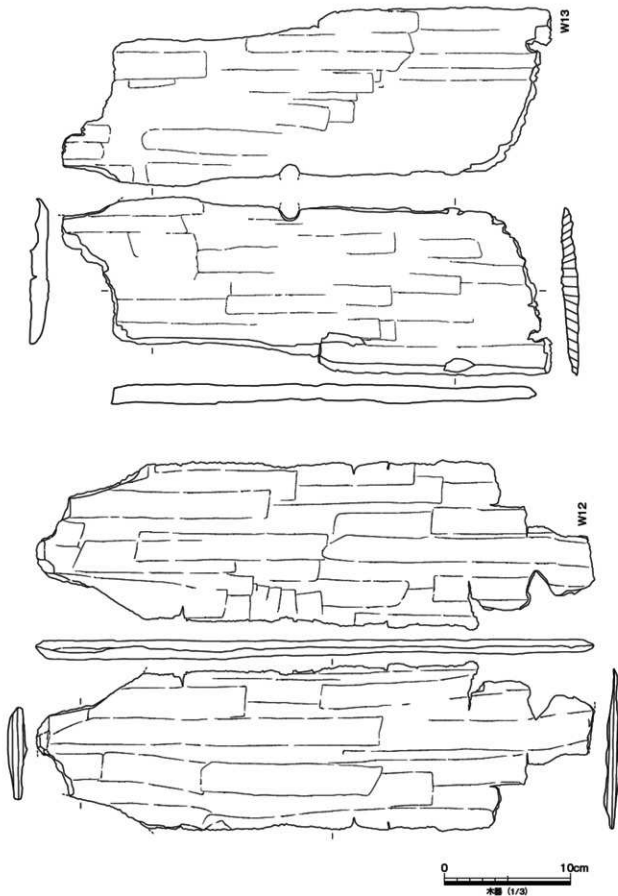


第62図 SR02 上層(グリッドD) 出土遺物実測図(3)

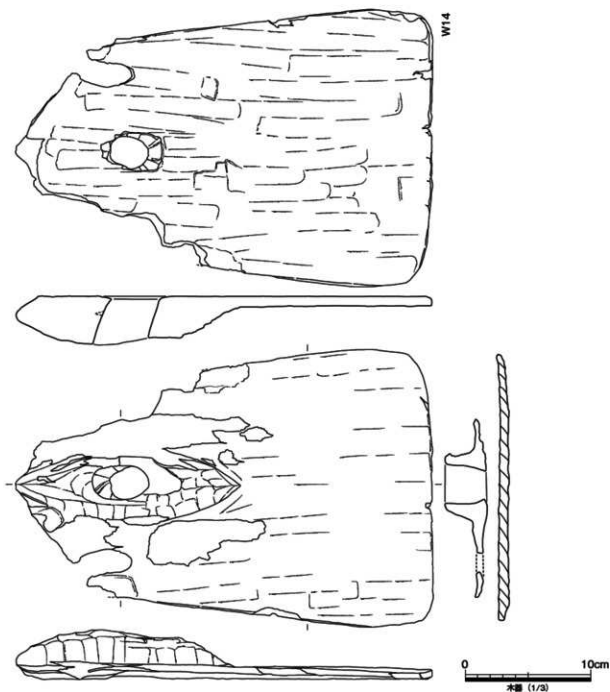
第63図(W9~11)~67図は、グリッドC上層出土の遺物実測図である。W9は曲柄広楾の柄の取り付け部分。W10は用途不明。円錐形の上部を切り離した形状で、上面、下面とも平らにする。W11は薄く木材を削った削りくず。W12は鋤または掘り棒と考えられる。W13は板状の木製品で、円形の穴が1ヶ所に残る。残存状態は良くないが、鋤の一部と考えられる。W14は広楾。刃が下側へ広がる形状。舟形隆起より右側と左側上部が欠損する。舟形隆起の左側には円孔が残る。



第63図 SR02 上層 (グリッドD・C) 出土遺物実測図

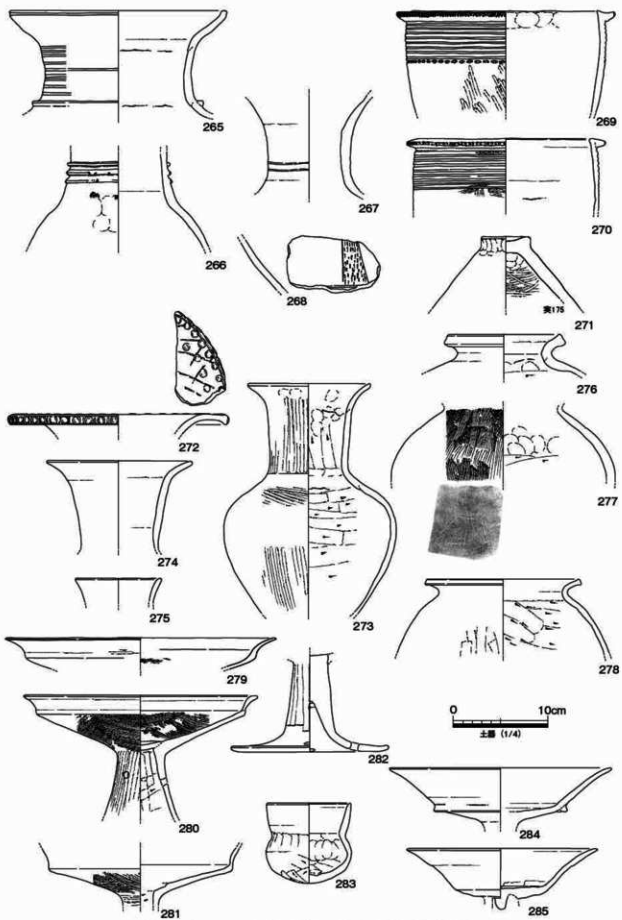


第64図 SR02 上層 (グリッドC) 出土遺物実測図(1)



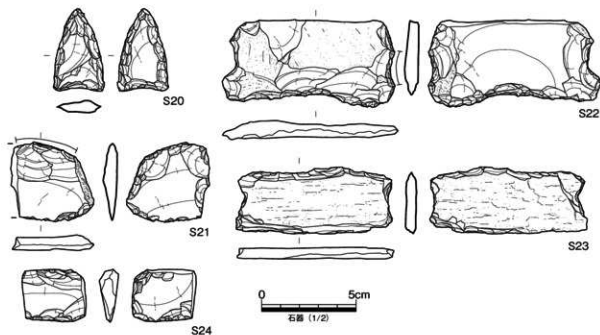
第65図 SR02 上層(グリッドC) 出土遺物実測図(2)

265は直立する頸部から内湾する口縁部をもつ壺で、頸胴部の境界に貼り付け突帯、頸部に9条のヘラ描き沈線を巡らす。266は頸部に3条の貼り付け突帯、267は3条のヘラ描き沈線を巡らす。268は壺の肩部の破片と見られ、沈線で区画した内側に縦方向の列点を多数施している。269、270の甕は逆L字状口縁で、口縁端面に刻み目を施し8、9条のヘラ描き沈線を巡らす。また、269はその下に刺突文を巡らしている。272の壺は口縁端部に円形浮文と刻み目を交互に配し、口縁内面に斜格子文と2列の円形浮文を巡らす。弥生時代Ⅲ様式の壺である。277は肩部にヘラによる記号文が認められる。279



第66図 SR02 上層(グリッドC) 出土遺物実測図(3)





第67図 SR02 上層（グリッドC）出土遺物実測図（4）

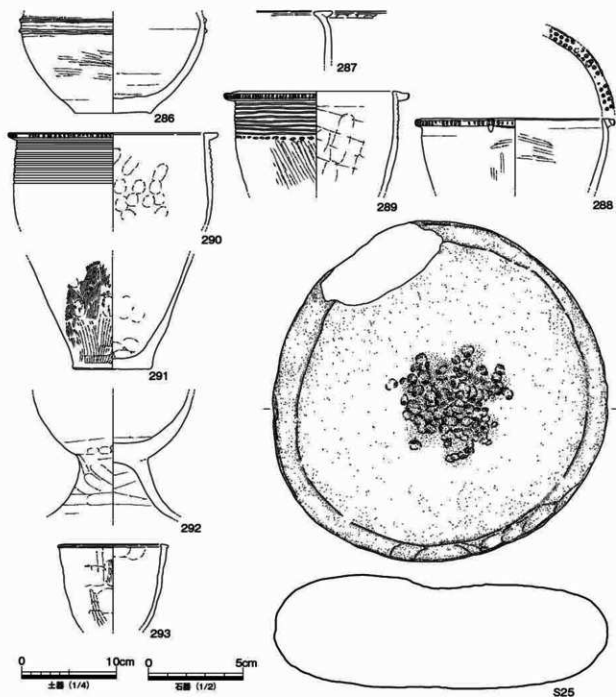
～282は高杯。279～281は「ハ」字状の脚部を持つと思われるが、282のように直立気味の脚から水平方向に開き脚端部を作るタイプと共存するようで、第55図164、165と166との間でも見られる。283～285は古墳時代の土師器であり混入と考えられる。

S20は大型の石鏃、S21はスクレイパーである。S22は両面に自然面ののこる打製石庖丁、S23は緑泥片岩製で、両側縁に抉りを入れた打製石庖丁、S24は楔形石器である。

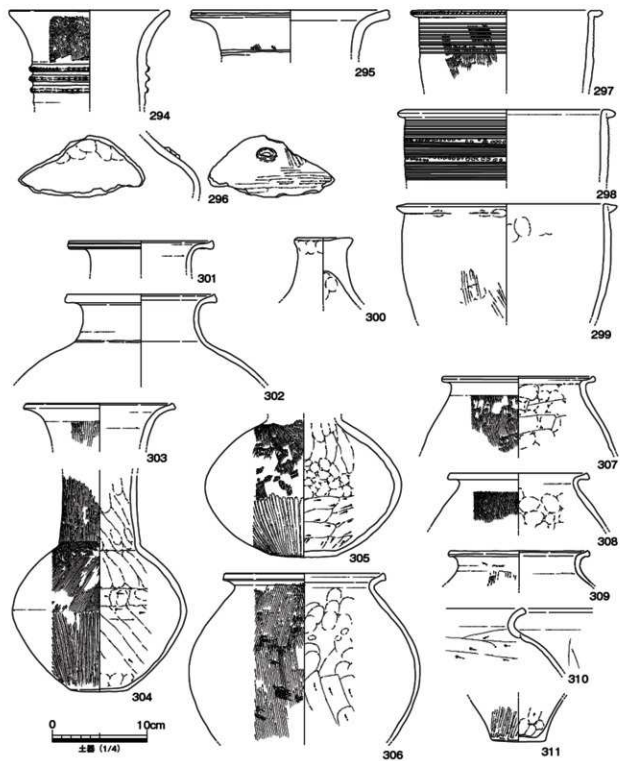
第68図はグリッドKの上層出土の遺物実測図である。286は胴部最大径付近に2条以上の貼り付け突帯を付す壺、287～291は甕である。288は口縁部上面に竹管文を巡らし、2孔を一对とすると考えられる小孔がある。292は高杯、293は鉢である。S25はやや扁平な砂岩円礫で、一面の中央部に敲打痕のこる凹石である。

第69、70図はグリッドJ・Bの上層出土の遺物実測図である。294～300は弥生時代前期の土器である。294～296は壺で、296は肩部に輪状の円形浮文を付している。297～299は甕、298は20条を越えるヘラ描き沈線と列点文を巡らす。301～324は弥生時代後期前半の土器である。301～305は壺、304、305の胴部外面上半はハケ、下半はヘラミガキ、内面下半はヘラ削りである。丸底化が認められるが、まだ明瞭な平底である。306～311は甕、312～319は高杯、320～322は鉢、323、324は製塩土器である。S27は扁平な砂岩円礫の凹石である。両面に敲打痕が認められる。S26は刃部を折損した打製石斧と考える。

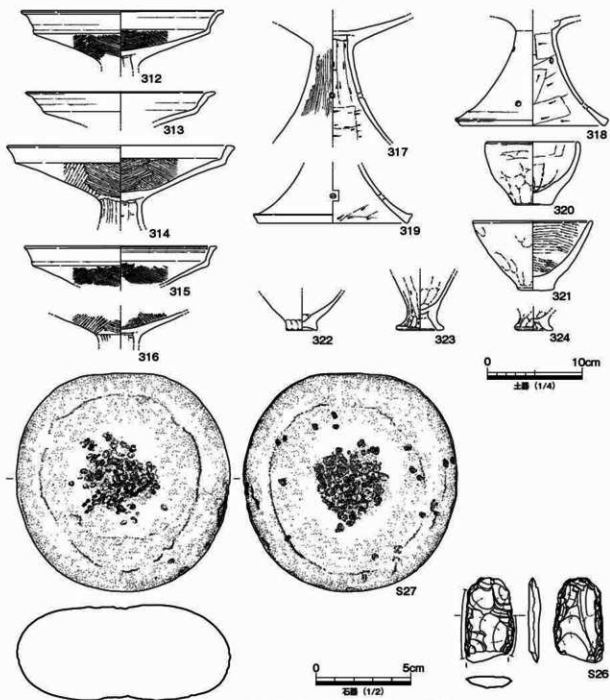
第71、72図はグリッドA・I・Tの上層出土の遺物実測図である。325は壺の胴部の破片と思われるが、縞描きにより波状文や直線文が施されている。326は大型の壺底部である。328～344は弥生時代後期前半の土器である。328～331は壺、331は円盤状の底部をもつ。332～337は甕とした。333は胴部最大径付近で屈曲し、外反気味に立ち上がる形態である。334は指押えが明瞭のこる粗製のもの。香東川下流域の胎土で作られる。338～342は高杯である。338～340は完形に近い状態で出土している。



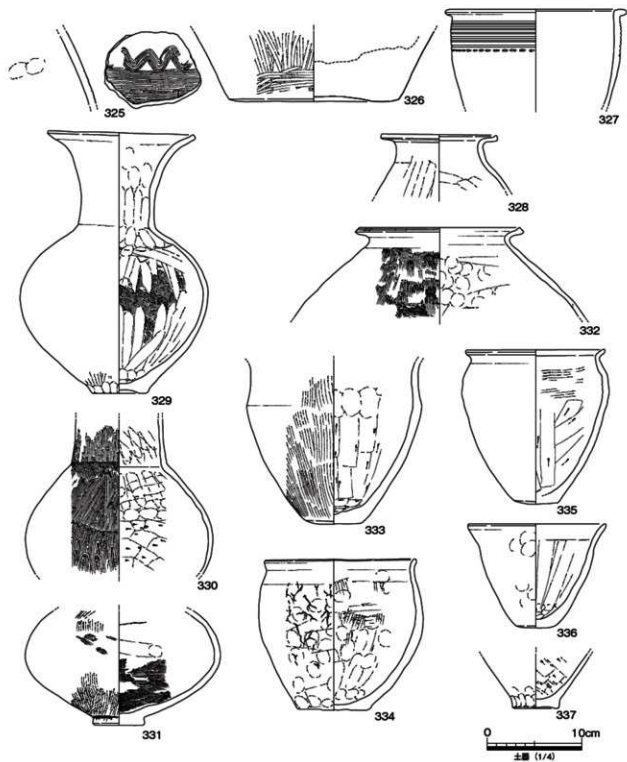
第 68 図 SR02 上層 (グリッド K) 出土遺物実測図



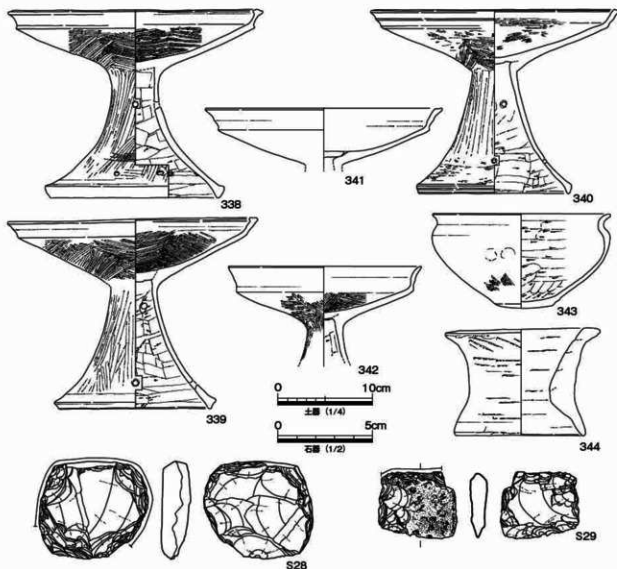
第69図 SR02 上層 (グリッドJ・B) 出土遺物実測図(1)



第70図 SR02 上層 (グリッドJ・B) 出土遺物実測図(2)



第71図 SR02 上層 (グリッドA・I・T) 出土遺物実測図(1)

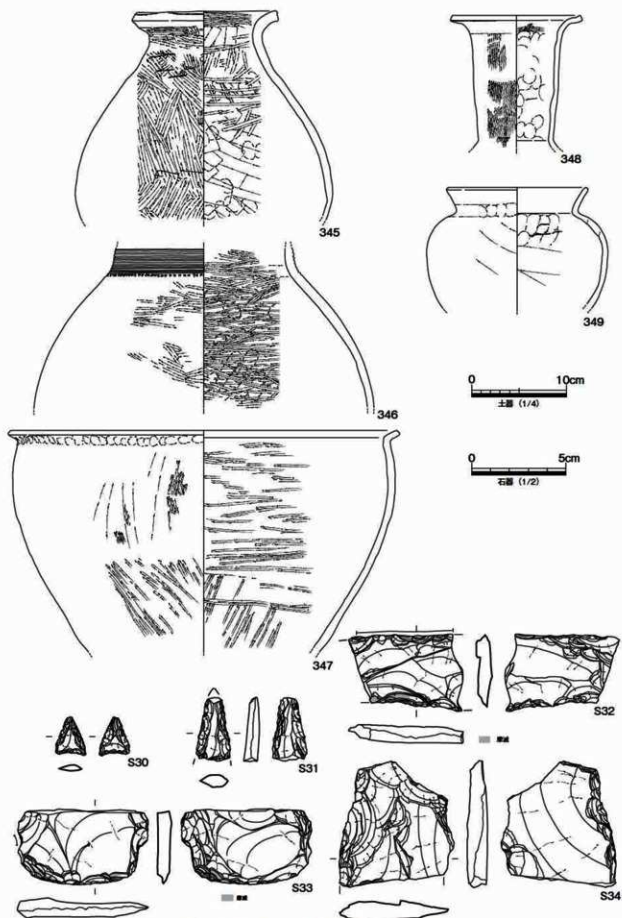


第72図 SR02 上層(グリッドA・I・T)出土遺物実測図(2)

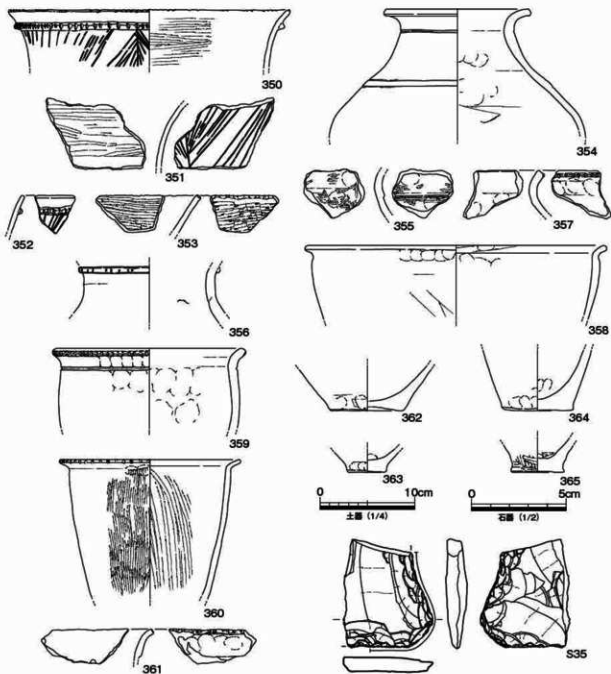
いずれも香東川下流域の胎土で製作されている。343は内面をヘラ削りした鉢、344は肉厚で粗雑なつくりの器台である。S28、S29は楔形石器。上辺に敲打による潰れ、下辺に微細な階段状剥離が見られる。

第73図は、SR02上層(平成9年度調査分)出土で、出土グリッドが不明な遺物実測図である。345～347は弥生時代前期の土器である。345、346の壺は内外面がヘラミガキされ、346は頸部に9条以上のヘラ描き沈線と刺突文が巡る。347も内外面をヘラミガキした甕である。348は弥生時代後期の長頸壺、349は土師器甕である。S30、S31は打製石鏃、S32はスクレイパーである。背面に刃潰れ、刃部に摩滅が見られる。S33は両側縁に抉りが見られることから打製石庖丁とした。折損した打製石斧刃部を再利用した可能性がある。S34は形状から打製石斧の基部とした。

第74図は平成10年度調査のSR02上層出土の遺物実測図である。古い様相をもつ土器が多い。350～353は縄文時代晩期と考えられるものである。350の深鉢は口縁端部の上面に刻み目を持ち、端部のやや下に刻み目突帯を巡らす。さらに頸部に斜行線を中心とするヘラ描き沈線文がある。351も深鉢頸



第73図 SR02 上層 出土遺物実測図(1)

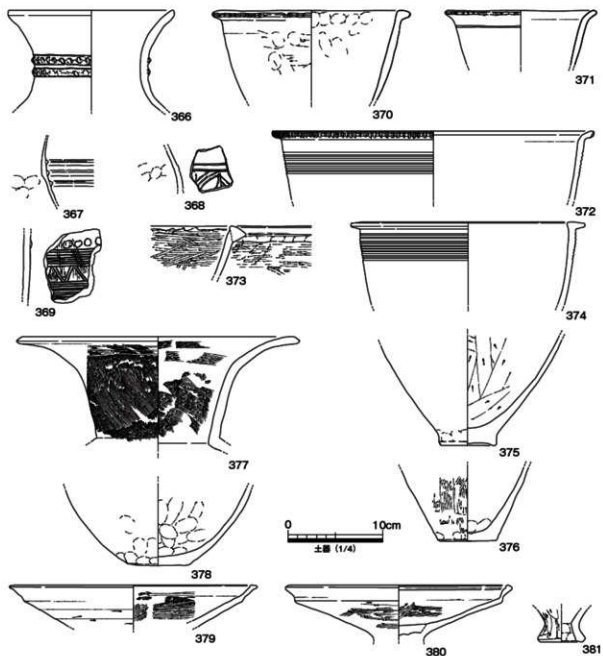


第74図 SR02 上層 出土遺物実測図(2)

部と考えられ、斜線によるヘラ描き沈線文がある。353は口縁端部に押捺による刻み目をもつ浅鉢である。内面はヘラミガキ、外面には貝殻条痕が認められる。354～356は壺。355は肩部の破片と見られ、有段である。357～361は甕。いずれも如意状口縁で361は有段のものである。S35は打製石斧の刃部と片側縁部の破片である。

第75、76図は、平成9年度調査分のSR02出土の遺物のうち、トレンチ調査等による検出のため、出土層位および出土グリッドが不明の土器の実測図である。377の広口壺が弥生時代後期後半のもので異質な以外は、このほかのSR02出土遺物の様相と同じである。S37は結晶片岩製の打製石廬丁、S38

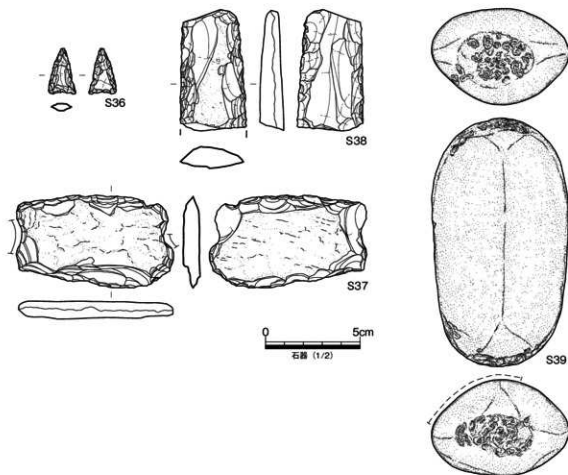




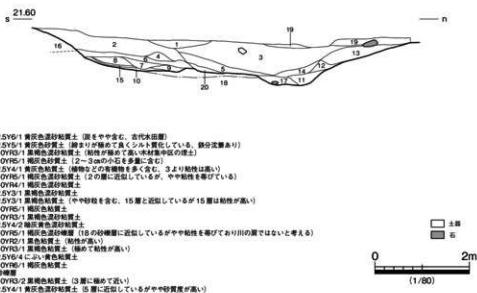
第75図 SR02 出土層位・グリッド不明 出土遺物実測図(1)

は幅狭であるが打製石斧の基部と考える。S39は握りやすい大きさの砂岩壱円碑で、短側辺の両側に敲打痕の見られる敲石である。

以上が、SR02から出土した遺物である。中層においても上層においても、縄文時代晩期末から弥生時代前期前葉、弥生時代前期中葉、弥生時代後期前葉を主体とする遺物が、グリッドによってやや粗密を見せながら混在している。これらには顕著な摩滅は見られず、ある時期の遺物が埋没（堆積）して後に、次の時期の河道が流下して遺物が埋没した結果、混在しているというよりも、堆積物の供給が止まり、長く凹地となっていた場所に遺物が堆積した結果、異なる時期の遺物が混在するようになったと理解する方が実態に近いと考える。

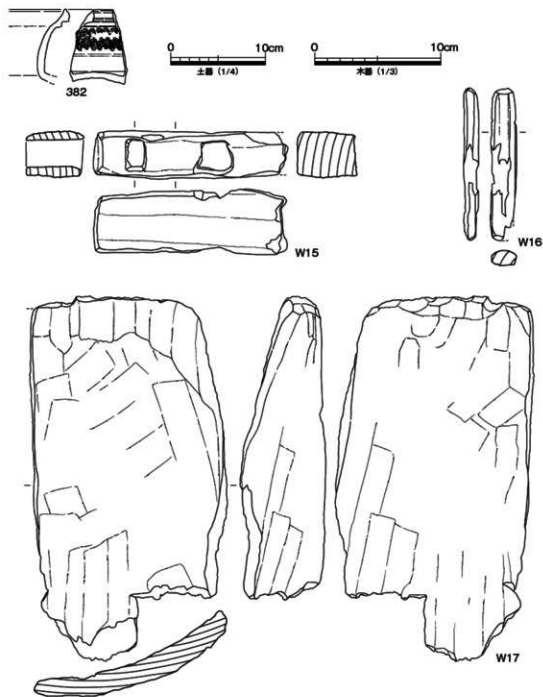


第76図 SR02 出土層位・グリッド不明 出土遺物実測図(2)



- 1 2.5V6/1 黄灰色泥砂粘質土 (泥をやや含む, 古代木田層)
- 2 2.5V5/1 黄灰色粘質土 (跡まわりが極めて良くシルト質化している, 鉄分沈澱あり)
- 3 10YR3/1 黒褐色泥砂粘質土 (粘性が極めて高い河川中流部の礫土)
- 4 10YR5/1 黄灰色砂質土 (2-3cmの小石を多数に含む)
- 5 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (植物などの有機物を多く含む, 3より粘性が高い)
- 6 10YR6/1 黄褐色泥砂粘質土 (2の層に近接しているが, やや粘性を帯びている)
- 7 10YR4/1 黄褐色泥砂粘質土
- 8 2.5V3/1 黒褐色泥砂粘質土
- 9 2.5V3/1 黒褐色粘質土 (やや砂粒を含む, 15層と近接しているが15層は粘性が高い)
- 10 10YR5/1 黄褐色粘質土
- 11 10YR3/1 黒褐色泥砂粘質土
- 12 2.5Y4/2 暗褐色泥砂粘質土
- 13 10YR5/1 黄褐色泥砂粘質土 (Bの砂礫層に近接しているがやや粘性を帯びており川の層ではないと考え)
- 14 10YR2/1 黒色粘質土 (粘性が高い)
- 15 10YR3/1 黒褐色粘質土 (極めて粘性が高い)
- 16 2.5Y6/4 黄褐色粘質土
- 17 10YR6/1 黄褐色粘質土
- 18 砂礫層
- 19 10YR3/2 黒褐色粘質土 (3層に極めて近い)
- 20 2.5Y4/1 黄灰色泥砂粘質土 (5層に近接しているがやや砂質度が高い)

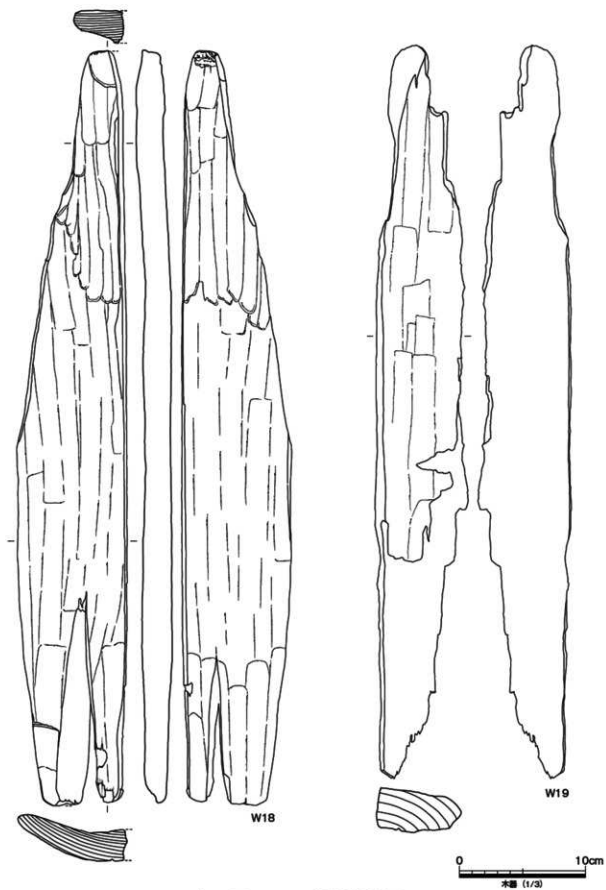
第77図 SR03 断面図



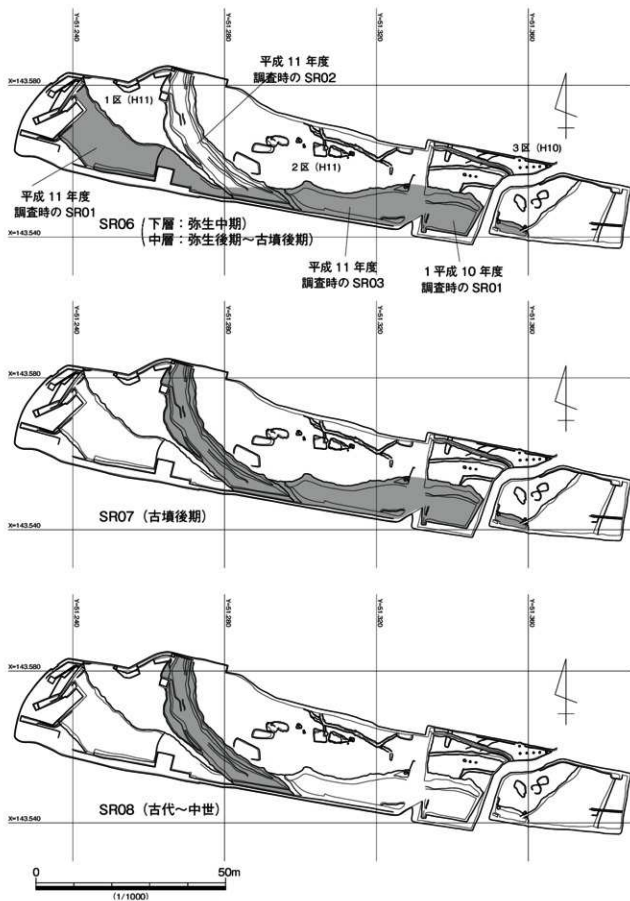
第78図 SR03 出土遺物実測図(1)

## SR03 (第77～79図)

2区(H9)を南西-北東方向に横切る旧河道である。SR02上層と切り合い関係があり、SR02上層よりも新しい。幅約8.5m、深さ約0.9mの規模で、断面形は浅い皿状を呈する。出土遺物は僅少で、28リットル入りコンテナ8分の1ほどの量である。なお、数点の木製品が出土している。第78図382はSR03出土の須恵器甕である。SR03の埋没後に掘削されたSD1205の年代が6世紀初頭から7世紀前半と考えられていることから、SR03の年代を示すものではない。このほかにSR03出土の遺物で年代が決められる遺物はなく、SR02上層埋没以降、SD1205掘削以前という年代が押えられるにすぎない。



第 79 図 SR03 出土遺物実測図 (2)

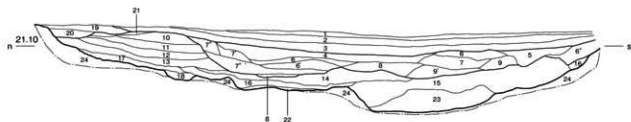


第80図 SR06～SR08 変遷図

平成 10 年度調査      平成 11 年度調査      平成 11 年度調査      平成 11 年度調査

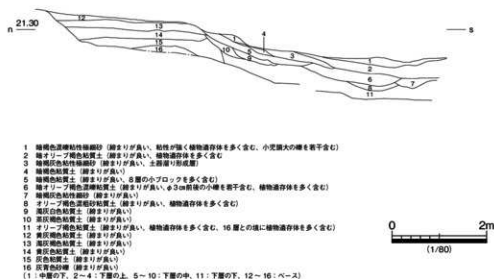
	SR01	SR03	SR01	SR02	
	Ⅵ層	下層下段	下層		SR06 下層
	Ⅴ層	下層中段			
	Ⅳ層				
	Ⅲ層	下層上段 中層下段	中層		SR06 中層
	Ⅱ層	中層		下層	SR07
	Ⅰ層	中層上段 上層下段		中層	
			(上層)	上層	SR08

第 81 図 SR06～SR08 の分類図



- 1 7SVR5-6 暗褐色粘質土 (こぶし大の礫をまばらに含む)  
 2 7SPR-1 暗赤色粘質土 (こぶし大の礫をまばらに含む)  
 3 7SPR2-1 暗赤色粘質土 (こぶし大の礫をまばらに含む)  
 4 N2/黒色粘土 (φ 2cm-拳大の礫をまばらに含む)  
 5 2SGY2/1 黒色泥砂ブロック粘質土  
 6 10V3-2 オリーブ黒色泥砂粘質土 (φ 0.5cm-粒径最大の礫を散ら含む)  
 6' 7SGY2/1 緑黄色泥砂粘質土 (φ 0.1～1cm 粗砂を散ら含む拳大の礫をまばらに含む)  
 6'' N1.5/黒色泥砂粘質土 (φ 1～4cm の礫を比較的多く含む)  
 7 2SGY2/1 黒色泥砂ブロック粘土 (φ 2cm-拳大の礫をまばらに含む)  
 7' N1.5/黒色粘土 (φ 2cm 程度の礫をまばらに含む)  
 7'' N2/黒色粘土 (断面に砂ブロックが多い、小礫をこくまばらに含む)  
 ア N2/暗赤色粘質土  
 8 5GV2/1 オリーブ黒色泥砂ブロックシルト  
 9 10GV2/1 緑黄色泥砂粘質土  
 9' 10GV2/1 緑黄色泥砂粘質土  
 10 10VR4-3 濃い黄褐色粘質土 (φ 1～5cm の礫をまばらに含む)  
 11 10VR4-4 暗褐色粘質土 (φ 1～3cm の礫をまばらに含む)  
 12 10VR4/1 暗褐色粘質土 (φ 1～2cm の礫をまばらに含む)  
 13 10VR7/1 灰白色粘質土 (φ 1cm-拳大の礫をまばらに含む)  
 14 5V3/1 オリーブ黒色泥砂粘質土 (深み4cm、多く含む、ラミナ状)  
 15 5V3/1 オリーブ黒色泥砂粘質土 (17に似るが礫、人涙大の礫を多く含む)  
 16 7SV2/1 黒色泥砂ブロック粘質土 (木製品出土)  
 17 7SV2/2 オリーブ黒色泥砂粘質土  
 18 粘質土  
 19 7SVR5-6 暗褐色粘質土  
 20 7SVR3-2 黄褐色粘質土  
 21 7SVR4/4 暗褐色粘質土  
 22 10V2/1 黒色泥砂粘質土  
 23 N1.5/黒色泥砂ブロック粘土 (まじり状礫を多く含む)  
 24 2SV4/1 黄褐色砂 (ベース)

第 82 図 SR06・SR07 断面図(1)



第83図 SR06・SR07 断面図(2)

W15、W16は近接して出土した。W15は田下駄に類似する。方形の孔が2孔残る。孔の間隔は4.5cm程度である。W16は摩耗しているものの方柱の形状。長さ12cm程度残る。方柱の断面の大きさと孔の大きさは概ね一致し、W16はW15の孔に挿入されたものと考えられる。W17は直方体の材の内部を削り、外面を削り出す。容器の一部と考えられる。W18は櫛か。柄部分と身の半分は欠損すると思われる。身部分は緩く匙状に湾曲する。W19はミカン割材製作時に生じた端材と考えられる。W5と比べて幅はやや広いが長さはほぼ同じである。

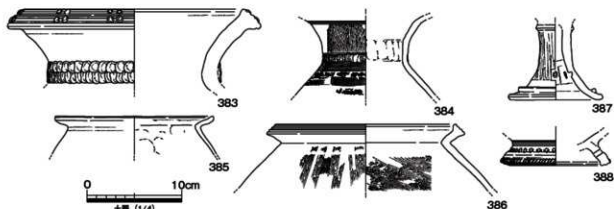
#### SR04、05 (第39図)

3区(H10)のSR04は後述するSR06、07を切って北東方向に流れる旧河道である。幅20m以上、深さ0.6m以上で暗灰色系砂礫層を主とするが、遺物は極めて少くトレンチ調査にとどめた。須恵器細片1点が出土し、SR06、07及びその上位の中世包含層との関係から古代の河道と推定される。3区(H10)のSR05はSR04の西肩部を開削し、兩岸を石垣で護岸する旧河道である。石垣推定線は現在の畦畔とほぼ一致し、北に先細りする傾向を示している。上流側に出水状施設が存在するものと考えている。石垣裏込めより陶器片が出土しており、近世の構築と考えられる。なお、両者についての写真、図面は残されていないため、本稿は概要報告の記述を転載した。

#### SR06～08 (第80～83図)

平成11年度調査においては、SR01～03の3条の旧河道が調査されているが、概要報告の段階では、SR01とSR03を連続するものとし、2条の旧河道として報告している。3条の旧河道については、各々の切り合い関係を確認するトレンチが入っているが、この点を検討する情報が不十分であり、平成10年度調査のSR01との接続関係もよくわからない。このため、層によって取り上げられた遺物の年代観を比較検討し流路の復原を行った。

この結果、平成10年度調査では巨視的にSR01のⅢ層、平成11年度調査ではSR03中層下段(下段というのは、中層の中で下に位置する層という意味)に弥生時代後期の遺物が包含され、この下層で



第84図 SR06 下層 出土遺物実測図(1)

は弥生時代中期の遺物、上層では古墳時代の遺物を中心とすると把握できた。平成11年度調査のSR01においても、出土量は激減しているが、中層に弥生時代後期の遺物が含まれ、下層で弥生時代中期の遺物が含まれる関係が見られる。このため、平成10年度調査のSR01のⅢ層以下は、平成11年度SR03の中層下段以下、平成11年度SR01の中層以下に連続するものと理解した。さらに、古墳時代の遺物は、平成10年度SR01のⅠ、Ⅱ層、平成11年度SR03の中層上段以上、平成11年度SR02の中層以下に見られ、平成11年度SR02上層で出土する古代以降の土器は、平成11年度SR01上層で若干量見られる以外は見られない。このことから、平成11年度調査区の旧河道は、時期の異なる流路が複雑に重なっていると理解される。これらを整理したのが第81図である。調査区で言えば、SR06は3区(H10)、2区(H11)、1区(H11)を、SR07は3区(H10)、2区(H11)をまたがり、SR08は2区(H11)となっている。なお、本報告においては、整理によって把握した河道を項目立てし、調査年度および調査時の層認識による出土遺物毎に細分して報告する。

#### SR06 下層 (第84～94図)

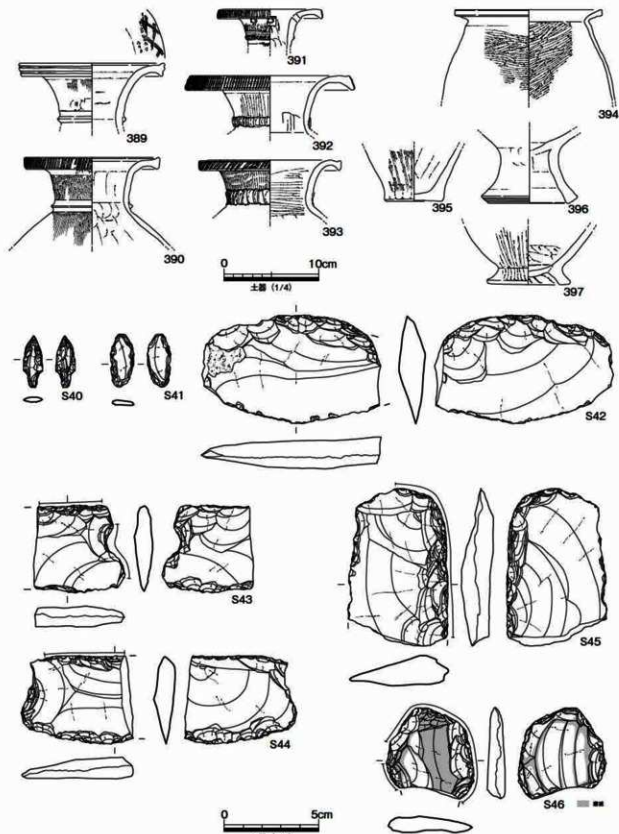
平成10年度調査SR01のⅣ～Ⅵ層、平成11年度調査SR03の下層下段と中段、SR01の下層が該当する。

第84図は平成10年度にSR01として調査され、Ⅵ層から出土した土器実測図である。本報告ではⅣ～Ⅵ層をSR06下層として報告する。SR06の南層は調査区外となるため、規模は不明であるが、最大幅11mを測る。

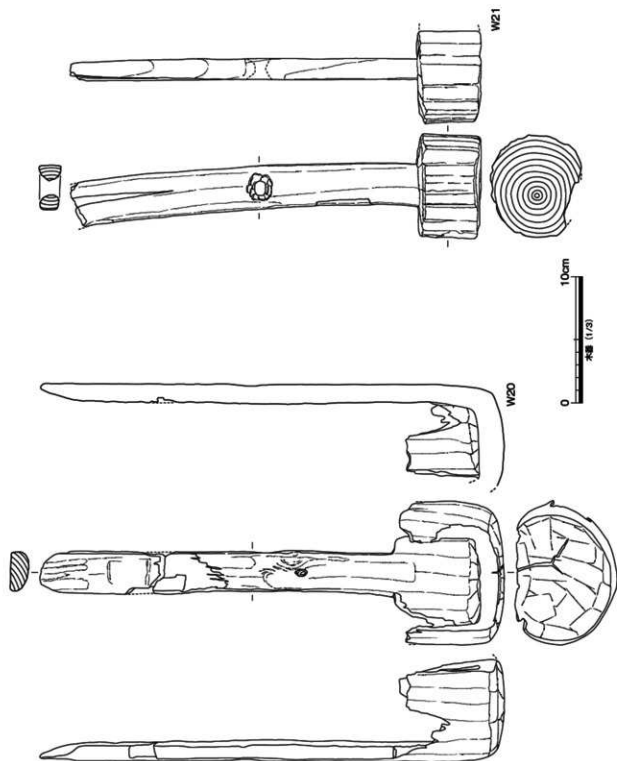
383は「く」の字状に屈曲し短く外反する口縁の壺である。端部を拡張し4条の凹線文と4個を一組とする円形浮文を付す。口縁部と胴部の境界に2条の押捺突帯文が見られる。384の壺は頸部と胴部の境界に押捺突帯文、以下に掛指きの直線文、波状文が見られる。385は「く」の字に外反する口縁で無文の壺、386は「く」の字状に外反する口縁の端部を拡張し凹線文を施すものである。387は高杯の脚部。筒状の脚部から「ハ」字状に開く脚端部で、貼り付け突帯で加飾している。388は鉢とした。外方向に開く脚台との境界に3条の沈線を巡らし、以下に列状に孔を穿つ。脚端には刻み目が見られる。なお、孔は貫通するものとししないものがある。

第85、86図は平成10年度調査のSR01のⅤ層として取り上げられた遺物実測図である。389～393は壺。389は口縁端面に2条の凹線文、口縁内面に斜格子文と列点文、頸部に断面三角形の貼り付け突帯が見られる。390は口縁端部に掛歯文、頸胴部の境界に断面三角形の突帯を付す。391も端部に掛歯文、頸



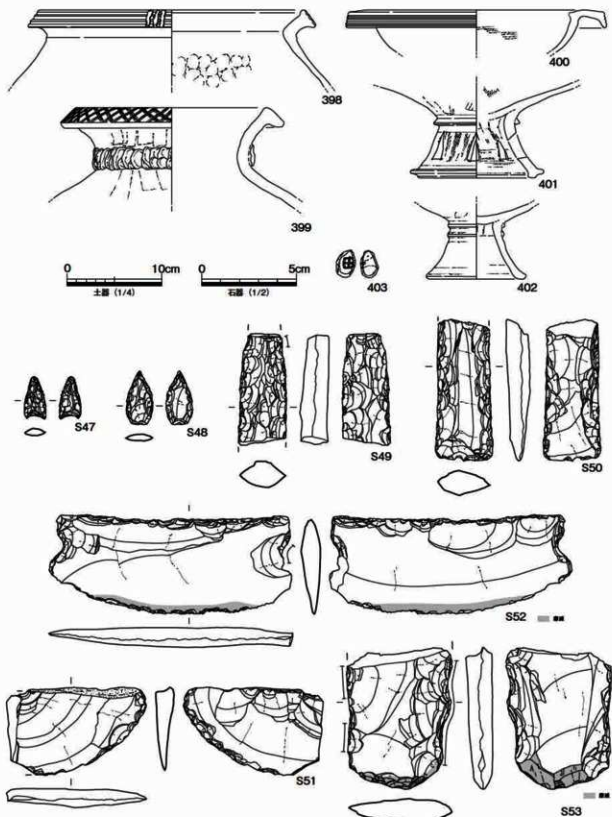


第85図 SR06 下層 出土遺物実測図(2)

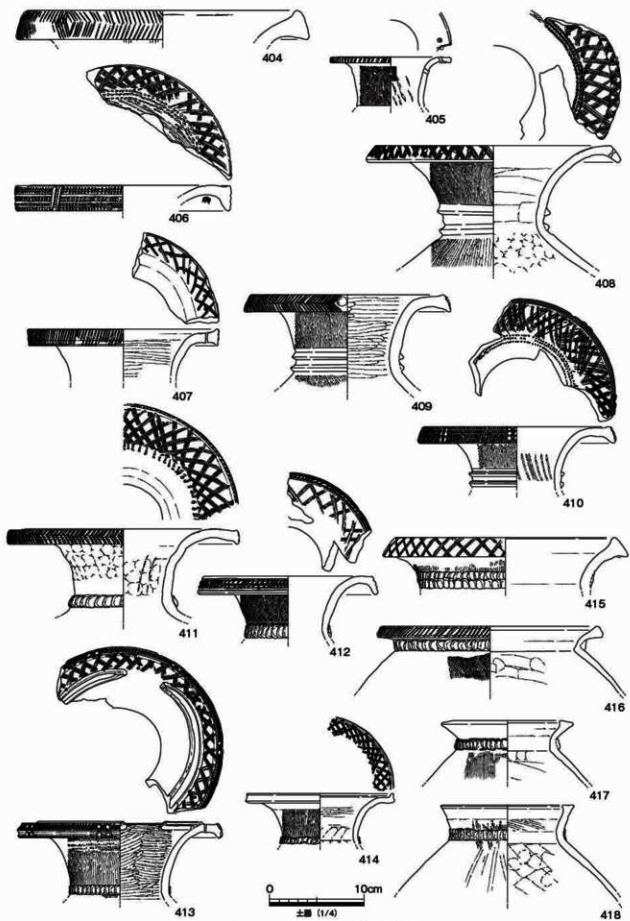


第 86 図 SRO6 下層 出土遺物実測図 (3)

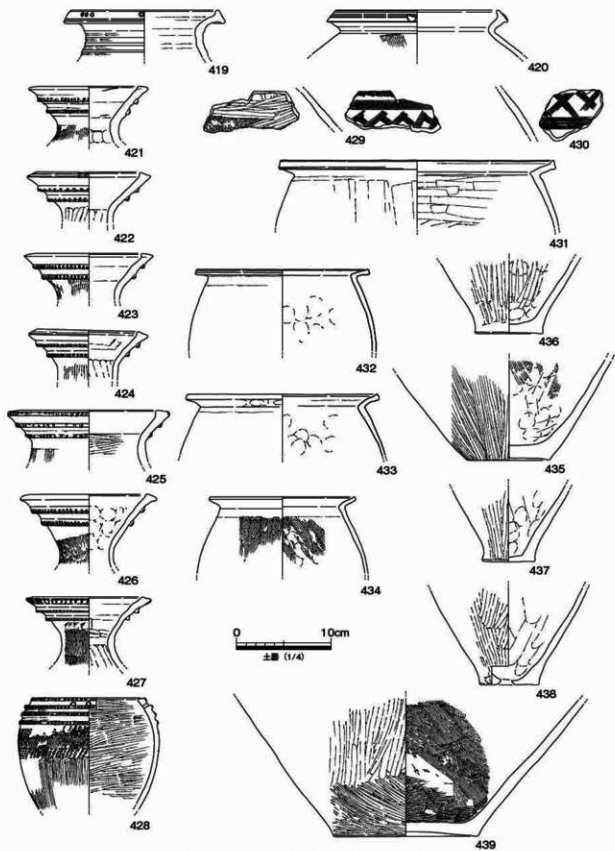
部に刻み目突帯を付し、口縁と頸部の移行部に 2 個一組の穿孔をもつ。392、393 は拡張した口縁端部に凹線文を施した後に櫛歯文を施し、頸部部境に押捺突帯文を付す。394 は「く」字状に短く外反する口縁の無文の筧、396 は高杯脚部である。396 は脚端部に 2 条の凹線文が見られる。S42 はスクレイパーである。剥片を簡単に調整して刃部を作っている。S43、S44 は打製石庵丁、S45、S46 は打製石斧の基



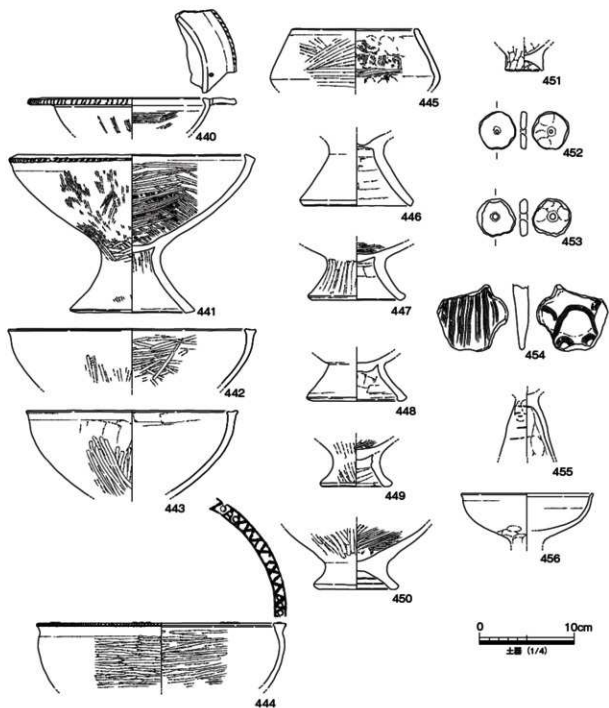
第87図 SR06 下層 出土遺物実測図(4)



第 88 图 SR06 下層 出土遺物実測図(5)



第89図 SR06 下層 出土遺物実測図(6)

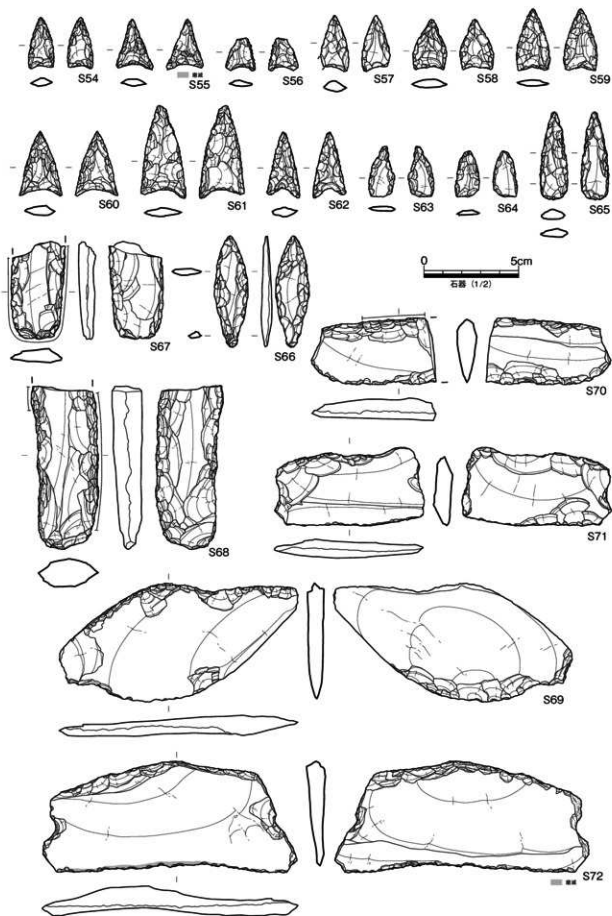


第90図 SR06 下層 出土遺物実測図(7)

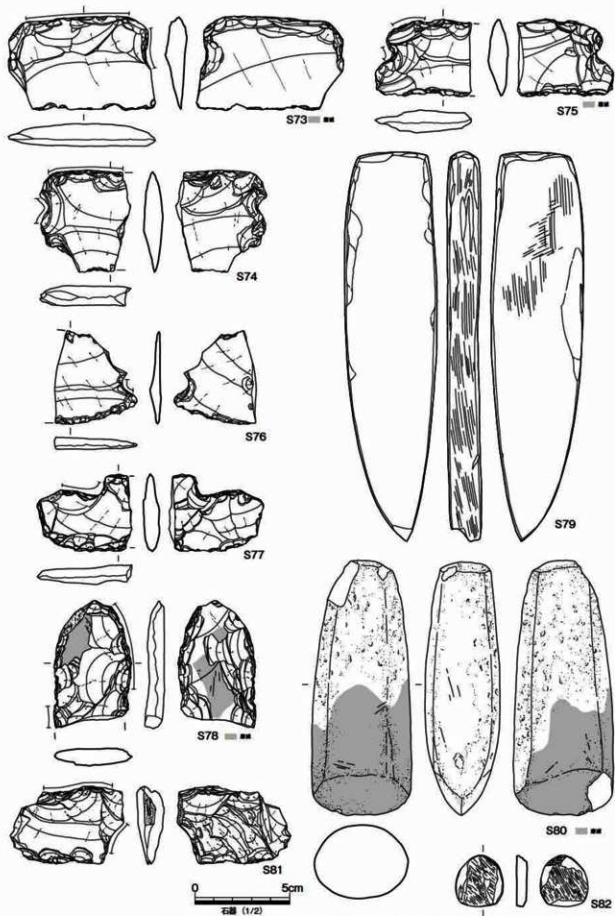
部の破片である。S46は広範囲に摩滅が見られる。なお、概要報告では本層から組紐の出土を報告しているが、整理調査時には腐朽し原形を留めていなかったため報告できない。

W20は縦杓子。W21は円柱状の身の中央に柄を削り出す。1本の木材で作り出す。柄の中央付近の孔が残る。用途不明。

第87図は平成10年度調査のSR01のIV層として取り上げられた遺物実測図である。398は「く」字状に短く外反し、拡張した端部に3条の凹線文と棒状浮文を付した壺である。399は口縁端部を下方に

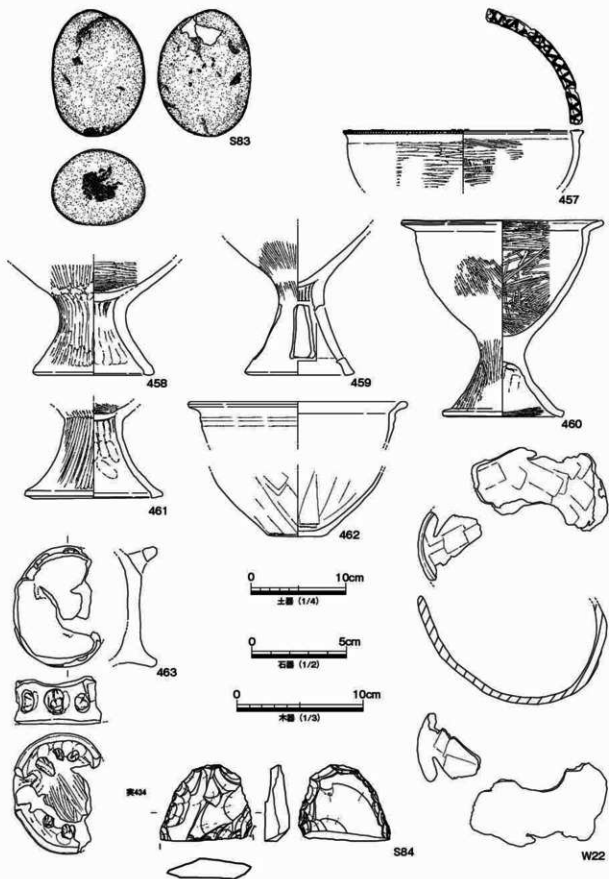


第91図 SR06 下層 出土物実測図(8)

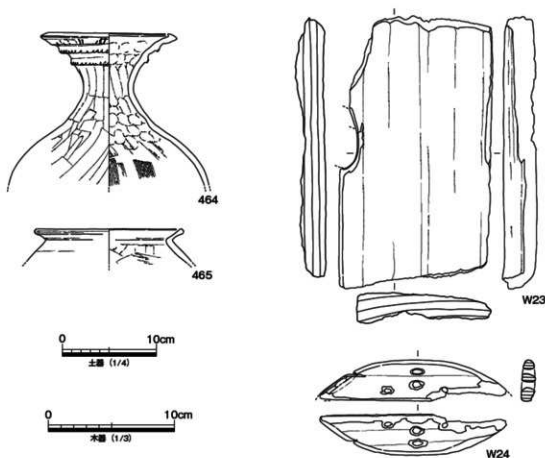


第92図 SR06 下層 出土遺物実測図(9)





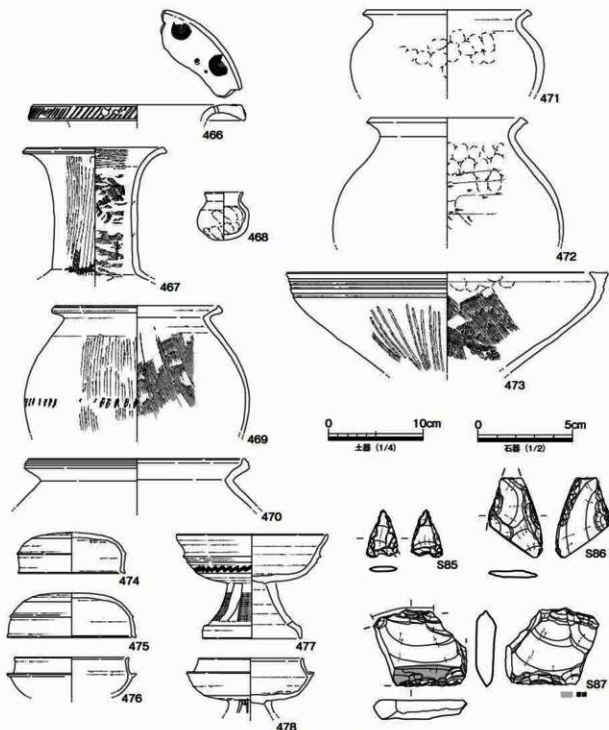
第93図 SR06 下層 出土遺物実測図(10)



第94図 SR06 下層 出土遺物実測図(11)

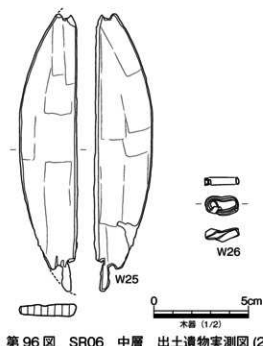
拡張し端部に斜格子文、頸部に押捺突帯文を付す。400は半球状の杯部から水平方向に延びる口縁をもつ高杯である。口縁端部を下方に拡張させ、4条の凹線文を巡らす。401、402は断面三角形の貼り付け突帯で加飾する高杯の脚部である。401には8方向に三角形の透かし穴が開けられている。403はヘラにより「田」状の記号をもつ細片である。器形はわからない。S49、S50は肉厚であるが、形状から打製石剣の破片とした。S51は外湾する刃部のスクレイパー、S52も外湾する刃部をもつ打製石庖丁である。S52は剥片に簡単な細部調整を加えて刃部としている。S53は打製石斧の刃部。刃部先端付近に摩滅、擦痕が見られる。

第88～92図および第93図S83は、平成11年度調査区のSR03下層下段(暗オリーブ褐色混雑粘質土、底部で灰褐色混雑細砂層に漸移)から出土した遺物実測図である。404～427は壺である。404は口縁端部を上下にわずかに拡張させ綾杉文を施す。405は端部を拡張せずに刻み目を施す。口縁部に2個一組の小孔が見られる。406は口縁端部を下方に拡張し、4条の凹線文、刻み目、棒状浮文を付す。口縁部内面には斜格子文、列点文が見られる。407は口縁端部を上下にわずかに拡張し櫛歯文、口縁部内面に斜格子文と2個一組の小孔が見られる。408～410は頸部に断面三角形の貼り付け突帯を付すものである。408は口縁端部を下方に拡張し、端部に斜格子文と穿孔、口縁部内面に斜格子文と列点文が見られる。409は口縁端部をわずかに拡張し端部に綾杉文と円形浮文が見られる。410は口縁端部を下方に拡張し、端部に3条の凹線と刻み目、3個2列を一組とする円形浮文を付す。口縁部内面はやや乱れた斜格子文と列点文が見られる。411～414は頸部に押捺突帯を付す壺である。411は拡張しない口縁端



第95図 SR06 中層 出土遺物実測図(1)

部に綾杉文、口縁部内面に斜格子文と列点文が見られる。412は下方に拡張した口縁端部に3条の凹線文を巡らせ、凹線文の間のみ刻み目を施している。413は下方に拡張した口縁端部に3条の凹線文、刻み目と2個2列を一組とする円形浮文を付す。口縁部内面には斜格子文、小孔と貼り付け突帯2条を巡らす。414は口縁端部を上方に拡張し、口縁部内面に斜格子文を施している。415～418は頸部に押捺突帯を巡らせ、短く開く口縁の壺である。415、416は端部をわずかに拡張させ斜格子文、刻み目を施す。417、418は口縁端部の上面に平坦面を作っている。419は口縁端部を上下に拡張し、凹線文、竹管文



第96図 SR06 中層 出土遺物実測図(2)

が見られる。420は口縁端部を上方に拡張し、凹線文、円形浮文が見られる。421～427は漏斗状に開く口縁部をもつ壺である。いずれも外面に刻み目突帯を2条巡らせ、425、427は口縁端部にも刻み目を施している。428は無頸壺である。球形の胴部が内傾して口縁端部に至る。口縁端部に刻み目、口縁部付近に3条の刻み目突帯を巡らし、その下に斜め方向の原体圧痕文を巡らし、以下はヘラミガキしている。口縁端部直下には現存で2個の小孔が見られる。429、430は櫛描きの波状文、直線文、斜格子文を施した壺の胴部片である。431～434は甕の口縁部。「く」字状に短く屈曲する口縁をもつ無文の甕である。

440、441は高杯である。440は半球状の杯部から水平方向に延びる口縁をもつもので、

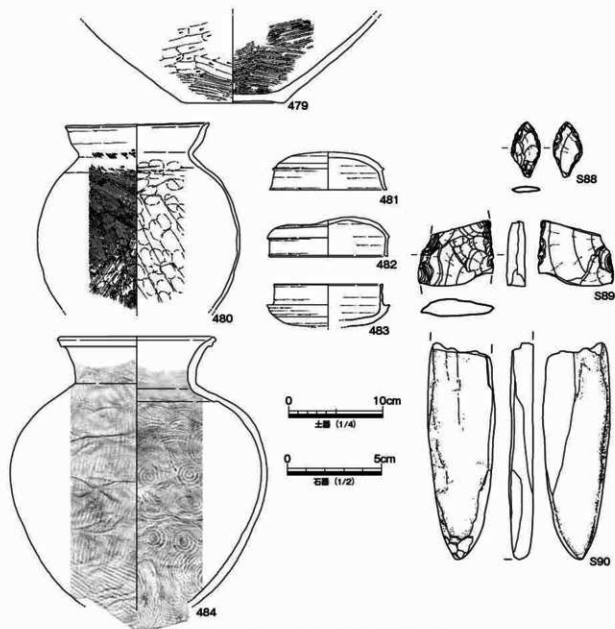
端部に刻み目、屈曲部に小孔が見られる。441は半球状の杯部と「ハ」字状に開く脚部をもつ。442～444は高杯の杯部もしくは鉢である。いずれも口縁端部上面に平坦面をつくり、444は斜格子文と円形浮文が見られる。445は内傾する口縁部をもつ高杯の杯部、446は高杯の脚部である。447～450は台付鉢の脚部である。454は一面に櫛描きにより大きな半円を並列させ、内部に小さな半円を並列させる文様を描く。反対面には櫛描きで直線の文様を描いている。摩滅のため土製品の輪郭も定かではない。455、456は土師器高杯、混入と考えられる。

S54～S66は打製石鏃。S66は凸基有茎式のものである。S67、S68は形状から打製石剣の基部と考える。S69、S70はスクレイパー、S69は主に剥片の片面に細部調整を行って刃部を作っている。S71～S76は打製石庖丁である。S71～S74は剥片を利用し、簡単な細部調整で刃部を作っている。S77は形状から石匙と考える。S78は打製石斧の基部、S79は柱状片刃石斧、S80は太型蛤刃石斧である。S81は楔形石器。上面に潰れ、下面に階段状の剥離が見られる。S82は石製円盤、S83は砂岩の敲石である。

第93図 457～463、S84、W22は平成11年度調査でSR03の下層中段として取り上げられた遺物実測図である。457は高杯の杯部が鉢である。半球状で口縁端部上面に平坦面を作り斜格子文、円形浮文が見られる。458～461は高杯。いずれも「ハ」字状に開く脚部で、459は長方形のやや粗雑な透かし穴を4方向に開けている。460は半球状の杯部から屈曲し外上方に開く短い口縁をもつ。462は接合不能であるが、同一個体の鉢、463は脚台と思われ、側面から斜め下方に孔を穿っている。孔、全体の形状ともに粗雑である。S84は打製石斧の基部である。

W22は椀型の形状であるが正円ではない。椀の一方に柄が取りつく杓子の身の部分と考えられる。

第94図は平成11年度調査でSR01の下層(暗オリーブ褐色混雑粘質土)として取り上げられた遺物実測図である。464は漏斗状の口縁部をもつ壺で、口縁部外面に2条の刻み目突帯が巡る。465は無文の甕である。



第97図 SR06 中層 出土遺物実測図(3)

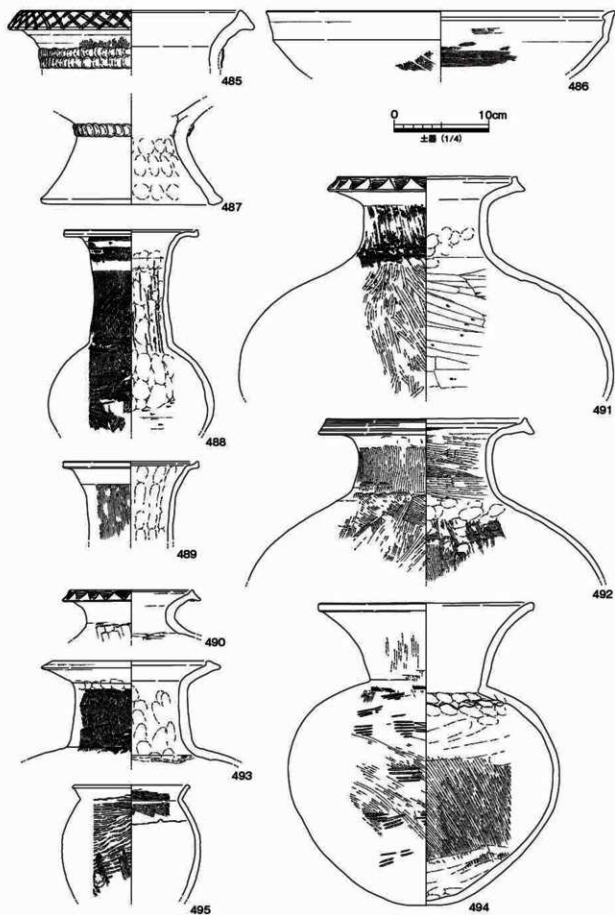
W23は長方形の板で1か所に孔の痕跡がある。W24は円盤状の板で、4箇所に孔が残る。用途不明。以上のようにSR06下層は、弥生時代中期中葉の堆積層と理解される。

#### SR06 中層 (第95～100図)

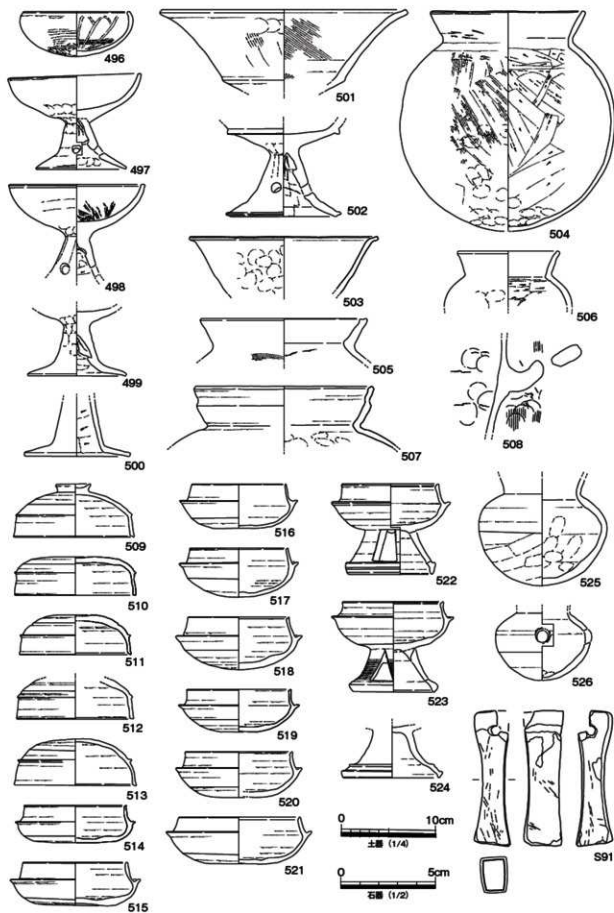
SR06中層は時期幅のある遺物が混在することが特徴である。

平成10年度調査SR01のⅢ層、平成11年度調査SR03の下層の上段と中層の下段、SR01の中層が該当する。

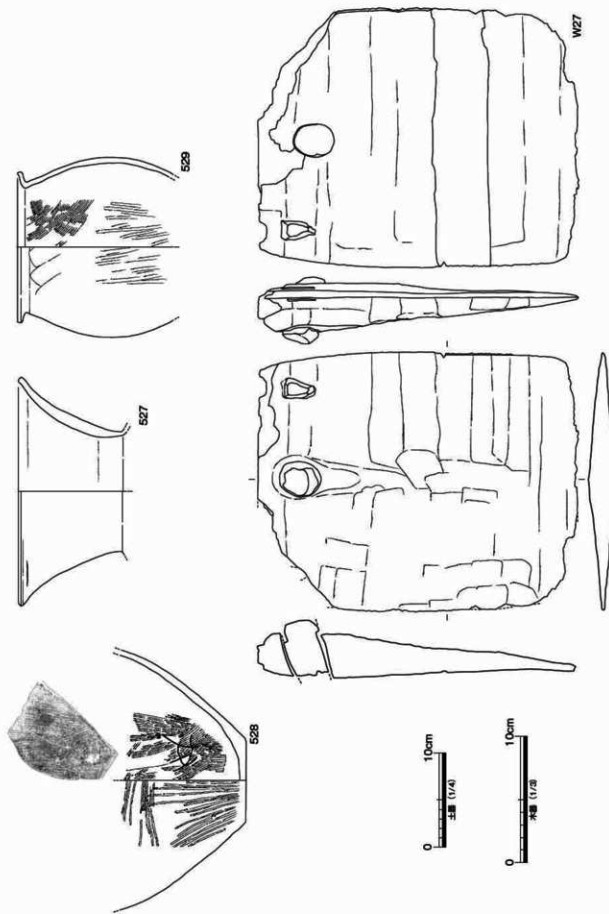
第95、96図は平成10年度調査でSR01のⅢ層として取り上げた遺物の実測図である。466は弥生時代中期中葉の壺である。口縁端部に斜行文と円形浮文、口縁内面に摺擦きの重弧文と小孔が見られる。467は弥生時代後期前半の長頸壺である。469～472は甕。469は胴部最大径付近にハケ原体による圧



第98図 SRO6 中層 出土遺物実測図(4)



第99図 SR06 中層 出土遺物実測図(5)



第100図 SR06 中層 出土遺物実測図(6)



痕文を巡らす。470は口縁端部に2条の凹線文が見られる。473は高杯。口縁端部を外内に拡張して平坦面を作る。口縁部外面に4条の凹線文が見られる。474、475は須恵器杯蓋。天井部と口縁部とを分ける稜は甘い。476は須恵器杯身である。口縁端部のたちあがりには内傾している。477は無蓋高杯。杯部の稜線の下に櫛描き波状文が見られる。478は有蓋高杯。477、478ともに3方向の透かし穴を開ける。S86は形状から石鉢の未成品と考える。S87は刃部に摩滅の見られるスクレイパーである。

W25、W26は相伴して出土し、同一個体の一部の可能性がある。W25は円盤状の板の一部と考えられる。W26は木の皮で長軸2cm足らず、短軸0.7cm程度に丸くまとめたもの。

第97図は平成11年度調査でSR03下層上段として取り上げた遺物実測図である。480は土師器甕、481、482は須恵器杯蓋、483は須恵器杯身、484は須恵器甕である。S88は凸基有茎式の石鉢、S89は小片であるが、打製石斧片と考える。S90は柱状片刃石斧片である。

第98、99図は平成11年度調査でSR03の中層下段として取り上げられた遺物実測図である。485の壺は口縁端部を拡張させ斜格子文を施し、頸部に2条の押捺突帯が見られる。486、487は高杯である。488、489は長頸壺である。488の頸部にはハケ原体による圧痕文が斜め方向に施される。490～495は弥生時代終末期から古墳時代前期に属すると考えられる。490は口縁端部を上下に拡張しヘラ描きの鋸歯文、491は上方に拡張し鋸歯文を施している。494はラップ状に開く口縁の壺である。ほぼ丸底で外面にタタキ目が残る。495も外面にタタキの残る甕である。焼成時破裂と思われる痕跡が見られる。

496は土師器杯。鉄鉢状の形態で内面に間歇するヘラミガキが見られる。497～502は土師器高杯である。半球状の浅い杯部から途中で大きく屈曲する脚部をもつ形態と、これより大型で、水平もしくは斜め上方に開いたあと屈曲して外反気味に立ち上がる口縁をもつ形態がある。後者の屈曲外面には貼り付け突帯が見られるものが多い。503は鉢、504～507は土師器甕である。球状の胴部から外上方に開く口縁を持つ。505は口縁端部上面に凹みが、507の口縁部はナデにより屈曲している。

509～513は須恵器杯蓋、514～521は須恵器杯身である。509は中くほみのつまみを付す。510の天井部は平坦で、513は丸みを帯びること、杯身の口縁端部は丸くおさめるものと内傾するものがあること、杯身の口径は9.9～12.8cmとばらつきが見られることから時期幅があると思われる。522、523は有蓋高杯である。522は長方形、523は三角形の透かし穴が3方向に開けられている。524の高杯脚部は時期の下ものである。S91は携帯用で穿孔をもつ砥石である。使用により各面が凹面となっている。

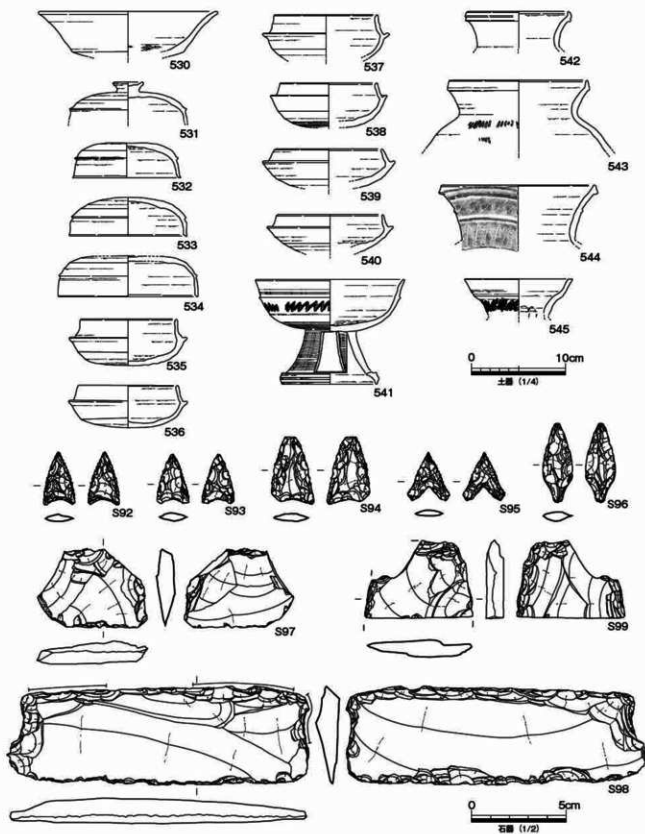
第100図は平成11年度調査においてSR03中層として取り上げられた遺物である。先述のSR03中層下段との層位関係はよくわからない。ラップ状に開く口縁をもつ壺(527)、胴部内面にヘラによる記号の描かれた壺(528)、甕(529)が出土している。

W27は広鉢。身は方形に近い形状で、柄の取り付け部分の隆起は緩い。孔には柄の一部が残されていた。

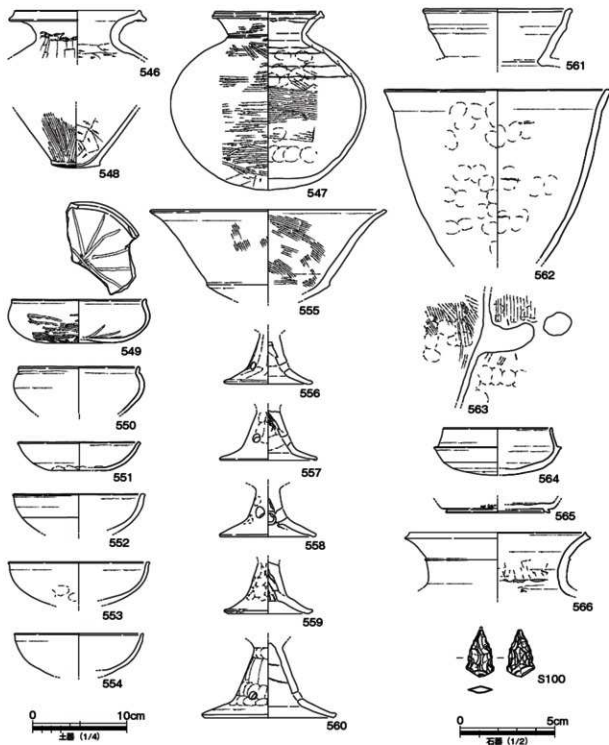
以上がSR06中層の遺物である。ここでは若干量の弥生時代中期中葉の遺物のほか、弥生時代後期前半、弥生時代後期終末から古墳時代前半、古墳時代後期の遺物が混在している。混在の理由はよくわからない。

### SR07 (第80・101～109図)

SR07は、平成10年度調査SR01のⅠ、Ⅱ層、平成11年度調査SR03の中層、中層上段、SR02の下層、中層が該当する。SR06とは流路が異なると理解するため、別の遺構番号を付す。したがってSR06



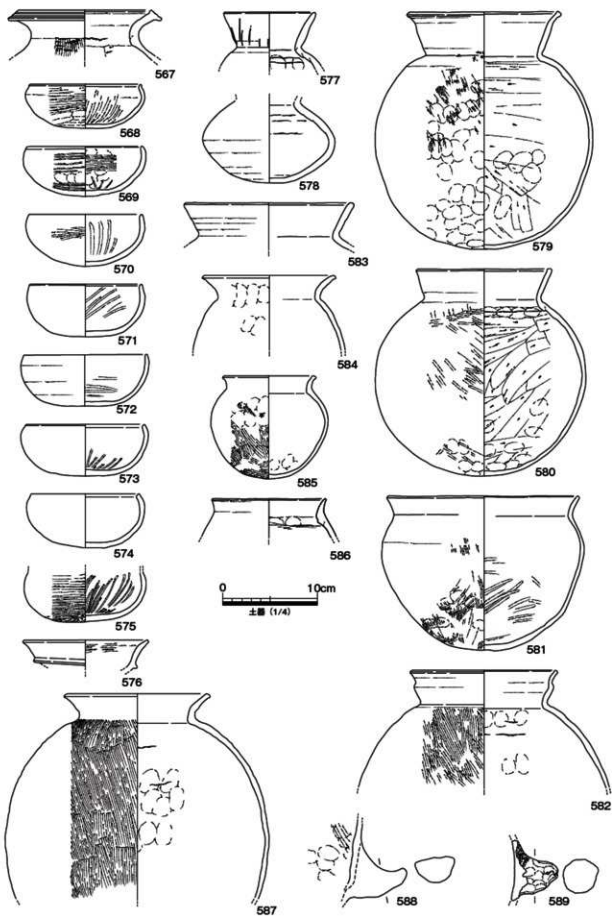
第 101 図 SR07 出土遺物実測図 (1)



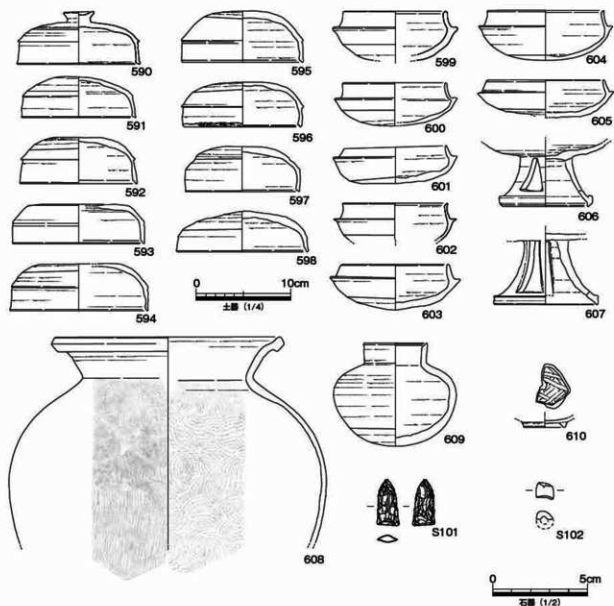
第102図 SR07 出土遺物実測図(2)

上層は存在しないこととなる。

第101図は平成10年度調査においてSR01上層(I~II層)として取り上げられた遺物実測図である。530は土師器高杯、531~534は須恵器杯蓋、535~540は須恵器杯身、541は長方形の透かし穴を3方向にもつ無蓋高杯である。これらの須恵器の様相はSR06中層と同じである。このほか須恵器の壺、甕、甕が出土している。S92~S96は石鏃である。凹基式と凸基有茎式のものが出土している。S97はスク



第 103 図 SR07 出土遺物実測図(3)

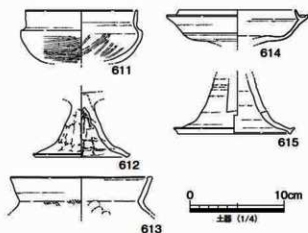


第104図 SR07 出土物実測図(4)

レイバー、S98は打製石庖丁である。S98の刃部の片面は強く、もう片面はそれよりも弱く細部調整を行って整えている。S99は形状から打製石斧の基部とした。

第102図は平成11年度調査においてSR03中層として取り上げられた遺物実測図である。546、547は弥生土器壺、548は弥生土器甕である。549～551は土師器杯。549、550は口縁端部を外側に折り出している。552～560は土師器高杯と考えられる。半球状の杯部のもとやや大型で屈曲して外反する口縁をもつものがある。562は甔の胴部とした。565の須恵器底部は混入品である。

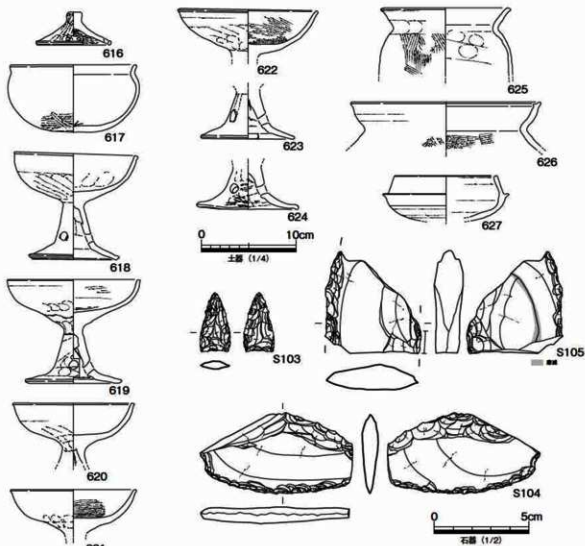
第103、104図は平成11年度調査においてSR03中層上段として取り上げられた遺物実測図である。ここでは南北約1、東西約2mの範囲で土師器、須恵器18個体からなる土器集中箇所が検出されている。調査担当者は概要報告において「土器の大半は完形率が高く正位を保って出土しているほか、概ね同一レベルに集中し、意図的に重ね置きしたような状況を呈していることから、これらは堆積作用によるまとまりではなく人為的なものであることが想定できる。これらの土器、特に土師器については表面



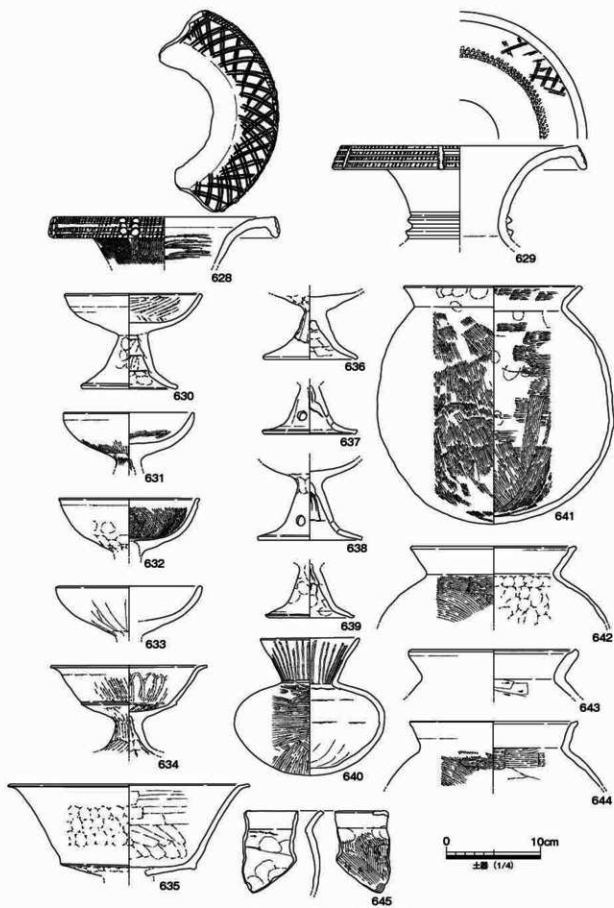
第105図 SR07 出土遺物実測図(5)

面が剥落するものが多いが、内外面にヘラミガキが見られる。576は内面にヘラミガキが見られることから高杯とした。579、580は薄手の球胴の甕、581は口径の大きな甕である。584、587の甕は摩滅が著しく帰属時期に曖昧さが残る。

が細かいひび割れに覆われており、調整作業の痕跡が見にくくなっている。この場に置かれた後、しばらく著しい堆積作用を受けず、土器が外気の影響を繰り返して受けたことが想定できる。また、1点のみであるが滑石製白玉の出土を見ることもあわせると、この土器集中箇所は河川祭祀的な性格を持つものと思定できよう」と述べているが詳細不明である。567は弥生土器壺、568～575は土師器杯である。口縁端部を外側にわずかに積み出すものとそのままおさめるものがある。また、表



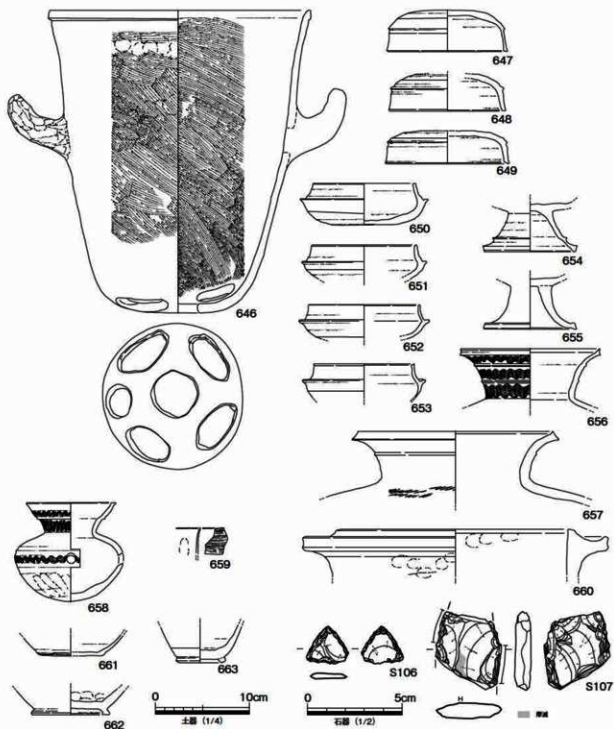
第106図 SR07 出土遺物実測図(6)



第107図 SR07 出土遺物実測図(7)

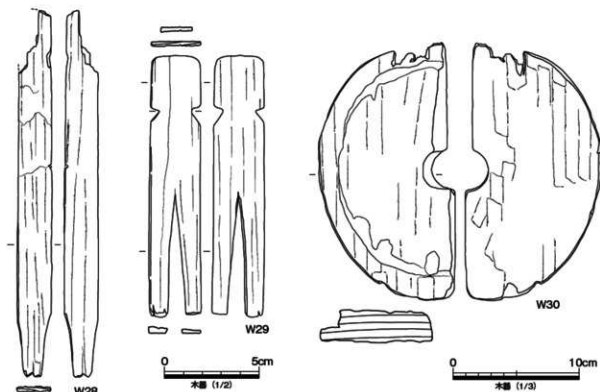
590～598は須恵器杯蓋、599～605は須恵器杯身である。590は中くぼみの摘みがつく。591の口径は12.0cm、594は14.6cmを測る。また、597、598は天井部と口縁部の境界の稜をもたないもので、時期幅があると見られる。杯身の口径は10.7～12.3cmを測る。606、607は三角形、長方形の透かし穴を3方向にもつ高杯脚部である。609は小型の短頸壺、610は瓦器椀の底部で混入である。S102は滑石製の白玉の破片である。土器集中箇所検出したものである。

第105図は平成11年度調査においてSR03上層下段として取り上げられた遺物実測図である。611の



第108図 SR07 出土遺物実測図(8)





第109図 SR07 出土遺物実測図(9)

土師器杯は、半球状の杯部が内側に屈曲したあと垂直方向に立ち上がる口縁をもつ。612は土師器高杯の脚部、613は土師器甕、614は須恵器杯身、615は須恵器高杯である。

第106図は平成11年度調査においてSR02中・下層として取り上げられた遺物実測図である。616は弥生時代の蓋形土器、617は口縁端部を外側に摘まむ土師器杯である。618～624は半球状の杯部をもつ土師器高杯である。625は土師器甕と考える。S104は外湾する刃部をもつスクレイパー、S105は形状から打製石斧の破片と考える。表面に摩滅が見られる。

第107～109図は平成11年度調査においてSR02中層として取り上げられた遺物実測図である。628、629は弥生時代中期中葉の壺である。628は口縁端部を下方に拡張し、凹線文、刻み目、円形浮文、口縁部内面は斜格子文が見られる。629も口縁端部を下方に拡張し、凹線文、刻み目、棒状浮文、口縁部内面に斜格子文と三角形の刺突文を並べ、頸部には断面三角形の貼り付け突帯2条で加飾する。630～639は土師器高杯である。634は屈曲部をもつ形態で小型のものである。屈曲部に沈線を巡らせ突帯状に見せている。640は直口壺、641～645は土師器甕である。646は瓶。ほぼ完形で出土している。U字形をなす器形で口縁端部はそのままおさめている。胴部中央付近に臍穴を開けて把手を取り付けている。底部には図示するとおり中央部の円孔と周囲に5つの孔を開けている。647～649は須恵器杯蓋、650～653は須恵器杯身である。杯身の口径は10.7～11.0cmを測る。654、655の高杯は後出のもの、658は甕、659は薄手の製塩土器片である。660の土師器羽釜、661の須恵器杯、662、663の須恵器壺は後出するもので混入と考えられる。S107は形状から打製石斧とした。

W28は畜車。上・下部が欠損するが、下端は尖らせ上端は圭頭または斜めに加工する。W29は人形。頭部は加工をほとんど行わず、下部には切り込みを大きく入れて足を表現している。W30は半分は欠損するが、円盤状で中央に円孔、側縁は1段低く削り出している。円孔部分に軸棒を差し込み台とした

ものか。

以上がSR07出土の遺物である。混入と考えられる遺物が若干量存在するが、古墳時代後期の遺物が主体となる。なお、須恵器杯から型式差があると見られるが、分離できていない。

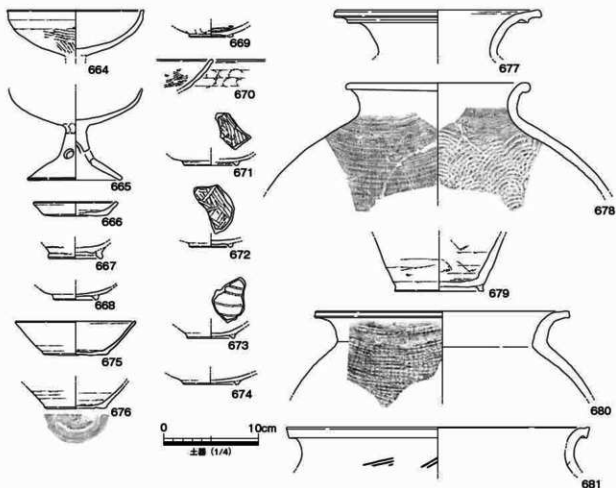
#### SR08 (第80・110～112図)

SR08は、平成11年度調査SR02の上層が該当する。また、平成11年度調査のSR01上層もSR08の推定流路からははずれるが、同時期の堆積層と理解している。

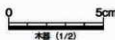
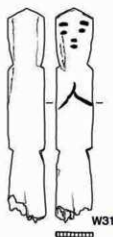
第110、111図は平成11年度調査でSR02上層として取り上げられた遺物実測図である。ここでは664、665の土師器高杯が混入遺物と考えられる。666は土師質土器小皿、667、668は土師質土器碗の底部、669～674は瓦器碗、675、676は須恵器杯である。いずれも小片で出土している。677～679は須恵器甕、680は須恵器壺、681は瓦質土器の甕である。

W31は人形。頭部は主頭状に切り込み、両側縁2か所ずつ切れ込みを入れて頸部と胴部を表現する。墨により頭部には顔を、胴部には「人」を書く。

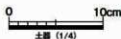
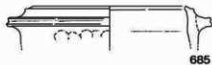
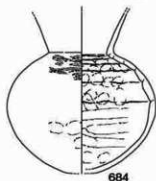
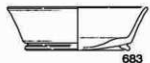
第112図は平成11年度調査でSR01上層として取り上げられた遺物実測図である。この平成11年度SR01上層は、本報告にいうSR08の想定流路上には無く、SR08流下時に凹地として残っていたSR06上面を埋没させた堆積層と理解する。遺物出土量は細片が多く、量は僅少で、中世までの遺物が含まれ



第110図 SR08 出土遺物実測図(1)



第111図 SR08 出土遺物実測図(2)



第112図 SR08 出土遺物実測図(3)

ている。

682は土師器の蓋、683は須恵器の杯、684は土師器壺、685は土師質土器羽釜である。

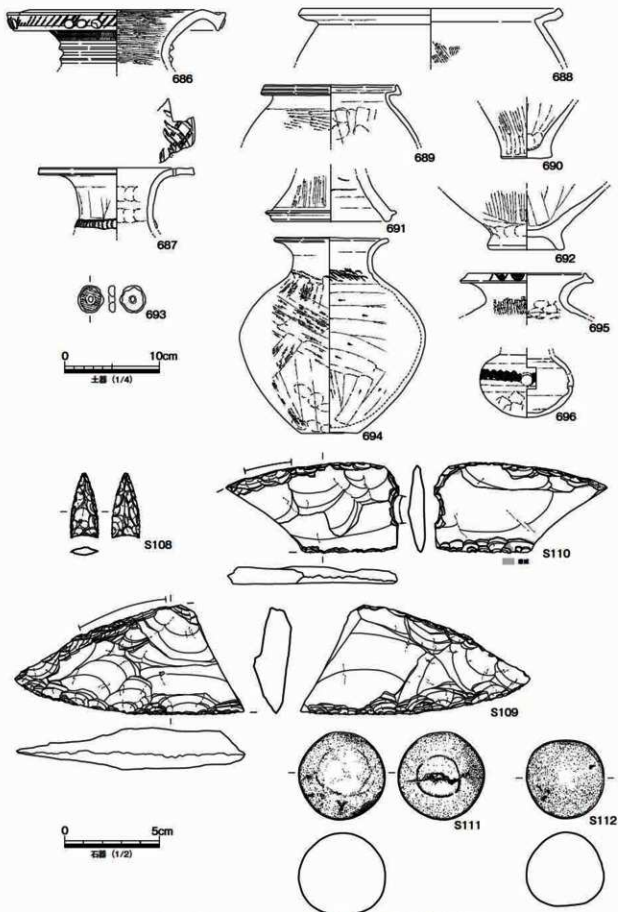
以上がSR08の出土遺物である。中世の遺物を下限とし、古代、中世の遺物細片を包含している。

平成10年度調査におけるSR01と平成11年度調査におけるSR01～03は、出土遺物の年代観を根拠にSR06～08に整理した。この結果、いずれの流路に帰属するのか不明な遺物を生むこととなった。第113図はSR06もしくはSR07(層位不明)に属するもので、平成10年度調査のSR01層位不明(692、696)と平成11年度調査のSR03層位不明(686～691、693～695、S108～S112)の遺物実測図である。686、687は弥生時代中期の壺、688、689は中期の甕である。694は後期、695は終末期の壺、696は須恵器は甕である。S109はスクレイパーである。背面には刃潰れが見られ、一面に刃を作っている。ただし、背面も刃を作ろうとした形跡があり、形状から打製石剣の未成品を転用しているものと見られる。S110は打製石庖丁、S111、S112は磨り石である。

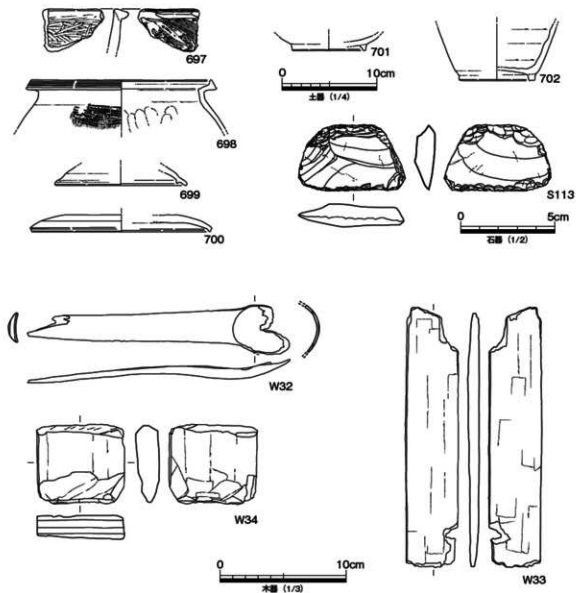
第114図は平成11年度調査でSR01において地山直上として取り上げられたものと層位不明の遺物実測図である。地山直上として遺物を取り上げると河底部の地山直上と河岸部の地山直上では年代差が生じる可能性があるため注意が必要である。なお、平成11年度調査区のSR01は、中・下層が本報告におけるSR06、上層がSR08に分離しているため、以下の遺物はSR06もしくはSR08に帰属するものである。

697は弥生時代前期の甕の小片、698は口縁端部を上方に拡張した甕である。699、700は須恵器の蓋、701は内黒の黒色土器の椀、702は須恵器壺の底部である。

W32～W34は、注記番号が不明となり、平成10年度調査においてSR01から出土したことしか分からない木製品である。W32は匙。柄に対して匙部分はほぼ直線的に取り付く。W33は長方形の板。上部にはなで屑状に抉りを入れ、側縁は刃状に細く削る。握り棒で柄部分と身の半分程度は欠損するものか。W34は厚みのある方形の板。1側縁のみ加工を多く施す。楔と考えられる。



第113図 SR06かSR07 層位不明 出土遺物実測図

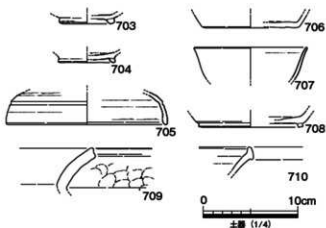


第114図 SRO6かSRO8 層位不明 出土遺物実測図

### 第3節 遺構外の遺物

以下は、包含層および機械掘削、遺構面精査中に出土した遺物である。

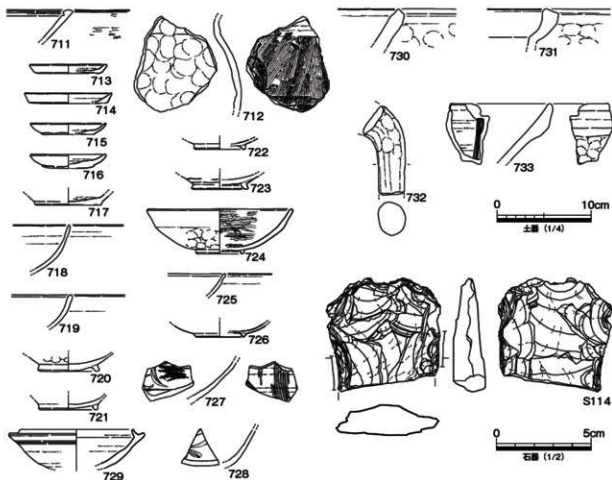
第115図は、平成9年度調査区のSR03上面において中世の水田層が存在する可能性が考えられた堆積層から出土した遺物実測図である（水田遺構は検出されなかった）。第5図柱状図その2の4～6層にあたる。古代から中世の土器小片が微量出土している。703、704は内面黒色の黒色土



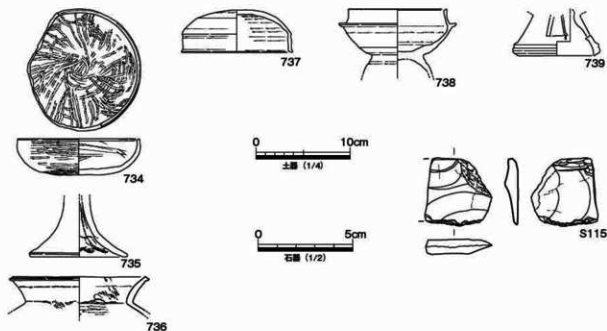
第115図 遺構外 出土遺物実測図(1)

器碗、705は口径17.0cmに復原される須恵器杯壺、706、707は須恵器杯、708は須恵器壺である。このほか瓦質土器の甕口縁(709)、東播系の須恵器こね鉢片(710)が出土している。

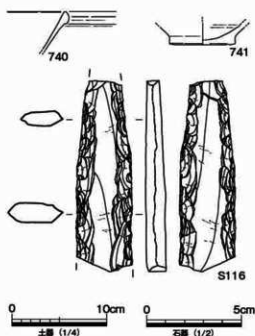
第116図は、平成9年度調査において機械掘削中、遺構面精査中、包含層等から出土した遺物実測図である。711は縄文土器浅鉢の口縁部小片である。口縁端部の内面に沈線が1条走る。712は香東川下流域の胎土の壺胴部である。外面にヘラによる線刻が見られる。713～716は土師質土器小皿、717は土師質土器杯、718～721は土師質土器碗、722は両面黒色の黒色土器碗、723は瓦質焼成の碗、724



第116図 遺構外 出土遺物実測図(2)



第117図 出土位置不明の遺物実測図



第118図 遺構外 出土遺物実測図(3)

～726は瓦器椀、727、728は青磁椀である。729は内傾する低いちあがりの須恵器杯身である。730、731は土師質土器土鍋、732は三足土釜の脚、733は須恵器スリ鉢、S114は打製石斧の基部である。

第117図は平成9年度調査においてSR02中層(砂層)として取り上げられた遺物である。SR02(砂層)から出土した遺物のうち、このひとまとまりだけが時期など異質なもので、何らかのトラブルにより別遺構の遺物と混乱したと判断した。734は土師器杯である。黒色磨研のもので東北産である可能性が高い。739の須恵器高杯の透かし穴は4方向に開けられている。

第118図は、平成11年度調査において機械掘削、遺構面精査等で出土した遺物である。740、741は白磁椀、S116は形状から打製石剣とした。





## 第4章 自然科学分析

### 第1節 多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果(1)

(株) 吉田生物研究所

#### 1. 試料

試料は香川県多肥宮尻遺跡から出土した農具8点、漁労具1点、食器具2点、容器1点、祭祀具3点の合計15点である。

#### 2. 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

#### 3. 結果

樹種同定結果(針葉樹5種、広葉樹6種)の第3表と顕微鏡写真図版1~4を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

##### 1) イチイ科カヤ属カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No.15)

(写真 No.15)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~4個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州(中・南部)、四国、九州に分布する。

##### 2) イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ (*Cephalotaxus Harringtonia* K. Koch f. *drupacea* Kitamura)

(遺物 No.10)

(写真 No.10)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は漸進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で1分野に1~2個ある。仮道管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)して存在する。板目では放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州(岩手以南)、四国、九州に分布する。

3) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No.6)

(写真 No.6)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州(福島以南)、四国、九州(宮崎まで)に分布する。

4) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(遺物 No.12,13)

(写真 No.12,13)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

5) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(遺物 No.9)

(写真 No.9)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスキ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

6) カバノキ科カバノキ属ミズメ (*Betula grossa* Sieb. et Zucc.)

(遺物 No.11B)

(写真 No.11B)

散孔材である。木口ではやや大きい道管(~190  $\mu$  m)が単独ないし2~4個が放射方向に複合して分布している。軸方向柔細胞は年輪界で顕著である。柾目では道管は階段穿孔を有する。放射組織は平伏細胞からなる同性と直立、平伏細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は小型である。板目では放射組織は1~4細胞列、高さ~450  $\mu$  mであった。ミズメは本州、四国、九州に分布する。

7) ナナ科ナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

(遺物 No.1,2,3,11A,14)

(写真 No.1,2,3,11A,14)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（ $\sim 200 \mu\text{m}$ ）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

#### 8) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)

(遺物 No.7)

(写真 No.7)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（ $\sim 270 \mu\text{m}$ ）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと同部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

#### 9) ニレ科ムクノキ属ムクノキ (*Aphananthe aspera* Planchon)

(遺物 No.8)

(写真 No.8)

散孔材である。木口では中庸の道管（ $\sim 170 \mu\text{m}$ ）が単独ないし2～3個放射方向に複合して年輪界に散らばっている。軸方向柔細胞は道管の周囲を取り囲んだものやそれらがつながって白い帯のように見えるもの（連合翼状～帯状柔組織）がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は篩状の壁孔が存在する。板目では放射組織は1～5細胞列、高さ $\sim 700 \mu\text{m}$ からなる。ムクノキは本州、四国、九州に分布する。

#### 10) クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

(遺物 No.4)

(写真 No.4)

環孔材である。木口では大道管（ $\sim 280 \mu\text{m}$ ）が年輪界にそって1～5列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が2～6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ $\sim 1.1\text{mm}$ からなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマクワ、ケクワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

11) ツバキ科ツバキ属 (*Camellia* sp.)

(遺物 No.5)

(写真 No.5)

散孔材である。木口では極めて小さい道管（ $\sim 40 \mu\text{m}$ ）が、単独ないし2～3個接合して均等に分布する。放射組織は1～3細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ 以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

## ◆参考文献◆

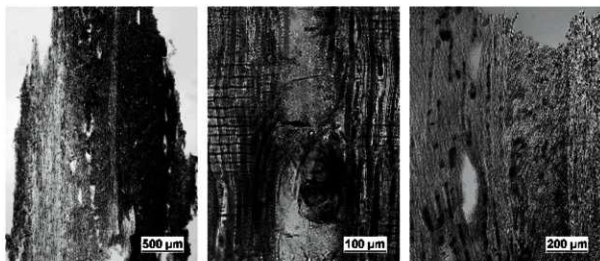
- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）  
 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）  
 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）  
 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）  
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代編」（1985）  
 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始編」（1993）

## ◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fil

No.	報文番号	品名	樹種
1	W 8	曲柄広楾	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
2	W 4	広楾未成品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
3	W14	広楾	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
4	W15	田下駄	クワ科クワ属
5	W16	田下駄	ツバキ科ツバキ属
6	W18	櫛	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
7	W17	容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
8	W20	縦杓子	ニレ科ムクノキ属ムクノキ
9	W21	不明	ヒノキ科アスノコ属
10	W32	匙	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ
11	W27	A 楾（身） B ○（柄）	ブナ科コナラ属アカガシ亜属 カバノキ科カバノキ属ミズメ
12	W28	斎串	ヒノキ科ヒノキ属
13	W29	人形	ヒノキ科ヒノキ属
14	W3	広楾	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
15	W31	人形	イチイ科カヤ属カヤ

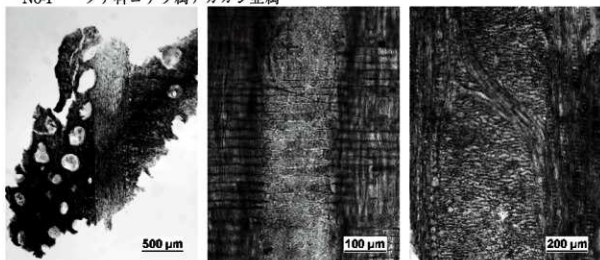
第3表 多肥宮尻遺跡出土木製品同定表（平成28年度）



No-1 木口  
ブナ科コナラ属アカガシ亜属

柁目

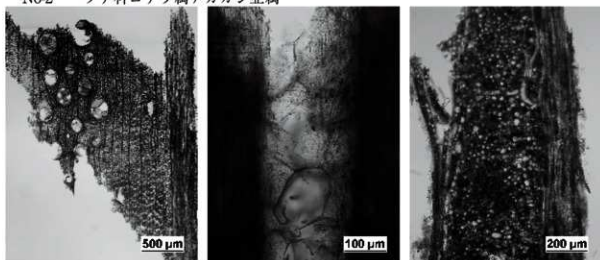
板目



No-2 木口  
ブナ科コナラ属アカガシ亜属

柁目

板目

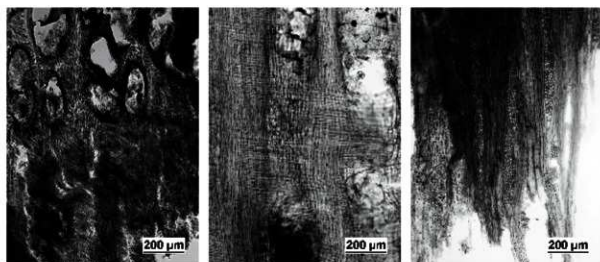


No-3 木口  
ブナ科コナラ属アカガシ亜属

柁目

板目

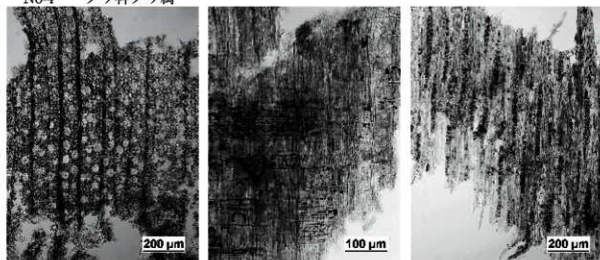
図版1 多肥宮尻遺跡 顕微鏡写真1



No-4 木口  
クワ科クワ属

柁目

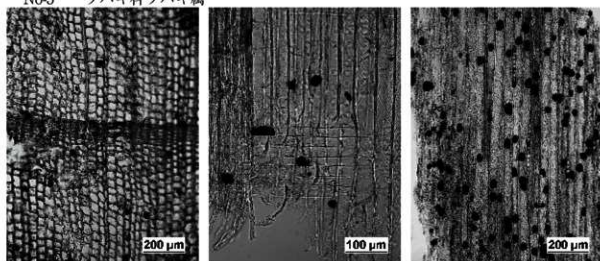
板目



No-5 木口  
ツバキ科ツバキ属

柁目

板目

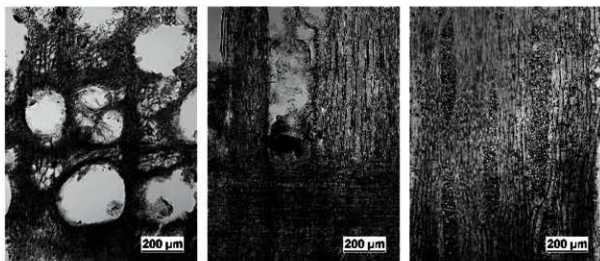


No-6 木口  
コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ

柁目

板目

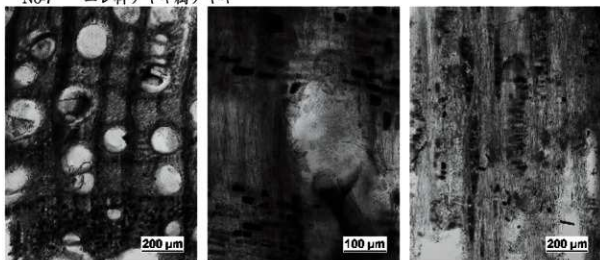
図版2 多肥宮尻遺跡 顕微鏡写真2



No-7 木口  
ニレ科ケヤキ属ケヤキ

柁目

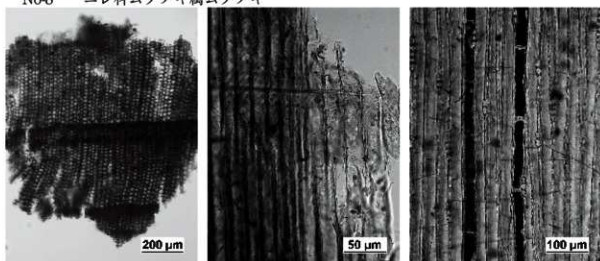
板目



No-8 木口  
ニレ科ムクノキ属ムクノキ

柁目

板目

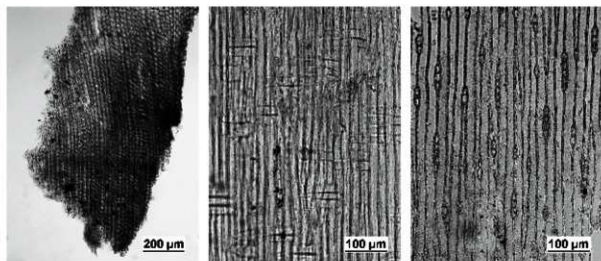


No-9 木口  
ヒノキ科アスナロ属

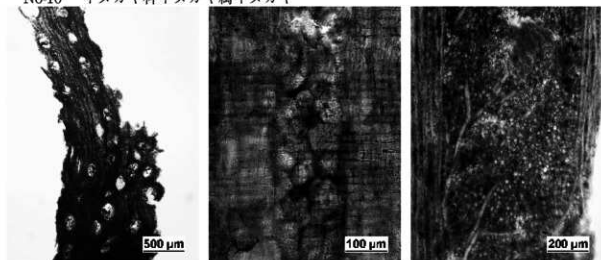
柁目

板目

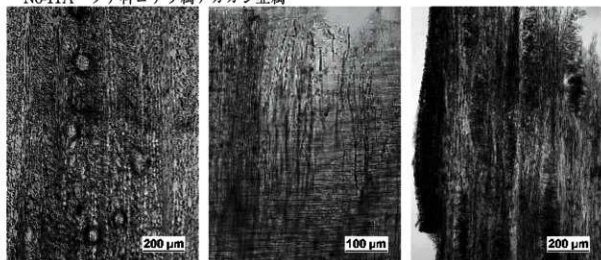
図版3 多肥宮尻遺跡 顕微鏡写真3



木口 髄目 板目  
No-10 イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ



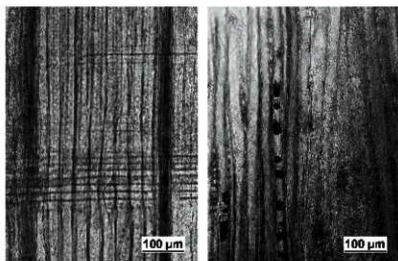
木口 髄目 板目  
No-11A ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口 髄目 板目  
No-11B カバノキ科カバノキ属ミズメ

図版4 多肥宮尻遺跡 顕微鏡写真4

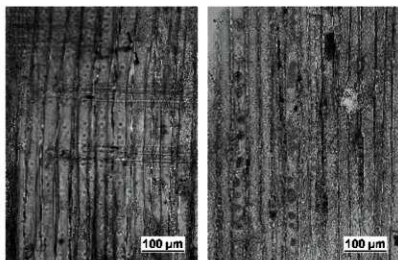




柁目

板目

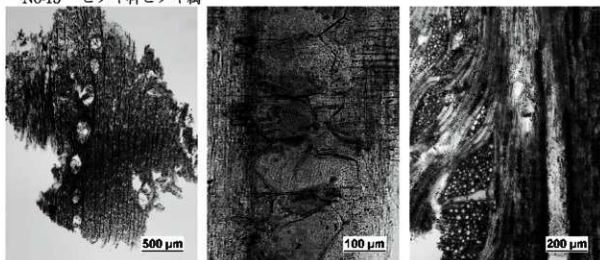
No-12 ヒノキ科ヒノキ属



柁目

板目

No-13 ヒノキ科ヒノキ属



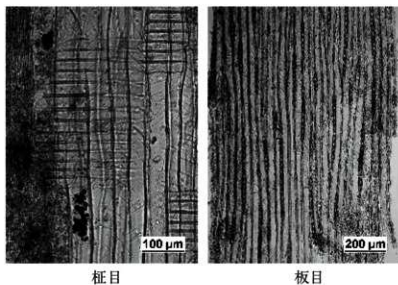
木口

柁目

板目

No-14 ブナ科コナラ属アカガシ亜属

図版 5 多肥宮尻遺跡 顕微鏡写真 5



No-15 イチイ科カヤ属カヤ

図版 6 多肥宮尻遺跡 顕微鏡写真 6

## 第2節 多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果(2)

株式会社文化財サービス

## 1、分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

## 2、結果

樹種同定結果を第4表に示す。木製品は、針葉樹5分類群(モミ属・ヒノキ・ヒノキ科)と広葉樹13分類群(コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属・スダジイ・ヤマグワ・クスノキ科)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

## ・モミ属(Abies) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

## ・ヒノキ(Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~10細胞高。

## ・ヒノキ科(Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1~10細胞高。上記、ヒノキを含むヒノキ科のいずれかであるが、保存状態が悪く、分野壁孔が観察できないために属や種の区別できず、ヒノキ科とした。

## ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(Quercus subgen. Quercus sect. Cerris) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

## ・コナラ属アカガシ亜属(Quercus subgen. Cyclobalanopsis) ブナ科

放射孔材で、道管は単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと複合放射組織とがある。

## ・スダジイ(Castanopsis cuspidata var. sieboldii (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2～4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高。

・クスノキ科 (*Lauraceae*)

散孔材で、道管は単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。放射組織には油細胞が認められる。

### 3、考察

木製品は、縄文時代晩期～弥生前期の木錘、弥生時代中期の不明木製品、鍬、鋤、握り棒、杓子、古代末の曲物底板、弥生時代後期～古墳時代後期の底板、古墳時代後期の円盤状木製品がある。これらの木製品は、伊東・山田(2012)の木器分類を参考にすれば、農耕土木具(鍬・鋤・握り棒)、容器(底板)、遊戯具・日用品(不明木製品(栓か))、その他(板状木製品・不明木製品)に分けられる。

確認された各種類の材質をみると、針葉樹のモミ属は、木理が通直で割裂性が高く、強度と保存性は低い。ヒノキとヒノキ科は、木理が通直で、割裂性と耐水性が高い。広葉樹のクスノギ節、アカガシ亜属は重硬で強度が高い。ヤマグワは、重硬で強度と耐朽性が高い。クスノキ科は、多くの樹種が含まれ、比較的軽硬な種類から軽軟な種類まで含まれる。時代別・器種別にみると、縄文時代晩期～弥生時代前期の木錘(か)はヤマグワが利用されている。用途は木錘かと考えられるが、ヤマグワの材質を考慮すれば、強度や耐朽性を必要とするような用途・器種が推定される。SR02の鍬、鋤、握り棒は、4点中3点がアカガシ亜属、1点がスダジイであり、比較的強度の高い木材の利用が推定される。このうちアカガシ亜属は、伊東・山田(2012)のデータベースで鍬・鋤の素材として最も多く確認されている樹種であり、本遺跡でも多用されていたことが推定される。不明木製品(栓か)は、クスノギ節であった。栓は加工性の高い針葉樹材が利用されることが多いが、本資料については、加工性よりも強度を考慮した可能性がある。弥生時代中期の杓子はクスノキ科に同定された。香川県内で容器にクスノキ科が含まれた例をみると、鴨部・川田遺跡の

第4表 多肥宮尻遺跡の樹種同定結果(平成28年度)

弥生時代早・前期とされる高杯、鉢、片口小型鉢、容器未成品等、多肥松林遺跡の弥生時代中期とされる高台付盤、槽、下川津遺跡の古墳時代末期～平安時代初期とされる円形判物、方形判物などがある(伊東・山田,2012)。

弥生時代後期～古墳時代後期

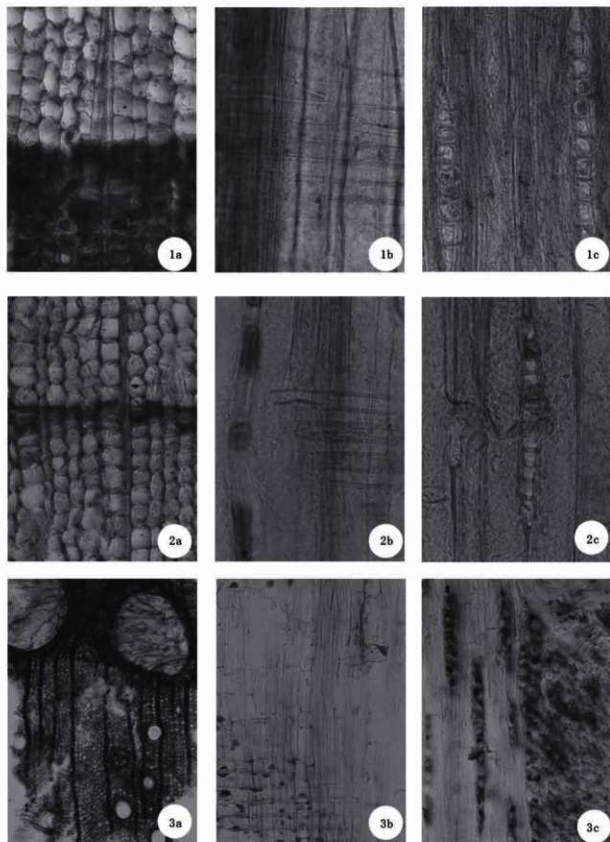
標文番号	遺構	器種	時期	樹種
W1	SD1203	曲物底板	11世紀後半～12世紀前半	ヒノキ
W2	SR01	木錘	縄文時代晩期～弥生時代前期	ヤマグワ
W6	SR02	鍬	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
W9	SR02	曲柄平鍬	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
W10	SR02	不明	弥生時代中期	コナラ属コナラ亜属クスノギ節
W12	SR02	握り棒	弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
W13	SR02	鋤	弥生時代中期	スダジイ
W22	SR06(下層)	杓子	弥生時代中期	クスノキ科
W25	SR06(中層)	底板	弥生時代後期～古墳時代後期	ヒノキ科
W30	SR07	円盤状木製品	古墳時代後期	モミ属

とされる底板はヒノキ科、不明木製品はモミ属に同定された。樹種は異なるが、いずれも分割加工が容易な樹種が利用されたと考えられる。底板については、ヒノキ科の材質から耐水性も考慮された可能性がある。

古代末の遺構から出土した曲物底板はヒノキであり、古墳時代の底板と同様の木材利用が推定される。

## 引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編)2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,449p.
- Richter H.G,Grosser D,Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006,針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G,Grosser D,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 鳥地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
- Wheeler E.A,Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998,広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴 リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



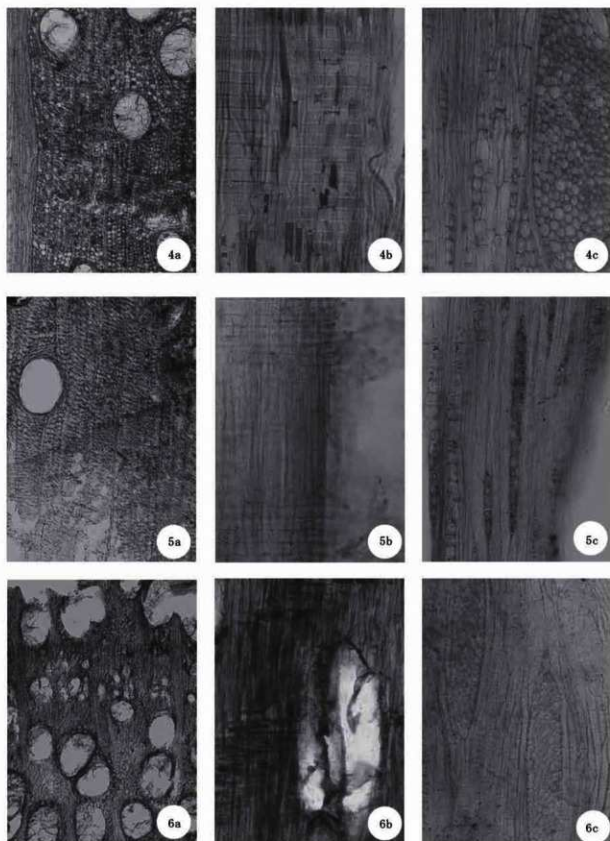
1. モミ属(報告No. W30)

2. ヒノキ(報告No. W1)

3. コナラ属コナラ亜属クスギ節(報告No. W10)

a: 木口、b: 柃目、c: 板目

図版7 多肥宮灰遺跡 光学顕微鏡写真(1)



4. コナラ属アカガシ亜属(報告No. W12)

5. スダジイ(報告No. W13)

6. ヤマグワ(報告No. W2)

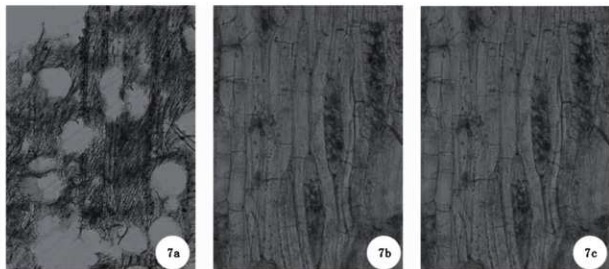
a:木口、b:柾目、c:板目

100 $\mu$ m:3a

100 $\mu$ m:1-2a,3b,c

100 $\mu$ m:1-2b,c

図版8 多肥宮尻遺跡 光学顕微鏡写真(2)



7. クスノキ属 (報告No. W22)

a:木口、b:板目、c:板目

100 $\mu$ m:a  
100 $\mu$ m:b,c

図版9 多肥宮尻遺跡 光学顕微鏡写真(3)



## 第3節 多肥宮尻遺跡出土木材の樹種同定結果

小林克也 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

香東川の扇状地上に位置する多肥宮尻遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。

## 2. 試料と方法

試料は、河川であるSR01とSR03から出土した木材9点である。発掘調査所見では、SR01は弥生時代前期～後期前半、SR03は古墳時代と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柀目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラルで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

## 3. 結果

同定の結果、針葉樹であるスギとヒノキ、アスナロの3分類群と、広葉樹であるコナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属と呼ぶ）とコナラ属クスギ節（以下、クスギ節と呼ぶ）の2分類群の、計5分類群がみられた。また、材の保存が悪く、広葉樹までの同定となった試料が1点みられた。同定結果を第5表に、一覧を第6表に示す。

樹種	時期 器種	弥生時代前期～後期前半				近世		合計
		板	板	板? (穴あり)	ミカン割材	柱	板	
スギ		1					1	2
ヒノキ			1					1
アスナロ				1				2
コナラ属アカガシ亜属		1	1					2
コナラ属クスギ節					1			1
広葉樹						1		1
	合計	2	2	1	1	1	1	9

第5表 多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don ヒノキ科 図版 10 1a-1c(No.133)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ2～15列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1分野に普通2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版 10 2a-2c(No.137)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個み

られる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(3) アスナロ *Thuajopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版 10 3a-3c(No.135)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ2～13列となる。分野壁孔は小型のヒノキ〜スギ型で、1分野に2～4個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また精油分が多く、耐朽性に優れている。

(4) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版 10 4a-4c(No.138)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシヤツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強韌で、耐水性があり、切削加工は困難である。

(5) コナラ属クスギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版 10 5a-5c(No.134)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クスギ節にはクスギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

(6) 広葉樹 Broadleaf-wood 図版 10 6b(No.140) 道管を有する広葉樹であるが、材組織の保存が悪いため他の特徴が確認できず、広葉樹までの同定に留めた。

#### 4. 考察

SR02から出土した縄文時代晩期～弥生時代前期（弥生時代後期の遺物も一部含む）の木製品では、楾にはアカガシ亜属が利用されていた。アカガシ亜属はとても堅硬な樹種である（伊東ほか、2011）。香川県域の木製品の集成では、弥生時代前期～中期の楾では、アカガシ亜属が多くみられる。

ミカン割材はクスギ節であった。クスギ節は堅硬な樹種であるが、軸方向に割裂しやすいという材質を持つため（伊東ほか、2011）、ミカン割材として利用されたと考えられる。

SR03から出土した弥生時代後期～古墳時代中期の板はスギであった。スギの材質は、真っ直ぐで加工性が高い（伊藤ほか、2011）。

ミカン割材はアスナロであった。真っ直ぐで加工性が高いアスナロを、ミカン割材として利用していたと考えられる。

SR06下層から出土した弥生時代中期の木製品では、板状木製品がスギ、円盤状木製品はアスナロであった。

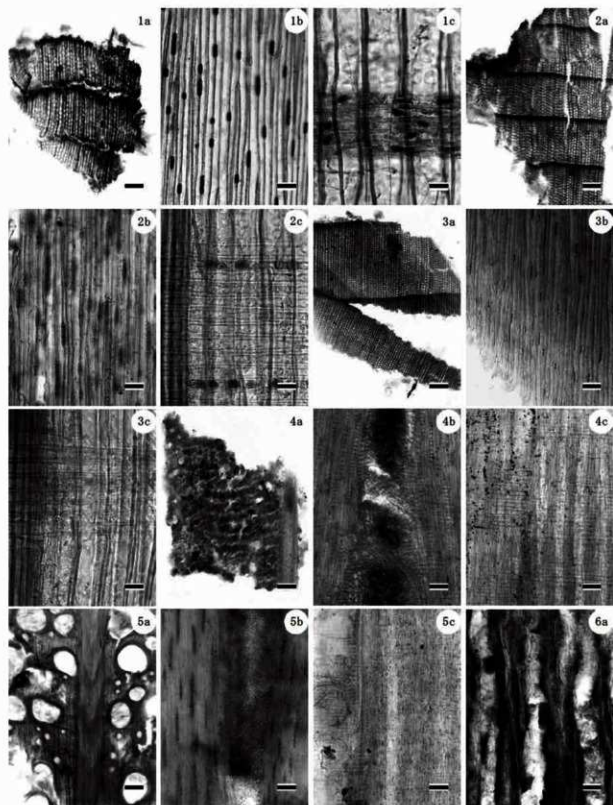
## 引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社。

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—，449p，海青社。

試料番号	根文番号	出土遺構	器種	樹種	木取り	時期
132	W7	SR02	広楸	コナラ属アカガシ亜属	柘目	縄文時代晩期～弥生時代前期・弥生時代後期
133	W23	SR06	板状木製品	スギ	柘目	弥生時代中期
134	W5	SR02	ミカン割材（端材）	コナラ属クスギ節	みかん割り	縄文時代晩期～弥生時代前期・弥生時代後期
135	W24	SR06	円盤状木製品	アスナロ	柘目	弥生時代中期
136	W19	SR03	ミカン割材（端材）	アスナロ	みかん割り	弥生時代後期～古墳時代中期
137	W33	SR06or08	板	ヒノキ	柘目	
138	W34	SR06or08	楯	コナラ属アカガシ亜属	柘目	
139	-	SR03	板	スギ	追柘目	弥生時代後期～古墳時代中期
140	-	SD1203	板	広葉樹	追柘目	

第6表 多肥宮尻遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧（平成28年度）



1a-1c. スギ(No. 133)、2a-2c. ヒノキ(No. 137)、3a-3c. アスナロ(No. 135)、4a-4c. コナラ属アカガシ亜属(No. 138)、5a-5c. コナラ属クスギ節(No. 134)、6b. 広葉樹(No. 140)

a: 横断面(スケール=250  $\mu\text{m}$ )、b: 接線断面(スケール=100  $\mu\text{m}$ )、c: 放射断面(スケール=1-3:25  $\mu\text{m}$ ・4、5:100  $\mu\text{m}$ )

## 第5章 まとめ

### 第1節 遺構の変遷

#### 1. 縄文時代晩期末～弥生時代前期前葉

遺跡東端付近の1区(H9)東端を南東から北西に流れるSR01を検出した。分ヶ池に南接する位置である。弥生時代前期及び弥生時代後期の遺物を含むSR02により消失する。

#### 2. 弥生時代前期～後期

遺跡東部の1区(H9)北部、1区(H10)南部、2区(H9)にわたって西から東へ流れるSR02を検出した。SR01と同じく分ヶ池に南接する位置である。埋土中からは、層位に関わらず摩滅を受けない状態の縄文時代晩期末～弥生時代前期前葉、弥生時代前期中葉、弥生時代後期前葉を主体とする遺物が混在して出土した。SR02からは鉄などの木製品が一定量出土している。

遺跡西部の低地である3区(H10)南部及び1・2区(H11)南部を流れるSR06を検出した。下層で弥生時代中期、その上層で若干量の弥生時代中期・後期、古墳時代後期の遺物が混在して出土した。

SR06の北側では、弥生時代前期末～中期初頭の遺構であるSK3202、SD2301、SD2302を検出した。

#### 3. 古墳時代後期

遺跡西部の低地である3区(H10)南部及び1・2区(H11)南部を流れるSR07を検出した。東半部ではSR06と概ねかさなるが、西半部分では北西へ方向を変える。

2区(H9)ではSR03の上面から掘削されたSD1205がある。SR03との区別がつきがたく、ほぼ断面観察のみで確認できたものであるが、概ねSR03と流路方向は同じと考えられる。6世紀初頭及び7世紀前半の遺物が出土した。

#### 4. 古代～中世

遺跡中央付近の3区(H10)で検出したSR04及び遺跡西部の低地である1・2区(H11)で検出したSR08がある。SR04は調査区中央付近から南から北へ流れる旧河道で、遺物は極めて少なかったが、SR06・07及びその上位の中世包含層から古代と考えられる。

SR08はSR07西半部分とほぼ河道を同じくする。遺物量は少なく、古代～中世の遺物を包含する。埋土中からは人形木製品が出土しており、付近で何らかの祭祀が行われたと考えられる。

遺跡東部の分ヶ池付近の低地と3区(H10)以西の旧河道群のある低地に挟まれた微高地3区(H9)、3区(H11)でピット、土坑、小規模の溝等を検出した。概ね11世紀後半～13世紀前半のものであるが、遺構密度は低く、具体的な集落の様相を掴むことはできなかった。

#### 5. 近世

3区(H10)で検出したSR05が挙げられる。SR04の西屑部を開削し、兩岸を石組で護岸する。石組みの推定線は現在の畦畔の位置と一致する。

その他、当該期の水路として1区(H11)西端付近、5区(H9)では暗渠SD3101、SD1502、SD1502

の西側ではSD1501, 3区（H10）ではSD2303・2304を検出した。

SR06～08北側の微高地（2区（H11））では不定形の土坑3基を検出した。規模や形状が類似し、互いに近接することから類似した性格を持つ遺構と考えられる。

3区（H9）, 3区（H11）に広がる微高地からも近世の土坑や溝を検出しているが、遺構密度は疎らである。

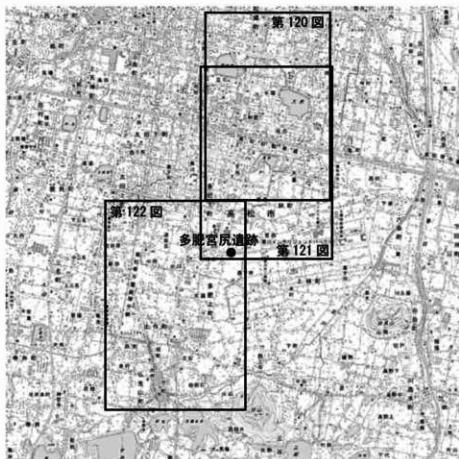
## 第2節 多肥宮尻遺跡の旧河道

### 検討の視点

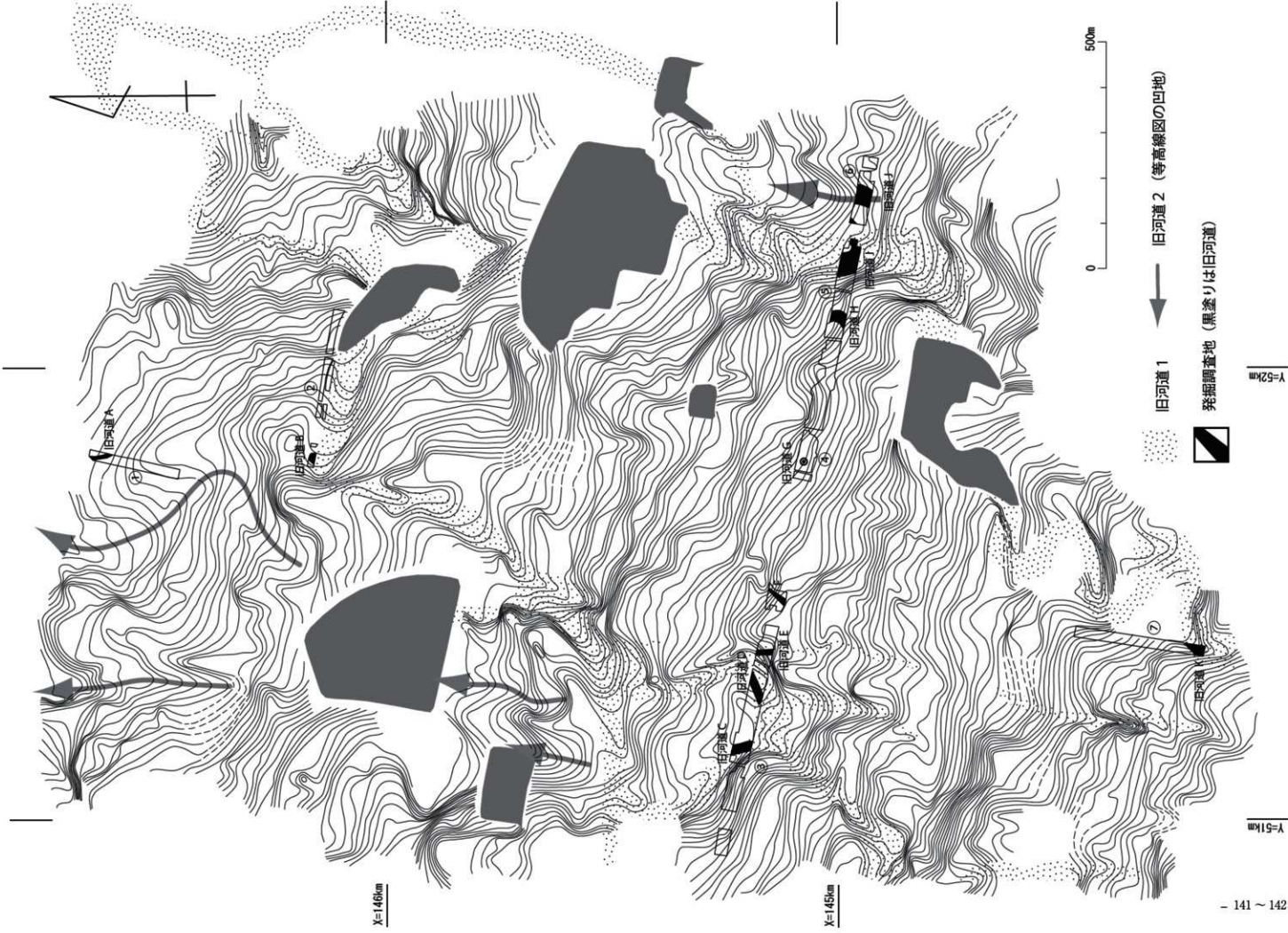
今回の調査区からは、SR01～08の8条の旧河道が検出されている。SR01は、川底付近に縄文時代晩期末から弥生時代前期の遺物を包含する。SR01を壊して流れるSR02は、弥生時代前期と後期の遺物が混在する状況で出土している。SR03は、SR02を壊して流れる。数点の木製品が出土しているが、土器の出土は僅少であり年代を押さえることができない。SR04は古代、SR05は近世と見られるが、遺物がほとんど包含されていない。

SR06～08は、遺物の包含状況から復原した。SR06は下層が弥生時代中期、その上層が若干の弥生中期とともに弥生時代後期、古墳時代後期の遺物が混在する。SR07は古墳時代後期、SR08は古代～中世の遺物を包含する。これらは、時代によって交錯する流路をとっていたものと考えられる。

多肥宮尻遺跡の旧河道は、調査着手前に現地表面に明瞭な凹地、つまり、旧河道と認識できることから検出されている。これは、多肥宮尻遺跡では、地表面を掘り込んで河道が形成されたのち、その掘り込み部分のなかで河道の流下・埋積が繰り返されたことを示している。したがって、一度形成された



第119図 地域概念図（国土地理院1/25,000地形図「高松南部」を縮小）



Y=51m

Y=52m

第 120 図 10cm 等高線図 (徳島県会館「太田第 2 土地区画整理事業」より作成)

旧河道が、のちの時代の人間生活（土地開発・水利・生活圏等）に何らかの影響を与えた可能性が考えられる。このことを検討する出発点として、以下にまとめてかえて、旧河道をできるだけ正確に把握することを旨とし、多肥宮尻遺跡の北側で実施された土地区画整理事業地内の10cm間隔の等高線図を作成し、これと空中写真判読を合わせて旧河道の抽出を行い、発掘調査データとの突合せを行った後、多肥宮尻遺跡周辺の旧河道の抽出を空中写真判読によって行った結果を記述する。

#### 太田第2土地区画整理事業地の10cm等高線図

多肥宮尻遺跡の北側に広がる太田・木太・林・多肥の4地区において総面積360haにわたる土地区画整理事業が行われている。この事業地内に、初期荘園図として名高い「弘福寺領讃岐国山田郡田図」の比定地が含まれていることから、昭和61年度に「太田地区周辺遺跡詳細分布調査」が実施され、以後、昭和62年度から平成3年度と平成6年度から10年度に国庫補助事業として「弘福寺領讃岐国山田郡田図調査事業」が実施された。これは、考古学・文献史学・地理学・民俗学等の関連分野の専門家による学際的な調査が行われた点が特色である。この調査によって、香東川、春日川・新川等が形成した高松平野の地形分類、太田第2土地区画整理事業地の微地形分類図が作成され、発掘調査地の堆積層の分析から環境変遷や土地利用の変遷が論じられている。

高橋学氏によって作成された微地形分類図は、水田や畑の標高をもとに作成した10cm間隔の等高線図と5000分の1程度の空中写真判読および現地踏査により作成されたものである。水田は灌排水のため地形に順応して造成されるという前提にたつと、水田の標高をもとに作成した等高線は、元の地形の微起伏を反映したものととなる。したがって、等高線に現れる微起伏から微地形が判断できることになる。また、空中写真を実視することにより地表面の微起伏が判読できるほか、白黒空中写真に現れる色調（濃淡）から、土地の含水状況の差が相対的に把握される（微高地は明るく、旧河道は暗い）ことにより微地形が判読できるのである。

高橋氏が作成した微地形分類図は、太田第2土地区画整理事業地およびその周辺部についてであるが、10cm等高線図は、「弘福寺領讃岐国山田郡田図」の北部比定地付近が公開されているほか、高松市教育委員会が実施した一般国道11号高松東道路建設関連の報告書において、遺跡周辺の等高線図が公開されている。このような等高線図は、なるべく広範囲に作成されることが望ましいため、今回、改めて区画整理事業全域の等高線図を作成した。なお、標高データは、高松市役所都市計画課が保管する昭和59年測量（昭和62年補正）の500分の1図面を利用させていただいた。なお、現地は事業が完了しており、かつての土地の起伏は改變されている。

第120図は、10cm等高線図による等高線のパターンと空中写真（1962年国土地理院撮影）判読により旧河道を判読し、既往の発掘調査地のうち検出された旧河道の概要を記入したものである。空中写真判読は、立体視による微起伏の判読と写真の濃淡による判読を行った。白黒空中写真においては相対的に湿った部分が暗く写り、乾いた部分が明るく写る傾向がある。第121図は、白黒空中写真において家屋などのノイズとなる部分を白抜きにしたあと、濃淡を強調したものである。後述する旧河道が暗い帯となっていることがわかる。なお、第121図は肉眼で見える以上の差を抽出することは難しい。

当地域の旧地形と遺跡内容との関係については、すでに高松教育委員会による検討がなされているが、ここでは判読された旧河道と発掘調査で検出された旧河道との関連について検討する。





第 121 図 白黒空中写真の濃度強調図（国土地理院 1948 撮影 M746-50 を加工）

天満・宮西遺跡では、微高地から弥生時代前期中頃の環濠、弥生時代後期の集落が検出されているほか、微高地北側の谷に弥生時代前期から後期にかけての多量の遺物を包含する旧河道 A（SR01）が検出されている。等高線図のパターンから遺跡の所在する微高地の範囲を推定することができるが、北側

の谷は等高線図の境界となるため判然としない。なお、遺跡東側は西北から東南方向へ等高線の間隔が密になるが、概ねこの付近が香東川扇状地の扇端となり、天満・宮西遺跡は、香東川扇状地の扇端付近に立地している。

境目・下西原遺跡では西端で弥生時代後期から中世の遺物を包含する旧河道Bが検出されている。流向については疑問点が残るものの、幅40m以上、確認面からの深さは0.9～1.0mを測る。弥生時代後期から中世の遺物を包含する（境目・下西原遺跡ではもう1条の旧河道を検出しているが、深さ0.1～0.15mと浅いものであり、流水を伴う河道であるかどうか疑わしいので検討対象からはずしている）。境目・下西原遺跡の旧河道は、10cm等高線図では野田池の東側を北上する凹地が、やや不明瞭となった後に東方向に方向を転ずる屈曲点付近に当たるものと思われる。

旧河道C～Eは、居石遺跡で検出された旧河道である。旧河道C（SR01）は、幅23m前後、深さ1.5mほどの規模で、縄文時代晩期、古墳時代前期、古代～中世の遺物が出土している。古墳時代前期の小型仿製鏡3面が河川から用水を取り入れる取水口付近で検出されている。旧河道Dは（SR02）は、幅20～22m、深さ1.2mの規模で、縄文時代晩期から古墳時代前期の遺物を含む層と古代以降の層に大別されるという。旧河道E（SR03）は、幅10m、深さ1mの規模で、縄文時代晩期、6世紀末～7世紀初頭以降の遺物を包含する層が確認されている。これらの旧河道は、10cm等高線図においても明瞭な凹地として把握することができる。

Fは、井手東Ⅱ遺跡で検出された溝状遺構（SD01）である。幅10m、深さ0.7mほどの規模で、下層から縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物が出土している。調査地内では不明瞭であるが、調査地北側の流路延長部分には明瞭な等高線の凹地が連続しており、現地表に痕跡を残す遺構と考えられる。

井手東Ⅰ遺跡からは、幅30～40mほどの旧河道Gが検出され、埋土中に6cmほどの厚さで喜界アカホヤ火山灰層が堆積している。この旧河道は等高線図においては明瞭に把握できない。

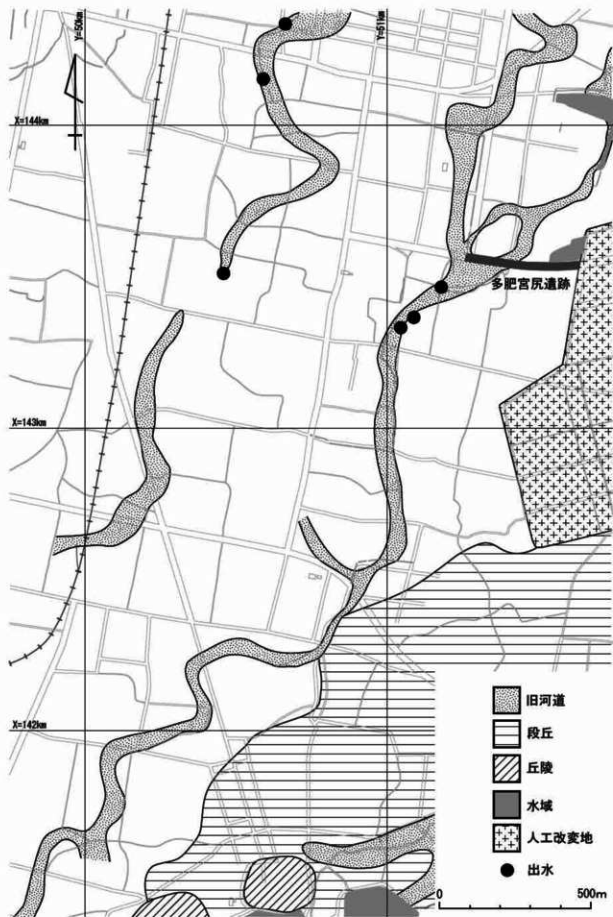
さこ・長池Ⅰ遺跡では、西端で幅約20m、川底に縄文時代晩期～弥生時代前期を包含し、弥生時代前期から中期にかけて埋没した旧河道H（SR02）、東部で最深部に弥生時代中期の遺物を包含する幅150mに及ぶ河道帯（I）（SR01）が検出されている。

さこ・松ノ木遺跡では、西端でさこ・長池Ⅰ遺跡の旧河道（SR01）の続き（SR03）と、中央部で幅60m弱、深さ3.5mで、弥生時代後期の遺物を包含する旧河道Jが検出されている。

凹原遺跡では、南端で旧河道Kが一部検出されている。

以上、発掘調査で検出された旧河道と現地表に認められる凹地との関係を見ると、両者にかかなりの整合性があることが指摘できる。旧河道Aは、等高線図の作成範囲の端にあたるため検討できないが、旧河道B、C、D、Eは現地表の凹地と整合する。また溝状遺構と報告されるFも、北側に凹地が発見している。アカホヤ火山灰層が検出された旧河道Gは、暗示的な凹地として把握できるが不明瞭である。また、旧河道Hも現地表では明瞭に把握できない。幅150mに及ぶ旧河道Iは、東側の旧河道Jが隣接するため、空中写真判読で抽出する凹地と等高線図の凹地とが複雑な関係になる。さこ・松ノ木遺跡で検出された旧河道Kは空中写真判読では抽出が難しい。

このほか、等高線図では凹地の連続として把握できるものの、空中写真判読では旧河道と判断することが困難なものを矢印で示している。このように、旧河道の認定は、不確実性がついて回るため、どのような方法で行ったかを明示するとともに、等高線図などの判断の根拠を示すことは意味のあることと



第 122 図 多肥宮尻遺跡の旧河道 (基図は国土地理院基礎地図情報を使用)

考える。

#### 多肥宮尻遺跡付近の旧河道

第122図は、太田第2土地区画整理事業地内の空中写真判読の結果を参考にしながら、多肥宮尻遺跡付近の旧河道を空中写真判読で抽出したものである。この図から明らかのように、北流してきた河道が、3条に分岐する地点に多肥宮尻遺跡が位置している。このことが、調査区の河道の状況を複雑にしている要因と考えられる。なお、ため池（分ヶ池）に南接する位置で検出したSR02およびSR01は、現地表では痕跡を把握することができない。また、図示していないが、多肥宮尻遺跡で検出した旧河道は、高松市香川町大野付近まで追跡することができる。

このほか、多肥宮尻遺跡付近の旧河道の平面形を観察すると、著しく蛇行しているものがある。一般に扇状地上の河道は直線状、その下流側にひろがる自然堤防帯（中間地帯）の河道は蛇行することが知られている。これは、砂礫質の地盤では直線状、砂やシルトが卓越する地盤では蛇行すると言い換えることができる。つまり、これらの旧河道が流下した年代は、扇状地の形成が終了し、その上面を細粒堆積物が覆った時代である可能性が考えられる。高橋氏は、瀬戸内海沿岸の臨海平野の縄文海進最盛期以降における微地形環境の変化を検討したなかで、縄文時代後期から晩期の間に、扇状地帯および三角州帯の一部において自然堤防を構成する砂・シルトが堆積することを指摘している。香東川扇状地上の特徴的な平面形をもつ河道の形成要因と関係する可能性がある。

第122図には、主要な出水も図示している。出水とは香川県固有の名称で、井壺を掘って用水を湧出させ用水路で下流を灌漑する施設である。これらの所在地は旧河道と密接な位置関係にある。個々の出水の歴史性については、近世以前は不明瞭となるが、遺物のうへでは縄文時代晩期以降、地表面を掘り込んで河道が流れ、その河道が固定されて古代頃まで機能していたことを考えると、出水による灌漑も古くに遡る可能性がある。多肥宮尻遺跡の旧河道では、比較的残りの良い遺物が時期幅をもって混在する様相が見られたが、これは、廃川化した後、湧水があったために長期間にわたり凹地として残されたか、浚渫によって用水維持が図られていた可能性を考えることができる。今回の調査では、この点を明らかにすることはできなかったが、今後の調査において留意すべき視点であろう。

#### 参考文献

- 川畑聰 2002 「天満・宮西遺跡～集落・水田層～太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第六冊」高松市教育委員会
- 山本英之・中西克也編 1998 「境目・下西原遺跡 太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」高松市教育委員会
- 藤井雄三・山元敏裕 1995 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第七冊 居石遺跡」高松市教育委員会
- 山本英之・山元敏裕・中西克也 1995 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五冊 井手東Ⅱ遺跡」高松市教育委員会
- 山本英之・山元敏裕・中西克也 1995 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四冊 井手東Ⅰ遺跡」高松市教育委員会
- 山本英之・山元敏裕・中西克也 1994 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三冊 さこ・長池Ⅱ遺跡」高松市教育委員会
- 藤井雄三・山本英之・山元敏裕・中西克也 1993 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第一冊 さこ・長池Ⅰ遺跡」高松市教育委員会
- 山本英之・山元敏裕・中西克也 1994 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二冊 さこ・松ノ木遺跡」高松市教育委員会
- 川畑聰 2001 「太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五冊 凹原遺跡」高松市教育委員会
- 山本英之ほか 1992 「讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田園調査報告書」高松市教育委員会
- 高橋学 1995 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」日下雅義編「古代の環境と考古学」古今書院



## 觀察表



第7表 土器観察表(1)

観 察 番 号	遺跡名	所在寺	種類	器種	調整		色調		粘土				法量(cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存率	備考	
					外面	内面	外面	内面	石英・ 長石	赤色 粒	角四 石	雲母						砂粒
1	SK2302		弥生土器	底部	マメツ	ヘラミガキ	75YR6/6程 におい黄橙	10YR5/3 におい黄橙	中・並				(10.9)			2/8		
2	SD2301		弥生土器	壺	マメツ・敷付凸帯・ 刷込み	マメツ	10YR7/4 におい黄橙	10YR7/4 におい黄橙	粗・多					(19.0)		2/8		
3	SD2301		弥生土器	壺	土子・刷込み・ヘ ラ柄き比籠7条以上	マメツ	10YR7/4 におい黄橙	10YR7/4 におい黄橙	粗・並					(25.8)		1/8未調		
4	SD2301		弥生土器	壺	土子・ヘラ柄き比 籠10条	土子・瓶ナデ・指 柄	10YR6/4 におい黄橙	7.5YR6/4 におい黄橙	中・多					(24.2)		1/8未調		
5	SD2301		弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラ柄 き比籠10条以上	マメツ・ヘラミガ キ	75YR7/6程	7.5YR7/6程	中・並					(17.8)		1/8		
6	SD2301		弥生土器	壺	ヘラ柄き比籠	マメツ	75YR6/6程	7.5YR6/6程	中・並					(18.0)		1/8未調		
7	SD2301		弥生土器	壺	ヘラ柄き比籠10条	マメツ	7.5YR6/4 におい黄橙	10YR7/3 におい黄橙	細・少							1/8未調		
8	SD2301		弥生土器	壺	土子・刷込み・ヘ ラ柄き比籠8条以上	マメツ	10YR4/2 灰 黄橙	5YR6/6程	中・少							1/8未調		
9	SD2301		弥生土器	壺	土子・マメツ・刷 込み・ヘラ柄き比籠 5条	マメツ	10YR7/3 におい黄橙	10YR7/3 におい黄橙	細・少							1/8未調		
10	SD2301		弥生土器	壺	ヨコナデ・瓶ナデ	マメツ・瓶ナデ	7.5YR6/6程 灰黄	7.5YR6/6程	粗・並							2/8		
11	SD1205		弥生土器	壺	ヨコナデ・凹線 5条	マメツ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/3 成黄	中・多					(19.8)		2/8		
12	SD1205		弥生土器	鉢	指押え・瓶ナデ・ 刷込み	マメツ・瓶ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	粗・並							8/8		
13	SD1205		土師器	高杯	指押え・ナデ・瓶 ナデ	マメツ	2.5Y5/1 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	粗・並							4/8		
14	SD1205		土師器	高杯	瓶ナデ	瓶ナデ	10YR7/3 におい黄橙	10YR7/3 におい黄橙								4/8		
15	SD1205		土師器	壺	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・敷付凸帯・ マメツ	ヨコナデ・マメツ	2.5Y8/3 成黄	2.5Y8/3 成黄	中・並						(16.1)	2/8		
16	SD1205		土師器	壺	マメツ・ヘラミガ キ	マメツ・ナデ	10YR7/2 におい黄橙	10YR7/2 におい黄橙	細・少							6/8		
17	SD1205		土師器	壺	ヨコナデ・ハケ目 身	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	2.5Y7/2 成黄	2.5Y5/1 成黄	中・少						(16.0)	2/8		
18	SD1205		土師器	壺	ヘラミガキ・ハテ 目	瓶ナデ	10YR5/3 におい黄橙	10YR7/4 におい黄橙	粗・少						(15.9)	2/8		
19	SD1205		須恵器	軒産	同転ナデ・同転へ ラカスリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	粗・少						(13.1)	2/8		
20	SD1205		須恵器	軒産	同転ナデ・同転へ ラカスリ	同転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	10YR7/3 におい黄橙	中・少						(13.0)	4.4		
21	SD1205		須恵器	軒産	同転ナデ・同転へ ラカスリ	同転ナデ	N5/灰	5Y5/1 灰	粗・少						(11.6)	4.5		
22	SD1205		須恵器	軒産	同転ナデ・同転へ ラカスリ	同転ナデ	N4/灰	N6/灰	中・少						(12.2)	4.6	5/8	
23	SD1205		須恵器	軒産	同転ナデ・同転へ ラカスリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・少						(12.2)	2/8		



第8表 土器観察表(2)

編年 層文 番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整			色調			粘土				残存率	備考	
					外面	内面	外部	内部	石美・ 長石	赤色 粒	角四 石	雲母	砂粒	口径 長さ			胎高 (cm)
24	SD1205		須恵器	高杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰								3/8	
25	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	N3/暗灰	N6/灰								5/8	
26	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ	同転ナデ	75Y5/1灰	75Y5/1灰								1/8未調	
27	SD1205		須恵器	高杯	同転ナデ・透かし 3方所	同転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白								4/8	
28	SD1205		須恵器	蓋	自然垂・同転ナデ	自然輪・同転ナデ	5Y5/1灰	5Y5/1灰								2/8	
29	SD1205		須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N3/暗灰	10Y5Y/1灰								1/8	
30	SD1205		須恵器	蓋	同転ナデ・裏状文・ 透かし	同転ナデ・指押え N4/灰	N4/灰	N4/灰								2/8	
31	SD1205		弥生土器	蓋	同転ナデ・外 面に保形	同転ナデ・外 面に保形	10YR3/1 灰	10YR6/2 灰								1/8	
32	SD1205		土師器	碗	マメツ・ヘラミダ キ	マメツ・ヘラミダ キ	10YR6/2 灰	10YR6/2 灰								1/8	
33	SD1205		土師器	高杯	ヘラミダキ	同転ナデ→ヘラミ ダキ	2.5Y5/1 黄 灰	2.5Y5/1 黄 灰								4/8	
34	SD1205		土師器	蓋	同転ナデ→ヘラミ ダキ	同転ナデ・指押え・ 灰	2.5Y6/2 灰	2.5Y6/1 灰								2/8	
35	SD1205		土師器	蓋	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	10YR6/2 灰	10YR6/2 灰								1/8未調	
36	SD1205		土師器	蓋	マメツ・ヨコナデ	マメツ・指押え	2.5Y8/2 灰白	2.5Y6/2 灰								3/8	
37	SD1205		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰								2/8	
38	SD1205		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰								6/8	
39	SD1205		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白								2/8	
40	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰								1/8	
41	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	5Y6/1灰	N6/灰								4/8	
42	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰								1/8	
43	SD1205		須恵器	蓋杯?	同転ナデ・ラケズリ・ (へラミダキ記号)	同転ナデ	N7/灰白	N6/灰								8/8	
44	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	2.5Y6/2 灰	2.5Y7/1 灰白								1/8	
45	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y8/1 灰	7.5Y8/1 灰								2/8	
46	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	7.5Y5/1灰	7.5Y5/2 灰								1/8未調	
47	SD1205		須恵器	蓋杯	同転ナデ・回転へ ラケズリ	同転ナデ	5Y6/1灰	5Y6/1灰								2/8	
48	SD1205		須恵器	高杯	同転ナデ・ガキ目	同転ナデ	10Y5/1灰	10Y5/1灰								1/8	

第9表 土器観察表(3)

標本番号	遺跡名	廟名	機軸	器種	調整		色調		粘土				口径 長さ (cm)	底径 (cm) 厚 (cm)	その 底径 (cm)	現存率	備考		
					外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色 土	角四 石	炭 屑						砂 粒	
40	SD1205	須恵器	高杯	同転ナデ・遺小 4方所	同転ナデ	5Y5/1灰	5Y5/1灰								(8.2)		2/8		
49	SD1206	須恵器	壺	同転ナデ	同転ナデ	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白								(16.6)		1/8未調		
51	SD1205	須恵器	壺	同転ナデ	同転ナデ・指押え	N4/灰	N5/灰								(15.0)		1/8		
52	SD1205	須恵器	壺	同転ナデ・カキ目	同転ナデ	N5/灰	N4/灰								(20.0)		4/8		
53	SD1205	須恵器	壺	同転ナデ・四編目 裏1,カキ目	同転ナデ	10Y5/1灰	10Y5/1灰								(8.1)		2/8		
54	SD1205	須恵器	壺	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰								(22.1)		1/8		
55	SP1352	土師質 土器	皿	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白								(8.8)	1.2	(6.6)	4/8	
56	SP1352	土師質 土器	皿	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白								8.8	1.6	5.3	5/8	
57	SP1352	土師質 土器	皿	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白								8.4	1.3	7.0	8/8	
58	SP1352	土師質 土器	皿	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄								(8.3)	1.6	(6.4)	4/8	
59	SP1352	黒色土 器A類	椀	ナデ・マメツ・指 押え・ヘラミガキ	同転ナデ	25Y8/2 灰白	5Y4/1灰								(14.8)		1/8		
60	SP1352	黒色土 器A類	椀	マメツ・ヘラミガ キ	マメツ・ヘラミガ キ	25Y8/2 灰白	5Y4/1灰								(13.3)		2/8		
61	SP1374	土師質 土器	皿	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白								9.0	1.8	5.0	8/8	
62	SP1374	土師質 土器	皿	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白								8.9	1.4	7.0	5/8	
63	SP1374	土師質 土器	杯	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	10Y8/3 灰黄	10Y8/3 灰黄								(8.3)		2/8		
64	SP1374	土師質 土器	椀	マメツ・回転ナデ	マメツ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白								(14.0)		1/8		
65	SP1374	瓦器	椀	同転ナデ・指押え	マメツ	10Y8/4 灰白	5Y8/1灰白								(14.0)		1/8		
66	SP1382	土師質 土器	椀	ナデ	マメツ・ヘラミガ キ	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白										1/8		
67	SP3301	須恵器	椀	同転ナデ	ヘラミガキ	5Y8/1灰白 灰黄	10Y8/2 灰黄								(6.0)		2/8		
68	SP3367	黒色土 器A類	椀	ヘラミガキ・マメ ツ	ヘラミガキ	25Y8/2 灰白	N2/黒								(16.0)		1/8		
69	SP3372	黒色土 器A類	杯	同転ナデ・回転へ 子切り	同転ナデ	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白								(9.0)		2/8		
70	SK1304	黒色土 器A類	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	N3/黒灰	5Y8/1灰白・ N3/黒灰								(16.2)		1/8		
71	SK1307	須恵器	壺	目コナデ・タナキ 目・ヨコナデ	目コナデ	N6/灰	75Y6/1灰								(32.6)		1/8		
72	SK3303	黒色土 器A類	壺	マメツ	ヘラミガキ	25Y8/3 灰黄	N2/黒								(16.0)		1/8		
73	SD1101	土師質 土器	椀	マメツ	マメツ・ヘラミガ キ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白								(7.0)		1/8		
74	SD1201	須恵器	皿	同転ナデ・ヘラ切 り	同転ナデ	25Y6/1 灰黄	25Y6/1 灰黄								(13.8)		1/8未調		

第10表 土器調査表(4)

編年番号	遺構名	層位等	種類	器種	調査		色調			粘土				残存率	備考			
					外面	内面	外部	内部	石灰・長石	赤色	角閃石	雲母	砂粒			口径 長さ	器高 幅	底径 厚
75	SD1202	土師質土器	土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色					中・少	84	90	7.0	7/8	
76	SD1202	土師質土器	土師質土器	瓶	ナデ・ヘラミガキ・回転ナデ・ナデラ切り	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少			(6.4)	6/8	
77	SD1202	須恵器	須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10Y5/1灰	10Y5/1灰					細・少			(8.0)	2/8	
78	SD1202	黒色土器A類	黒色土器A類	瓶	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	5Y2/1黒					細・少			6.6	8/8	
79	SD1203	土師器	土師器	壺	指押え・ナデ	指押え・ナデ・マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色					中・多				1.8未満	
80	SD1203	黒色土器A類	黒色土器A類	瓶	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	5Y3/1 オリーブ黒	5Y3/1 オリーブ黒					細・少	(13.9)			1/8	
81	SD0301	土師質土器	土師質土器	皿	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3 黄褐色	10YR8/3 黄褐色					細・少	94	1.5	6.6	7/8	
82	SD0301	土師質土器	土師質土器	杯	回転ナデ・マメツ	回転ナデ・マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	(13.0)			2/8	
83	SD0301	瓦器	瓦器	瓶	指押え・ナデ	ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					細・少			4.4	8/8	
84	SD0301	瓦器	瓦器	瓦	マメツ	マメツ・ヘラミガキ	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白					細・少			5.1	3/8	
85	SD0302	瓦器	瓦器	瓦	指押え→ナデ	ナデ・マメツ・ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					細・少	90	2.2	7.1	7/8	
86	SD0303	土師質土器	土師質土器	杯	回転ヘラ切り・マメツ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・多			(8.0)	2/8	
87	SD0303	黒色土器A類	黒色土器A類	瓶	マメツ	ヘラミガキ	10YR8/4 黄褐色	N2/黒					細・少	(14.4)			1.8未満	
88	SD0304	土師質土器	土師質土器	杯	ナデ・マメツ・指押え→ナデ	マメツ・ナデ	2.5Y7/1 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					中・少	(14.8)			1.8未満	
89	SD0305	土師質土器	土師質土器	杯	マメツ・ナデ	マメツ・ナデ	10YR8/3 黄褐色	10YR8/3 黄褐色					細・少				1.8未満	
90	SK1303	陶器	陶器	瓶	回転ナデ・指押え・指押え→ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ→指押え	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少			(3.0)	4/8	
91	SK0303	弥生土器	弥生土器	壺	瓶ナデ→ヘラミガキ	瓶ナデ→指押え	7.5YR4/2 灰黄	7.5YR4/2 灰黄					細・少			7.8	1/8	
92	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	深鉢	ナデ・刷目文・ナデ・ヘラケズリ	ナデ・ヘラケズリ	2.5Y6/3 黄褐色	2.5Y5/4 黄褐色					細・少	(26.9)			1/8	
93	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	深鉢	刷目文・ヘラケズリ	刷目文→ナデ・ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色					中・少				1.8未満	94と同じ
94	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	深鉢	ヘラケズリ	ヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	10YR6/2 灰黄					細・少				1.8未満	95と同じ
95	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	深鉢	刷目文・貝殻文	ヘラケズリ	2.5Y5/2 黄褐色	2.5Y6/2 黄褐色					細・少				1.8未満	
96	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	深鉢	ヘラケズリ→ヘラミガキ	日コナデ・刷目ミガキ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄					細・少				1.8未満	
97	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	10YR5/1 黄褐色	10YR5/1 黄褐色					中・少			7.1	8/8	

第11表 土器総覧表(5)

編年番号	遺跡名	廟堂寺	種類	器種	調査		色		新土				法室(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	現存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石灰・長石	赤色粒	角四石	雲母					
98	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	壺	ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	ウラムミガキ・マメ	N2/黒	N2/黒	細・少				(7.7)			2/8	
99	SR01	最下層(混小石砂質土)	縄文土器	浅鉢	ヨコナデ・ヨコナデ・ヘラミガキ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	25Y4/1 黄灰	25Y4/1 黄灰	中・少	細・少						1/8未調	
100	SR01	最下層(混小石砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	ヘラミガキ	25Y6/2 灰黄	25Y6/2 灰黄	中・少	中・少			(17.8)			2/8	
101	SR01	最下層(混小石砂質土)	弥生土器	壺	横ナデ・ナデ	ナデ	10YR3/1 黒	10YR3/1 黒	中・少	細・少			(6.0)			1/8	
102	SR02	グランドF(砂質土)	縄文土器	深鉢	ヨコナデ・黒目・ヘラミガキ	ヘラミガキ	25Y5/2 黄灰	25Y5/1 黄灰	中・少	細・少							
103	SR02	グランドF(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	ヘラミガキ・ヘラ目・ヘラ指文	10YR7/3 灰黄	10YR7/4 灰黄	粗・多				(18.8)			2/8	
104	SR02	グランドF(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・黒目・ヘラミガキ	ヨコナデ・横ナデ	10YR6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄	中・少							1/8未調	
105	SR02	グランドF(砂質土)	弥生土器	鉢	ヨコナデ・横ナデ・ナデ	ヨコナデ・横ナデ・ナデ	10YR6/3 灰黄	10YR6/2 灰黄	中・少				(28.8)			1/8	
106	SR02	グランドF(砂質土)	弥生土器	壺	ナデ・横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	10YR6/2 灰黄	N2/黒灰	中・少	細・少				4.6		8/8	
107	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメ	ヨコナデ・横ナデ・ナデ	10YR6/3 灰黄	10YR6/3 灰黄	粗・少				14.9			6/8	
108	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・横ナデ・ナデ	ヨコナデ・横ナデ・ナデ	10YR6/3 灰黄	10YR6/3 灰黄	粗・少				(9.8)			2/8	香東川下流粘土
109	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR7/3 灰黄	10YR6/3 灰黄	粗・少				(29.3)			1/8	香東川下流粘土
110	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	ヘラミガキ	10YR5/3 灰黄	10YR5/3 灰黄	中・少	細・並				7.1		5/8	
111	SR02	グランドC(砂質土)	縄文土器	深鉢	ヨコナデ・黒目・ヘラミガキ	ヨコナデ	10YR7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・少	細・少			(25.2)			1/8	外圍風行着
112	SR02	グランドC(砂質土)	縄文土器	深鉢	ヨコナデ・黒目・ヘラミガキ	ヨコナデ	10YR6/3 灰黄	10YR5/2 灰黄	中・少	細・少						1/8未調	
113	SR02	グランドC(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	横ナデ・ナデ	25Y5/2 灰黄	25Y5/1 灰黄	中・並	中・少						1/8未調	
114	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	ヘラミガキ	25Y8/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・並	中・並						1/8未調	
115	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	マメツ	25Y8/2 灰黄	25Y8/2 灰黄	中・多	中・少						1/8未調	
116	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・紋文・ヘラ目・ヘラ指文	マメツ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・多	中・多						1/8未調	
117	SR02	グランドE(砂質土)	弥生土器	鉢	ヨコナデ・横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	10YR8/3 灰黄	10YR8/3 灰黄	粗・多	粗・多			9.9	9.2	5.4	5/8	





第14表 土器調査表(8)

編年番号	遺構名	層位等	種類	器種	高台		色澤		粘土				残存率	備考		
					外面	内面	外部	内部	石灰、中石	赤色、紋	角四石	番号			砂粒	口径長さ
159	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	ヨコナデ・マメツ・ヘラミガキ	10YR5.6/黄褐色	10YR5.6/黄褐色	中・並	中・少	細・少	26.7		6/8		
160	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	10YR6.2/灰青褐色	10YR6.2/灰青褐色	中・多	中・少	細・少	(19.9)		1/8	香東川下流粘土	
161	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	ヨコナデ・ヘラミガキ・マメツ	2.5Y5.3/黄褐色	2.5Y5.3/黄褐色	中・並	中・少	細・少	19.1		8/8	香東川下流粘土	
162	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR6.3/黄褐色	10YR6.3/黄褐色	粗・並	中・少	細・少	(16.6)		2/8	香東川下流粘土	
163	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	10YR6.3/黄褐色	10YR6.3/黄褐色	粗・並	中・少	細・少	(17.7)		2/8	香東川下流粘土	
164	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ハケ目・ヨコナデ・ヘラミガキ	ハケ目・ヨコナデ・ヘラミガキ	2.5Y6.2/黄褐色	2.5Y6.2/黄褐色	中・並	中・少	細・並	13.6		8/8	香東川下流粘土	
165	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	10YR7.3/黄褐色	10YR7.3/黄褐色	中・並	中・少	細・並	(18.4)		2/8	香東川下流粘土	
166	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR6.3/黄褐色	10YR6.3/黄褐色	中・少	中・少	細・少	13.6		6/8	香東川下流粘土	
167	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ハケ目	2.5Y7.3/黄褐色	2.5Y7.3/黄褐色	中・並	中・少	細・少			1/8未調		
168	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ナデ・指押え・ヘラミガキ	ナデ・指押え・ヘラミガキ	2.5Y7.3/黄褐色	2.5Y7.3/黄褐色	中・並	中・少	細・少	(12.6)	8.0	4.8	5/8	香東川下流粘土
169	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	製土器	-	ヘラミガキ・ナデ	指押え・ナデ	2.5Y7.3/黄褐色	2.5Y7.3/黄褐色	中・多				3.7	7/8		
170	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	製土器	-	ヘラミガキ・ナデ	ナデ	2.5Y7.3/黄褐色	2.5Y6.3/黄褐色	中・並				4.9	7/8	香東川下流粘土	
171	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	製土器	深鉢	ナデ・額目突帯・ヘラミガキ	額ナデ・ナデ	2.5Y8.2/黄褐色	2.5Y8.2/黄褐色	粗・少	粗・少	細・少		4.9	8/8		
172	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	縄文土器	壺	額目・ヘラミガキ	額目・ヘラミガキ	2.5Y5.1/黄褐色	2.5Y5.2/黄褐色	中・並	中・並	細・少			1/8未調		
173	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	額目・ヘラミガキ	額目・ヘラミガキ	10YR6.3/黄褐色	10YR6.3/黄褐色	粗・少	粗・少	細・少	(20.8)		1/8未調		
174	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミガキ・ナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ・ナデ	10YR7.3/黄褐色	10YR7.3/黄褐色	中・多	中・多		0.2		2/8		
175	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	額目突帯・ヘラミガキ	額目突帯・ヘラミガキ	10YR4.2/黄褐色	10YR4.2/黄褐色	粗・多	粗・多				3/8		
176	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	額目突帯・ヘラミガキ	額目突帯・ヘラミガキ	2.5Y7.3/黄褐色	10YR7.2/黄褐色	中・並	中・並				2/8		
177	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナデ・額目突帯・ヘラミガキ	ナデ	10YR6.2/黄褐色	10YR5.2/黄褐色	中・並	中・並				2/8		
178	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガキ	マメツ・ヘラミガキ	10YR6.2/黄褐色	10YR6.2/黄褐色	中・並	中・並				1/8未調		
179	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	額目突帯・ヘラミガキ	額目突帯・ヘラミガキ	10YR6.3/黄褐色	10YR6.3/黄褐色	中・多	中・多				1/8未調		
180	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	額目突帯・ヘラミガキ	額目突帯・ヘラミガキ	10YR6.3/黄褐色	10YR6.3/黄褐色	粗・多	粗・多				1/8未調		
181	SR02	グリーツドF(黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナデ・ヘラミガキ	ナデ	2.5Y4.1/黄褐色	7.5Y2.1/黒	中・多	中・多		(22.0)		1/8		

第15表 土器調査表(9)

編年番号	遺構名	所在寺	種類	器種	調査		色質		新土				法基(cm)	口径 長さ	底径 (cm)	厚 (cm)	その他 備	残存率	備考
					外面	内面	外面	内面	石灰・ 長石	赤色 粒	角四 石	雲母							
182	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ナデ・ハケ目・ヘラ目・縦溝(4条)	ヨコナデ・ナデ	HOY65/2 灰質	HOY66/3 灰質	中・並	中・並			(21.6)		1/8				
183	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	横目・縦溝(4条)	ナデ	HOY65/2 灰質	25Y7/2 灰質	中・少	中・少			(17.6)		1/8				
184	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ナデ・横目・ヘラ目・縦溝(4条)	ナデ	25Y8.2 灰白	25Y8.2 灰白	中・並	中・並					1/8未調				
185	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・横目・ヘラ目・縦溝(4条)	ヨコナデ・指押え・ナデ	HOY65.2 灰質	HOY67/3 灰質	中・多	中・多				(20.0)	1/8				
186	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ナデ・横目・ヘラ目・縦溝(4条)	ナデ	HOY64.2 灰質	HOY67/3 灰質	中・並	中・並					1/8				
187	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・ハケ目・縦溝(4条)	ヨコナデ・横ナデ	25Y8.3 灰質	25Y8.3 灰質	中・並	中・並			18.9		6/8				
188	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ナデ・マメツ・横目・縦溝(4条)	ナデ	HOY67/3 灰質	HOY67/2 灰質	中・多	中・多			7.4		3/8				
189	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ナデ	横ナデ	HOY64/1 灰質	HOY67/3 灰質	中・並	中・並					3/8				
190	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	高杯	ナデ・ヘラ目・縦溝(4条)	ナデ・横ナデ	HOY67/3 灰質	25Y7/3 灰質	中・並	中・並			(19.0)	13.9	6/3				
191	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	高杯	横ナデ	横ナデ	HOY67/3 灰質	HOY67/3 灰質	中・並	中・並					6/3				
192	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	鉢	ハケ目	ナデ	25Y7.2 灰質	25Y7.2 灰質	粗・多	粗・多			(5.9)		5/8				
193	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	マメツ・ナデ	マメツ・指押え	HOY66.4 灰質	HOY66.4 灰質	細・少	細・少					3/8				
194	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ・ハケ目・マメツ	HOY66.3 灰質	HOY66.3 灰質	中・並	中・並			(13.0)		3/8				
195	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコナデ	HOY66.3 灰質	HOY66.3 灰質	中・並	中・並			(15.6)		3/8				
196	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え	HOY66.4 灰質	HOY66.4 灰質	中・少	中・少			(11.7)		1/8				
197	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・ハケ目・ヘラ目	ヨコナデ・指押え・ナデ	HOY66.3 灰質	HOY66.3 灰質	中・並	中・並			(16.6)		3/8				
198	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・マメツ・ハケ目	ヨコナデ・マメツ・指押え	HOY66.3 灰質	HOY66.3 灰質	中・並	中・並			(13.2)		2/8				
199	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・ハケ目・ヘラ目	ヨコナデ・ハケ目・指押え	HOY66.3 灰質	HOY66.3 灰質	細・並	細・並			(14.6)		1/8				
200	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・指押え・ヘラ目	ヨコナデ・指押え・ヘラ目	HOY66.4 灰質	HOY66.4 灰質	細・少	細・少			(12.9)		2/8				
201	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	釜	ヨコナデ・ハケ目・ヘラ目	ヨコナデ・指押え・ヘラ目	HOY65.3 灰質	HOY65.2 灰質	中・並	中・並			(17.0)		2/8				
202	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラ目	ヨコナデ・ヘラ目	HOY66.3 灰質	HOY66.3 灰質	中・並	中・並			(28.9)		1/8				
203	SR02	グリュッドE(黒色粘土器)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・分割ヘラ目	ヨコナデ	25Y6.5 灰質	25Y6.5 灰質	中・並	中・並			(19.4)		4/8				



第16表 土器観察表(10)

観文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調査		色調		粘土				残存率	備考	
					外面	内面	外部	内部	石、長石	赤色粒	角石	砂粒			口径長さ
204	SR02	グリーンドE(黒色粘質土)	製土器	-	ヘラクゼズリ	指押え・ナデ	25Y5.3 黄褐色	25Y5.3 黄褐色	中・並	中・並			5.3	8/8	
205	SR02	グリーンドE(黒色粘質土)	製土器	-	板ナデ・ナデ	ナデ	25Y4/1 黄褐色	25Y4/1 黄褐色	中・少	中・少			4.2	7/8	
206	SR02	グリーンドE(黒色粘質土)	須臾器	杯蓋	白磁・ヘラクゼズリ	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白	細・少	細・少	(12.1)			2/8	
207	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	黒目帯文・マメ	マメツ	10YR8/2 灰白	10Y4/1 灰	粗・多	粗・多				1/8未調	
208	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ヨコナデ、貼付文、ヘラクゼス、ハケ目(マメツ)	指押え(マメツ)	10YR6/3 灰白	10YR8/1 灰白	粗・並	中・少				1/8未調	
209	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	アラス、ヘラクゼス、ハケ目(マメツ)	マメツ・指押え	10YR8/2 灰白	10YR8/3 灰褐色	中・多	中・少	(19.8)			1/8	
210	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ハケ目(マメツ)、ハケ目	ナデ	10YR8/2 灰褐色	10YR8/2 灰褐色	中・少	中・少	(30.2)			1/8	
211	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ハケ目(マメツ)、ハケ目→ナデ、指押え(マメツ)	指押え(マメツ)	7.5YR8/3 灰褐色	7.5YR7/2 明褐色	粗・多	中・少			10.1	6/8	
212	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ナデ、ハケ目→指押え	板ナデ(マメツ)	7.5YR7/3 灰白	10YR8.2 灰白	中・並	中・並			4.6	6/8	
213	SR02	グリーンドM(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	板ナデ	指押え	10YR7/3 灰白	10YR7/3 灰白	中・並	中・並			5.8	7/8	
214	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	縄文土器	深鉢	黒目・黒目帯、ナデ、板ナデ	ナデ	10YR8/2 灰褐色	10YR8/2 灰褐色	細・並	細・並	(31.8)			1/8未調	
215	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	縄文土器	深鉢	ヨコナデ→ヘラクゼス、ヘラクゼス、ハケ目	ヘラクゼス	10YR6/3 灰褐色	10YR8/1 灰褐色	中・並	中・並				1/8未調	
216	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ナデ、指押え→ナデ、ヘラクゼス、ハケ目	ナデ、ヘラクゼス	10YR7/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・並	中・並				1/8未調	
217	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ナデ、指押え、ヘラクゼス	ヘラクゼス	2.5Y7/2 灰白	2.5Y7/2 灰白	中・多	中・多	(22.0)			2/8	
218	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	アラス、ヘラクゼス、ハケ目	マメツ	2.5Y7/3 灰褐色	2.5Y7/3 灰褐色	中・並	中・並	(21.2)			1/8	
219	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ヘラクゼス、ハケ目、黒目帯	マメツ	10YR6/3 灰褐色	10YR6/3 灰褐色	中・多	中・多	(14.6)			1/8	
220	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ナデ、円形印文	ヘラクゼス	2.5Y5.2 灰褐色	10YR3.1 暗灰赤	細・少	細・少				1/8未調	
221	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	本舞文	ナデ	2.5Y7/2 灰褐色	2.5Y7/2 灰褐色	中・並	中・並				1/8未調	
222	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	黒線沈文	マメツ	2.5Y7/2 灰褐色	2.5Y8.2 灰白	中・並	中・並				1/8未調	
223	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	アラス、ヘラクゼス、ハケ目	マメツ	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	中・並	細・少				1/8未調	
224	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	ヨコナデ、黒目、黒目帯、ヘラクゼス	マメツ	7.5YR6.4 灰褐色	10YR7/3 灰褐色	中・多	中・多				1/8未調	
225	SR02	グリーンドD(黒色粘質土)	弥生土器	蓋	黒目・指押え・ナデ	指押え・ナデ	10YR6.3 灰褐色	10YR6.3 灰褐色	中・多	中・多	(27.0)			1/8	外面残存者

第17表 土器観察表(11)

編年番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整			色置			粘土				口径 長さ (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	現存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石莖・ 長石	赤色 土	角四 石	葉母	砂粒	その 厚						
226	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナメ・マメツ・類目・ ヘラ横沈(赤系)・ナメ 横ナテ	ナメ・マメツ・類 灰白	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	細・少	細・少			64.0				4/8		
227	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・類目・ヘラ 横沈(赤系)・ヘラ横沈 類目・ヘラ横沈(赤系) 類目・ヘラ横沈(赤系) 類目・ヘラ横沈(赤系)	ヨコナテ・ナメ	25Y5/2 黄褐	25Y5/3 黄褐	25Y5/3 黄褐	細・少	細・少			68.9				1/8		
228	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・類目・ヘラ 横沈(赤系)・新 器文・ヘラミガキ	指押え	25Y3/1 黒黄	10YR6/2 黒黄	10YR6/2 黒黄	細・少	細・少			69.1				1/8未測	外面残存者	
229	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	新目・ヘラミガキ ナテ	指押え・ナテ	10YR6/3 黒黄	10YR7/3 黒黄	10YR7/3 黒黄	中・多	中・多							1/8未測		
230	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナメ・竹筥文・新 目	ナテ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	細・少	細・少			69.2				1/8		
231	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナメ・マメツ・ヘラ 横沈(赤系)	ナメ・指押え	10YR5/3 黒黄	10YR7/2 黒黄	10YR7/2 黒黄	細・少	細・少			69.3				1/8		
232	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ	マメツ	10YR8/2 黒黄	10YR8/2 黒黄	10YR8/2 黒黄	粗・多	粗・多			69.3				1/8		
233	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・ヘラ 横沈(赤系)	横ナテ・ナテ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・少	中・少			72.0				2/8		
234	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガ キ・指押え・ナテ	指押え・ナテ	10YR6/3 黒黄	10YR6/4 黒黄	10YR6/4 黒黄	粗・多	粗・多			78				6/8		
235	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメツ・ヘラミガ キ・指押え・ナテ	指押え・ナテ	10YR8/2 黒黄	10YR7/3 黒黄	10YR7/3 黒黄	粗・多	粗・少			11.0				4/8		
236	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	指押え→ナテ	指押え→ナテ	10YR8/2 黒黄	10YR8/3 黒黄	10YR8/3 黒黄	中・少	細・少			83				8/8		
237	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	横ナテ(マメツ)・ 横ナテ(マメツ)	マメツ	10YR8/2 黒黄	10YR8/2 黒黄	10YR8/2 黒黄	粗・多	粗・多			76				6/8		
238	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	横ナテ(マメツ)・ 横ナテ(マメツ)	横ナテ→ナテ(マ メツ)	10YR8/2 黒黄	10YR8/2 黒黄	10YR8/2 黒黄	粗・中・少	粗・中・少			73				6/8		
239	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・マメツ	指押え(マメツ)	10YR6/2 黒黄	10YR6/3 黒黄	10YR6/3 黒黄	粗・多	粗・多			66				4/8		
240	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・横ナ テ・ナテ	ヘラミガキ・横ナ テ	25Y7/2 灰黄	10YR7/3 黒黄	10YR7/3 黒黄	粗・中	粗・中			68				8/8		
241	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	指押え・マメツ	横ナテ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・多	中・多			65.0				2/8		
242	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	特殊卑	特殊卑	ナテ	7.5YR6/3 灰黄	7.5YR6/3 灰黄	7.5YR6/3 灰黄	7.5YR6/3 灰黄	中・多	中・多			64	6.5	14		8/8		
243	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	特殊卑	特殊卑	横ナテ→ナテ	10YR6/2 黒黄	10YR6/2 黒黄	10YR6/2 黒黄	10YR6/2 黒黄	中・多	中・多			60	5.8	13		8/8		
244	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	特殊卑	特殊卑	指押え・ナテ	10YR5/2 黒黄	10YR5/2 黒黄	10YR5/2 黒黄	10YR5/2 黒黄	中・少	中・少			4.8	4.7	1.1		8/8		
245	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・横沈(赤 系)・ヘラ横沈(赤 系)	ヨコナテ・指押え・ ヨコナテ・ヘラ横 沈(赤系)	10YR7/3 黒黄	10YR7/3 黒黄	10YR7/3 黒黄	中・少	中・少			13.4				4/8		
246	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・マメツ・ ヘラ横沈(赤系)・ ヘラ横沈(赤系)	ヨコナテ・マメツ・ 指押え・ヘラ横 沈(赤系)	10YR6/3 黒黄	10YR6/3 黒黄	10YR6/3 黒黄	中・少	粗・少			15.5	28.6	5.5		7/8	香家川下流粘土	
247	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ	ヨコナテ・指押え・ ナテ・ヘラ横沈(赤 系)	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	粗・中	粗・中			13.4				5/8		

第18表 土器観察表(12)

順文番号	遺構名	層位等	種類	器種	外面	調整			色調			粘土				残存率	備考
						外面	内面	外部	内部	石長・長石	赤色	角四石	雲母	砂粒	口径長さ		
248	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	マメア・瓶ナデ	マメア・指押え	10YR8/3 成肌	10YR8/3 成肌	10YR8/3 成肌							6/8	
249	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナデ・ハケ目	ナデ・指押え	10YK5/2 成肌	10YK5/2 成肌	10YK5/2 成肌	(15.4)						1/8	香東川下流粘土
250	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナデ	ナデ・指押え→ナ デ・瓶ナデ	2.5Y7/2 成肌	2.5Y7/2 成肌	2.5Y7/2 成肌	(17.6)						2/8	
251	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミ ナデ・マメア	ヨコナデ・ヘラミ ナデ・瓶ナデ	2.5Y8/2 成肌	2.5Y8/2 成肌	2.5Y8/2 成肌	(12.6)						2/8	
252	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	壺	瓶ナデ	ヘラケズリ	2.5Y7/3 成肌	2.5Y7/3 成肌	2.5Y7/3 成肌						65	7/8	
253	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ナデ・穿孔(上段) 穿孔(下2ヶ所) ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラミ ナデ・ヘラケズリ	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	(22.3)	17.5	(15.7)				5/8	香東川下流粘土
254	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・マメア・ヘ ラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	(24.8)						3/8	香東川下流粘土
255	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・マメア・穿孔 (2ヶ所)	ヘラケズリ	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌							8/8	香東川下流粘土
256	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マメア・ナデ・穿 孔(2ヶ所)	ヘラケズリ	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌						14.7	6/8	香東川下流粘土
257	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ヨコナデ・瓶ナデ	ヨコナデ・指押え ヘラケズリ	2.5Y7/3 成肌	2.5Y7/3 成肌	2.5Y7/3 成肌	(42.4)						2/8	
258	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ナゲ目→ヘラミガ キナデ・ヘラミガ キ	ナゲ目→ヘラミガ キナデ	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	10YR6/3 成肌	18.1	8.0	5.6				8/8	
259	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	タタキ目→ナデ	指押え・ナデ	10YR4/1 成肌	10YR4/1 成肌	10YR4/1 成肌			4.0				2/8	
260	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	製土器	鉢	ヘラケズリ	ナデ	2.5Y4/1 成肌	2.5Y4/1 成肌	2.5Y4/1 成肌			5.0				8/8	
261	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	製土器	鉢	指押え・ナデ・マ メア	マメア	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌			(3.8)				4/8	
262	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	製土器	鉢	指押え	指押え	2.5Y4/1 成肌	2.5Y4/1 成肌	2.5Y4/1 成肌			4.6				8/8	
263	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	土師器	高杯	指押え・ナデ・瓶 ナデ	ナデ→ヘラミガ キナデ・ヘラケズリ	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌						中・少	6/8	
264	SR02	グリッドD (黒色粘質土)	須恵器	杯身	回転ナデ	回転ナデ	NS/灰	NS/灰	NS/灰						細・少	1/8	
265	SR02	グリッドC(黒 色粘質土)	弥生土器	壺	マメア・ヘラミガ キ(赤糸)・瓶付突 形	マメア	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌	(22.4)						6/8	
266	SR02	グリッドC(黒 色粘質土)	弥生土器	壺	瓶付突形(赤糸) ・ナゲ目・マメア	マメア	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌	10YR7/3 成肌							2/8	
267	SR02	グリッドC(黒 色粘質土)	弥生土器	壺	マメア・瓶付突形(赤 糸)・ナゲ目	マメア	10YR8/3 成肌	10YR8/3 成肌	10YR8/3 成肌							2/8	
268	SR02	グリッドC(黒 色粘質土)	弥生土器	壺	瓶・線画・ヘラ ミガキ	ナデ	2.5Y7/3 成肌	2.5Y7/3 成肌	2.5Y7/3 成肌							1/8未測	

第19表 土器観察表(13)

観 察 番 号	遺構名	層位	種類	器種	調査		色票		粘土				法票(cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	現存率	備考
					外面	内面	外面	内面	石炭・ 長石	赤色 粒	角四 石	雲母					
269	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	別目・ヨコナデ・ヨコナデ→ヘラケ 注(黒色粘質土)・ ヘラミガキ	指押え・ナデ	25Y3/1 黒色	25Y4/2 黒灰質	中・少	中・少	(23.0)		2/8	外面残片着			
270	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	別目・ハケ目・ ナデ(黒色粘質土)	ナデ	10YR6/3 灰質	25Y7/2 黒灰質	中・少		(18.2)		1/8	外面残片着			
271	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	別目・ナデ・ 指押え・ナデ・ ナデ	指押え・ヘラミガ キ	10YR6/3 灰質	10YR6/3 灰質	中・少	中・少		4.7	4/8				
272	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	白粉洋文・別目・ ヨコナデ	黒色粘質土・別目・ 彩洋文2別・マ ツ	25Y7/3 灰質	25Y8/3 灰質	中・少	中・少	(23.3)		1/8				
273	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・ヨコナデ・ ヘラミガキ	ナデ・板ナデ・ ヘラケ・ヘラケ スリ→ナデ	10YR7/3 灰質	10YR7/3 灰質	中・多	中・多	(12.8)		6/8				
274	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	マツ	マツ	10YR8/4 灰質	10YR8/4 灰質	中・多	中・少	15.1		6/8				
275	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	N3/黒灰	N3/黒灰	中・少		8.9		8/8				
276	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ	ナデ・ヘラケスリ	10YR6/3 灰質	10YR6/3 灰質	中・少	中・少	11.7		6/8	香東川下流出土			
277	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ハケ目・黒刷	指押え・ヘラケス リ	25Y4/2 黒灰質	10YR4/2 灰質	中・少	中・少			2/8	香東川下流出土			
278	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	マツ・ハケ目?	マツ・ヘラケス リ	25Y8/3 灰質	25Y8/3 灰質	中・少	中・少	(16.0)		2/8				
279	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ウラミガキ・マメ ツ	ウラミガキ・マメ ツ	10YR8/3 灰質	10YR7/3 灰質	中・多	中・少	(28.3)		1/8				
280	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ウラ ミガキ(各所)	ヨコナデ・ヘラ ミガキ・ウラ ミガキ	25Y6/3 灰質	25Y6/3 灰質	中・少	中・少	(24.4)		8/8	香東川下流出土			
281	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	マツ・ヘラミガ キ	マツ・ヘラケス リ	10YR6/3 灰質	10YR6/3 灰質	中・少	中・少	(20.8)		2/8	香東川下流出土			
282	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナデ・マツ・ ナデ(厚付2ヶ所)	マツ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	中・少	中・少		(16.6)	3/8				
283	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	小皿	ナデ(厚付2ヶ所)	ナデ・指押え	25Y7/2 灰質	25Y7/2 灰質	中・少	中・少	(8.7)	8.5	4/8				
284	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	土師器	高杯	マツ・貼付状部	マツ	10YR7/3 灰質	10YR7/3 灰質		中・少	(23.1)		3/8				
285	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	土師器	高杯	マツ・ナデ	マツ・板ナデ ナデ	25Y6/2 灰質	25Y6/2 灰質				(20.0)	1/8				
286	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	貼付状部(現存2 ヶ所)・マツ・ ヘラ	マツ・ナデ	10YR6/2 灰質	10YR5/1 黒灰	中・多			(8.0)	3/8				
287	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	指押え→ナデ・ ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR4/2 灰質	10YR4/2 灰質	中・少	中・少			1/8未満	外面残片着			
288	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ナデ・ヘラミガ キ	マツ・ヘラミガ キ	10YR7/3 灰質	10YR7/3 灰質	中・少	中・少	(19.9)		1/8				
289	SR02	グリーンドC(黒色粘質土)	弥生土器	甕	ヨコナデ・別目・ ヘラケ	ヨコナデ・板ナデ ナデ	25Y4/2 黒灰質	25Y4/2 黒灰質	中・少	中・少	(16.2)		2/8	外面残片着			

第20表 土器観察表(14)

編年番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整			色調			粘土				残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石長・石高	赤色	角四	雲母	砂粒	口径長さ		
290	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	黒目・ヘラ 横沈線(9) ナテ	ナテ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	00(2)	00(2)	83	2/8	外面磨付着		
291	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	指押え→ハケ目・ ナテ	指押え・ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色			83	3/8			
292	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ナテ・ヨコナテ	ナテ・ヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色				5/8			
293	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	鉢	ヨコナテ・腕ナテ ヘラ・ナテ・ヘ ラミガキ	指押え・ナテ・マ メツ	10YR6/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	(11.7)	(11.7)		2/8			
294	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	メムツ・ハケ目・ 腕目(灰赤文・鳥象)	メムツ	25Y7/2 灰白	25Y7/2 灰白	25Y7/2 灰白	(17.0)	(17.0)		2/8			
295	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・ハケ目・ ヘラ(横沈線(白象))	ナテ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	(20.6)	(20.6)		2/8			
296	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・日影 印文	指押え・ナテ	10YR6/2 灰黄褐色	25Y2/1 黒	25Y2/1 黒				1/8未測			
297	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	黒目・ヘラ(横沈線(9)) ナテ・ハケ目・ 腕目(灰赤文・鳥象)	指押え・ナテ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	(19.8)	(19.8)		1/8			
298	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	黒目・ヘラ(横沈線(9)) ナテ・ハケ目・ 腕目(灰赤文・鳥象)	ナテ・メムツ	25Y3/1 黄褐色	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	(20.4)	(20.4)		1/8			
299	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナテ・腕付(灰赤文・ メムツ・ヘラミガ キ)	指押え・メムツ	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	25Y7/1 灰白	(21.2)	(21.2)		1/8			
300	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナテ・指押え・マ メツ	指押え→ナテ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色			6.2	7/8			
301	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	メムツ・腕目(横(2 象))	メムツ	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	(15.0)	(15.0)		2/8			
302	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラ(横沈線・メム ツ)	メムツ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	(15.4)	(15.4)		2/8			
303	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナテ・ハケ目	ナテ	25Y5/3 黄褐色	25Y5/3 黄褐色	25Y5/3 黄褐色	(15.3)	(15.3)		1/8			
304	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	メムツ・ハケ目・ ハケ目→ヘラミガ キ	指押え・ナテ・ヘ ラ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色			6.0	4/8	香東川下流粘土		
305	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ハケ目・ヘラミガ キ	指押え・ナテ・ヘ ラ	25Y5/3 黄褐色	25Y5/3 黄褐色	25Y5/3 黄褐色			7.0	8/8	香東川下流粘土		
306	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナテ・ハケ目	ナテ・指押え・ヘ ラ	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	(16.5)	(16.5)		1/8	香東川下流粘土 土・外面磨付着		
307	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・ハケ目	ヨコナテ・指押え →腕ナテ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	(16.2)	(16.2)		2/8	香東川下流粘土		
308	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・ハケ目	ヨコナテ・指押え →腕ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	(14.4)	(14.4)		2/8	香東川下流粘土		
309	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヨコナテ・ハケ目	ヨコナテ・メムツ	25Y5/3 黄褐色	25Y5/3 黄褐色	25Y5/3 黄褐色	(14.6)	(14.6)		1/8未測	香東川下流粘土		
310	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ナテ・メムツ・ヘ ラ	ナテ・メムツ・ヘ ラ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄			5.2	6/8	香東川下流粘土		
311	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	壺	ヘラミガキ・メム ツ	ナテ→腕ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色				6/8	香東川下流粘土		
312	SR02	グランドK (黒色粘質土)	弥生土器	高杯	ヨコナテ・ヘラミ ガキ	ヨコナテ・ヘラミ ガキ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	(21.1)	(21.1)		8/8	香東川下流粘土		

第21表 土器観察表(15)

編年番号	遺構名	層位等	種類	器種	調整			色置			粘土				口径 長さ (cm)	法量 高さ (cm) 厚 (cm)	現存年	備考
					外面	内面	外部	内部	石炭・ 長石	赤色 土	角四 石	葉 母	砂粒					
313	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	マメフ	マメフ	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・少	19.8		1/8	香東川下流粘土	
314	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ	10YR6.3 におい黄褐色	10YR6.3 におい黄褐色	10YR6.3 におい黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・少	23.9		8/8	香東川下流粘土	
315	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・ヘラケズリ	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・並	20.0		1/8	香東川下流粘土	
316	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	ヘラケズリ→ヘラ ミガキ	マメフ・ヘラミガ キ・ヘラケズリ	7.5YR4.3 褐色	7.5YR4.3 褐色	7.5YR4.3 褐色	中・並	中・並	細・少	細・並			2/8	香東川下流粘土	
317	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	マメフ・ヘラミガ キ・ヘラケズリ	マメフ・ヘラケズ リ	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・少			2/8	香東川下流粘土	
318	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	マメフ・ヨコナデ・ ヘラケズリ	マメフ・ヨコナデ・ ヘラケズリ	10YR5.4 におい黄褐色	10YR5.4 におい黄褐色	10YR5.4 におい黄褐色	粗・並	粗・並	細・少	細・少	15.1		7/8	香東川下流粘土	
319	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	高杯	マメフ・ヨコナデ・ ヘラケズリ	マメフ・ヨコナデ・ ヘラケズリ	2.5Y5.3 黄褐色	2.5Y5.3 黄褐色	2.5Y5.3 黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・少	(15.6)		2/8	香東川下流粘土	
320	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	鉢	マメフ・指押え ハケ目	マメフ・指押え ハケ目	5YR4.2 黄褐色	5YR4.2 黄褐色	5YR4.2 黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・少	9.5	6.7	4/8	香東川下流粘土	
321	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	鉢	マメフ・指押え ハケ目	マメフ・指押え ハケ目	10YR4.3 におい黄褐色	10YR4.3 におい黄褐色	10YR4.3 におい黄褐色	粗・少	粗・少	細・少	細・少	13.6	7.4	5/8	香東川下流粘土	
322	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	製鐵土器		マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	10YR7.2 におい黄褐色	10YR7.2 におい黄褐色	10YR7.2 におい黄褐色	中・並	中・並	細・少	細・少	3.3	3.3	7/8	香東川下流粘土	
323	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	製鐵土器		マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	2.5Y5.2 黄褐色	2.5Y7.3 黄褐色	2.5Y7.3 黄褐色	中・並	中・並	細・並	細・並	5.0	5.0	8/8		
324	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	製鐵土器		マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	10YR6.3 におい黄褐色	10YR6.3 におい黄褐色	10YR6.3 におい黄褐色	粗・並	粗・並	細・並	細・並	4.0	4.0	8/8		
325	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	2.5Y6.2 黄褐色	2.5Y6.2 黄褐色	2.5Y6.2 黄褐色	中・並	中・並	細・並	細・並			1/8未測		
326	SR02	グリップDⅡ 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	10Y5.7 黄褐色	10Y5.7 黄褐色	10Y5.7 黄褐色	粗・多	粗・多	中・少	中・少	(18.0)		4/8		
327	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ	マメフ	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	中・多	中・多	中・並	中・並	(19.2)		1/8		
328	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	2.5Y6.3 黄褐色	2.5Y6.3 黄褐色	2.5Y6.3 黄褐色	粗・少	粗・少	細・少	細・少	12.0		7/8		
329	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	10YR7.4 におい黄褐色	10YR7.4 におい黄褐色	10YR7.4 におい黄褐色	粗・多	粗・多	中・並	中・並	15.3	27.8	8/8		
330	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	10YR5.3 におい黄褐色	細・少	細・少	細・少	細・少			3/8	香東川下流粘土	
331	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	10YR5.1 黄褐色	10YR5.1 黄褐色	10YR5.1 黄褐色	細・並	細・並	細・並	細・並	5.2		6/8		
332	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	2.5Y6.2 黄褐色	2.5Y6.2 黄褐色	2.5Y6.2 黄褐色	細・並	細・並	細・並	細・並	(16.8)		2/8	香東川下流粘土	
333	SR02	グリップD 色粘質土	弥生土器	壺	マメフ・指押え ナデ	マメフ・指押え ナデ	2.5Y8.3 灰白	2.5Y8.3 灰白	2.5Y8.3 灰白	中・並	中・並	細・並	細・並	6.0		8/8		



第23表 土器観察表(17)

編年番号	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		新土			現存年	備考
					外面	内面	外面	内面	石灰・長石	赤色	角四石		
352	SR02	上層	縄文土器	深鉢	マヤツ・眉目突起・ヘラミガキ	マヤツ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	中・並			1/8未調	
353	SR02	上層	縄文土器	深鉢	眉目・貝殻染成	ヘラミガキ	25Y7/2 灰黄	25Y5/1 灰黄	中・並	細・少		1/8未調	
354	SR02	上層	縄文土器	壺	ナゲ・ヘラミガキ・指押え・ナゲ	マヤツ・指押え・ナゲ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	中・並	中・並	(15.0)	1/8	
355	SR02	上層	縄文土器	壺	指押え・ナゲ	指押え・ナゲ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	中・並	中・並		1/8未調	
356	SR02	上層	縄文土器	壺	眉目突起・ナゲ	ハクリ・ナゲ	25Y7/3 灰黄	25Y7/3 灰黄	粗・並			1/8	
357	SR02	上層	縄文土器	壺	指押え・ナゲ	ヨコナデ・指押え・ナゲ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	粗・少			1/8未調	外面残片着
358	SR02	上層	縄文土器	壺	指押え	指押え→ナゲ	25Y5/2 灰黄	25Y5/2 灰黄	中・多			1/8	
359	SR02	上層	縄文土器	壺	眉目・ヘラミガキ	ナゲ・指押え	25Y4/1 灰黄	25Y8/3 灰黄	中・少		(31.2)	1/8	
360	SR02	上層	縄文土器	壺	眉目・マヤツ・ハ	マヤツ・ヘラミガキ	10YR6/3 灰黄褐色	10YR6/3 灰黄褐色	中・並		(20.0)	2/8	
361	SR02	上層	縄文土器	壺	眉目・指押え(マヤツ)	マヤツ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/3 灰黄褐色	粗・多		(88.8)	1/8	外面残片着
362	SR02	上層	縄文土器	壺	ナゲ・指押え→ナゲ	マヤツ	10YR7/3 灰黄褐色	10YR7/3 灰黄褐色	中・多			6/8	
363	SR02	上層	縄文土器	壺	ナゲ・指押え・ナゲ	ナゲ	25YR2/1 赤黒	25YR2/1 赤黒	中・多			7/8	
364	SR02	上層	縄文土器	壺	ナゲ・指押え・ナゲ	マヤツ・指押え	10YR7/3 灰黄褐色	10YR7/3 灰黄褐色	中・多			8/8	
365	SR02	上層	縄文土器	壺	ヘラミガキ・ナゲ	マヤツ・指押え	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	粗・少			7/8	
366	SR02	層位不明	縄文土器	壺	マヤツ・眉目突起(2)	マヤツ	25Y8/3 灰黄	25Y8/3 灰黄	粗・多		(17.4)	1/8	
367	SR02	層位不明	縄文土器	壺	マヤツ・貼付突起(9)	マヤツ・指押え	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	中・並	中・少		1/8未調	
368	SR02	層位不明	縄文土器	壺	ナゲ・木着文	指押え	10YR7/3 灰黄褐色	10YR7/3 灰黄褐色	中・並			1/8未調	
369	SR02	層位不明	縄文土器	壺	指押え・ヘラミガキ	ナゲ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	粗・少			1/8未調	
370	SR02	層位不明	縄文土器	壺	ヨコナデ・眉目・ヘラミガキ	ヨコナデ・指押え	10YR6/3 灰黄褐色	10YR7/3 灰黄褐色	粗・多		(19.5)	2/8	
371	SR02	層位不明	縄文土器	壺	ヨコナデ・マヤツ・ヘラミガキ	ヨコナデ・マヤツ	10YR7/2 灰黄褐色	10YR7/2 灰黄褐色	中・並		(15.6)	1/8	
372	SR02	層位不明	縄文土器	壺	眉目・ヘラミガキ	マヤツ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白	粗・多	中・少	(34.0)	1/8未調	
373	SR02	層位不明	縄文土器	壺	指押え・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	25Y3/1 黄灰	25Y3/1 黄灰	中・並			1/8未調	
374	SR02	層位不明	縄文土器	壺	ナゲ・ヘラミガキ	ナゲ	10YR7/3 灰黄褐色	10YR7/3 灰黄褐色	中・並		(24.8)	1/8	



第24表 土器観察表(18)

順文番号	遺構名	層位等	種類	器種	高麗			色調			粘土				法登 (cm)			残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石長・石高	赤色・靑	角四石	雲母	粒粒	口径長さ	口縁高さ	底高さ	底厚		
375	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	マヌフ・指押え→ハクスズリ・ヘツクスズリ→ナデ	ハクスズリ・ヘツクスズリ→ナデ	NOYR7/3 NOYR7/2 NOYR6/2 NOYR7/3	NOYR6/3 NOYR7/3 NOYR6/2 NOYR7/3	NOYR6/3 NOYR7/3 NOYR6/2 NOYR7/3	NOYR6/3 NOYR7/3 NOYR6/2 NOYR7/3	中・多 中・多 中・多 中・多	中・少 中・少 中・少 中・少	細・少 細・少 細・少 細・少	細・少 細・少 細・少 細・少	28.5 29.0 28.0 28.0	5.8 5.9 6.6 6.6	7/8 6/8 4/8 6/8		
376	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	ハクス目・マヌフ	ハクス目・マヌフ	NOYR7/3	NOYR7/3	NOYR7/3	NOYR7/3	中・多	中・多	中・多	中・多	20.0		4/8		
377	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	ハクス目・マヌフ	ハクス目・マヌフ	NOYR7/3	NOYR7/3	NOYR7/3	中・多	中・多	中・多	中・多	中・多	20.0		4/8		
378	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	指押え(マヌフ)	指押え(マヌフ)	NOYR8/3	NOYR8/2	NOYR8/3	NOYR8/2	中・多	中・少	細・少	細・少	28.2		6/8		
379	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラクテ	ヨコナデ・ヘラクテ	NOYR6/3	NOYR6/3	NOYR6/3	NOYR6/3	中・中	中・中	細・少	細・少	28.2		2/8	香東川下流出土	
380	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	高杯	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	NOYR5/3	NOYR5/3	NOYR5/3	NOYR5/3	細・中	細・中	細・少	細・少	23.0		3/8	香東川下流出土	
381	SR02	グリッド・層位不明	弥生土器	壺	ヘラクテ	ヘラクテ	25Y7/2	25Y7/2	25Y7/2	25Y7/2	中・多	中・多	中・多	中・多		5.0	8/8		
382	SR03	埋土	須恵器	壺	ヨコナデ→丸柱文	ヨコナデ	NA/灰	NA/灰	NA/灰	NA/灰	細・少	細・少	細・少	細・少			1/8未満		
383	SR06	下層	弥生土器	壺	明巻(4条)→明巻(3条)→明巻(2条)→明巻(1条)	ナデ	25Y5/6 明巻	25Y7/3	25Y7/3	25Y7/3	中・多	中・少	中・少	中・少	23.0		2/8		
384	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	25Y7/3	25Y7/3	25Y7/3	25Y7/3	中・中	中・中	細・中	細・中			1/8		
385	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	25Y8/4	25Y8/4	25Y8/4	25Y8/4	中・多	細・少	細・少	細・少	16.5		1/8	香東川下流出土か?	
386	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	25Y6/2	25Y6/2	25Y6/2	25Y6/2	中・中	中・少	細・少	細・少	19.0		2/8		
387	SR06	下層	弥生土器	高杯	ハクス目・ヨコナデ	ハクス目・ヨコナデ	NOYR4/2	NOYR4/2	NOYR4/2	NOYR4/2	中・中	中・中	細・中	細・中		10.0	6/8		
388	SR06	下層	弥生土器	鉢	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	25Y2/1	25Y2/1	25Y2/1	25Y2/1	細・多	細・多	細・少	細・少		(9.7)	3/8		
389	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	NOYR5/2	NOYR5/2	NOYR5/2	NOYR5/2	中・中	中・中	細・少	細・少			2/8		
390	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	NOYR3/1	NOYR3/1	NOYR3/1	NOYR3/1	細・少	細・少	細・中	細・中		(13.7)	2/8		
391	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	25Y6/2	25Y6/2	25Y6/2	25Y6/2	中・中	中・中	細・中	細・中		(10.5)	5/8		
392	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	NOYR3/1	NOYR3/1	NOYR3/1	NOYR3/1	細・少	細・少	細・少	細・少		(16.0)	4/8		
393	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	NOYR3/1	NOYR3/1	NOYR3/1	NOYR3/1	中・少	中・少	細・少	細・少		(14.7)	3/8		
394	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マヌフ	ヨコナデ・マヌフ	NOYR7/3	NOYR7/3	NOYR7/3	NOYR7/3	中・少	中・少	細・少	細・少		(14.8)	2/8		

第25表 土器観察表(19)

標文番号	遺跡名	廟堂寺	種類	器種	調整			色置			粘土				法量 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	その厚 (cm)	現存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石灰・赤石・長石	赤色	角石	炭母	砂粒								
395	SR06	下層	弥生土器	羹	ハケ目・指押え・ナナ	瓶ナデ・ナア	25Y5.2 黒灰質	10Y2/1 黒	中・多	中・多	細・少	中・少	84	65						7/8	香東川下流粘土
396	SR06	下層	弥生土器	高杯	マメツ・指押え・ヨコナデ・凹線文(2列)	ヨコナデ	7YR6/4 土	7YR6/4 土	細・多	中・少	細・多	中・少								7/8	
397	SR06	下層	弥生土器	鉢	ヘラミガキ・ヘラミガキ	瓶ナデ	25Y3.1 土	25Y3.2 土	中・並					81					8/8		
398	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・ヘラ線状(2列)・指押え・ナデ	ヨコナデ・指押え・ナデ	10YR6.3 土	10YR6.3 土	中・並	中・少	中・並	中・少	27.0	27.0						3/8	香東川下流粘土
399	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・ヨコナデ・瓶ナデ・指押え・ナデ	ヨコナデ・マメツ	10YR5.3 土	10YR5.3 土	中・多	中・少	中・多	中・少	20.2	20.2						7/8	
400	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラ線状(1列)・マメツ	ヘラミガキ	10YR6.4 土	10YR6.4 土	中・並	中・少	中・並	中・少	27.0	27.0						3/8	香東川下流粘土
401	SR06	下層	弥生土器	高杯	ハケ目・ナデ・ヨコナデ・三角形窪	ヨコナデ・ハケ目	10YR6.2 土	10YR6.2 土	中・多	細・少	細・少	細・少	(14.1)	(14.1)						5/8	
402	SR06	下層	弥生土器	高杯	マメツ・ナデ・指押え・指付突部(2列)	マメツ・ナア	25Y6.3 土	10YR6.3 土	中・多	中・多	中・多	中・多		100						6/8	
403	SR06	下層	不明		ナア	ナア	25Y5.2 土	25Y5.2 土						(2.9)	(2.0)					8/8	[田]ヘラ線
404	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・ナデ	ナア	10YR6.2 土	10YR6.2 土	細・少				28.4							1/8	香東川下流粘土
405	SR06	下層	弥生土器	壺	割目・ヨコナデ・ハケ目・ヘラ線状(1列)・管孔(現存4ヶ所)	ヨコナデ・目	25Y4/1 土	25Y4/1 土	中・並		中・少	中・少	(12.8)							2/8	
406	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・ヘラ線状(2列)・管孔(3列)・ヘラ	割目・指押え・ナア	10YR4/2 土	10YR4/1 土	細・少		細・少	細・少	22.7	22.7						2/8	
407	SR06	下層	弥生土器	壺	凹線(1条)・管孔(現存2ヶ所)	ヨコナデ・管孔(現存2ヶ所)	10YR7.3 土	10YR7.3 土	中・並		細・少	細・少	20.2	20.2						2/8	
408	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・管孔(現存6ヶ所)	割目・指押え・ナア	25Y5.2 土	25Y5.2 土	中・並		中・並	中・並	27.0	27.0						4/8	
409	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・管孔(現存6ヶ所)	割目・指押え・ナア	25Y5.2 土	25Y5.2 土	中・多	細・少	中・少	中・少	20.4	20.4						4/8	
410	SR06	下層	弥生土器	壺	割目・凹線(1条)・管孔(現存6ヶ所)	割目・指押え・ナア	25Y7.3 土	25Y7.3 土	細・並		細・少	細・少	(19.7)	(19.7)						2/8	
411	SR06	下層	弥生土器	壺	ヘラ線状(1列)・管孔(現存6ヶ所)	割目・指押え・ナア	10YR5.3 土	10YR5.3 土	中・並	中・少	細・並	細・並	24.5	24.5						4/8	



第27表 土器観察表(21)

編年 番号	遺構名	所在寺	種類	器種	調整		色置		粘土				法量(cm)		残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石炭・ 長石	赤色 粒	角四 石	雲母	砂粒	口径 長さ		
429	SR06	下層	赤生土器	壺	縹色染斑文・ナデ・ 縹色縹斑文・縹細 点・縹格子文	小ケ目・ヘラミガ キ	25Y5.2 縹灰質	10Y3.1 オリーブ黒	中・並						1/8未測	
430	SR06	下層	赤生土器	壺	ナデ・縹斑文	ナデ	10YR6.3 にぶい黄褐色	10YR6.3 にぶい黄褐色	細・少						1/8未測	
431	SR06	下層	赤生土器	壺	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	10YR4.2 灰質黒	10YR5.2 灰質黒	中・多					(28.9)	1/8	香東川下流粘土
432	SR06	下層	赤生土器	壺	ヨコナデ・ナデ →ナデ	ヨコナデ・指押え →ナデ	10YR3.2 灰質黒	10YR4.2 灰質黒	細・少					(18.1)	2/8	外周縁付着 香東川下流粘土
433	SR06	下層	赤生土器	壺	ヨコナデ・指押え →ナデ	ヨコナデ・指押え →ナデ	10YR4.2 灰質黒	10YR4.1 縹灰	中・多					(20.0)	1/8	香東川下流粘土
434	SR06	下層	赤生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え →ハケ目	25Y4.3 縹灰質	25Y4.3 オリーブ黒	細・少					(15.3)	4/8	
435	SR06	下層	赤生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ	指押え→ヘラミガ キ	25Y8.3 縹灰質	5Y3.1 オリーブ黒	中・並						8/8	外周縁付着
436	SR06	下層	赤生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ	指押え→ナデ→ヘ ラミガキ	10YR7.3 縹灰質	10YR6.3 縹灰質	細・少						5/8	
437	SR06	下層	赤生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ	指押え→ヘラミガ キ	10YR5.2 灰質黒	10YR5.2 灰質黒	細・並						6/8	
438	SR06	下層	赤生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ	指押え→ナデ	10YR5.2 灰質黒	10YR3.1 縹灰	細・並						5/8	
439	SR06	下層	赤生土器	壺	ヘラミガキ	ヘラミガキ・指押え →ナデ	25Y3.1 縹黒	10YR4.2 灰質黒	中・多						7/8	香東川下流粘土
440	SR06	下層	赤生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・割目	ヨコナデ・ヘラミ ガキ・割目(底付着 1ヶ所)	25Y8.3 縹灰質	25Y6.3 縹灰質	中・並					(22.1)	1/8	香東川下流粘土
441	SR06	下層	赤生土器	高杯	ヨコナデ・割目・ ヘラミガキ・割目 →ナデ	ヨコナデ・割目・ ヘラミガキ・割目・ ヘラミガキ・割目・ ナデ	10YR5.1 縹灰	10YR5.1 縹灰	中・少					(24.2)	6/8	
442	SR06	下層	赤生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	10YR3.1 縹灰	10YR2.1 黒	細・少					(24.2)	2/8	
443	SR06	下層	赤生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	25Y4.1 縹灰	25Y4.1 縹灰	細・並					(22.2)	3/8	
444	SR06	下層	赤生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヘラミガキ	25Y7.3 縹灰	10YR2.2 にぶい黄褐色	細・少					(24.0)	2/8	
445	SR06	下層	赤生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・指押え →ナデ	10YR5.2 灰質黒	10YR5.2 灰質黒	細・少					(12.8)	1/8	香東川下流粘土
446	SR06	下層	赤生土器	高杯	ナメツ・ヘラミガ キ	ナメツ・ヘラミガ キ	10YR5.3 縹灰質	10YR5.2 灰質黒	細・多						8/8	
447	SR06	下層	赤生土器	高杯	ナメツ・ヘラミガ キ	ナメツ・ヘラミガ キ	10YR3.1 縹黒	10YR4.2 灰質黒	細・少						7/8	
448	SR06	下層	赤生土器	鉢	ナメツ・ナデ	ナメツ・ナデ	10YR5.2 灰質黒	10YR5.2 灰質黒	中・多						8/8	
449	SR06	下層	赤生土器	鉢	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ・ナデ	10YR6.3 縹灰質	10YR6.3 縹灰質	中・並						7/8	香東川下流粘土

第28表 土器観察表(22)

編年 層分	遺構名	層位等	種類	器種	調整		色調		粘土				残存率	備考		
					外面	内面	外面	内面	石炭・ 長石	赤色 粒	角四 石	雲母			粒粒	口径 長さ
450	SR06	下層	弥生土器	鉢	ヘラミガキ・ナデ →ナデ・ナデ	ヘラミガキ・ハナ →ナデ・ナデ	IOY2/1黒 肌陶	IOYR2/3 肌陶	中・少	細・少	細・少	80	6/8			
451	SR06	下層	弥生土器	指押え	指押え・ナデ	ナデ	75YR6/3 にふい肌陶	10YR6/3 にふい肌陶	中・少	細・少	細・少	40	8/8			
452	SR06	下層	粘漆土	指押え	→ナデ	→ナデ	IOYR2/1黒 肌陶	中・中	細・少・中・多	細・少・中・多	40	3/9	06	8/8	香東川下流粘土	
453	SR06	下層	粘漆土	指押え	→ナデ	→ナデ	10YR5/3 にふい肌陶	中・中	細・多	細・多	40	4/0	08	8/8	香東川下流粘土	
454	SR06	下層	土製品	高杯	網文様・マメツ ナデ	網文様・マメツ ナデ	25Y7/2 にふい肌陶	25Y7/2 肌陶	中・中	細・少	細・少	7.1	7.5	1.7	1/8未測	
455	SR06	下層	土器	高杯	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 肌陶	10YR3/1 肌陶	中・中	細・少	細・少			7/8		
456	SR06	下層	土器	高杯	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	25Y5/2 肌陶	25Y5/2 肌陶	細・少	細・少	細・少	13/9		1/8		
457	SR06	下層	弥生土器	高杯	網文様・ナデ →ナデ	網文様・ナデ →ナデ	25Y5/2 肌陶	25Y5/2 肌陶	細・少	細・少	細・少	(25.2)		2/8		
458	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・指押え ナデ	ヘラミガキ・指押え ナデ	25Y5/2 肌陶	25Y5/2 肌陶	中・中	細・少	細・少	(12.8)		5/8	香東川下流粘土	
459	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・マメツ ナデ	ヘラミガキ・マメツ ナデ	25Y7/3 肌陶	25Y7/3 肌陶	細・少	中・少	中・少	11.5		6/8	香東川下流粘土	
460	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	ヨコナデ・ヘラミ ガキ	25Y3/1 肌陶	25Y3/1 肌陶	粗・多	細・少	細・少	(31.9)	20.8	12.5	7/8	
461	SR06	下層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ナデ ナデ	ヘラミガキ・ナデ ナデ	10YR5/3 肌陶	10YR3/1 肌陶	中・中	細・中	細・中			14/6	8/8	
462	SR06	下層	弥生土器	鉢	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	25Y8/4 にふい肌陶	25Y8/4 にふい肌陶	中・少	細・少	細・少	(22.8)		3/8		
463	SR06	下層	弥生土器	餅臼	指押え	指押え	25Y5/1 肌陶	25Y7/2 肌陶	細・少	細・少	細・少	12.8	9.1	4.5	8/8	穿孔有
464	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・指押え ナデ	ヨコナデ・指押え ナデ	10YR2/1 肌陶	10YR2/1 肌陶	中・中	中・多	中・多	12.6		3/8		
465	SR06	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・マメツ	10YR5/2 肌陶	10YR3/2 肌陶	中・多	中・多	中・多	(15.5)		1/8		
466	SR06	中層	弥生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ ナデ	ヘラミガキ・ナデ ナデ	25Y5/1 肌陶	25Y5/1 肌陶	細・少	細・少	細・少	(22.0)		1/8	香東川下流粘土	
467	SR06	中層	弥生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ ナデ	ヘラミガキ・ナデ ナデ	25Y7/3 肌陶	25Y7/3 肌陶	中・中	細・少	細・少	14.4		7/8		
468	SR06	中層	弥生土器	小瓶 底蓋	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	75YR6/4 肌陶	75YR5/6 肌陶	細・少	細・少	細・少	(3.8)	5.1	6/8		
469	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マメツ ナデ	ヨコナデ・マメツ ナデ	10YR5/3 肌陶	10YR5/3 肌陶	細・少	細・少	細・少	(17.4)		2/8	香東川下流粘土	
470	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・指押え ナデ	ヨコナデ・指押え ナデ	10YR7/3 肌陶	10YR7/3 肌陶	中・中	細・少	細・少	(22.6)		2/8		
471	SR06	中層	弥生土器	壺	マメツ・指押え ナデ	マメツ・指押え ナデ	10YR6/2 肌陶	10YR6/2 肌陶	中・中	細・少	細・少	16.8		7/8		
472	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・マメツ ナデ	ヨコナデ・マメツ ナデ	5YR7/6肌陶	5YR7/6肌陶	中・中	細・中・少	細・中・少	16.0		7/8		

第29表 土器観察表(23)

編年 番号	遺跡名	層位	種類	器種	調整		色置		粘土				法量(cm)	底径 (cm) 厚	現存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色 粒	角四 石	炭母				
473	SR06	中層	弥生土器	高杯	ナデ・同編文(4条)・ハケ目 →ヘラミガキ	ナデ・指押え・ハケ目 →同転ナデ	5YR6.4 灰黄褐色	10YR6.2 灰黄褐色	中・多	細・少		0.40		2/8		
474	SR06	中層	須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ →同転ナデ	同転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	N6/灰	中・多	細・多		0.12		2/8		
475	SR06	中層	須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ →同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少		0.35	4.7	2/8		
476	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少		0.20		1/8		
477	SR06	中層	須恵器	高杯	同転ナデ・波状文・ コナデ・ハケ目・ 同編文(4条)・ハケ目・ 同編文(3条)・ハケ目・ 同編文(2条)・ハケ目・ 同編文(1条)・ハケ目	同転ナデ	N5/灰	N5/灰	中・多	細・少		0.58	11.1	10.2	6/8	
478	SR06	中層	須恵器	高杯	同転ナデ・同編文・ コナデ・ハケ目・ 同編文(4条)・ハケ目・ 同編文(3条)・ハケ目・ 同編文(2条)・ハケ目・ 同編文(1条)・ハケ目	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・多	中・少		10.9		5/8		香東川下流粘土
479	SR06	中層	弥生土器	壺	ナデ・ヘラミガキ →ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ →ヘラミガキ	10YR5.3 灰黄褐色	10YR5.3 灰黄褐色	細・少	細・少				3/8		
480	SR06	中層	土師器	壺	同転ナデ・指押え・ハケ目 →同転ナデ	同転ナデ	10YR6.2 灰黄褐色	10YR7.3 灰黄褐色	中・少	中・少		15.0		2/8		
481	SR06	中層	須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ →同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N7/灰白	中・少	中・少		0.24	4.0	2/8		
482	SR06	中層	須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ →同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰	中・少	中・少		12.5	4.2	8/8		
483	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰	中・少	中・少		0.14		2/8		
484	SR06	中層	須恵器	壺	同転ナデ・タタキ →同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	中・多	細・少		16.3		5/8		
485	SR06	中層	弥生土器	壺	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	2.5Y6.3 黄灰	2.5Y6.3 黄灰	粗・多			0.22		2/8		
486	SR06	中層	弥生土器	鉢	ナデ・ハケ目 →同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	ナデ・ハケ目 →同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	10YR6.3 灰黄褐色	10YR6.3 灰黄褐色	中・多	中・少		0.70		2/8		香東川下流粘土
487	SR06	中層	弥生土器	高杯	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	10YR6.3 灰黄褐色	10YR5.4 灰黄褐色	中・多	中・少			19.1	8/8		
488	SR06	中層	弥生土器	壺	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	2.5Y6.3 黄灰	2.5Y6.3 黄灰	中・多	細・並		0.14		3/8		香東川下流粘土
489	SR06	中層	弥生土器	壺	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	10YR6.3 灰黄褐色	10YR6.3 灰黄褐色	中・多	細・少		0.14		2/8		香東川下流粘土
490	SR06	中層	弥生土器	壺	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	2.5Y6.2 黄灰	2.5Y6.2 黄灰	中・多	細・並		1.30		7/8		香東川下流粘土
491	SR06	中層	弥生土器	壺	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	7.5YR7.4 黄褐色	7.5YR7.4 黄褐色	中・多	細・並		1.87		3/8		香東川下流粘土
492	SR06	中層	弥生土器	壺	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	同編文(4条)・ハケ目 →同編文(3条)・ハケ目 →同編文(2条)・ハケ目 →同編文(1条)・ハケ目	7.5YR5.3 黄褐色	7.5YR5.2 黄褐色	粗・並	粗・並		2.08		5/8		

第30表 土器観察表(24)

観文番号	遺構名	層位等	種類	器種	調査		色調			胎土				法高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	残存率	備考
					外面	内面	外面	内部	石長・ 石高	赤色 紋	角四 石	雲母	砂粒						
483	SR06	中層	弥生土器	壺	ヨコナデ・ハケ目・ 指押え	ヨコナデ・指押え・ ヘラケズリ	10YR6.3 におい、黄褐色	10YR6.3 におい、黄褐色	中・並				16.7			7/8	香東川下流粘土		
494	SR06	中層	弥生土器	壺	マメツ・刺櫛・ タタキ目・ハケ・ マメツ・刺櫛	マメツ・刺櫛・ 指押え・ハケ マメツ・指押え・ ナデ	10YR6.2 灰黄褐色	10YR6.2 灰黄褐色	粗・多	中・並			22.2	32.0	4.4	7/8			
495	SR06	中層	弥生土器	壺	ナデ・タタキ目・ 一部ハケ目	ナデ・ハケ目	25Y7.2 灰黄	25Y7.2 灰黄	中・少				(12.4)			4/8	硬底破損有り		
496	SR06	中層	土師器	杯	ヨコナデ・ヘラ マツ・指押え・ ヘラケズリ	ヨコナデ・ヘラ マツ・指押え・ ヘラケズリ	10YR7.3 におい、黄褐色	10YR7.3 におい、黄褐色	細・少				11.1	4.8		2/8			
497	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ ナデ・タタキ目	マメツ・指押え・ ナデ・タタキ目	25Y8.3 灰黄	25Y8.3 灰黄	細・少				13.7	9.9	9.4	7/8			
498	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ タタキ目・ヘラケズリ	マメツ・指押え・ タタキ目・ヘラケズリ	25Y8.2 灰白	25Y8.2 灰白	中・少				(14.5)			2/8			
499	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ ナデ	マメツ・指押え・ ナデ	25Y7.2 灰黄	25Y7.2 灰黄	中・少				(10.4)			5/8			
500	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ ナデ	マメツ・指押え・ ナデ	25Y6.3 におい、黄褐色	25Y6.3 におい、黄褐色	中・少				(11.0)			6/8			
501	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ ナデ	マメツ・指押え・ ナデ	25Y8.2 灰白	25Y8.2 灰白	細・少				(25.8)			1/8未測			
502	SR06	中層	土師器	高杯	マメツ・指押え・ ナデ	マメツ・指押え・ ナデ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	中・少				(12.2)			4/8			
503	SR06	中層	土師器	鉢	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	10YR7.2 におい、黄褐色	10YR7.2 におい、黄褐色	中・多				(19.8)			3/8			
504	SR06	中層	土師器	壺	ヨコナデ・ハケ目 マメツ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・ハケ目 マメツ・指押え・ ナデ	10YR7.3 におい、黄褐色	10YR6.2 におい、黄褐色	中・並				(15.9)	23.3		6/8			
505	SR06	中層	土師器	壺	ヨコナデ・ハケ目 マメツ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・ハケ目 マメツ・指押え・ ナデ	10YR6.3 におい、黄褐色	10YR6.3 におい、黄褐色	中・多				(17.6)			3/8			
506	SR06	中層	土師器	壺	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	25Y7.3 灰黄	25Y7.3 灰黄	中・多				(10.7)			6/8			
507	SR06	中層	土師器	壺	ヨコナデ・ナデ 指押え・マメツ	ヨコナデ・ナデ 指押え・マメツ	10YR7.3 におい、黄褐色	10YR7.3 におい、黄褐色	中・多				(18.6)			2/8			
508	SR06	中層	土師器	(把手)	指押え	指押え	10YR7.3 におい、黄褐色	10YR7.3 におい、黄褐色	中・多							8/8			
509	SR06	中層	須恵器	杯	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	N7/灰白	N7/灰白	中・少				(12.6)	5.6		5/8			
510	SR06	中層	須恵器	杯	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	N5/灰	N5/灰	中・少				(12.8)	4.5		4/8			
511	SR06	中層	須恵器	杯	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	N8/灰白	N7/灰白	細・少				(11.7)	4.2		3/8			
512	SR06	中層	須恵器	杯	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	N6/灰	N7/灰白	細・少				(12.3)			3/8			
513	SR06	中層	須恵器	杯	ヨコナデ・指押え・ ナデ	ヨコナデ・指押え・ ナデ	N6/灰	N6/灰	中・少				12.6	5.0		7/8			

第31表 土器観察表(25)

標本番号	遺跡名	層位等	種類	器類	調整		色調		胎土				口径 長さ (cm)	胎高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	焼存年	備考
					外面	内面	外部	内部	石色 灰石	赤色 灰	内 四 角	雲母						
514	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰									3/8	
515	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白									8/8	
516	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰									7/8	
517	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N6/灰	N5/灰									8/8	
518	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰									8/8	
519	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰									4/8	
520	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰									3/8	
521	SR06	中層	須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰									8/8	内面に付着物
522	SR06	中層	須恵器	高杯	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白									8/8	
523	SR06	中層	須恵器	高杯	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白									6/8	
524	SR06	中層	須恵器	高杯	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N6/灰	N5/灰									6/8	
525	SR06	中層	須恵器	蓋	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	7.5Y5/1灰	7.5Y6/1灰									8/8	
526	SR06	中層	須恵器	皿	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	7.5Y5/1灰	7.5Y6/1灰									8/8	
527	SR06	中層	赤生土器	壺	ナデ・マメフ	ナデ・マメフ	10YR5/3 による黄褐色	10YR5/3 による黄褐色									2/8	香取川下流出土
528	SR06	中層	赤生土器	(壺)	ヘラミガキ・ナデ	ハナ目・ヘラミ ガキ	2.5Y4/2 暗灰黒	2.5Y4/2 暗灰黒									3/8	
529	SR06	中層	赤生土器	(壺)	ヘラミガキ・ナデ	ヘラミガキ	2.5Y4/1 灰黒	2.5Y4/1 灰黒									2/8	
530	SR07		土師器	高杯	ナデ・ヨコナデ・ マメフ	ナデ・マメフ・ヨ コナデ・ハナ目	2.5Y6/2 灰黒	2.5Y6/2 灰黒									1/8	
531	SR07		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰									1/8	
532	SR07		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰									2/8	
533	SR07		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白									7/8	
534	SR07		須恵器	杯蓋	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰									2/8	
535	SR07		須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰									7/8	
536	SR07		須恵器	杯身	同転ナデ・回転へ ラカズリ	同転ナデ	N4/灰	5Y5/1 暗灰									6/8	香取川に落ち たと思われる



第32表 土器観察表 (26)

観文番号	遺跡名	層位等	種類	器種	器蓋		色澤		胎土				焼存率	備考	
					外面	内面	外部	内部	石灰、灰石	彩色	内凹	雲母			砂粒
527	SR07		須恵器	杯身	同輪ナデ・同転ヘラクスリ	同輪ナデ	N7/灰白	N7/灰白			中・少 (10.8)			1/8	
528	SR07		須恵器	杯身	同輪ナデ・同転ヘラクスリ	同輪ナデ	N7/灰白	N6/灰			中・少 (10.2)	6.7		2/8	
529	SR07		須恵器	杯身	同輪ナデ・同転ヘラクスリ	同輪ナデ	7.5Y5/4灰	N6/灰			中・多 (11.2)			3/8	外面自然焼
540	SR07		須恵器	杯身	同輪ナデ・同転ヘラクスリ	同輪ナデ	N7/灰白	N7/灰白			細・少 (11.2)			1/8	
541	SR07		須恵器	高杯	同輪ナデ・器状文・青キ目・黒かし(3ヶ所)	同輪ナデ	N6/灰	N6/灰			細・少 (15.6)	11.1	9.9	5/8	
542	SR07		須恵器	壺	同輪ナデ	同輪ナデ	N7/灰白	N7/灰白			中・少 (10.7)			7/8	
543	SR07		須恵器	壺	同輪ナデ・タタキ目・同輪ナデ	同輪ナデ	N7/灰白	N7/灰白			中・少 (14.4)			3/8	
544	SR07		須恵器	壺	同輪ナデ・樽蓋・杖文	同輪ナデ	N7/灰白	N5/灰			中・少 (16.1)			2/8	
545	SR07		須恵器	壺	同輪ナデ・器状文	同輪ナデ・器状文	N6/灰	N6/灰			細・少 (11.5)			2/8	
546	SR07		弥生土器	壺	ヨコナデ・転ナデ	ヨコナデ・ヘラクスリ	2.5Y5/3 灰黒				細・少 (12.0)			2/8	香取川下流粘土
547	SR07		弥生土器	壺	ヨコナデ・ヘラクスリ・ヘラクスリ・ヘラクスリ・ヘラクスリ(ワメツ)	ヨコナデ・器状文・ヘラクスリ・ヘラクスリ	10YR8/3 灰黒	10YR8/3 灰黒			(10.9)	18.9		7/8	
548	SR07		弥生土器	壺	ヘラミガキ・ナデ	ヘラクスリ・ナデ	10YR4/1 灰白	10YR4/1 灰白			細・少			6/8	香取川下流粘土
549	SR07		土師器	杯	同輪ナデ・ミガキ	同輪ナデ・ヘラクスリ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			中・少 (14.2)	4.6	8.9	3/8	
550	SR07		土師器	杯	マメツ	マメツ	10YR8/3 灰白	2.5Y7/4 灰白			細・多 (12.6)			3/8	
551	SR07		土師器	杯	同輪ナデ・器状文	同輪ナデ・同輪ナデ・器状文	10YR7/2 灰白	10YR8/2 灰白			中・多 (12.5)			1/8	
552	SR07		土師器	杯	同輪ナデ・ヘラクスリ	同輪ナデ・同輪ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			中・多 (13.6)			3/8	
553	SR07		土師器	杯	同輪ナデ・器状文	同輪ナデ・ナデ	10YR7/2 灰白	10YR7/2 灰白			細・少 (14.6)			1/8未測	
554	SR07		土師器	杯	ヨコナデ・マメツ	マメツ	2.5Y7/2 灰白	2.5Y7/2 灰白			細・少 (13.5)			3/8	
555	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・マメツ・ヘラクスリ	ヨコナデ・マメツ・ヘラクスリ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			細・少 (24.4)			1/8	
556	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・器状文・器孔(3ヶ所)	同輪ナデ・ヨコナデ	10YR7/2 灰白	10YR6/2 灰黒			細・少		9.4	6/8	
557	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・器状文・器孔(3ヶ所)	同輪ナデ・ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			細・少 (10.2)			4/8	
558	SR07		土師器	高杯	同輪ナデ・ナデ	同輪ナデ・ナデ	2.5Y8/3 灰白	2.5Y8/3 灰白			中・少		10.2	4/8	
559	SR07		土師器	高杯	同輪ナデ・ナデ	同輪ナデ・器目・ナデ	2.5Y8/3 灰白	2.5Y8/3 灰白			中・少		9.4	6/8	

第33表 土器観察表(27)

標本番号	遺構名	廟堂寺	種類	器種	調査			色置			新土				残存率	備考		
					外面	内面	外部	内部	石灰・長石	赤色	角閃石	雲母	砂粒	口径長さ			口径長さ	高さ
560	SR07		土師器	高杯	指押え・指ナデ・ナデ 口(急が所)		25Y7/3 灰青	25Y7/3 灰青							13.6		7/8	
561	SR07		土師器	蓋	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 灰青	10YR6/3 灰青							中・少(15.6)		2/8	
562	SR07		土師器	蓋	ヨコナデ→指押え →ナデ	ヨコナデ・指押え →ナデ	10YR7/2 灰青	10YR6/2 灰青							中・多(23.1)		1/8	
563	SR07		土師器	(把手)	指押え・ハケ目・ ナデ	ハケ目・ナデ	25Y7/2 灰青	25Y7/2 灰青							細・多		8/8	
564	SR07		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ハ ケ目	同転ナデ	N5/灰	N6/灰							中・少(11.5)		3/8	
565	SR07		須恵器	杯	同転ナデ・同転ナデ →ナデ	同転ナデ→ナデ	N7/灰白	N7/灰白							細・少		1/8	
566	SR07		須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ・板ナデ →板ナデ	N6/灰	N6/灰							中・少(18.6)		2/8	
567	SR07		弥生土器	蓋	ヨコナデ・同転ハ ケ目	ヨコナデ・同転ハ ケ目	10YR5/2 灰青	10YR6/3 灰青							細・並		3/8	香泉川下流粘土
568	SR07		土師器	杯	ナメツ・ハラミガキ 指押え	ナメツ・ハラミガキ 指押え	10YR8/3 灰青	10YR8/4 灰青							細・少 11.6	4.6	5.8	8/8
569	SR07		土師器	杯	指押え・ハラミガキ →ナデ	指押え・ハラミガキ →ナデ	10YR7/3 灰青	10YR7/3 灰青							細・少 12.2	5.3	3.5	8/8
570	SR07		土師器	杯	ハラミガキ・ナデ	ハラミガキ・ナデ	10YR8/3 灰青	10YR7/4 灰青							中・少 11.8	5.5	6.8	7/8
571	SR07		土師器	杯	ナデ・ナメツ	ナデ・ナメツ・ハ ケ目	10YR7/3 灰青	10YR7/3 灰青							細・少 11.7	5.6	7.8	
572	SR07		土師器	杯	ナデ・ナメツ	ナメツ・ハラミガ キ	10YR7/3 灰青	10YR7/3 灰青							細・少 13.0	5.5	7.8	
573	SR07		土師器	杯	ナデ	ナデ・ハラミガキ	10YR7/4 灰青	10YR7/4 灰青							細・少 12.4	5.5	8.8	
574	SR07		土師器	杯	ハラミガキ・ハラ ケ目	ヨコナデ・ナメツ	10YR7/3 灰青	10YR7/3 灰青							中・少 11.3	5.7	7.8	
575	SR07		土師器	杯	ハラミガキ・ハラ ケ目	ハラミガキ	5Y4/1灰	5Y4/1灰							細・少	5.5	9.2	7/8
576	SR07		土師器	高杯	ナメツ	ナメツ・ハラミガ キ	10YR7/3 灰青	10YR7/4 灰青							細・少 13.0		8.8	
577	SR07		土師器	蓋	ナデ・ハラミガ キ	ナデ・指押え	10YR7/2 灰青	10YR6/2 灰青							中・少 9.5		6.8	
578	SR07		土師器	蓋	ナメツ・ヨコナデ	ナメツ	7.5YR7/3 灰青	7.5YR7/3 灰青							中・多	5.6	8.8	
579	SR07		土師器	蓋	ヨコナデ・指押え →ハラミガキ	ヨコナデ・指押え →ハラミガキ	10YR8/3 灰青	10YR7/3 灰青							細・多(15.6)	25.1(2.5)	5.8	
580	SR07		土師器	蓋	ヨコナデ・板ナデ →ハラミガキ	ヨコナデ・板ナデ →ハラミガキ	7.5YR6/4 灰青	7.5YR6/4 灰青							細・多		7/8	
581	SR07		土師器	蓋	ヨコナデ・同転ハ ケ目	ヨコナデ・同転ハ ケ目	7.5YR7/4 灰青	7.5YR7/4 灰青							細・多 20.1	16.4	7/8	

第34表 土器観察表(28)

観文番号	遺構名	層位等	種類	器種	高麗		色澤		粘土				法量 (cm)		残存率	備考	
					外面	内面	外部	内部	石美・灰石	赤色・靑	角四石	番号	粒数	口径長さ			器高
582	SR0F		土師器	裏	ヨコナデ・マメフ・ハケ目	ヨコナデ・ナデ	10YR7/3 にふい、黄緑	10YR6/3 にふい、黄緑								2/8	
583	SR0F		土師器	裏	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	10YR6/3 にふい、黄緑	10YR6/3 にふい、黄緑								1/8	
584	SR0F		土師器	裏	マメフ・指押え、ハケ目	75YR7/6 黄緑	10YR6/3 にふい、黄緑	10YR6/3 にふい、黄緑								2/8	
585	SR0F		土師器	裏	ヨコナデ・指押え、ハケ目	23Y5/2 黄緑	23Y5/2 黄緑	23Y5/2 黄緑								7/8	
586	SR0F		土師器	裏	ヨコナデ・マメフ	ヨコナデ・指押え、ハケ目・ナデ	10YR6/3 にふい、黄緑	10YR5/2 黄緑								2/8	
587	SR0F		土師器	裏	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え、ハケ目・ナデ	10YR8/3 黄緑	10YR8/3 黄緑								2/8	
588	SR0F		土師器	(把手)	マメフ・指押え、ハケ目・ナデ	75YR8/4 黄緑	23Y6/3 黄緑	23Y6/3 黄緑								8/8	
589	SR0F		土師器	(把手)	ハケ目・指押え		23Y6/3 黄緑	23Y6/3 黄緑								8/8	
590	SR0F		須恵器	杯蓋	スリ→ナデ・同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰								3/8	
591	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰								8/8	
592	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N7/灰白								8/8	
593	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰								1/8	
594	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	10YR6/1 黄緑	10YR6/1 黄緑								6/8	
595	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰								8/8	
596	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰								7/8	
597	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白								8/8	
598	SR0F		須恵器	杯蓋	同転ヘラケズリ・同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰								8/8	
599	SR0F		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラケズリ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白								3/8	
600	SR0F		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラケズリ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰								6/8	
601	SR0F		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラケズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰								7/8	
602	SR0F		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラケズリ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白								1/8	
603	SR0F		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラケズリ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰								7/8	
604	SR0F		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラケズリ	同転ナデ	23Y6/1 灰白	23Y6/1 灰白								2/8	

第35表 土器観察表(29)

編年番号	遺構名	所在寺	種類	器種	調整		色置		新土				法蓋(cm)	口径・底径・高さ(mm)	底径・高さ(mm)	現存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石灰・長石	赤色粒	角四石	雲母					
605	SR07		須恵器	杯身	同転ナデ・同転ヘラカズリ(同転ヘラカズリ・通かし)	同転ナデ	N5/灰	N6/灰					中・多	123		7/8	
606	SR07		須恵器	高杯	同転ナデ・通かし(同転ナデ)	同転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少		91	7/8	
607	SR07		須恵器	高杯	同転ナデ・通かし(同転ナデ)	同転ナデ・ナデ	S5/1灰	N5/灰					細・少	(107)		7/8	
608	SR07		須恵器	羹	同転ナデ・タカキ(同転ナデ)	同転ナデ・青津波	N6/灰	N4/灰					中・少	(237)		3/8	自然剥片着
609	SR07		須恵器	壺	同転ナデ・同転ヘラカズリ	同転ナデ	S7/1灰白	S7/1灰白					細・少	67	109	7/8	
610	SR07		瓦器	碗	ナメ	ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					細・少	(44)		4/8	
611	SR07		土師器	杯	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	10YR8/2	10YR8/2					細・少	(118)		1/8	
612	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ・ヨコナデ	絞目・瓶ナデ	10YR7/3	10YR7/3					細・少		102	8/8	
613	SR07		土師器	羹	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・指押え	10YR5/2	10YR5/3					細・多	(149)		1/8	
614	SR07		須恵器	杯	同転ナデ・同転ヘラカズリ	同転ナデ・同転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・多	(123)		2/8	
615	SR07		須恵器	高杯	同転ナデ・通かし	同転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・多	(107)		2/8	
616	SR07		弥生土器	羹	同転ナデ・通かし(同転ナデ)	ヘラミガキ	25Y5/2	25Y5/2					細・少	76	35	6/8	
617	SR07		土師器	杯	ヘラカズリ	ナデ・高て具裏	25Y7/3	25Y7/3					中・少	134	72	6/8	
618	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ・ナメ	ナデ・瓶ナデ・ナメ	10YR8/3	10YR8/3					細・少	127	114	9/8	8/8
619	SR07		土師器	高杯	ナメ・指押え・壺(乳点ナメ)	ナメ・ヘラミガキ	10YR6/2	10YR6/2					細・少	(140)	110	(102)	6/8
620	SR07		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ	ナメ・ナデ	25Y7/3	25Y7/3					細・少	(127)		4/8	
621	SR07		土師器	高杯	ナデ・指押え	ヨコナデ・ヘラミガキ	25Y7/2	25Y7/2					細・少	(133)		2/8	
622	SR07		土師器	高杯	ナメ・ナデ	ナメ・ヘラミガキ	10YR6/3	25Y4/2					細・少	144		6/8	
623	SR07		土師器	高杯	瓶ナデ・ナデ・壺(乳点ナメ)	瓶ナデ・ナデ	25Y7/2	25Y7/2					細・少		96	8/8	
624	SR07		土師器	高杯	指押え・ナデ・壺(乳点ナメ)	ヘラカズリ・瓶ナデ	10YR8/3	10YR8/3					中・少	(108)		6/8	
625	SR07		土師器	羹	ヨコナデ・指押え	ヨコナデ・指押え	10YR7/2	10YR7/2					中・少	(138)		1/8	
626	SR07		土師器	羹	ヨコナデ・ハケ目	ヨコナデ・ハケ目	10YR6/3	25Y6/2					中・少	(20)		4/8	
627	SR07		須恵器	杯身	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少	(108)		2/8	
628	SR07		弥生土器	壺	須目(同転G形)・同転ナデ・ヨコナデ	同転ナデ・ハケ目	10YR5/2	10YR5/2					細・少	(234)		3/8	

第36表 土器観察表(30)

編年番号	遺構名	層位等	種類	器種	高麗		色調		粘土				残存率	備考	
					外面	内面	外部	内部	石莖・長石	赤色・靑	角閃石	雲母			砂粒
629	SR07		弥生土器		白磁(3条)・刷目・押捺文・ヨコナテ・地出(2条)	メツツ・三角刷目文	10YR5/3 におい(黄)	10YR5/4 におい(黄)	中・多	細・少	(25.0)			5/8	
630	SR07		土師器	高杯	ヨコナテ・指押え	メツツ・ヘラミガキ	10YR6/3 におい(黄)	10YR6/3 におい(黄)		細・少	14.2	10.0	9.9	8/8	
631	SR07		土師器	高杯	メツツ・ハケ目・刷目	メツツ・メツツ・ヘラミガキ	2.5Y7/2 白	2.5Y7/3 黄		細・少	(13.6)			6/8	
632	SR07		土師器	高杯	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・ハケ目・メツツ	10YR7/3 におい(黄)	10YR7/2 におい(黄)		中・少	14.9			8/8	
633	SR07		土師器	高杯	ヨコナテ・刷目	ヨコナテ・メツツ	10YR6/3 におい(黄)	10YR6/3 におい(黄)		中・少	(15.0)			6/8	
634	SR07		土師器	高杯	ヨコナテ・メツツ	ヨコナテ・メツツ・ヘラミガキ・指押え	10YR6/3 におい(黄)	10YR6/3 におい(黄)		細・少	(16.3)			2/8	
635	SR07		土師器	高杯	指押え・ナテ	板ナテ・ナテ	2.5Y7/2 黄	2.5Y7/2 黄		中・少	(25.6)			5/8	
636	SR07		土師器	高杯	指押え・ナテ・刷目	ナテ・板ナテ	2.5Y7/2 黄	2.5Y7/2 黄		中・少		10.0		5/8	
637	SR07		土師器	高杯	刷目	刷目	10YR6/2 黄	10YR6/2 黄		細・少			(9.6)	3/8	
638	SR07		土師器	高杯	刷目	刷目	10YR6/3 黄	10YR6/3 黄		細・少			(11.0)	6/8	
639	SR07		土師器	高杯	指押え	刷目・指押え	2.5Y7/2 黄	2.5Y7/2 黄		細・少			8.8	6/8	
640	SR07		土師器	壺	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナテ	2.5Y7/3 黄	2.5Y7/3 黄		細・少	(10.4)	14.6		7/8	
641	SR07		土師器	壺	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・指押え・ハケ目	10YR8/4 黄	10YR8/4 黄		中・少	18.5	25.3		8/8	
642	SR07		土師器	壺	ヨコナテ・ハケ目	ヨコナテ・指押え	2.5Y4/2 黄	2.5Y5/2 黄		中・多	(17.0)			4/8	
643	SR07		土師器	壺	ナテ・メツツ	ナテ・ナテ・ヘラミガキ	2.5Y7/2 黄	2.5Y7/2 黄		中・少	(17.3)			2/8	
644	SR07		土師器	壺	ヨコナテ・ハケ目	ヨコナテ・ハケ目	10Y7/4 黄	10Y7/4 黄		中・少	17.7			6/8	
645	SR07		土師器	壺	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・指押え・ハケ目	10YR3/1 黄	10YR7/2 黄		細・少				8/8	
646	SR07		土師器	瓶	ヨコナテ・指押え	ヨコナテ・ハケ目	10YR8/4 黄	10YR8/4 黄		中・少	27.5	32.1		7/8	
647	SR07		須恵器	杯	刷目	刷目	2.5Y5/1 黄	2.5Y5/1 黄		中・少	12.6	4.4		6/8	
648	SR07		須恵器	杯	刷目	刷目	2.5Y5/1 黄	2.5Y5/1 黄		細・少	(12.2)			2/8	
649	SR07		須恵器	杯	刷目	刷目	2.5Y6/1 黄	2.5Y6/1 黄		細・少	(12.8)			2/8	
650	SR07		須恵器	杯	刷目	刷目	2.5Y6/1 黄	2.5Y6/1 黄		中・少	10.8	4.4	7.0	7/8	

第37表 土器観察表(31)

標本番号	遺構名	層状等	種類	器種	調整		色調		粘土				焼存率	備考		
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色配	内四石	炭母			砂粒	口径長さ(mm)
651	SR07		須恵器	杯身	面転ナデ・面転へ ラケズリ	面転ナデ	N6/灰	N6/灰					中・少 (11.0)		2/8	
652	SR07		須恵器	杯身	面転ナデ・面転へ ラケズリ	面転ナデ	N4/灰	N6/灰					中・少 (10.7)		2/8	
653	SR07		須恵器	杯身	面転ナデ・面転へ ラケズリ	面転ナデ	N5/灰	N6/灰					中・少 (10.7)		4/8	
654	SR07		須恵器	高杯	面転ナデ	面転ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少	6.9	5/8	
655	SR07		須恵器	高杯	面転ナデ・表状文 ヨコナデ	ナデ・面転ナデ	10Y6/1灰	10Y6/1灰					細・少	9.5	8/8	
656	SR07		須恵器	蓋	面転ナデ・タタキ ヨコナデ	面転ナデ・ナデ	25Y6/1 灰	N5/灰					中・少 (14.8)		2/8	
658	SR07		須恵器	皿	面転ナデ・表状文 タタキ・タタキ 穿孔0.5ヶ所	面転ナデ	N4/灰	N4/灰					細・少 9.5	10.5	8/8	
659	SR07		須恵土器		タタキ目	ナデ	7.5YR8/4 成黄褐色	10YR8/3 成黄褐色					細・少		1/8未調	
660	SR07		土器瓦 土管	羽釜	ヨコナデ・面転え マダマ	ヨコナデ・面転え マダマ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色					細・多 (25.3)		1/8未調	
661	SR07		須恵器	杯	面転ナデ・ナデ へラ切り→ナデ	面転ナデ	5Y2/1黒	10YR4/2 灰黄褐色					細・少	6.9	4/8	
662	SR07		須恵器	蓋	面転ナデ・ナデ ラケズリ・ナデ	面転ナデ	N5/灰	N5/灰					中・少	6.1	4/8	
663	SR07		須恵器	蓋	面転ナデ・面転へ ラケズリ・マダマ	面転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白					細・少	5.1	7/8	
664	SR08		土器器	高杯	ヨコナデ・マダマ ヘラミガキ	ヨコナデ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色					細・少 (14.3)		3/8	
665	SR08		土器器	高杯	マダマ・穿孔0.3ヶ マダマ	マダマ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少	9.7	6/8	
666	SR08		土器瓦 土管	小皿	ナデ・ヘラ切り→ ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色					細・多 (8.7)	1.5 (6.8)	1/8	
667	SR08		土器瓦 土管	鉢	ヘラ切り→ナデ マダマ	ナデ	10YR8/3 成黄褐色	10YR8/3 成黄褐色					細・少	5.6	3/8	
668	SR08		土器瓦 土管	鉢	マダマ・ヘラ切り マダマ	マダマ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色					中・少	4.8	2/8	
669	SR08		須色土器	鉢	マダマ・面転え ナデ(マダマ)	ナデ→ヘラミガキ ナデ→ヘラミガキ	N3/暗灰	N4/灰					中・少 (4.7)		6/8	両面黒色
670	SR08		瓦器	瓦	ナデ・面転え→ナ デ(マダマ)	ナデ→ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					細・少		1/8未調	
671	SR08		瓦器	瓦	面転ナデ・ヘラ切 り→ナデ	ヘラミガキ	N6/灰	N6/灰					細・少	5.8	2/8	
672	SR08		瓦器	瓦	面転ナデ・ヘラ切 り→ナデ	ヘラミガキ	2.5Y7/1 灰白	N5/灰					中・少	4.6	4/8	
673	SR08		瓦器	瓦	マダマ	ナデ→ヘラミガキ	N5/灰	N5/灰					細・少	4.8	2/8	
674	SR08		瓦器	瓦	面転ナデ	マダマ	N4/灰	N4/灰					細・少	4.8	3/8	
675	SR08		須恵器	杯	面転ナデ・ヘラ切 り→ナデ	面転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白					中・少 (12.6)	3.6 (6.8)	3/8	
676	SR08		須恵器	杯	面転ナデ・面転へ ラケズリ	面転ナデ	N8/灰白	N8/灰白					細・少	6.1	2/8	内外面に火傷

第38表 土器観覧表(32)

標文番号	遺跡名	層位等	種類	器種	調査		色調		粘土				法量(cm)		残存率	備考		
					外面	内面	外底	内底	石高・底石	赤色度	角四石	容積	秒粒	口径(cm)			口縁高(cm)	底高(cm)
677	SR06		須恵器	壺	回転ナブ	自然剥離	10Y5/1K	10Y4/1K							中・少	21.4		2/8
678	SR06		須恵器	壺	回転ナブ・タタキ目・ハクキ目	回転ナブ・青磁文	N6/灰	N6/灰							中・少	19.5		6/8
679	SR06		須恵器	壺	回転ナブ・ヘラミガキ・ナブ	回転ナブ・ヘラミガキ・ナブ	N6/灰	N6/灰							少		0.3	2/8
680	SR06		瓦葺土器	壺	ヨコナブ・タタキ	マツ・ナブ	10Y5/1K	N4/灰							中・少	23.8		2/8
681	SR06		瓦葺土器	壺	ナブ・マツ	ナブ・マツ	2.5Y7/1	2.5Y7/1							少	31.8		1/8
682	SR06		土師器	壺	回転ナブ	ヘラミガキ・回転ナブ	10Y3/2	10Y3/2							少	16.6		1/8
683	SR06		須恵器	杯	回転ナブ・ヘラミガキ・ナブ	回転ナブ・ヘラミガキ・ナブ	10Y5/1K	10Y5/1K							少	14.7	4.6	10/7
684	SR06		土師器	瓦葺土器	マツ・ヘラミガキ・ナブ	マツ・ヘラミガキ・ナブ	10Y3/2	10Y3/2							中・多			5/8
685	SR06		土師器	瓦葺土器	ヨコナブ	ヨコナブ	10Y3/2	10Y3/2							中・多	16.2		2/8
686	SR06c-07		磨化不明	壺	磨化土文・中層土文・赤穴(赤穴2ヶ所)	ヘラミガキ	2.5Y6/2	2.5Y6/2							少			3/8
687	SR06c-07		磨化不明	壺	ヨコナブ	ヨコナブ	2.5Y6/2	2.5Y6/2							少			3/8
688	SR06c-07		磨化不明	壺	ヨコナブ	ヨコナブ	5Y3/6	5Y3/6							少	27.4		3/8
689	SR06c-07		磨化不明	壺	ヨコナブ	ヨコナブ	10Y5/3	10Y5/3							少	14.0		1/8
690	SR06c-07		磨化不明	壺	ヘラミガキ・ナブ	指押え・ナブ	10Y3/2	10Y3/2							少		5.4	6/8
691	SR06c-07		磨化不明	高杯	ヨコナブ・ヘラミガキ	ナブ	2.5Y7/2	2.5Y7/2							少	16.2		2/8
692	SR06c-07		磨化不明	須恵器	ヘラミガキ・指押え	指ナブ	2.5Y6/3	2.5Y6/3							中・多		8.0	6/8
693	SR06c-07		磨化不明	須恵器	ヘラミガキ	指ナブ	10Y3/1	10Y3/1							中・多	29	2.7	0.7
694	SR06c-07		磨化不明	壺	ヨコナブ・ハク目(マツ)・マツ	ヨコナブ・ハク目(マツ)	7.5Y3/6	7.5Y3/6							中・多	11.4	20.7	6.0
695	SR06c-07		磨化不明	須恵器	ヨコナブ	ヨコナブ	10Y5/3	10Y5/3							少	12.2		3/8
696	SR06c-07		磨化不明	須恵器	回転ナブ	回転ナブ	N5/灰	N5/灰							少			7/8
697	SR06c-08		磨化不明	須恵器	ハク・ナブ・ハク	ヘラミガキ	10Y3/3	10Y3/3							少			1/8未測
698	SR06c-08		磨化不明	須恵器	ヨコナブ・タタキ目・ナブ	ヨコナブ・指押え	10Y3/2	10Y3/2							中・多	18.9		1/8
699	SR06c-08		磨化不明	須恵器	回転ナブ	回転ナブ	N7/灰白	N7/灰白							少	13.7		1/8

第39表 土器観察表(33)

標文番号	遺跡名	層位等	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)	残存率	備考
					外面	内面	外部	内部	石英・長石	赤色	角閃石	炭母			
700	S806cc08	層位不明	須恵器	壺	回転ヘラケズリ→マメフ・回転ナデ	回転ナデ→ナデ	N5/灰	N6/灰						1/8	
701	S806cc08	層位不明	黒色土器	壺	マメフ	マメフ	10YR7/2にふい煙	N3/暗灰					7(6)	1/8	内面黒色
702	S806cc08	層位不明	須恵器	壺	回転ナデ→ナデ・ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					8(8)	2/8	
703	包含層		黒色土器	瓶	マメフ	マメフ	10YR8/2にふい煙	N4/灰					5(5)	3/8	内面黒色
704	包含層		黒色土器	瓶	マメフ・ヘラ切り→ナデ(マメフ)	マメフ	10YR7/3にふい煙	N3/暗灰					6(6)	2/8	内面黒色
705	包含層		黒色土器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N5/灰					17(7)	1/8	
706	包含層		須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラ切り	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					9(7)	2/8	
707	包含層		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰					11(9)	1/8	
708	包含層		須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	N6/灰白					11(10)	1/8	
709	包含層		瓦葺土器	壺	目コナデ・削履・回転ナデ	マメフ	N4/灰	N4/灰						1/8未調	
710	包含層		須恵器	こお鉢	回転ナデ	回転ナデ	5YR7/1灰白	5YR7/1灰白						1/8未調	東薄黒
711	遺跡外		黒色土器	浅鉢	ヘラミガキ→マメフ	マメフ	10YR5/2灰黒	10YR6/2灰黒	中・多					1/8未調	
712	遺跡外		赤土器	小皿	赤目・ヘラによる目コナデ	指押え	10YR6/9赤	10YR6/9赤	中・多					1/8未調	香取川下流粘土
713	遺跡外		土師質土器	小皿	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	5YR8/2灰白	5YR8/2灰白					1.0	3/8	
714	遺跡外		土師質土器	小皿	マメフ・ヘラ切り	マメフ	10YR8/3赤黒	10YR8/3赤黒					1.1	2/8	
715	遺跡外		土師質土器	小皿	回転ナデ(マメフ)	回転ナデ(マメフ)	2.5YR7/3にふい煙	2.5YR7/3にふい煙					1.2	3/8	
716	遺跡外		土師質土器	小皿	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	10YR8/3赤黒	10YR8/3赤黒					1.5	2/8	
717	遺跡外		土師質土器	杯	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ→ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少				17(1)	4/8	
718	遺跡外		土師質土器	瓶	マメフ	マメフ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・少					1/8未調	
719	遺跡外		土師質土器	瓶	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR6/2灰黒	7.5YR6/1灰黒	中・少				6.5	7/8	
720	遺跡外		土師質土器	瓶	指押え・ヘラ切り	マメフ	2.5YR7/3にふい煙	2.5YR7/2明灰	中・少				6(1)	3/8	
721	遺跡外		土師質土器	瓶	マメフ・ヘラ切り	マメフ	10YR8/2灰白	10YR8/1灰白	中・少				5(4)	2/8	内面黒色
722	遺跡外		黒色土器	瓶	マメフ	マメフ	N3/暗灰	N3/暗灰	中・少				5(7)	2/8	
723	遺跡外		瓦葺土器	瓶	ナデ・ヘラ切り→ナデ(マメフ)	マメフ	N5/灰	2.5YR1灰白	中・少				4.7	1/8	
724	遺跡外		瓦葺土器	瓶	目コナデ・指押え	ヘラミガキ	N5/灰	N5/灰	中・少				15(2)	1/8未調	
725	遺跡外		瓦葺土器	瓶	マメフ	マメフ	N3/暗灰	N3/暗灰	中・少					1/8未調	





第41表 石器観察表(1)

編年 番号	遺構名	層位等	器種	材質	度量			備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	
S1	SD2301		碧玉		0.3	0.5	0.4	重量(g) 0.1
S2	SD2301		碧玉		2.6	1.2	0.5	
S3	SD1205	上層	打製石皿	サセカイト	12.9	6.8	2.0	189.8
S4	SR01	最下層(黒小石砂質土)	石籠丁 or スクレイバー	サセカイト	6.9	6.3	1.5	55.6
S5	SR01	最下層(黒小石砂質土)	打製石斧	サセカイト	6.5	3.8	1.0	26.3
S6	SR02	グリュッドF(砂質土)	スクレイバー	サセカイト	6.2	2.9	1.1	16.4
S7	SR02	グリュッドF(砂質土)	打製石斧	サセカイト	6.2	3.7	1.0	31.0
S8	SR02	グリュッドE(砂質土)	打製石皿	サセカイト	4.0	4.0	1.1	17.5
S9	SR02	グリュッドD(砂質土)	打製石皿	サセカイト	3.4	1.9	0.3	2.2
S10	SR02	グリュッドD(砂質土)	未成品(石籠?)	サセカイト	6.0	3.4	0.9	22.0
S11	SR02	グリュッドD(砂質土)	未成品(石籠?)	サセカイト	4.8	3.3	0.6	8.6
S12	SR02	グリュッドD(砂質土)	打製石斧	サセカイト	6.8	6.9	1.6	96.3
S13	SR02	支層	打製石皿	サセカイト	8.9	4.8	1.5	72.0
S14	SR02		打製石皿	サセカイト	6.6	5.4	0.7	44.3
S15	SR02	グリュッドE(黒色粘質土)	打製石皿	サセカイト	3.7	1.7	0.4	1.6
S16	SR02	グリュッドE(黒色粘質土)	大型砕石斧	安山岩の塚岩	19.0	8.8	5.1	1200.0
S17	SR02	グリュッドE(黒色粘質土)	打製石皿	サセカイト	1.9	1.9	0.3	1.4
S18	SR02	グリュッドD(黒色粘質土)	打製石籠	サセカイト	7.8	4.8	1.0	41.4
S19	SR02	グリュッドD(黒色粘質土)	磨製石籠	安山岩	7.0	6.1	0.6	37.0
S20	SR02	グリュッドC(黒色粘質土)	打製石皿	サセカイト	4.4	2.7	0.8	7.6
S21	SR02	グリュッドC(黒色粘質土)	スクレイバー	サセカイト	4.4	4.2	0.8	17.8
S22	SR02	グリュッドC(黒色粘質土)	打製石籠	サセカイト	9.2	4.6	0.9	52.5
S23	SR02	グリュッドC(黒色粘質土)	打製石籠	サセカイト	8.2	4.5	0.6	27.2
S24	SR02	グリュッドC(黒色粘質土)	磨製石籠	サセカイト	3.4	2.9	1.0	12.6
S25	SR02	グリュッドK(黒色粘土層)	凹石	砂岩	18.1	17.7	5.9	2738.2
S26	SR02	グリュッドJ(黒色粘質土)	石籠?	サセカイト	4.5	2.6	0.6	8.9
S27	SR02	グリュッドB(黒色粘質土)	凹石	砂岩	11.5	11.3	5.1	1011.9
S28	SR02	グリュッドB(黒色粘質土)	磨製石籠	サセカイト	5.1	5.8	1.5	50.1
S29	SR02	グリュッドB(黒色粘質土)	磨製石籠	サセカイト	3.5	4.2	0.9	18.4
S30	SR02	グリュッドA(黒色粘質土)	打製石皿	サセカイト	2.0	0.3	0.3	0.9
S31	SR02	グリュッドA(黒色粘質土)	打製石籠	サセカイト	6.3	1.8	0.6	4.7
S32	SR02	グリュッドA(黒色粘質土)	スクレイバー	サセカイト	6.9	4.1	0.8	28.1
S33	SR02	グリュッドA(黒色粘質土)	打製石籠	サセカイト	6.9	4.0	1.1	37.7
S34	SR02	グリュッドA(黒色粘質土)	打製石皿	サセカイト	6.6	6.1	1.0	50.1
S35	SR02	上層	打製石斧	サセカイト	6.8	4.7	3.2	37.2
S36	SR02	グリュッド・層位不明	打製石皿	サセカイト	2.4	1.4	0.4	1.0
S37	SR02	グリュッド・層位不明	打製石籠	サセカイト	8.3	4.9	0.9	61.7
S38	SR02	グリュッド・層位不明	打製石斧	サセカイト	6.4	3.5	1.3	35.7
S39	SR02	グリュッド・層位不明	凹石	砂岩	13.2	7.2	5.1	642.4
S40	SR06	下層	打製石皿(未成品)	サセカイト	2.8	1.0	0.3	0.8
S41	SR06	下層	打製石皿(未成品)	サセカイト	2.8	1.3	0.3	1.5
S42	SR06	下層	スクレイバー	サセカイト	6.5	1.7	1.4	86.2
S43	SR06	下層	打製石籠	サセカイト	4.8	4.6	1.0	30.3

第42表 石器製法表 (2)

標本番号	遺跡名	層位等	器械	材質	寸法			備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	
S44	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	6.9	4.7	1.1	86.3
S45	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	6.4	6.3	1.7	78.8
S46	SR06	下層	打製石筴?	オスガイ	(4.8)	0.9	0.9	26.5
S47	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	2.3	1.1	0.4	0.8
S48	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	2.8	1.6	0.4	1.5
S49	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	(5.9)	2.5	1.4	29.3
S50	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	(7.5)	3.0	1.8	35.0
S51	SR06	下層	スクレイパー	オスガイ	7.4	4.6	1.0	35.1
S52	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	12.8	5.2	1.0	75.3
S53	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	(7.5)	(5.6)	1.3	67.7
S54	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	2.7	1.4	0.4	1.2
S55	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	2.7	1.9	0.4	1.3
S56	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	1.8	1.5	0.8	0.8
S57	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	3.0	1.5	0.6	1.9
S58	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	2.7	1.3	0.5	2.0
S59	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	3.2	1.8	0.3	1.9
S60	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	3.4	2.2	0.5	2.7
S61	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	4.9	2.4	0.4	4.1
S62	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	3.5	1.8	0.4	1.8
S63	SR06	下層	打製石筴 (未製品)	オスガイ	2.7	1.4	0.2	1.0
S64	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	2.3	1.3	0.3	0.9
S65	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	4.7	1.5	0.5	3.9
S66	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	5.9	1.8	0.6	5.5
S67	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	(5.2)	(2.9)	0.9	15.7
S68	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	(8.7)	3.6	1.5	59.7
S69	SR06	下層	スクレイパー	オスガイ	12.6	6.3	1.1	88.2
S70	SR06	下層	スクレイパー	オスガイ	(6.6)	(3.5)	1.1	30.5
S71	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	4.2	8.0	1.0	37.4
S72	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	13.5	5.9	1.6	86.6
S73	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	5.0	7.8	0.7	54.2
S74	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	4.7	(5.6)	1.0	38.0
S75	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	3.1	(5.1)	1.2	27.5
S76	SR06	下層	打製石筴丁	オスガイ	(4.3)	(5.0)	0.6	12.3
S77	SR06	下層	石筴	オスガイ	4.1	(5.0)	1.0	21.2
S78	SR06	下層	打製石筴	オスガイ	(6.7)	4.1	0.9	37.4
S79	SR06	下層	柱状片石筴	緑島片岩	20.6	4.9	1.8	410.5
S80	SR06	下層	太型輪石筴	安山岩の風岩	13.5	5.3	4.9	476.5
S81	SR06	下層	細粒石筴	オスガイ	4.1	6.0	1.4	32.7
S82	SR06	下層	細粒石筴	砂岩	2.7	2.6	0.6	7.2
S83	SR06	下層	明き石	砂岩	6.7	4.9	4.0	164.3
S84	SR06	中層	打製石筴	オスガイ	(4.0)	(4.9)	1.3	23.3
S85	SR06	中層	打製石筴	オスガイ	2.5	1.7	2.5	1.1
S86	SR06	中層	打製石筴	オスガイ	(4.2)	(2.7)	0.4	5.2

第43表 石器観察表 (3)

編年 層号	遺構名	層位等	器種	材質	寸量			備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	
S87	SR06	中層	ストレートバー	サスカイト	(4.9)	4.1	1.0	重量 (g) 27.0
S88	SR06	中層	打製石鏢	サスカイト	2.9	1.5	0.3	1.2
S89	SR06	中層	打製石斧	サスカイト	(3.9)	3.9	0.9	18.2
S90	SR06	中層	柱状小片石斧	緑泥岩	(11.5)	3.6	1.3	92.0
S91	SR06	中層	砥石	黒灰岩	7.2	2.0	1.6	31.3
S92	SR07		打製石鏢	サスカイト	2.8	1.7	0.4	1.3
S93	SR07		打製石鏢	サスカイト	2.6	1.7	0.4	1.4
S94	SR07		打製石鏢	サスカイト	(3.6)	(2.3)	0.4	3.2
S95	SR07		打製石鏢	サスカイト	2.5	2.2	0.3	1.0
S96	SR07		打製石鏢	サスカイト	1.6	1.6	0.5	2.5
S97	SR07		ストレートバー	サスカイト	4.2	5.8	1.2	27.9
S98	SR07		打製石直丁	サスカイト	13.8	3.2	1.3	126.2
S99	SR07		打製石斧	サスカイト	(4.1)	(5.7)	0.9	25.3
S100	SR07		打製石鏢	サスカイト	(2.9)	1.6	0.3	1.1
S101	SR07		打製石鏢	サスカイト	2.4	1.2	0.3	0.9
S102	SR07		玉	磨石	0.5	0.5	0.1	0.0
S103	SR07		打製石鏢	サスカイト	3.1	1.6	0.4	2.0
S104	SR07		ストレートバー	サスカイト	8.1	4.3	0.9	33.6
S105	SR07		打製石斧	サスカイト	(5.3)	(5.1)	1.3	44.5
S106	SR07		打製石鏢	サスカイト	2.0	2.2	0.3	1.5
S107	SR07		打製石直丁	サスカイト	(4.1)	4.0	0.9	15.7
S108	SR06eSR07	層位不明	打製石鏢	サスカイト	3.9	1.5	0.4	2.1
S109	SR06eSR07	層位不明	ストレートバー	サスカイト	(12.1)	(5.8)	1.7	133.0
S110	SR06eSR07	層位不明	打製石直丁	サスカイト	(9.1)	4.8	0.9	42.2
S111	SR06eSR07	層位不明	磨り石	磨石	4.7	4.6	4.4	126.9
S112	SR06eSR07	層位不明	磨り石	磨石	4.1	4.1	3.9	36.1
S113	SR06eSR08	層位不明	ストレートバー	サスカイト	5.6	3.5	1.2	23.5
S114	遺構外		打製石斧	サスカイト	(6.0)	(6.1)	1.6	63.0
S115	位置不明		ストレートバー	サスカイト	(3.9)	(3.9)	0.8	11.1
S116	遺構外?		打製石鏢	サスカイト	(10.1)	(3.9)	1.0	45.9

第44表 木器観察表

標本番号	遺構名	層位等	寸法			本取り	材質	備考
			現在長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)			
W1	SD1203		36.6	12.8	0.7	本取り	ヒノキ	
W2	SR01	最下層(混小石砂質土)	14.6	7.2	0.5		ヤマブキ	
W3	SR02	グリュットA(砂質土)	35.0	16.3	斜: 3.5°平: 1.0		フナ枯コナラ属アカガシ亜属	
W4	SR02	広葉木製品	25.4	17.9	2.9		フナ枯コナラ属アカガシ亜属	
W5	SR02	ミカカ屑材(薄材)	58.7	6.0	2.6	みかん割り	コナラ属タカシ亜属	
W6	SR02	グリュットD(黒色粘質土)	15.8	5.8	3.4		コナラ属タカシ亜属	
W7	SR02	グリュットD(黒色粘質土)	17.8	13.6	3.1	断面	コナラ属アカガシ亜属	
W8	SR02	グリュットD(黒色粘質土)	51.0	13.2	0.9	断面	フナ枯コナラ属アカガシ亜属	
W9	SR02	黒柏平板	17.9	7.6	1.6		コナラ属アカガシ亜属	
W10	SR02	グリュットC(黒色粘質土)	6.3	6.8	1.6		コナラ属コナラ属タカシ亜属	
W11	SR02	不明					同定対象外	
W12	SR02	黒りくす	44.4	13.3	1.5		コナラ属アカガシ亜属	
W13	SR02	最もは張り板	30.7	13.3	1.5		スダシイ	
W14	SR02	広葉	33.1	22.0	0.8		フナ枯コナラ属アカガシ亜属	
W15	SR03	山下駄	13.5	3.8	5.0		クワ枯クワ属	
W16	SR03	山下駄	12.1	2.1	1.2		ワハ(葉材)バネ属	
W17	SR03	岩砂	24.1	15.7	6.8		ニレ枯ヤナギ属ヤナギ	
W18	SR03	板	59.8	8.7	2.4		ニレ枯ヤナギ属ヤナギ	
W19	SR03	ミカカ屑材(薄材)	58.0	7.3	3.6	みかん割り	アサキ	
W20	SR06	下層	36.8	斜: 3.3°平: 11.4	1.6		アサキ	
W21	SR06	不明	32.4	斜: 1.34°平: 8.2	1.7		ニレ枯ムクノ木属ムクノ木	
W22	SR06	下層	15.0		0.8		ヒノキ科アスナロ属	
W23	SR06	杓子	21.6	12.1	2.6	断面	クスノキ科	
W24	SR06	円盤状木製品	3.3	14.8	1.1	断面	アサキ	
W25	SR06	底板	14.7	3.1	0.6	断面	アサキ	
W26	SR06	中層	0.7	1.8	0.3	断面	ヒノキ科	
W27	SR06	中層	25.3	19.6	3.8		A属(身): フナ科 コナラ属 アカガシ亜属 ミズカバノ科 カバノ科 ガハノ科	
W28	SR07	最上層	19.4	1.8	0.3		ヒノキ科ヒノキ属	
W29	SR07	人影	13.8	2.7	0.35		ヒノキ科ヒノキ属	
W30	SR07	円盤状木製品	20.4	10.8	2.5		ヒノキ科ヒノキ属	
W31	SR08	人影	11.3	2.0	0.3		ヒノキ科ヒノキ属	
W32	SR06cc08	靴	20.8	3.9	0.8		イヌヤナギ科イヌヤナギ属イヌヤナギ	
W33	SR06cc08	板	20.6	4.2	0.9	断面	ヒノキ	
W34	SR06cc08	板	6.3	7.0	1.9	断面	コナラ属アカガシ亜属	

## 写真図版





写真1 遺構上空から北を望む (平成9年7月17日撮影)



写真2 多肥宮瓦遺跡 (南から) (平成9年7月17日撮影)





写真3 多肥宮瓦遺跡（南から）（平成10年12月8日撮影）



写真4 多肥宮瓦遺跡（北から）（平成11年7月16日撮影）



写真5 SK3202 断面(南から)



写真6 SD2302 断面(南から)



写真7 SD2301 断面(東から)



写真8 SD2301 断面(東から)



写真9 SD2301 断面(東から)



写真10 SD2301 断面(東から)



写真11 SD1205 断面(北東から)



写真12 SD1205 断面(東から)



写真 13  
SD1205 断面 (西から)



写真 14  
SD1205 断面 (東から)



写真 15  
SD1205 断面 (南西から)



写真 16

11～13世紀代  
ピット群(南東部)(H9(3区))  
(南西から)



写真 17

11～13世紀代ピット群  
(南部)(H9(3区))(東から)



写真 18

11～13世紀代ピット群  
(西部)(H9(3区))(東から)



写真19 SB2301 全景(南から)

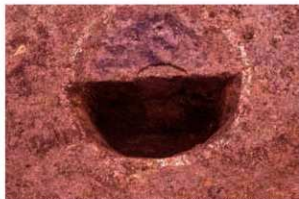


写真20 SB2301 内P1 断面(南から)



写真21 SB2301 内P2 断面(南から)



写真22 SB2301 内P3 断面(南から)



写真23 SB2301 内P4 断面(南から)



写真24 SK1304 断面(南から)



写真25 SK1306 断面(北西から)



写真 26 SK1307 断面(西から)



写真 27 SD1101 断面(西から)



写真 28 SD1202 断面(南から)



写真 29 SD1203 断面(北から)



写真 30 SD3301 断面(北から)



写真 31 SD3302 断面(北から)



写真 32 SD1304 断面(南から)



写真 33 SD3303 断面(南から)



写真 34 SD3304 断面(北から)



写真 35 SX3201 断面(南東から)



写真 36 SX3202 断面(西から)



写真 37 SD2303 断面(東から)



写真 38 SD2303 石組検出状況(東から)



写真 39 SD2303 石組検出状況(南から)



写真 40 SD1502 全景(東から)



写真 41 SP2302 断面(南から)



写真 42

SR01 完掘状況(東から)



写真 43

SR01 断面(東南から)



写真 44

SR02 完掘状況  
(西南から)





写真 45

SR02 完掘状況 (西から)



写真 46

SR02 断面 (西から)



写真 47

SR02 (グリッド C)  
上層黒色粘質土  
遺物出土状況



写真 48  
SR02 (グリッド A)  
上層黒色粘質土  
遺物出土状況



写真 49  
SR02 (グリッド A)  
上層黒色粘質土  
遺物出土状況



写真 50  
SR02 (右)・SR03  
完掘状況 (東から)



写真 51  
SR03 掘削状況  
(手前が木器集中地点)  
(南から)



写真 52  
SR02・03 断面  
(北東から)



写真 53  
SR05 完掘状況(南から)



写真 54  
SR06・07 掘削状況  
(東から)



写真 55  
SR06～08等 掘削状況  
(東から)



写真 56  
SR06 掘削状況  
(西から)



写真 57  
SR07・08 掘削状況  
(北から)



写真 58  
SR06・07 等 掘削状況  
(東から)



写真 59  
SR06 中層  
遺物出土状況 (南から)



写真 60  
SR06 中層  
遺物出土状況 (西から)



写真 61  
SR07 遺物出土状況  
(南から)



写真 62  
SR07 遺物出土状況  
(南から)



写真 63  
SR07 遺物出土状況  
(南から)



写真 64  
SR07 遺物出土状況  
(南から)



写真 65  
SR07 遺物出土状況  
(北東から)



写真 66 出土遺物 (1)





写真 67 出土遺物 (2)



写真 68 出土遺物 (3)



写真 69 出土遺物 (4)



写真 70 出土遺物 (5)



写真 71 出土遺物 (6)



写真 72 出土遺物 (7)



写真 73 出土遺物 (8)



写真 74 出土遺物 (9)





写真 75 出土遺物 (10)



写真 76 出土遺物 (11)

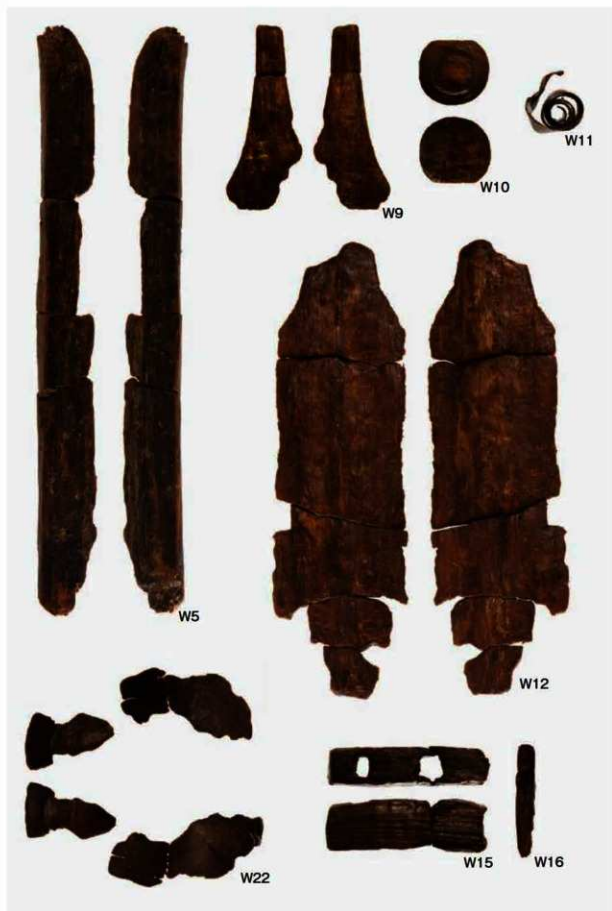


写真 77 出土遺物 (12)

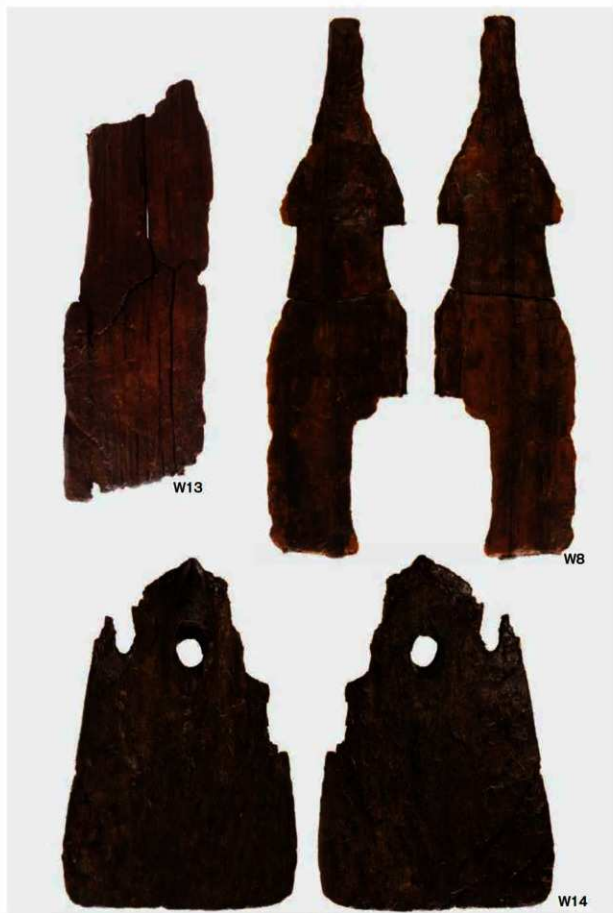


写真 78 出土遺物 (13)



写真 79 出土遺物 (14)

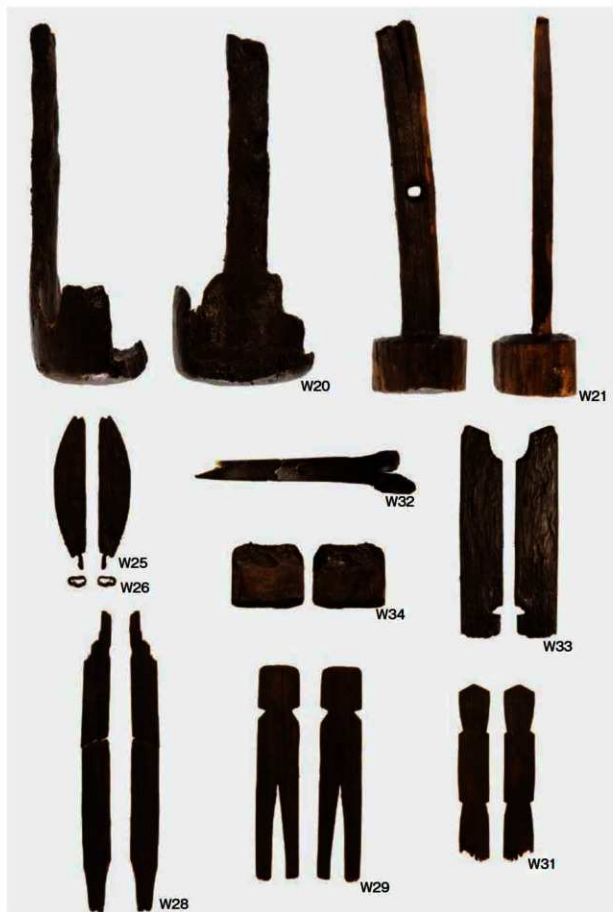


写真 80 出土遺物 (15)

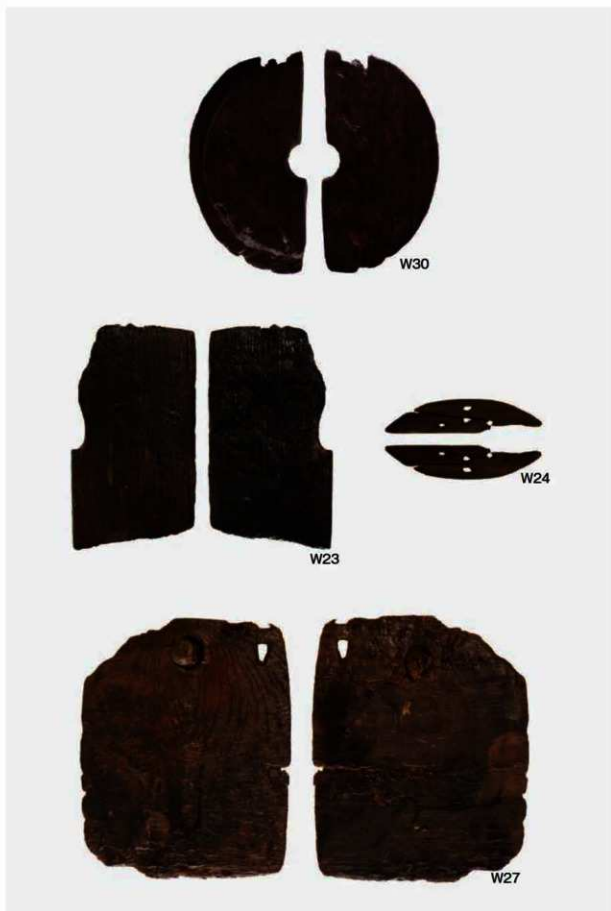


写真 81 出土遺物 (16)

## 報告書抄録

ふりがな	たひみやじりいせき							
書名	多肥宮尻遺跡							
副書名	県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	木下晴一、山元素子							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001 番地 4 TEL 0877-48-2191 (代)							
発行機関	香川県教育委員会							
発行年月日	2018 (平成 30) 年 3 月 6 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たひみやじりいせき 多肥宮尻遺跡	かがわけん 香川県 高松市 多肥上町	37201		34 度 17 分 35 秒	134 度 3 分 35 秒	19970401 ～ 19990930	10,845	県道太田上町 志度線 道路改築
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落	縄文晩期 弥生前期 弥生中期 弥生後期 古代 中世	旧河道 ピット 土坑 溝状遺構		縄文晩期土器 弥生土器 土師器 須恵器 木製農具 石器			
要 約	<p>本遺跡は、香東川扇状地上を開折する有力な旧河道が調査対象となった。旧河道からは縄文時代晩期、弥生時代前期・中期中葉・後期、古墳時代後期、古代、中世の遺物が出土しているが、出土層位によっては、異なる時期の遺物が混在する特徴がある。また、旧河道両岸には、掘立柱建物、ピット、土坑、溝状遺構が検出されている。時期は中世以降のものが主体となり、旧河道出土遺物から存在が推定される縄文時代晩期～古墳時代後期の遺構は削平を受けていると考えられる。</p>							



県道太田上町志度線道路改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告

## 多肥宮尻遺跡

2018年3月6日

編集 香川県埋蔵文化財センター  
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001番地4  
TEL 0877-48-2191 (代)  
E-Mail maibun@pref.kagawa.lg.jp  
発行 香川県教育委員会  
印刷 ワールド印刷株式会社